山形県埋蔵文化センター調査報告書第33集

# 西谷地遺跡

## 第3次発掘調査報告書

財団法人
山形県埋蔵文化財センター
*6-1996-500-01*
6-1996-500-01

1996
500
6

1996

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

# 西谷地遺跡
## 第3次発掘調査報告書

蔵書
'96. 6. 10
財団法人
山形県埋蔵文化財センター
1996 - 709

平成8年3月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

遺跡全景（第 1 次～ 3 次調査区を合成）

巻頭図版４

赤彩された酸化焔土器　ＳＫ1800出土

ＳＫ1800　出土遺物

# 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、西谷地遺跡の調査結果をまとめたものです。

西谷地遺跡は山形県の北西部に位置する鶴岡市にあります。鶴岡市は古くから城下町として発展し、藩校致道館をはじめ多くの史跡や文化財があり、庄内平野の中心的な都市として今日に至っています。

この度、県営ほ場整備事業（下川地区）に伴い、工事に先だって、西谷地遺跡の第３次発掘調査を実施しました。

調査では、鶴岡市街の西方約５ｋｍにある善宝寺の北東に広がる水田の中に残された畑地部分から、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡などの遺構が検出され、土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶器などの遺物が出土し、古代から中世にかけて集落が存在したことがわかりました。

近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。これらの埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成８年３月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　　木　場　清　耕

ＳＤ366　遺物出土状況　西から

ＳＤ366　出土遺物

内黒土器　台付稜椀　ＳＫ900出土

ＳＫ900　出土遺物

# 例　　言

1　本書は県営ほ場整備事業(下川地区)に係る「西谷地遺跡第３次」の発掘調査報告書である。

2　調査は山形県教育委員会の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要項は下記の通りである。

遺 跡 名　　西谷地遺跡（ＡＴＯＮＹ－３）　　遺跡番号　平成３年度登録

所 在 地　　山形県鶴岡市大字下川字西谷地

調査期間　　発掘調査　平成７年４月１日～平成８年３月31日

　　現地調査　平成７年５月８日～平成７年９月14日

調査主体　　財団法人山形県埋蔵文化財センター

発掘調査・資料整理担当者

　　調査第一課長　　佐々木洋治

　　主任調査研究員　　野尻　　侃

　　調査研究員　　浅黄　喜悦

　　調査研究員　　高橋　　敏

　　嘱託職員　　飯塚　　稔

4　発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県庄内支庁経済部赤川土地改良事務所、西郷土地改良区、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会、社団法人鶴岡市シルバー人材センター等関係機関、並びに鶴岡市の方々から協力をいただいた。また、資料整理にあたって、山形県立博物館植松芳平館長･長澤一雄氏、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館川崎利夫館長、米沢市教育委員会手塚孝氏・月山隆弘氏、高畠町教育委員会井田秀和氏、酒田市教育委員会佐藤善之氏、秋田県埋蔵文化財センター高橋学氏、秋田城跡調査事務所伊藤武士氏、秋田県立博物館船木義勝氏、長野市立博物館山口明氏、長野県埋蔵文化財センター西山克己氏、長野県立歴史館綿田弘実氏、石川県埋蔵文化財センター橋本澄夫所長・小林剛氏・安秀樹氏、に御指導を賜った。ここに記して感謝申し上げる。

5　本書の作成･執筆は浅黄喜悦、高橋敏、飯塚稔が担当した。編集は尾形與典、須賀井新人が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。

6　委託業務は下記の通り実施した。

　　遺構の写真実測　　株式会社シン技術コンサル

　　一部の遺物の保存処理　　新日本製鐵株式会社釜石製鐵所

　　釜石文化財保存処理センター

　　自然科学分析　　株式会社パレオ・ラボ

　　パリノ・サーヴェイ株式会社

7　出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

# 凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

ＳＴ……竪穴建物跡　　ＳＢ……掘立柱建物跡　　ＳＰ……柱穴

ＳＥ……井戸跡　　ＳＤ……溝跡　　ＳＧ……池・河川跡

ＳＫ……土坑　　ＥＢ……柱穴掘方　　ＲＰ……土器

ＲＱ…石器・石製品　　ＲＭ……金属製品　　ＲＷ……木製品

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。

3　報告書執筆の基準は下記の通りである。

(1)　遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。

(2)　グリッドの南北軸は、Ｎ－49°50′－Ｅを測る。

(3)　遺構実測図は１/40・１/50・１/100・１/200縮図で採録し、各挿図毎にスケールを付した。

(4)　遺物実測図･拓影図は、土器については１/３を標準として採録し、それ以外の場合は個々に表示した。

(5)　遺物図版については任意の縮尺であるが、同一器種の縮尺はほぼそろえてある。

(6)　本文中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版とも共通のものとした。

(7)　遺物について、本文中で取り上げる場合には、「第○図△番」を「○－△」と略記した。

(8)　土器実測図･拓影図の断面では、網点を入れたものが土師器、黒塗りが須恵器、無表示のものは赤焼土器及び中世以降の土器を表す。また、土器内面の網点は黒色処理を、砂目スクリーンは、煤・油煙の付着を表している。

(9)　拓影図は、左側から外面・内面・断面を表している。

(10)　出土遺物観察表中の（　）内の数値は、図上復元による推定値、または残存値を示している。

(11)　遺構覆土の色調の記載については、1993年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った。

(12)　参考文献は本文最末にまとめた。本文中に引用の際は（文献○）のように記した。

# 目　　次

Ⅰ　調査の経緯 …… 1
Ⅱ　立地と環境 …… 3
Ⅲ　調査の概要 …… 4
Ⅳ　検出された遺構 …… 9
Ⅴ　出土した遺物 …… 47
Ⅵ　まとめ …… 89
報告書抄録 …… 96

# 表

表１　竪穴住居跡観察表 …… 10
表２　掘立柱建物跡観察表 …… 11
表３　土坑分類表 …… 20
表４　墨書土器集成(1) …… 77
表５　墨書土器集成(2) …… 78
表６　出土遺物観察表(1) …… 81
表７　出土遺物観察表(2) …… 82
表８　出土遺物観察表(3) …… 83
表９　出土遺物観察表(4) …… 84
表10　出土遺物観察表(5) …… 85
表11　出土遺物観察表(6) …… 86
表12　出土遺物観察表(7) …… 87
表13　出土遺物観察表(8) …… 88
表14　山形県内出土腰帯具集成 …… 92

# 挿　　図

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　調査概要図 …… 5
第３図　土層柱状図 …… 6
第４図　遺構配置図 …… 7
第５図　遺構実測図(1) …… 22
第６図　遺構実測図(2) …… 23
第７図　遺構実測図(3) …… 24
第８図　遺構実測図(4) …… 25
第９図　遺構実測図(5) …… 26
第10図　遺構実測図(6) …… 27
第11図　遺構実測図(7) …… 28
第12図　遺構実測図(8) …… 29
第13図　遺構実測図(9) …… 30
第14図　遺構実測図(10) …… 31
第15図　遺構実測図(11) …… 32
第16図　遺構実測図(12) …… 33
第17図　遺構実測図(13) …… 34
第18図　遺構実測図(14) …… 35
第19図　遺構実測図(15) …… 36
第20図　遺構実測図(16) …… 37
第21図　遺構実測図(17) …… 39
第22図　遺構実測図(18) …… 40
第23図　遺構実測図(19) …… 41
第24図　遺構実測図(20) …… 42
第25図　遺構実測図(21) …… 43
第26図　遺構実測図(22) …… 44
第27図　遺構実測図(23) …… 45
第28図　遺構実測図(24) …… 46
第29図　遺物実測図(1) …… 52
第30図　遺物実測図(2) …… 53
第31図　遺物実測図(3) …… 54
第32図　遺物実測図(4) …… 55
第33図　遺物実測図(5) …… 56
第34図　遺物実測図(6) …… 57
第35図　遺物実測図(7) …… 58
第36図　遺物実測図(8) …… 59
第37図　遺物実測図(9) …… 60
第38図　遺物実測図(10) …… 61
第39図　遺物実測図(11) …… 62
第40図　遺物実測図(12) …… 63
第41図　遺物実測図(13) …… 64
第42図　遺物実測図(14) …… 65
第43図　遺物実測図(15) …… 66
第44図　遺物実測図(16) …… 67
第45図　遺物実測図(17) …… 68
第46図　遺物実測図(18) …… 69
第47図　遺物実測図(19) …… 70
第48図　遺物実測図(20) …… 71
第49図　遺物実測図(21) …… 72
第50図　遺物実測図(22) …… 73
第51図　遺物実測図(23) …… 74
第52図　墨書集成(1) …… 75
第53図　墨書集成(2) …… 76
第54図　墨書土器出土分布図 …… 79
第55図　山形県内の腰帯具
　　出土遺跡分布図 …… 93

付　　図

西谷地遺跡遺構配置図
（第１～３次調査）

# 図　　版


巻頭図版１　遺跡全景（第１～３次調査区）
巻頭図版２　ＳＤ366遺物出土状況・出土遺物
巻頭図版３　ＳＫ900　内黒土器・台付稜埦・出土遺物
巻頭図版４　ＳＫ1800　赤彩された酸化焔土器・出土遺物
図版１　遺跡全景・近景
図版２　調査開始の状況・鍬入れ式
図版３　平成７年２月市道拡幅工事に係る立会調査状況
図版４　調査状況・基本層序
図版５　調査状況
図版６　調査状況・調査説明会（第１回）状況
図版７　小学生見学状況・調査状況・調査説明会（第２回）状況
図版８　遺構精査状況
図版９　遺構精査状況
図版10　遺構精査状況
図版11　遺構精査状況
図版12　遺構精査状況
図版13　遺構精査状況
図版14　遺構精査状況
図版15　遺構精査状況
図版16　遺構精査状況
図版17　遺構精査状況
図版18　遺構精査状況
図版19　遺構精査状況
図版20　遺構精査状況
図版21　遺構精査状況
図版22　調査区空中撮影写真
図版23　調査区空中撮影写真
図版24　出土遺物(1)
図版25　出土遺物(2)
図版26　出土遺物(3)
図版27　出土遺物(4)
図版28　出土遺物(5)
図版29　出土遺物(6)
図版30　出土遺物(7)
図版31　出土遺物(8)
図版32　出土遺物(9)
図版33　出土遺物(10)
図版34　出土遺物(11)
図版35　出土遺物(12)
図版36　出土遺物(13)
図版37　出土遺物(14)
図版38　出土遺物(15)
図版39　出土遺物(16)
図版40　出土遺物(17)
図版41　出土遺物(18)
図版42　出土遺物(19)
図版43　出土遺物(20)
図版44　出土遺物(21)
図版45　出土遺物(22)
図版46　出土遺物(23)
図版47　出土土器断面顕微鏡写真
図版48　出土土器断面顕微鏡写真
図版49　出土植物遺体顕微鏡写真
図版50　出土材樹種顕微鏡写真

# Ⅰ　調査の経緯

今回の発掘調査は、県営ほ場整備事業（下川地区）に伴うものである。

この遺跡は、平成３年春に県教育委員会がこの一帯の分布調査を行った際、平安時代の遺物の散布が確認されたことによって下川３遺跡として新規に登録されたが、平成５年３月に小字名をとって西谷地遺跡と改称された。

同時に、下川地区には本遺跡のほかに、西ノ川遺跡、五百刈遺跡、樋渡遺跡、西田面遺跡の４カ所の遺跡が発見されている。それらのうち、五百刈遺跡の一部は平成５年度に、西ノ川遺跡は平成６年度に、財団法人山形県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われている。

平成４年６月と同年10月に、県教育庁文化課により下川地区内に所在する遺跡の表面踏査と試掘調査による遺跡詳細分布調査が行われた。その結果、西谷地遺跡からは土師器・須恵器・赤焼土器などの遺物、柱穴・溝跡などの遺構が広い範囲で検出され、現在の畑地を中心に東西200ｍ、南北360ｍを遺跡範囲とする、平安時代の集落跡であることが推定された。

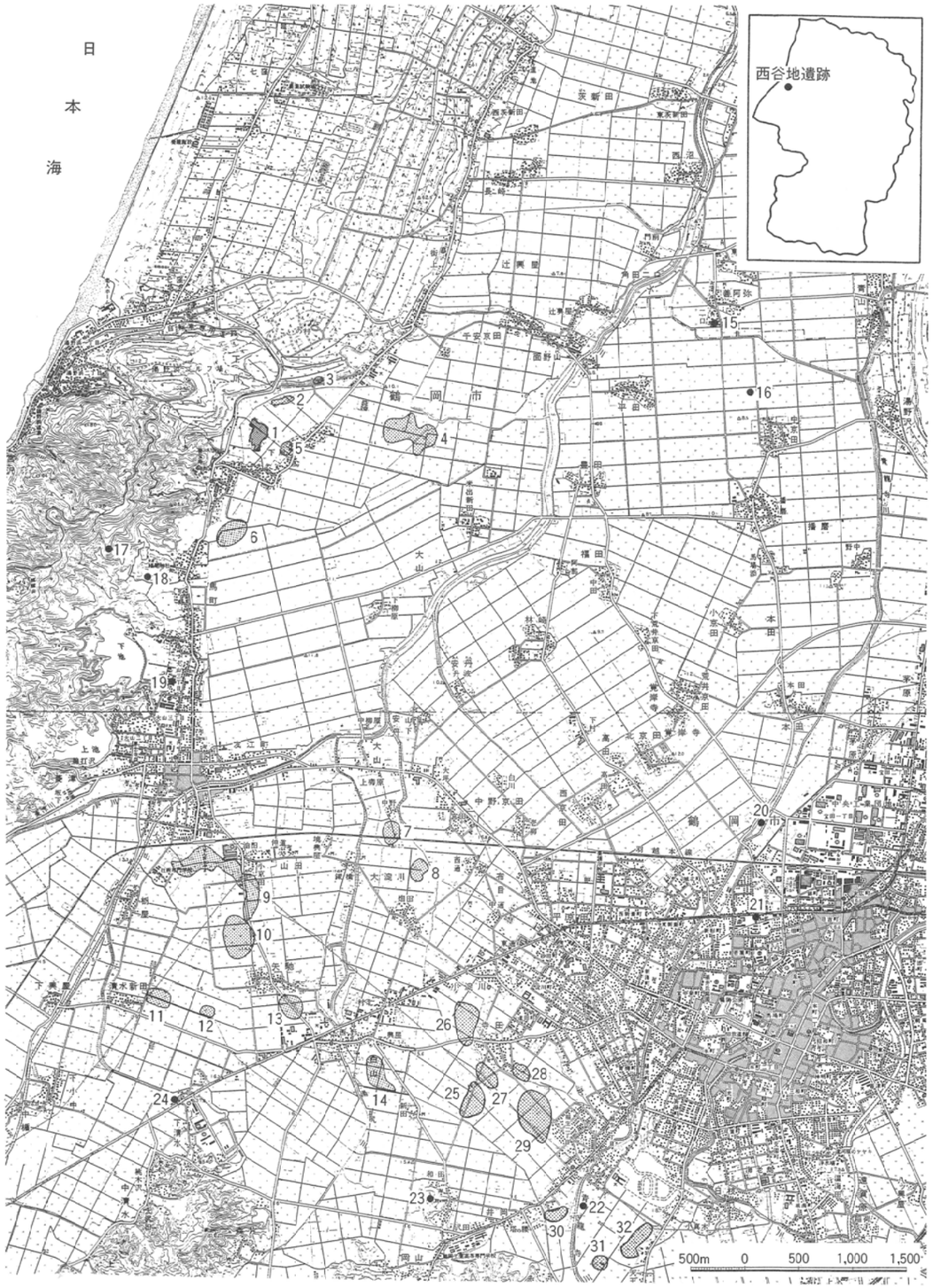
平成５年５月11日から７月20日まで、主要地方道酒田鶴岡線の道路改良工事に伴って発掘調査が行われ、3,400㎡の調査範囲から掘立柱建物跡や井戸跡・溝跡などの遺構とともに15箱ほどの遺物が得られた。それらの検討から古墳時代から中世に至る遺跡であることが明らかになった。

平成６年５月９日から８月31日まで、県営ほ場整備事業（下川地区）の実施に伴って発掘調査が行われた。9,080㎡の調査範囲から掘立柱建物跡・井戸跡・旧河川跡・区画施設と考えられる溝跡などが検出され、土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶器・かわらけなどあわせて65箱ほどの遺物が得られた。それらにより西谷地遺跡は、奈良時代後半から平安時代前半を中心に、古墳時代から中世にわたる遺跡であることが明らかとなった。

ついで平成７年２月には、市道合喜陳田線の拡幅工事に伴う立ち会い調査が県教育庁文化財課により行われ、柱穴や遺物を多く含んだ溝跡などを検出し、奈良時代後半頃と思われる須恵器など６箱ほどの遺物が得られた。

平成７年度、西谷地遺跡主要部に県営ほ場整備事業（下川地区）が昨年度に引き続き実施されることになり、県教育庁文化財課及び庄内支庁経済部赤川土地改良事務所、西郷土地改良区等、関係機関と協議を重ねた結果、やむを得ず削平される畑地部分の14,200㎡について財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受けて、記録による保存を目的とした緊急発掘調査をする運びとなったものである。

なお、平成５年度の発掘調査を第１次、平成６年度の発掘調査を第２次とし、この度は第３次の発掘調査となる。これら一連の発掘調査により西谷地遺跡推定範囲のほとんどを発掘したこととなる。




国土地理院発行　1：25,000地形図「湯野浜」「鶴岡」を縮小して使用　（S＝1：50,000）

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 西谷地(H5.6.7) | 2 | 西ノ川(H6) | 3 | 樋渡 | 4 | 五百刈(H5) | 5 | 西田面 | 6 | 八幡田 | 7 | 中野(H5) | 8 | 畑田(H5) |
| 9 | 山田(H1) | 10 | 矢馳A(S63) | 11 | 清水新田(S63) | 12 | 矢馳B(S63) | 13 | 助作(H2) | 14 | 囲地田 | 15 | 二口 | 16 | 中京田● |
| 17 | 越中窯● | 18 | 馬繋● | 19 | 大山柵● | 20 | 日本国● | 21 | 新形● | 22 | 番田● | 23 | 井岡城● | 24 | 稲荷山B● |
| 25 | 後田(H6) | 26 | 大道下(H1.6) | 27 | 月記(H1) | 28 | 大東(H1) | 29 | 池ノ内 | 30 | 塔の腰(H6) | 31 | 三ケ水口 | 32 | 鳥居上 |

※（　）は調査年度、●印は昭和53年3月以前に登録された遺跡であることを示す。

第1図　遺跡位置図





# Ⅱ　立地と環境

## 1　地理的環境

西谷地遺跡は、山形県鶴岡市大字下川字西谷地にあり、鶴岡市街地の中心部から北西約5kmに位置している。庄内平野西縁で庄内砂丘に接する河間低地に立地し、標高10～11mを測る。すぐ西側を高館山地に限られ、東には金峰山麓に源を発する大山川が北流する。高館山地は標高200～250mの定高性をもつ山地（最高点は荒倉山307m）である。花崗岩を基盤として、新第三紀中新世の固結堆積物である凝灰質シルト岩などからなり、広義の朝日山地の北西端に位置するとともに、新潟県から山形県にかけて海岸に平行して走る羽越山地の一部をも構成している。

高館山地の北端に始まる庄内砂丘は、長さ35km、最大幅約3kmという、国内有数の規模をもって庄内海岸を遊佐町まで伸びる。また中央部の高度は64.3mを測り、砂丘だけの高度としては日本一といわれる。庄内砂丘南端の湯野浜カントリークラブの所在する付近は、高館山地北麓の低地を、海岸から吹き上げた砂が覆った、「てんぷら砂丘」と通称される被覆砂丘で、標高約100mと、庄内砂丘で最も高い標高を有する。この、被覆砂丘を越えた海岸地域には、含塩化土類弱食塩泉を湧出し、会津東山温泉や上山温泉と並んで、奥州三楽郷の一つと言われた湯野浜温泉がある。

遺跡は、高館山地北端の庄内砂丘が始まる地点のすぐ東側の、水田の中に残された畑地部分となっており、「西谷地」という遺跡の名が示す通り、現在も周辺に低湿地が残る。

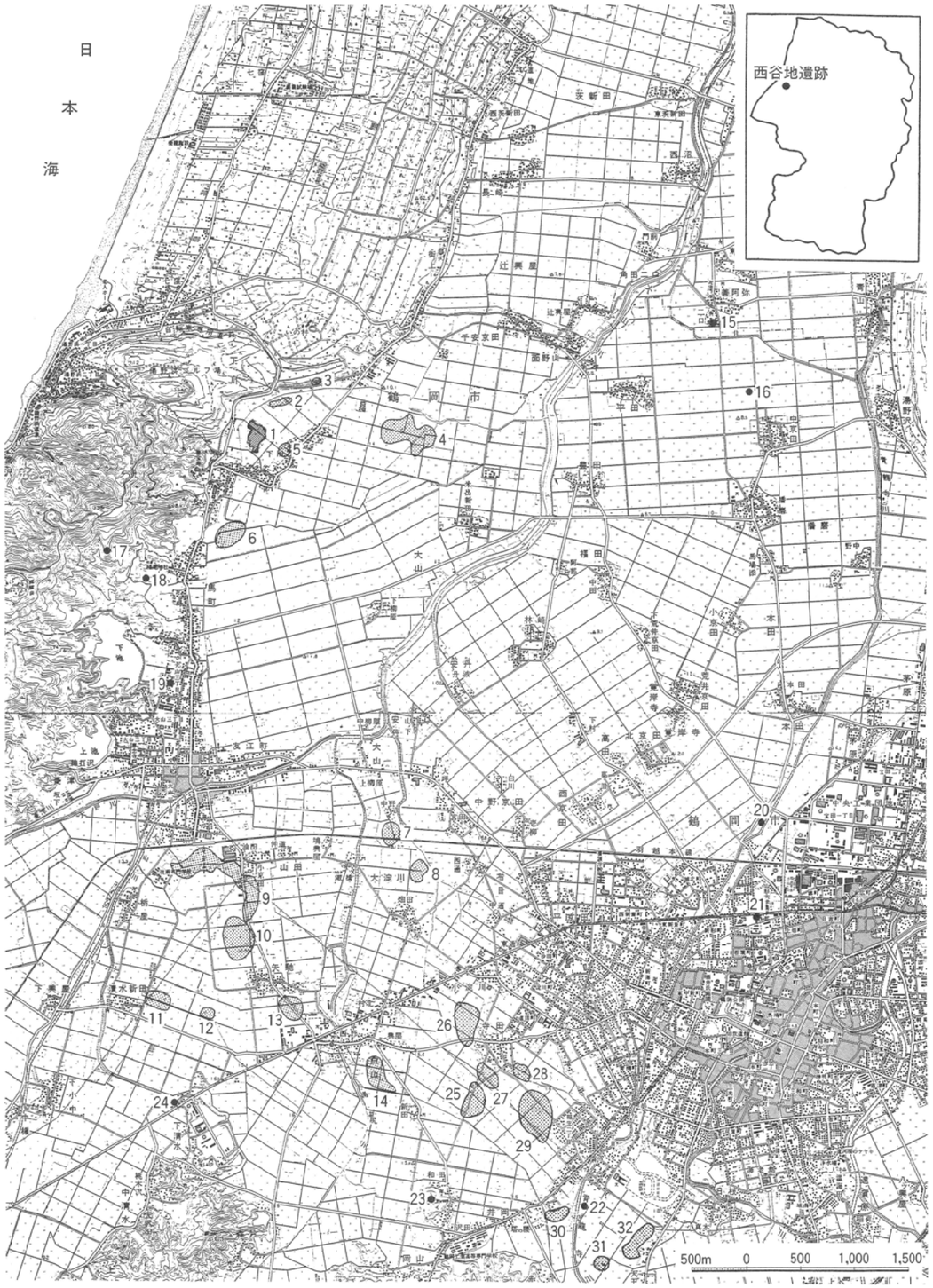
## 2　歴史的環境

西谷地遺跡の所在する下川地区には、ほかに昨年度発掘調査を実施した「西ノ川遺跡」や平成5年度発掘調査を実施した「五百刈遺跡」を含め「西田面遺跡」「樋渡遺跡」の4遺跡があり、周辺には八幡田遺跡、畑田遺跡、中野遺跡、矢馳A・B遺跡、助作遺跡、清水新田遺跡といった古墳時代から平安時代に至る遺跡が所在する。

このほか、周辺には6世紀前半代と考えられる「変形長持形組合式石棺」の出土によって、現在のところ庄内地方唯一の古墳として知られる「菱津古墳」や、『続日本紀』和銅2年7月1日条に初出する「出羽柵」の擬定地とされてきた「大山柵跡」などが所在する。

五百刈遺跡や助作遺跡、矢馳A遺跡など6世紀中頃と考えられる集落は、菱津古墳の被葬者のような豪族層を育てるほどの生産性をもったムラであったと考えられ、その生産性の豊かさが、やがて和銅元年（708）の出羽建郡、さらには和銅5年（712）の出羽建国へと進展する北辺情勢の基盤をなしているものと考えられる。さらに遺跡の南方にそびえる金峰山の北麓には、延喜式内社の田川郡三座のうちの二座、遠賀神社と由豆佐賣神社が座し、建国当初の出羽国の中でも、この周辺が中心的な地域であったことを物語っている。

また時代は少し降るが、天慶・天暦年間（938～957）の創建と伝えられ、曹洞宗三大祈祷霊場の一つに数えられる名刹善宝寺も、高館山地北縁に山を背負う形で東面しており、西谷地遺跡からは目と鼻の先である。




国土地理院発行　1：25,000地形図「湯野浜」「鶴岡」を縮小して使用　（S＝1：50,000）

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 西谷地(H5.6.7) | 2 | 西ノ川(H6) | 3 | 樋渡 | 4 | 五百刈(H5) | 5 | 西田面 | 6 | 八幡田 | 7 | 中野(H5) | 8 | 畑田(H5) |
| 9 | 山田(H1) | 10 | 矢馳A(S63) | 11 | 清水新田(S63) | 12 | 矢馳B(S63) | 13 | 助作(H2) | 14 | 囲地田 | 15 | 二口 | 16 | 中京田● |
| 17 | 越中窯● | 18 | 馬繋● | 19 | 大山柵● | 20 | 日本国● | 21 | 新形● | 22 | 番田● | 23 | 井岡城● | 24 | 稲荷山B● |
| 25 | 後田(H6) | 26 | 大道下(H1.6) | 27 | 月記(H1) | 28 | 大東(H1) | 29 | 池ノ内 | 30 | 塔の腰(H6) | 31 | 三ケ水口 | 32 | 鳥居上 |

※（　）は調査年度、●印は昭和53年3月以前に登録された遺跡であることを示す。

第1図　遺跡位置図





# Ⅱ　立地と環境

## 1　地理的環境

西谷地遺跡は、山形県鶴岡市大字下川字西谷地にあり、鶴岡市街地の中心部から北西約5kmに位置している。庄内平野西縁で庄内砂丘に接する河間低地に立地し、標高10～11mを測る。すぐ西側を高館山地に限られ、東には金峰山麓に源を発する大山川が北流する。高館山地は標高200～250mの定高性をもつ山地（最高点は荒倉山307m）である。花崗岩を基盤として、新第三紀中新世の固結堆積物である凝灰質シルト岩などからなり、広義の朝日山地の北西端に位置するとともに、新潟県から山形県にかけて海岸に平行して走る羽越山地の一部をも構成している。

高館山地の北端に始まる庄内砂丘は、長さ35km、最大幅約3kmという、国内有数の規模をもって庄内海岸を遊佐町まで伸びる。また中央部の高度は64.3mを測り、砂丘だけの高度としては日本一といわれる。庄内砂丘南端の湯野浜カントリークラブの所在する付近は、高館山地北麓の低地を、海岸から吹き上げた砂が覆った、「てんぷら砂丘」と通称される被覆砂丘で、標高約100mと、庄内砂丘で最も高い標高を有する。この、被覆砂丘を越えた海岸地域には、含塩化土類弱食塩泉を湧出し、会津東山温泉や上山温泉と並んで、奥州三楽郷の一つと言われた湯野浜温泉がある。

遺跡は、高館山地北端の庄内砂丘が始まる地点のすぐ東側の、水田の中に残された畑地部分となっており、「西谷地」という遺跡の名が示す通り、現在も周辺に低湿地が残る。

## 2　歴史的環境

西谷地遺跡の所在する下川地区には、ほかに昨年度発掘調査を実施した「西ノ川遺跡」や平成5年度発掘調査を実施した「五百刈遺跡」を含め「西田面遺跡」「樋渡遺跡」の4遺跡があり、周辺には八幡田遺跡、畑田遺跡、中野遺跡、矢馳A・B遺跡、助作遺跡、清水新田遺跡といった古墳時代から平安時代に至る遺跡が所在する。

このほか、周辺には6世紀前半代と考えられる「変形長持形組合式石棺」の出土によって、現在のところ庄内地方唯一の古墳として知られる「菱津古墳」や、『続日本紀』和銅2年7月1日条に初出する「出羽柵」の擬定地とされてきた「大山柵跡」などが所在する。

五百刈遺跡や助作遺跡、矢馳A遺跡など6世紀中頃と考えられる集落は、菱津古墳の被葬者のような豪族層を育てるほどの生産性をもったムラであったと考えられ、その生産性の豊かさが、やがて和銅元年（708）の出羽建郡、さらには和銅5年（712）の出羽建国へと進展する北辺情勢の基盤をなしているものと考えられる。さらに遺跡の南方にそびえる金峰山の北麓には、延喜式内社の田川郡三座のうちの二座、遠賀神社と由豆佐賣神社が座し、建国当初の出羽国の中でも、この周辺が中心的な地域であったことを物語っている。

また時代は少し降るが、天慶・天暦年間（938～957）の創建と伝えられ、曹洞宗三大祈祷霊場の一つに数えられる名刹善宝寺も、高館山地北縁に山を背負う形で東面しており、西谷地遺跡からは目と鼻の先である。

# Ⅲ　調査の概要

## 1　調査の経過

現地での調査は、平成７年５月８日から９月14日までの実質88日間行った。

遺跡全面積32,000㎡のうち、平成7年度県営ほ場整備事業（下川地区）に係る14,200㎡について調査の対象とした。

調査の開始にあたって、ほ場整備工事の施工図に基き、畦畔予定線を基準として、５ｍ×５ｍを単位とするグリッドを設定した。グリッドの南北軸は磁北から49°50′東に振れる。厳密には、東西軸または北東南西軸とでもすべきであるが、地元での慣用に従って長軸方向を「南北軸」とすることとした。グリットの軸方向は、平成５年度の第１次調査（３ｍ×３ｍ）、平成６年度の第２次調査（10ｍ×10ｍ）と一致する。（第３・４図）

なお、南北軸に北からアラビア数字による番号を、東西軸に東からアルファベットによる記号を割り当てた。

今回の調査では、ほ場整備工事の工程の都合により、調査区の東部をＡ区（9,600㎡　南からＡ１区・Ａ２区）、西部をＢ区（3,000㎡）・Ｃ区（1,600㎡）と分割し、Ａ区を東西に横切る排水路予定部分を最優先として調査を進め、以降Ａ区、Ｂ・Ｃ区の順序で引き渡すことを事前協議で申し合わせた。

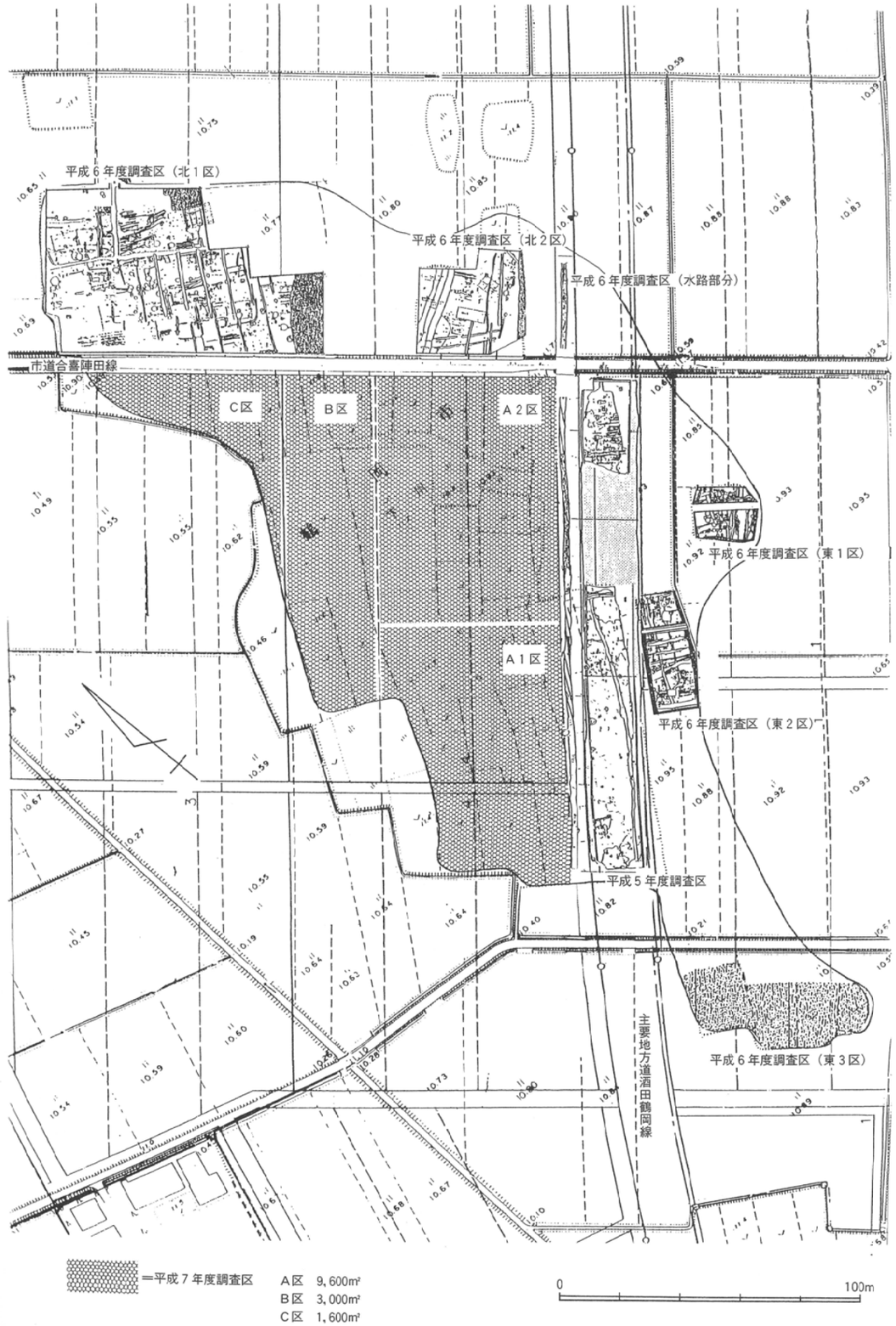
各区とも、重機による表土除去・面整理・遺構検出・遺構精査・記録という工程で調査を進めた。

現地調査の主な進行状況は下記の通りである。

| | |
|---|---|
| ５月８日 | 器材搬入、調査事務所設営、鍬入式 |
| ５月９日 | 調査区設定、調査区内環境整備 |
| ５月10日 | 作業員研修、Ａ区調査開始 |
| ６月16日 | Ａ１区空中写真測量撮影（ラジコンヘリコプター） |
| ７月７日 | Ａ区排水路部分調査説明会、引き渡し |
| ７月13日 | Ｂ・Ｃ区調査開始 |
| ７月26日 | Ａ２区空中写真測量撮影（ラジコンヘリコプター） |
| ７月28日 | 第１回調査説明会（Ａ区対象　144名参加）、Ａ区引き渡し |
| ８月８日 | 遺跡全域空中写真測量撮影（セスナ機） |
| ９月６・７日 | Ｂ・Ｃ区空中写真測量撮影（ラジコンヘリコプター） |
| ９月８日 | 第２回調査説明会（Ｂ・Ｃ区対象　117名参加） |
| ９月14日 | Ｂ・Ｃ区引き渡し、調査事務所撤収、器材搬出、現地調査終了 |



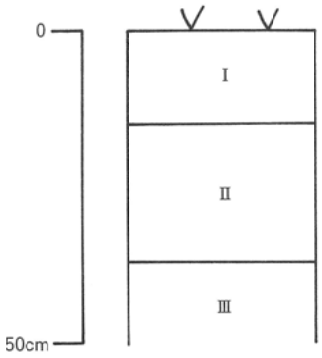





第２図　調査概要図

## 2　遺跡の概観

**基本層序**　庄内地方の平野部の表層地質は、概ね第四紀完新世の沖積作用による未固結堆積物で占められており、西谷地遺跡東側を北流する大山川や、その本流である赤川の流域は、泥あるいは砂が表層に位置している。西谷地遺跡周辺の表層地質は、土壌分類によれば泥である。これらは鉄分と結びついて褐色を呈しているのが普通である。従ってこの周辺の基本的な土壌は褐色のシルトということができる。本遺跡の基本的な層序は第４図の通りである。Ⅰ層からⅡ層にかけて、攪乱または客土・畑寄せに伴うと思われる、古代から近世にいたる幅広い年代の遺物が含まれていた。




Ⅰ　10YR3/2　黒褐色シルト
Ⅱ　10YR3/3　暗褐色シルト
（Ⅲ層の土を小ブロック状に含む）
Ⅲ　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト

**第３図　土層柱状図**

遺構の検出面はⅢ層下部であった。区によってはⅡ層直下から砂の堆積があり、厚さが少なくとも２ｍ以上になる部分もあった。その傾向は特にＡ区南西部に著く認められた。遺構の検出面の標高は、概ね10.70～11.00ｍ程度であり、第１次調査より概ね20～30cm高く、第２次調査とはほぼ一致する。

**遺構の分布**　遺構は、集中の度合いに差はあるものの、ほぼ調査区全体に分布し、総計で2,552基を数える。

調査区北東部に、土採りを行った後長く放置され、湿地となっていた地域があった。トレンチによる試掘を行ったが、10cm程の腐食土層の直下からグライ化し、さらに葦類の地下茎が密集しており、遺構の検出は不可能であった。

また、調査区東側は、平成６年度の排水路工事の作業用通路として重機の移動などに使用されており、かなりの深さまでその影響を受けていた部分もあった。

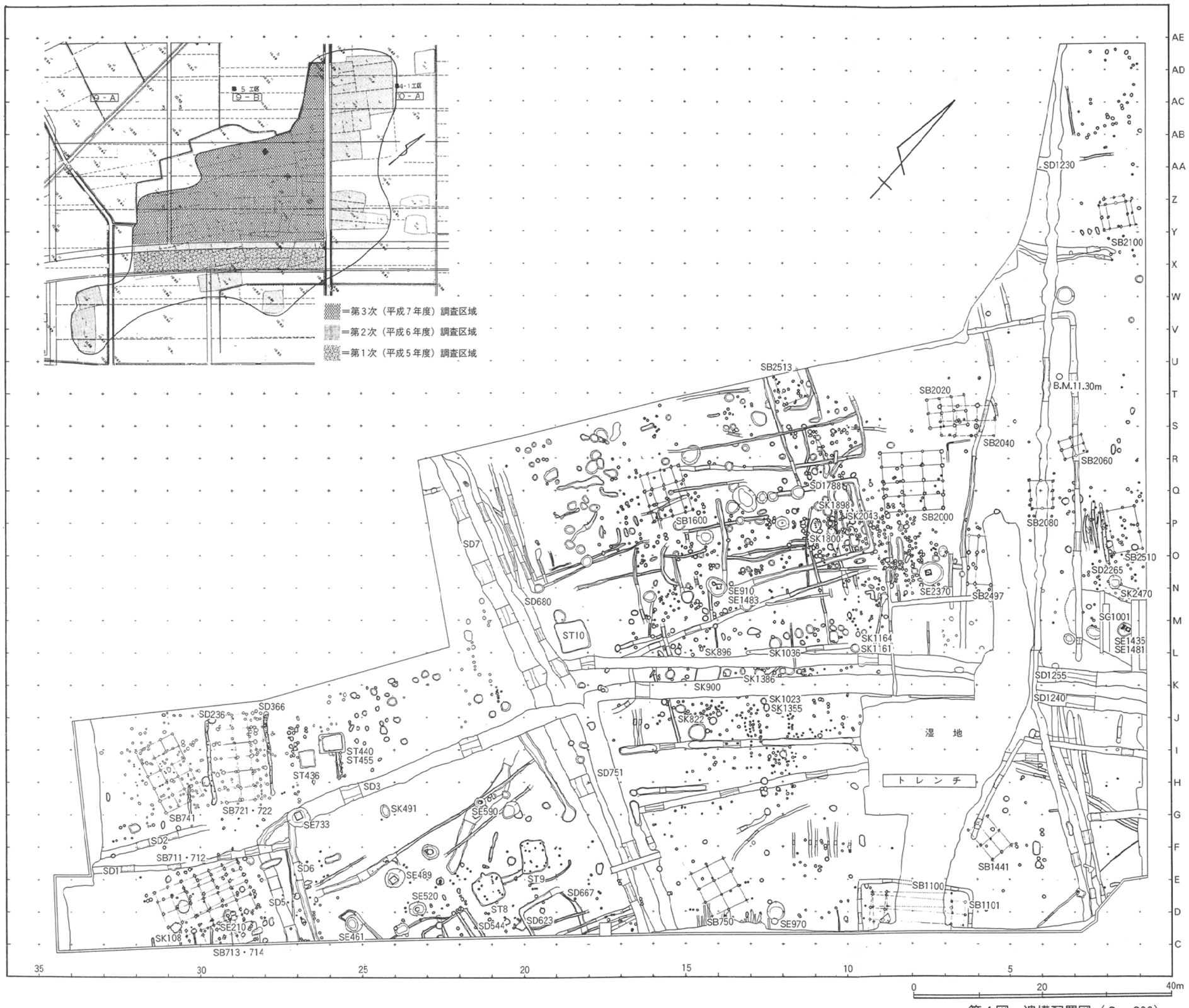
調査区中央の北西寄りに地山が比較的堅固な部分があり、土坑・溝跡などが錯綜して検出された。古代から中世・近世まで長期間にわたって利用されたものと思われる。

竪穴建物跡が調査区中央とやや南寄りで計６棟検出されている。

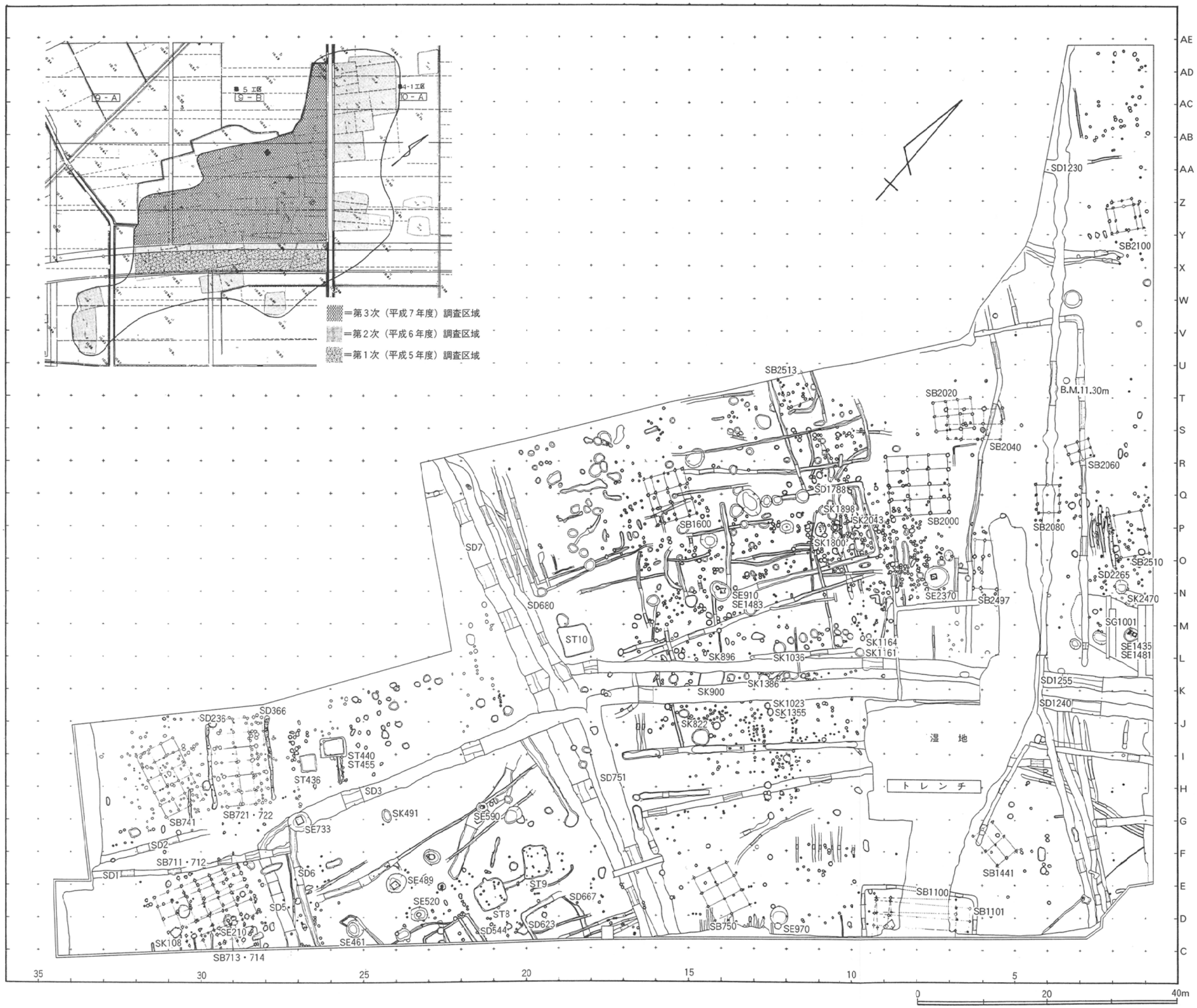
掘立柱建物跡は、計21棟検出され、南部にやや集中がみられるが、全域に散在する。

井戸跡は、十数基全域に散在するが、どちらかというと東側に偏る。

全域にわたって、縦横にはしるかなり規模の大きい溝跡が多数検出された。本遺跡を特徴づける一つの要素と考えられる。近・現代に属する遺構としては、昭和初期に庄内砂丘際から下川の集落に導水するため敷設された簡易水道の竹管とその接続設備が、調査区北部を東西に横断する形で、数十ｍにわたって検出された（ＳＤ1230）。他に、ごく最近まで畑地の灌漑に使用されたと思われる埋設桶なども数基検出された。




第４図　遺構配置図（Ｓ＝600）




第４図　遺構配置図（Ｓ＝600）

# Ⅳ　検出された遺構

遺構としては、竪穴住居跡６棟、掘立柱建物跡21棟、井戸跡12基、溝跡・土坑など、総計2,552基検出された。以下種別に概要を述べる。

## １　竪穴住居跡（第５～８図　表１）

計６棟検出されたが、全般的に遺存状態は良くない。

基本的な数値等は表１にまとめてある。

ＳＴ８（第５図）　最も遺存状態が良い方であったが、周溝等はなく、床面も全体的に軟弱で確認するのが難しい状態であった。柱穴は８基検出されているが、ＥＰ１～４が主柱穴と考えられる。

カマドは西壁中央にあったが、遺存状態は不良で、覆土に若干の炭化物が認められた他は構造・使用状況を明らかにする手がかりが得られなかった。出土遺物は少なく、図示できたのは29－１・２のみである。住居跡と考えられる。時期は平安時代初頭としておく。

ＳＴ９（第６図）　ST８の北西に隣接している。不整方形を呈し、周溝・カマドは検出されていない。床面は平坦でＳＴ８に比して固い。柱穴は13基検出されているが、主柱穴等は判然としない。ＳＴ８とほぼ同じ時期の住居跡としておく。出土遺物は、29－３～７である。

ＳＴ10（第７図）　ＳＴ８・９から北西へ30ｍほど離れて検出された。遺存状態はきわめて良くなく、かろうじて平面プランと床面が確認できたのみで、他の構造については不明である。遺物は出土していない。

ＳＴ436（第７図）　ＳＴ８・９から南西へ40ｍほど離れて検出された。長軸でも260cm程の小規模な建物跡である。この付近はⅡ層直下から砂層となり、シルト質の覆土によってプランを確認することができた。次に述べるＳＴ440･455と類似の様相を示すことから、工房跡と考えられる。出土遺物は29－８である。時期は平安時代初頭と思われる。

ＳＴ440･455（第８図）　ＳＴ436の北側に隣接しており、２棟重複している。前後関係はＳＴ455→ＳＴ440である。ＳＴ455をひとまわり小さなＳＴ440に建て替えたものと考えられる。状況はＳＴ436とほとんど同じで、砂層の中に検出されたため、精査はＳＴ440のみとしＳＴ455は断面でのみ確認した。ＳＴ440･455の床面北東隅に焼土と火熱を受けた砂の分布が認められ、坩堝の破片が出土した。ＳＴ８・９の様相とは明らかに異なり、規模からしても住居とは考えにくく、何らかの工房であった可能性が高い。

東側に突き出した形となっている２本の溝跡（ＳＤ466・467）も工房に付属した施設であった可能性もある。時期はＳＴ436と並行すると考えられる。南に隣接するＳＤ366からもフイゴの羽口・坩堝・鉄滓などが出土しており、関連性が考えられる。

庄内地方の竪穴住居跡としては、これまでに19例ほどが報告されている（文献９）が、本遺跡の場合は、平野部に立地すること、掘立柱建物跡と併存することなどの点で、遊佐町地正面遺跡・八幡町俵田遺跡の様相と類似する。

### 表－1　竪穴住居跡観察表

| 項目＼遺構No. | | ＳＴ　8 | ＳＴ　9 | ＳＴ　10 |
|---|---|---|---|---|
| 挿図番号 | | 第　5　図 | 第　6　図 | 第　7　図 |
| 位置（グリッド） | | Ｅ－20．21<br>Ｆ－20．21 | Ｆ－19．20<br>Ｇ－19．20 | Ｌ－18．19<br>Ｍ－17．18．19 |
| 規模（cm） | | 450<br>450 | 500<br>400 | 460<br>460 |
| 平面プラン | | 隅丸方形 | 不整方形 | 不整方形 |
| 主軸方向 | | Ｎ－66°10′－Ｗ | Ｎ－50°10′－Ｗ | Ｎ－39°50′－Ｅ |
| 遺存状態 | | 良 | 良 | 不　良 |
| 壁の立ち上がり | | 緩 | 緩 | 急 |
| 確認面からの深さ（cm） | | 約32 | 約20 | 約30 |
| 床　　面 | 貼　床 | 不　明 | 不　明 | 不　明 |
| | 起　伏 | な　し | な　し | な　し |
| | 傾　斜 | 中央にむけて緩やかに傾斜 | な　し | な　し |
| | 焼　土 | 未検出 | 未検出 | 未検出 |
| 柱　　穴 | | 8 | 13 | 未検出 |
| カ　マ　ド | 位　置 | 西壁ほぼ中央 | － | － |
| | 住居跡主軸に対する振れ（°） | 0° | － | － |
| | 遺存状態 | 不　良 | － | － |
| | 煙道長さ（cm） | 不　明 | － | － |
| | 本体長さ（cm） | 90 | － | － |
| | 幅　（cm） | 70 | － | － |
| | 焚口の幅（cm） | 50 | － | － |
| | 袖　部 | 痕跡はあるが不明瞭 | － | － |
| | 焼土・炭化物 | 最下層に若干の炭化物 | － | － |
| | 支　脚 | な　し | － | － |

| 項目＼遺構No. | | ＳＴ　436 | ＳＴ　440 | ＳＴ　455 |
|---|---|---|---|---|
| 挿図番号 | | 第　7　図 | 第　8　図 | 第　8　図 |
| 位置（グリッド） | | Ｉ－26<br>Ｊ－26 | Ｉ－25．26<br>Ｊ－25．26 | Ｉ－25．26<br>Ｊ－25．26 |
| 規模（cm） | | 260<br>240 | 240<br>320 | 290<br>380 |
| 平面プラン | | 方形 | 長方形 | 長方形 |
| 主軸方向 | | Ｎ－44°50′－Ｅ | Ｎ－44°50′－Ｅ | Ｎ－44°50′－Ｅ |
| 遺存状態 | | 不　良 | 不　良 | － |
| 壁の立ち上がり | | 急 | 急 | 急 |
| 確認面からの深さ（cm） | | 約　15 | 約　20 | 約　20 |
| 床　　面 | 貼　床 | 部分的に確認 | 部分的に確認 | － |
| | 起　伏 | な　し | な　し | － |
| | 傾　斜 | な　し | な　し | － |
| | 焼　土 | 未検出 | 北東部に火熱を受けた砂 | － |
| 柱　　穴 | | 未検出 | 未検出 | － |
| カ　マ　ド | 位　置 | － | － | － |
| | 住居跡主軸に対する振れ（°） | － | － | － |
| | 遺存状態 | － | － | － |
| | 煙道長さ（cm） | － | － | － |
| | 本体長さ（cm） | － | － | － |
| | 幅　（cm） | － | － | － |
| | 焚口の幅（cm） | － | － | － |
| | 袖　部 | － | － | － |
| | 焼土・炭化物 | － | － | － |
| | 支　脚 | － | － | － |





## 2　掘立柱建物跡（第９～15図　表２）

計21棟検出された。基本的な数値等は表２にまとめてある。

表２及び個々の建物跡についての記述の基準は下記の通りである。

① 通常柱間の多い部分の辺を「桁行」（原則として長軸）、通常柱間の少ない部分の辺を「梁行」（原則として短軸）とする。原則に当てはまらない例もあるので「長軸」「短軸」と記述する場合もある。

② 廂を持つ建物の柱間の数は廂を含める。廂以外の部分を「身舎」とする。

③ 建物の方向は長軸の方向で示す。

④ 面積は長軸×短軸で算出している。

⑤ 換算尺は唐尺（0.29635ｍ＝尺）を用いたが、計測値からは必ずしも割り切れるとは限らないので、近似値を採用した場合もある。

### 表－2　掘立柱建物跡観察表

| 建物番号 | 挿図 | 位置 | 長軸方向 | 規模（長軸m×短軸m） | 面積（㎡） | 掘り方（cm） | 廂 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＢ711 | 第９図 | Ｅ－29 | Ｎ－31°－Ｅ | 6（14.0）×4（8.0） | 112.0 | 径 30～50<br>深 20～40 | ○（西辺） | 総柱 |
| ＳＢ712 | 第９図 | Ｅ－29 | Ｎ－30°－Ｅ | 4（9.5）×3（6.8） | 64.6 | 30～50<br>20～45 | | 総柱 |
| ＳＢ713 | 第９図 | Ｄ－29 | Ｎ－32°－Ｅ | 4（9.0）×3（5.2） | 46.8 | 35～45<br>30～35 | | 総柱　南東部未検 |
| ＳＢ714 | 第９図 | Ｄ－28 | Ｎ－31°－Ｅ | 2（4.7）×2（4.5） | 21.2 | 40～80<br>30～50 | | 総柱　南東部未検 |
| ＳＢ721 | 第10図 | Ｉ－28 | Ｎ－47°－Ｗ | 4（8.7）×2（6.5） | 56.6 | －<br>－ | | 総柱 |
| ＳＢ722 | 第10図 | Ｉ－28 | Ｎ－46°－Ｗ | 6（13.2）×3（6.8） | 89.8 | －<br>－ | | 総柱 |
| ＳＢ741 | 第10図 | Ｉ－31 | Ｎ－68°－Ｗ | 5（10.5）×3（6.4） | 67.2 | －<br>－ | | 総柱 |
| ＳＢ750 | 第12図 | Ｅ－14 | Ｎ－69°－Ｗ | 3（7.4）×2（5.5） | 40.7 | 25～40<br>15～20 | | 総柱 |
| ＳＢ1100 | 第11図 | Ｅ－8 | Ｎ－50°－Ｅ | ?（12.0）×?（?） | － | 25～30<br>15～25 | | 中央・北東部未検出 |
| ＳＢ1101 | 第11図 | Ｅ－8 | Ｎ－55°－Ｅ | ?（14.0）×?（?） | － | 30～35<br>20～25 | | 中央・北東部未検出 |
| ＳＢ1441 | 第11図 | Ｇ－5 | Ｎ－83°－Ｅ | 2（5.7）×2（3.7） | 21.1 | 30～35<br>15～40 | | 総柱 |
| ＳＢ1600 | 第12図 | Ｒ－15 | Ｎ－58°－Ｗ | 3（7.3）×4（6.2） | 45.3 | 30～40<br>15～20 | ○（南北辺） | 総柱 |
| ＳＢ2000 | 第13図 | Ｒ－9 | Ｎ－46°－Ｅ | 3（9.2）×4（9.0） | 82.8 | 35～55<br>10～25 | | 総柱 |
| ＳＢ2020 | 第13図 | Ｔ－7 | Ｎ－44°－Ｅ | 3（5.8）×2（4.4） | 25.5 | 30～45<br>10～20 | | 総柱 |
| ＳＢ2040 | 第13図 | Ｔ－6 | Ｎ－45°－Ｅ | 3（8.5）×2（4.7） | 40 | 30～70<br>15～25 | | 総柱 |
| ＳＢ2060 | 第14図 | Ｓ－3 | Ｎ－31°－Ｅ | 2（3.6）×2（2.8） | 10.1 | 25～30<br>15～20 | | 総柱 |
| ＳＢ2080 | 第14図 | Ｑ－4 | Ｎ－41°－Ｗ | 3（4.2）×2（3.6） | 15.1 | 25～35<br>15～25 | | |
| ＳＢ2100 | 第15図 | Ｚ－2 | Ｎ－53°－Ｗ | 3（4.7）×4（5.0） | 23.5 | 20～35<br>10～20 | ○（北西南辺） | |
| ＳＢ2497 | 第15図 | Ｏ－4 | Ｎ－38°－Ｗ | 3（7.6）×?（?） | － | 30～50<br>20～25 | ○（南北辺） | 北東部未検出 |
| ＳＢ2510 | 第14図 | Ｐ－3 | Ｎ－51°－Ｗ | 2（6.6）×2（4.3） | 28.4 | 30～40<br>10～30 | | |
| ＳＢ2513 | 第15図 | Ｕ－10 | Ｎ－61°－Ｗ | ?（?）×4（8.0） | － | 25～45<br>15～40 | | 南西部未検出 |

ＳＢ711（第９図）　調査区南東部に位置する、６間×４間の総柱建物である。柱間の数・面積とも今回の調査の最大規模を示す。柱間は長軸で８尺、短軸で７尺、ほぼ等間であるが、西端列のみやや狭く（5.5尺）、廂的な部分と考えられる。柱掘方から、土師器・須恵器・赤焼土器の小片が計100点ほど出土している。ＳＫ108と重複しているが、土器類の観察からＳＫ108→ＳＢ711といえる。

ＳＢ712（第９図）　ＳＢ711とほとんど重複している。４間×３間の総柱建物である。柱間は長軸で８尺、短軸で７尺、ほぼ等間であり、ＳＢ711と規格の共通性がうかがわれる。柱掘方から、土師器・須恵器・赤焼土器の小片が計50点ほど出土している。ＳＢ711との前後関係は、ＳＢ711の柱穴掘方がＳＢ712の柱穴掘方に切られるものがあることから、ＳＢ711→ＳＢ712といえる。また、ＳＢ712の西辺の柱穴掘方１基がＳＤ１に切られていることから、ＳＢ712→ＳＤ１といえる。

ＳＢ713（第９図）　ＳＢ711・712の東側に検出された。ＳＢ711の東辺と重複する。４間×３間の総柱建物である。柱間は長軸で８尺、短軸で５尺、ほぼ等間である。南東部が調査区外にかかり、これ以上の規模となる可能性もある。柱掘方から、土師器・須恵器赤焼土器の小片が計70点ほど出土している。

ＳＢ714（第９図）　ＳＢ713と重複して検出された。２間×２間の総柱建物である。柱間は長軸・短軸とも7.5尺、ほぼ等間である。南東部が調査区外にかかり、これ以上の規模となる可能性もある。柱掘方から、土師器・須恵器・赤焼土器の小片が計80点ほど出土している。

ＳＢ713との前後関係は、ＳＢ713の柱穴掘方がＳＢ714の柱穴掘方に切られるものがあることから、ＳＢ713→ＳＢ714といえる。

また、ＳＢ711の東辺、ＳＢ713・714の西辺とＳＥ210が重複する。ＳＥ210の埋土を切ってＳＢ711・713・714の柱穴掘方が形成されるているので、ＳＥ210が最も古い時期と考えられる。ＳＢ711とＳＢ713・714の前後関係については、柱穴掘方の切り合い関係などがなく明確にはいえない。

ＳＢ721（第10図）　調査区南部に位置する。４間×２間の総柱建物である。柱間は長軸で７尺、短軸で10尺、ほぼ等間である。

この付近は、Ⅱ層直下から砂層となるが、砂の面の中にやや固く水分を含む径30cmほどのシルト質の輪郭が規則的に並ぶことによって確認された。そのため、通常の精査・記録作業を行うことができず、平面でプランを確認したのみである。

ＳＢ722（第10図）　調査区南部に位置する。６間×３間の総柱建物である。検出の状況はSB721と同様である。柱間は長軸・短軸とも７尺である。ＳＢ721と重複しているが、柱掘方の切り合い関係からＳＢ722→721といえる。

このＳＢ722に伴う雨落ち溝と考えられる溝跡が南北両辺で検出されている。ＳＤ236・366である。これらの溝跡からは、赤焼土器坏類を主体とした土器が多数出土している。詳細は後述するが、土器の特色から９世紀中葉に位置づけられ、この建物も同時期と考えられる。





ＳＢ741（第10図）　ＳＢ721・722の南側に隣接して検出された。５間×３間の総柱建物である。検出の状況はＳＢ721・722と同様である。柱間は長軸・短軸とも７尺である。主軸方向がＳＢ721・722とは大きく異なり、ある程度の時期差があると考えられるが、詳細は不明である。

ＳＢ750（第12図）　調査区中央東側で検出された。３間×２間の総柱建物である。柱間は長軸で８尺、短軸で９尺、ほぼ等間である。柱穴掘方からの遺物の出土はなかった。主軸方向はＳＢ741と近似する。

ＳＢ1100・1101（第11図）　ＳＢ750の北側で検出された。中央を湿地に切られ、東側が調査区外にかかるために、全容は明かでないが、柱間がほぼ７尺、ＳＢ1100は長軸で６間、ＳＢ1101は長軸で５間という、かなり規模の大きい総柱の建物であった可能性がある。

なお、ＳＤ1108は、軸方向の一致からＳＢ1100に伴う区画溝（または雨落ち溝）であった可能性が高い。

ＳＢ1441（第11図）　ＳＢ1100・1101の北西で検出された。２間×２間の総柱建物である。柱間は長軸で９尺、短軸で６尺、ほぼ等間である。柱穴掘方からの遺物の出土はなかった。

ＳＢ1600（第12図）　調査区中央部西側で検出された。３間×４間の総柱建物である。南北両辺に廂がつく。柱間は長軸で８尺、短軸で７尺、廂部は４尺である。非常に整った柱掘方の配列を持つ。柱穴掘方から赤焼土器片が１点だけ出土している。

ＳＢ2000（第13図）　調査区中央部北西寄りで検出された。３間×４間の総柱建物である。柱間は長軸で10尺、短軸で７尺、ほぼ等間である。柱穴掘方から赤焼土器片が１点だけ出土している。柱穴掘方から、土師器・須恵器・赤焼土器の小片が計22点ほど出土している。

ＳＢ2020（第13図）　ＳＢ2000の西側に隣接して検出された。３間×２間の総柱建物である。柱間は長軸で６尺、短軸で７尺、ほぼ等間である。柱穴掘方からの遺物の出土はなかった。

ＳＢ2040（第13図）　ＳＢ2020と南西部が重複する形で検出された。３間×２間の総柱建物である。柱間は長軸で９尺、短軸で８尺、ほぼ等間である。柱穴掘方から須恵器坏の小片が１点出土している。ＳＢ2020との前後関係は、柱穴掘方の切り合いなどがないため不明である。

ＳＢ2060（第14図）　調査区北部で検出された。２間×２間の総柱建物である。柱間は長軸で６尺、短軸で4.5尺、ほぼ等間である。東辺中央の柱穴はＳＤ2282に切られている。柱穴掘方から、須恵器・赤焼土器の小片が１点ずつ出土している。

ＳＢ2080（第14図）　ＳＢ2060の南東に隣接して検出された。２間×２間の建物である。柱間は桁行で６尺、梁行で4.5尺、ほぼ等間である。東西両辺中央の柱穴はＳＤ1230に切れるれているため、短軸については推定である。柱穴掘方から、土師器・赤焼土器の小片が

１点ずつ出土している。

ＳＢ2100（第15図）　調査区北西部で検出された。３間×４間の建物である。柱間は桁行・梁行とも５尺、ほぼ等間である。南北西の３面に廂がつく。廂部は３尺幅である。柱穴掘方から、須恵器・赤焼土器の小片が１点ずつ出土している。

ＳＢ2497（第15図）　調査区北部で検出された。北側を湿地に切られているため、全体の構造は明らかでないが、３間×４間（以上）で、南北に廂がつくようである。柱間は長軸・短軸とも８尺、ほぼ等間である。廂部は４尺幅である。限られた要素からではあるがＳＢ1600と近似する規模・構成をもっていたと推定できる。柱穴掘方からの遺物の出土ははなかった。

ＳＢ2510（第14図）　調査区北部で検出された。２間×２間の建物である。柱間は桁行で11尺、梁行で７尺、ほぼ等間である。柱穴掘方から須恵器の小片が１点出土している。この建物の南側に、雨落ち溝と考えられる溝跡（ＳＤ2265）が伴っている。また、北側に、平成７年２月の市道拡幅に係る立ち会い調査の際に検出された溝跡（ＳＤ3010）が平行している。こうした配置と主軸方向について、距離は離れているが、上述したＳＢ721、さらに第２次調査（平成６年度）北１区で検出されたＳＢ1059と共通性がみられる。

ＳＢ2513（第15図）　調査区中央部西端で検出された。西側が調査区外にかかり、全容は明らかでないが、３間（以上）×２間の建物と考えられる。柱間は桁行で７尺、梁行で６尺、ほぼ等間である。柱穴掘方から、須恵器・赤焼土器の小片が10点出土している。

以上、個々の建物跡について概略を述べた。共通する様相としては、⑴柱根・礎板などは検出されていない。⑵柱穴掘方は径25～50cm、深さ20～40cmの範囲に大部分が収まる。⑶柱穴掘方からの出土遺物の様相からほとんど平安時代といえる。　などとまとめられる。

構造としては、総柱の建物跡が総数の２/３と高い比率を示す。第１次・第２次の調査ではこうした様相は見受けられず、今次調査に際立った特色といえる。

分布状況は、調査区南部に重複した建物が集中することを除いて、調査区全域に広がる。また、調査区中央を東西に貫通するＳＤ７に沿って、南側約40ｍの範囲には掘立柱建物跡は検出されておらず、柱穴掘方の可能性のあるピットの分布も少ない傾向がある。

主軸方向がほぼ一致するものをグループとして括れば、

①　磁北からの振れが西に約30°　　ＳＢ711・712・713・714
②　磁北からの振れが西に40°前後　ＳＢ2080・2497
③　磁北からの振れが西に50°前後　ＳＢ721・772・2510
④　磁北からの振れが西に60°台　　ＳＢ741・750・1600・2513
⑤　磁北からの振れが東に45°前後　ＳＢ200・2020・2040

となるが、①と③については重複の状況や雨落ち溝の存在などから、ごく近い時期であることや主軸方向の統一などを指摘できるが、他については年代の区分けや「配列の規格性」とまではいえない状況である。





### 3　井戸跡（第16～19図）

井戸跡は計12基検出された。うち２基重複とみられるものが２組あった。

ＳＥ210（第16図）　Ｅ－29グリッドに位置する。掘方は長径200cm、短径150cmほどの楕円形で、深さは約120cmである。当初、土坑として精査に入ったが、掘り方の傾斜が急であること、最下層から湧水したことなどから、井戸枠等の施設は認められないものの、井戸跡と認定したものである。重複するＳＢ711・713・714はいずれも柱穴掘方がＳＥ210を切るため、ＳＥ210の方が先行すると考えられる。

ＳＥ489（第16図）　Ｆ－24　グリッドに位置する。掘方は長径320cm、短径280cmほどの楕円形で、深さは約180cmである。横桟とみられる木材が出土したが遺存状態は良くなかった。断面の観察から、縦板を横桟で支える構造を持っていたと思われるが、縦板は検出されず、廃棄された際に抜き取られたものと考えられる。遺物は29－９が出土している。また、井戸枠内覆土６層に黒褐色の植物遺存体が多量に含まれ、珪酸体分析の結果、稲の茎及び籾の混じったものと判明した。

ＳＥ520（第16図）　Ｅ－23グリッドに位置する。掘方は長径260cm、短径200cmほどの不整楕円形で、深さは約180cmである。井戸眼として使用されたとみられる曲物が出土したが遺存状態は良くなかった。断面の観察から、井戸枠を持っていたと思われるが、他の材は検出されず、廃棄された際に抜き取られたものと考えられる。

ＳＥ590（第17図）　Ｈ－21グリッドに位置する。掘方は長径170cm、短径120cmほどの不整楕円形で、深さは約150cmである。井戸眼として使用されたとみられる曲物が出土したが、遺存状態は良くなかった。曲物の遺存状態と断面の観察から、検出面より60cmの付近までは曲物があったものと考えられる。なお樹種同定の結果、杉材を使用していることが判明した。遺物は29－10・11が出土している。

ＳＥ733（第17図）　Ｇ－27グリッドに位置する。掘方は長径300cm、短径280cmほどの楕円形で、深さは約170cmである。当初、平面では認識されておらず、ＳＤ３の精査の際、底部を抜く形で検出されたものである。横桟とみられる木材が出土したが遺存状態は良くなかった。断面の観察から、縦板を横桟で支える構造を持っていたと思われるが、縦板は検出されず、廃棄された際に抜き取られたものと考えられる。

ＳＤ３との関係は、ＳＤ３下層→ＳＤ３上層東側→ＳＥ733→ＳＤ３上層西側と考えられる。遺物は29－12～18が出土している。ＳＤ３の覆土と明確には区分できなかったため、29－16～17のかわらけについては、ＳＤ３に由来するものである可能性が高い。

ＳＥ910・1483（第18図）　Ｏ－13グリッドに位置する。掘方は長径320cm、短径280cmほどの楕円形で、深さは約160cmである。平面ではＳＥ910のみ検出し精査に入ったものであるが、掘り下げの過程でＳＥ910の井戸枠の西側下部より、曲物が検出されＳＥ1483として登録したものである。ＳＥ910の井戸枠は、縦板を横桟で支え、１辺約70cmとなる構造を持っていたと思われるが、埋没後の土圧で著く歪んでおり、原形は明らかでない。なお樹種同定の結果、杉材を使用していることが判明した。

ＳＥ1483は、長径80cm、短径60cmの楕円形の曲物と、その内側下部に直径50cmほどの曲物を有する。

両者の前後関係は、断面の観察からＳＥ1483→ＳＥ910といえる。

なお、最下層からの湧水や壁面の崩落などがあり、ＳＥ1483の曲物の取り上げは断念せざるを得なかった。

**ＳＥ970**　Ｅ－12グリッドに位置する。掘方は直径300cmほどの円形で、深さ160cmである。掘り下げの途中で崩落したため、記録は残すことができなかった。

**ＳＥ1435・1481**（第18図）　Ｎ－１グリッドに位置する。掘方は長径260cm、短径200cmほどの楕円形で、深さは約180cmである。平面ではＳＥ1435のみ検出し精査に入ったものであるが、掘り下げの過程でＳＥ1435の井戸枠の西側下部より、井戸枠の材と曲物が検出され、ＳＥ1481として登録したものである。

ＳＥ1435の井戸枠は一辺約65cmの正方形で、側板は幅７～22cm、長さ13～58cm、厚さ１～2.5cmの板を一辺に９～10枚、縦位に配列しており、それを内側から横桟で押さえる構造となっている。横桟は、長さ62～64cm、幅6.5～7.5cm、厚さ３cm前後の角材で、東西の材は両端が凸型、南北の材は両端が凹型に加工され、四隅で組まれている。もう一組、ほぼ同規格と考えられる横桟の材がより上層から検出されているが、原位置をとどめておらず、詳細は不明である。なお樹種同定の結果、杉材を使用していることが判明した。

井戸枠のほぼ中央下部に三重の曲物を用いた井戸眼が配置されていた。最も内側の曲物は幅38cm、厚さ５～６cmの柾目板の内側に0.5～1.5cm間隔に罫引を入れ、両端約８cmを重ね合わせて、内径約48cmに丸めてある。重ね目は幅1.0～1.5cmの樹皮で縫い合わされている。その外側には幅14cmの柾目板を同様に加工した曲物が、取り巻く形で２段設置されている。さらに最も外側下部に、幅５cmの柾目板を同様に加工した曲物が「たが」状に配置されている。最下端から1.5cm上方のところで、木釘を外側から内側に貫通させ、三重の曲物を固定している。

ＳＥ1481は、井戸枠・井戸眼とも遺存状態が良くなく、詳細は明らかにできなかったが、井戸眼の推定直径が70cmほどあり、ＳＥ1435より規模の大きい井戸であった可能性がある。

両者の前後関係は、断面の観察からＳＥ1481→ＳＥ1435といえる。

なお、最下層からの湧水が激しく、掘り方の壁面の崩落もあり危険なため、詳細な記録については、断念せざるを得なかった。

**ＳＥ2370**（第19図）　Ｏ－７グリッドに位置する。掘方は直径360cmほどの不整円形で、深さは約240cmである。井戸枠は一辺約90cmの正方形で、側板は幅10～22cm、長さ60～80cm、厚さ１～2.5cmの板を一辺に９～10枚、縦位に配列しており、それを内側から横桟で押さえる構造となっている。横桟は、長さ86～88cm、幅6.5～7.5cm、厚さ５cm前後の角材で、東西の材を南北の材ではさみ込む構造である。もう一組、ほぼ同規格の横桟があり、４cm角で長さが40cmほどの柱状の材で四隅で支えられている。この井戸枠の材との共通性については検討を要するが、内部に落ち込んでいた木材片を樹種同定した結果、オニグルミと判明した。





井戸枠のほぼ中央下部に三重の曲物を用いた井戸眼が配置されていた。

（Ａ）最も内側の曲物は幅63cm、厚さ８～10cmの木目板の内側に1.0～1.5cm間隔に罫引を入れ、両端約18cmを重ね合わせて、内径約75cmに丸めてある。重ね目は幅1.2cm～1.5cmの樹皮で縫い合わされている。外面全体に、鑿鉋による整形の痕跡が残っている。また、外面の２/３ほどの範囲に0.5～3.0cm間隔の罫引線が×状に多数入っている。

（Ｂ）その外側下部には幅23cm、厚さ６～８cmの柾目板を、内側に1.0～1.5cm間隔に罫引を入れ、両端約10cmを重ね合わせて、幅1.2～1.5cmの樹皮で重ね目を縫い合わせた曲物が「たが」状に配置されている。最下端から1.5cm上方のところで、木釘を外側から内側に貫通させ、三重の曲物を固定している。

（Ｃ）ＡとＢとの間には、Ｂとほぼ同規格の木目板の曲物がはさみ込まれている。

（Ｄ）幅21cm、厚さ８～10mmの柾目板の内側に0.5～1.5cm間隔に罫引を入れ、両端約10cmを重ね合わせて、内径約58cmに丸めてある。重ね目は幅1.0cmほどの樹皮で縫い合わされている。外面のほぼ全域に0.5～3.0cm間隔の罫引線が×状に多数入っている。この曲物が、Ａの上部内側に３cmほど食い込む形で組み合わされていた。

（Ｅ）さらにＤの外側には、幅16cm、厚さ５～８mmの柾目板の内側に約1.5cm間隔に罫引を入れ、両端約12cmを重ね合わせて、幅1.0cmほどの樹皮で縫い合わせる、という構造をもつ曲物が配され、Ａの上部に載る形となっていた。

以上、５個体の曲物が組み合わされていたが、特に上部の方は遺存状態が不良で、取り上げの際、破損し原位置が不明となったものもあった。第19図は、現場での写真などから図上で復元したものである。

なお、最下層からの湧水が激しく、壁面の崩落もあり危険なため、詳細な記録については、断念せざるを得なかった。

### ４　溝跡（第20～25図）

溝跡は、調査区全域で規模・方向・新旧など多彩な状況で検出されている。ここでは、その様相から

（Ａ）建物に伴う雨落ち溝

（Ｂ）小区画を示す溝

（Ｃ）中世以降の所産と考えられる大規模な溝

と、３種に分類して記述する。

**（Ａ）建物に伴う雨落ち溝**

**ＳＤ236・366**（第20図）　調査区南部ＳＢ721・722掘立柱建物跡をはさんで、南にＳＤ236、北にＳＤ366が平行している。ＳＢ722掘立柱建物跡に伴う雨落ち溝と考えられる。

両者とも、遺物を多量に含む（30－１～32－８）。後述するように、年代の幅がきわめて狭いことから、建物の廃棄等に伴い短時間のうちに廃棄されたものと考えられる。

ＳＤ2265（第21図）　調査区北部ＳＢ2510掘立柱建物跡の南に、建物に平行する形で検出されている。平成７年２月に実施された市道拡幅に伴う立ち会い調査の際に検出されたＳＤ3010が、ＳＢ2510掘立柱建物跡の北側で建物に平行する形で検出されおり、両者がセットでＳＢ2510に伴う雨落ち溝であった可能性が高い。

両者とも、遺物を多量に含む（32－９～33－６）。後述するように、年代の幅がきわめて狭いことから、建物の廃棄等に伴い短時間のうちに廃棄されたものと考えられる。

この他、ＳＢ1100・1101掘立柱建物跡に伴うＳＤ1108（第11図）、ＳＢ2513掘立柱建物跡に伴うＳＤ1855・1838・1777（第15図）なども同様の要素を持つと考えられる。

**（Ｂ）小区画を示す溝**

ＳＤ544（第22図）　調査区南部東端に位置する。東側が調査区外にかかるため全容は明らかでないが、幅50cm～55cm、深さ45cm前後で、１辺15ｍほどの四角形の区画を示すと考えられる。

ＳＤ623・667（第22図）　ＳＤ544の北側に隣接して、幅は70cm～90cmとやや広いものの、平行して同様の区画を示している。

ＳＤ544、ＳＤ623・667のいずれも、その内側に明確な遺構・遺物が検出されておらず、その機能などについては不明である。

ＳＤ1788（第22図）　調査区中央西寄りに位置する。幅約80cm、深さ20～45cmを測る。特に西辺は新しい時期の土坑に切られ明らかでないが、南に位置するＳＤ1700を南辺と考えれば、南北24ｍ、東西12ｍの長方形の区画となる。

遺物は北東部に集中して検出された。土師器・須恵器・赤焼土器の破片が総計1700点にのぼる。いずれも一辺が１～数cmの小片で図化できたものはなかった。また、中世以降の遺物は皆無であった。

この一角は、周囲に比べて地盤が固く安定している。そのため長期にわたって利用されたらしく、ピット・土坑等が錯綜して検出されている。これらの遺構を時期毎に分離したり、建物として結合するなどはできなかったが、この区画の中に後述するＳＫ1800を始め、奈良時代にさかのぼり得る遺物を含む土坑などが存在する。

**（Ｃ）中世以降の所産と考えられる大規模な溝**

調査区を縦横に貫通するような形で、幅１ｍを超えるような大規模な溝が多数検出された。総じて

(1)　平面形が直線的

(2)　断面がＶ字状で壁面が平坦

(3)　覆土に有機物に由来する黒色土層を含まない場合が多い

(4)　直角に近い角度で曲がったり、交わったりする

などの特色をもつ。また、明らかに古代と考えられる遺構を切り、近・現代の所産と考えられる遺構に切られることから、中世から近世の所産としておく。





ＳＤ３（第23図）　調査区中央から南に流下したと考えられる。断面の観察から少なくとも３時期あったと考えられる。下層→上層東側→ＳＥ733→上層西側と考えられる。

ＳＤ５はＳＤ３上層西側、ＳＤ６はＳＤ３上層東側に由来すると思われるが、分岐点でＳＥ733に切られており、詳細は不明である。

ＳＤ７（第24図）　調査区中央南側を東西に貫通する。幅１～2.5ｍ、深さ0.8～１ｍを測り、西流したと考えられる。西側ではＳＤ680、東側ではＳＤ751と平行する。

ＳＤ７とＳＤ751との関係を把握するため、両者を横断する形でトレンチを入れ、断面を観察したところ、複雑な様相が明らかになった。即ち、表面では検出できなかった溝跡ＳＤ800・1330などが存在し、しかもＳＤ７・751についても下層・中層・上層に分かれ、複雑に入り組んでいることが判明した。断面の観察からは、ＳＤ７下層→ＳＤ751下層→ＳＤ800下層・ＳＤ７中層→ＳＤ1330→ＳＤ800上層→ＳＤ751上層→ＳＤ７上層との前後関係が読み取れる。ＳＤ７が最も規模が大きく・存続期間も長いといえる。ＳＤ７からは、須恵器・赤焼土器の破片を主体に、若干の中世陶器の破片も入れて350点ほどの遺物が出土しており、このことを裏付けている。

なお、ＳＤ７はさらに東に伸びていたことは確実で、第１次調査（平成５年度）のＳＤ28と連なるものと考えられる。様相についても第１次調査での報告と矛盾しない。

以上を考え合わせると、ＳＤ７を主体として集落を東西に区画する大規模な溝が、かなりの期間にわたって存在したことになり、集落の構成を考える上で重要な要素となる。

ＳＤ1240・1255（第25図）　調査区北端から中央にかけて平行して南北に縦貫する。ＳＤ1240は幅約260cm、深さ約80cm、ＳＤ1255は幅約220cm、深さ約90cmの規模で、両者とも南流していたと考えられる。出土遺物は、須恵器・赤焼土器片などが10点ほどできわめて少ない。

第２次調査（平成６年度）のＳＧ１・４・96川跡と連なるものである。ＳＤ1240がＳＧ１にＳＤ1255がＳＧ96に対応すると考えられる。第２次調査の報告では、「３本の川がＳＧ96→ＳＧ４→ＳＧ１の順で流路を変えたもの」と認識されているが、今次の調査では、ＳＤ1240とＳＤ1255に挟まれた部分に、より古い時期の遺構が遺存しており、ＳＧ４に対応する流れは確認できなかった。また、この項の冒頭で述べた理由から川跡（ＳＧ）ではなく溝跡（ＳＤ）とするのが妥当と考える。

時期としては、古代の遺構を切っていることから、中世以降の所産と判断した。

ＳＧ1001（第25図）　ＳＤ1240・1255の北端西側に位置する。河川跡である可能性もあるが、平面で輪郭をたどることができず、性格の確定までは至らなかった。幅は約10ｍ、深さ約１ｍを測る。下層からは底部ヘラ切りの須恵器坏、中層からは底部糸切りの須恵器坏・赤焼土器坏、上層からは中世陶器擂鉢・甕の破片などが出土しており、かなり長期にわたって存続したことを示す。

下層よりの湧水が激しく、北側が市道に接しており、崩落の危険を避けるために十分な記録を残すことができなかった。

5　土坑（第26～28図、表３）

土坑は、調査区全域から多数検出されている。ごく新しい時期の畑作に伴うと考えられるものも多いが、良好な状態で遺物を含んでいたものを抽出して分類した。

表－３　土坑分類表

| 類型 | 平面形 | 平面規模 | 壁面傾斜 | 深さ | 底面形状 | その他 | 例 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 円形又は楕円形 | 径100～200cm程度 | 急 | 20～40cm | 平坦 | — | ＳＫ108，1023，1036，1161，1164，1355，1800，1884，1898など |
| B | 同上 | 同上 | 緩 | 同上 | 椀状 | — | ＳＫ491，822，1386など |
| C | 同上 | 径150～200cm | 急 | 70cm～ | — | 滞水層に達する | ＳＫ2470など |
| D | 同上 | — | — | — | — | 火熱を受けた礫などを | ＳＫ2043など |
| E | 方形？ | 一辺400cm | 急 | 約20cm | 平坦 | 竪穴建物跡の可能性 | ＳＫ900 |

Ａ類＝平坦な底面を示す

ＳＫ108（第26図）　Ｄ－30グリッドに位置する。長径約200cm、短径約180cmの不整楕円形で、深さは約20cmである。遺物は土師器の甕のみ（35－９～11）を含む。ＳＢ711と重複する。直接の切り合いはないが、遺物の様相からＳＢ711に先行し、８世紀前半の年代が考えられ、本遺跡で確認された遺構としては最古である。

ＳＫ1023・1355（第26図）　Ｊ－12グリッドに位置する。それぞれ径約100cm・120cmのほぼ円形で、深さは約25cmである。内面にミガキ・黒色処理を施した土師器坏（36－１・２）が出土している。

ＳＫ1036（第26図）　Ｌ－12グリッドに位置する。東側をＳＤ1035に切られているため全容は不明であるが、径約220cmほどの円形と推定され、深さは約25cmである。遺物は須恵器・赤焼土器を中心に80点ほどが出土しているが、小片が多く図示できたものはない。

ＳＫ1161（第26図）　Ｌ－10グリッドに位置する。長径約200cm、短径約160cmの不整楕円形で、深さは約35cmである。遺物は底部ヘラ切りの須恵器坏（８－３）などが出土している。

ＳＫ1164（第26図）　Ｌ－10グリッドに位置する。長径約100cm、短径約80cmの不整楕円形で、深さは約30cmである。

ＳＫ1800（第27図）　Ｏ－10グリッドに位置する。長径約250cm、短径約180cmの不整楕円形で、深さは約30cmである。出土遺物は36－４～37－12に図示してある。遺物の項で詳述するが、その組成の特徴から、８世紀中葉の年代が与えられそうである。また、何らかの祭祀的な遺構であった可能性もある。

ＳＫ1884・1898（第27図）　Ｏ－10、Ｐ－10グリッドに位置する。それぞれ径約150cm100cmのほぼ円形で、深さは約30cmである。両者は、近代の畑作に伴うと思われる桶を埋設した土坑ＳＫ1896をはさんで接する。出土遺物は37－13～21に図示してある。





Ｂ類＝椀状の底面を示す

ＳＫ491（第27図）　Ｇ－24グリッドに位置する。長径約220cm、短径約150cmの楕円形で、深さは約50cmである。出土遺物は第38図１～４に図示してある。

ＳＫ822（第27図）　Ｊ－15グリッドに位置する。径約150cmのほぼ円形で、深さは約45cmである。出土遺物は38－５～14に図示してある。その特徴から、ＳＫ900とほぼ並行する８世紀第３四半期という年代が考えられる。

ＳＫ896　Ｍ－14グリッドに位置する。径約60cmのほぼ円形で、深さは約45cmである。出土遺物は38－５～17に図示してある。

ＳＫ1386（第27図）　Ｌ－13グリッドに位置する。径約70cmのほぼ円形で、深さは約45cmである。

Ｃ類＝掘方の傾斜が急で、最下層が滞水層に達する

ＳＫ2470（第28図）　Ｎ－１グリッドに位置する。径約160cmのほぼ円形で、深さは約80cm以上である。壁面の傾斜が急で直線的に掘り下げている。最下層は滞水層に達し、湧水が著い。

明確に井戸として継続的に使用されたとは判断できないが、水を得るために掘られたものである可能性がある。

Ｄ類＝火熱を受けた礫などを含む

ＳＫ2043（第28図）　Ｐ－９グリッドに位置する。径約100cmのほぼ円形で、深さは約35cmである。火熱を受けて赤変した礫があり、覆土に粒状の炭化物が含まれることから、鍛冶関係など何らかの手工業生産に関連をもつと考えられる。

Ｅ類＝大型で方形を示す

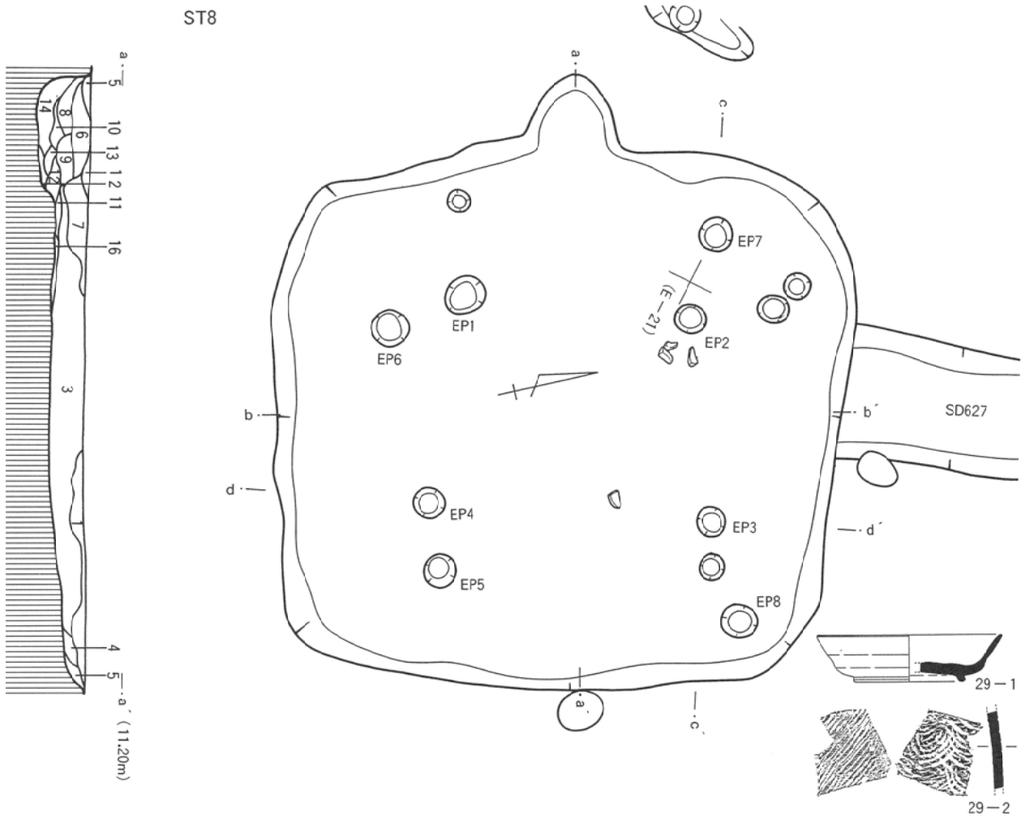
ＳＫ900（第28図）　Ｌ－14グリッドに位置する。南東側をＳＤ1240、北西側をＳＤ1255に切られており、全容は明らかでない。対辺の間隔は360cm、深さ約20cmである。

壁の立ち上がりは急である。また、北東・南西両辺は直線的で平行である。底面は平坦でやや固い。これらの様相を考え合わせると、竪穴建物跡である可能性が高い。

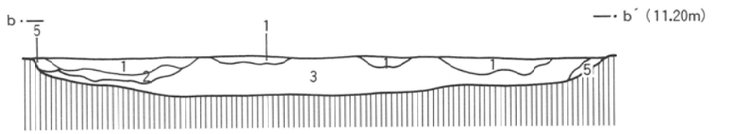
遺物は須恵器を中心に計700点近く出土している。38－18～39－24が図化できたものである。やや年代に幅があるが、主体は８世紀第３四半期ととらえられそうである。

出土した土器の特色からＳＫ1800と同様に、何らかの祭祀的な性格も考えられる。詳細については後述する。

ST8




ST8
1．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト（3層の土を斑状に含む）
3．10YR4/2　灰黄褐色シルト
4．10YR4/2　灰黄褐色シルト（10YR6/4　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む）
5．10YR4/3　にぶい黄褐シルト（10YR6/4　にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む）
6．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
7．10YR3/4　暗褐色シルト
8．10YR3/4　暗褐色シルト（7.5YR5/6　明褐色シルトをブロック状に含む）
9．10YR3/4　暗褐色シルト（10YR5/4　にぶい黄褐色シルトを多量にブロック状に含む）
10．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
11．10YR6/3　にぶい黄橙色シルト
12．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト（11層の土を斑状に含む）
13．10YR5/2　灰黄褐色シルト
14．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト（11層の土を斑状に含む　粒状の炭化物・土器片を含む）
15．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト（10YR6/6　明黄褐色シルトをブロック状に含む）
16．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト（10YR6/6　明黄褐色シルトを横縞状に含む）




• 遺物の実測図の縮尺は1/5である。

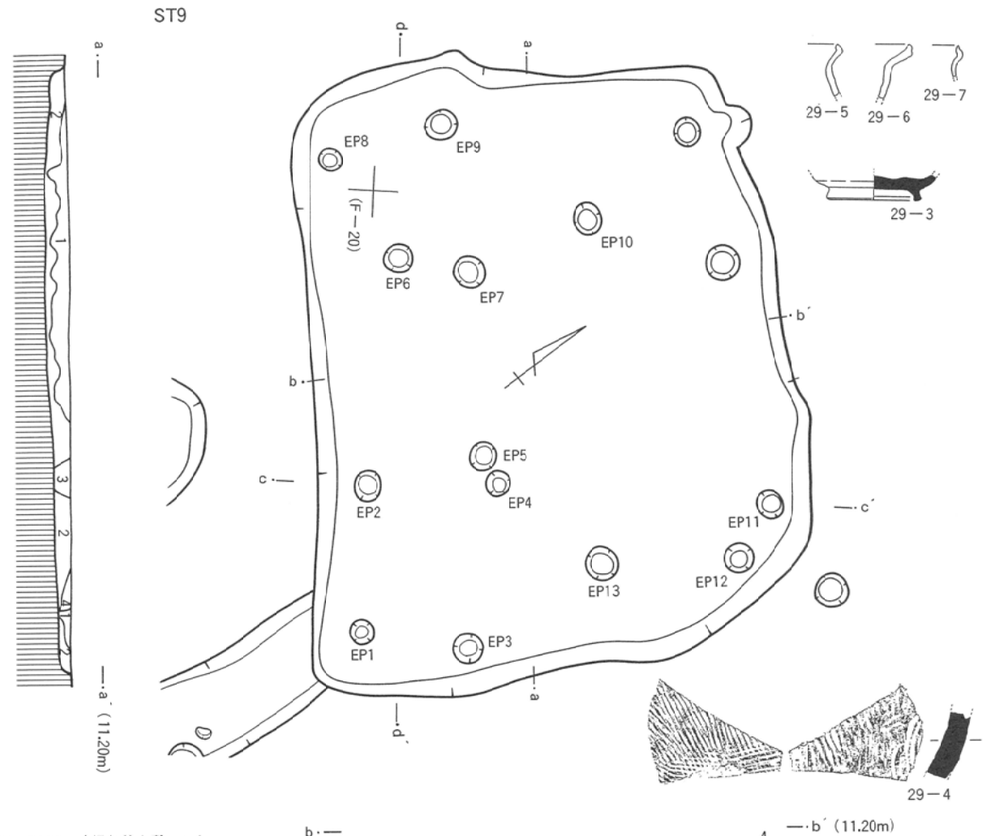
0　2m
1：50

第5図　遺溝実測図(1)

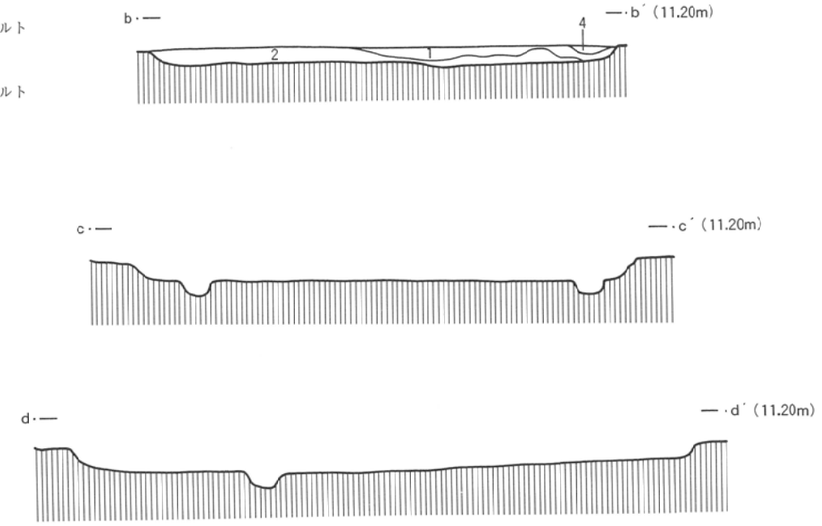




ST9




ST9
1．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
2．10YR4/6　褐色シルト（1層の土を斑状に含む）
3．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト（粒状の炭化物を少量含む）
4．10YR5/6　黄褐色シルト

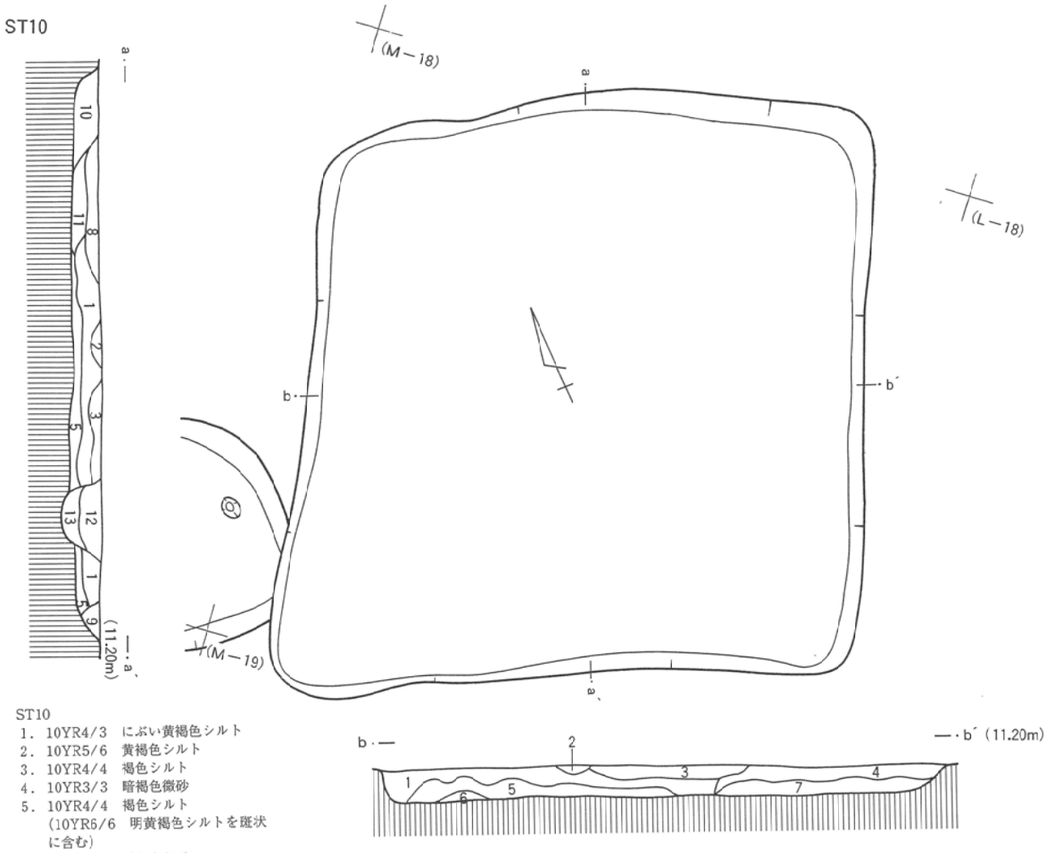



• 遺物の実測図の縮尺は1/5である。

0　2m
1：50

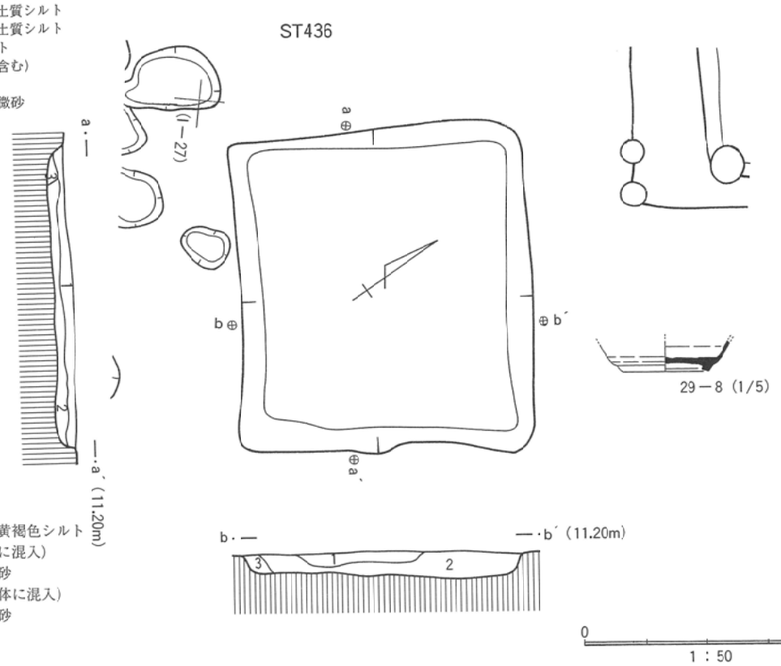
第6図　遺溝実測図(2)

ST10




ST10
1．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
2．10YR5/6　黄褐色シルト
3．10YR4/4　褐色シルト
4．10YR3/3　暗褐色微砂
5．10YR4/4　褐色シルト
（10YR6/6　明黄褐色シルトを斑状に含む）
6．10YR3/3　暗褐色細砂
7．10YR5/6　黄褐色微砂
8．10YR3/3　暗褐色シルト
9．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
10．10YR4/2　暗褐色粘土質シルト
11．10YR4/4　褐色シルト
（同色の微砂を全体に含む）
12．10YR4/4　褐色微砂
13．10YR4/2　灰黄褐色微砂

ST436



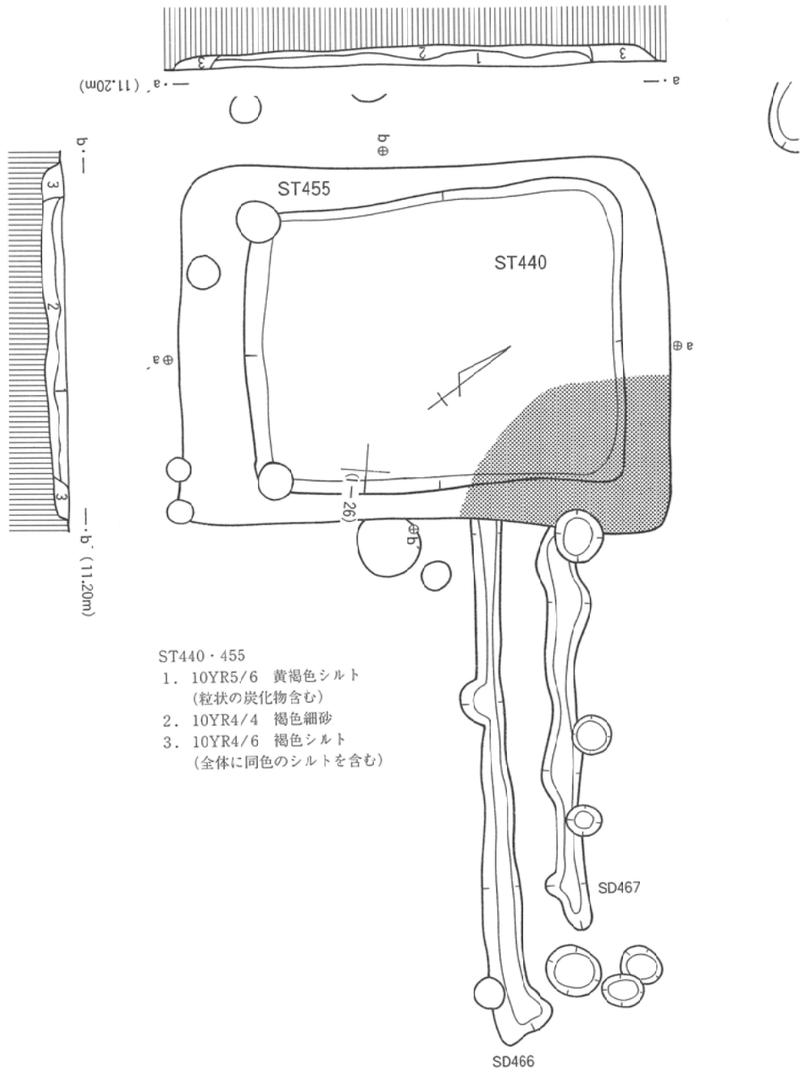

ST436
1．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
（同色の細砂を全体に混入）
2．10YR4/4　褐色細砂
（同色のシルトを全体に混入）
3．10YR4/4　褐色細砂

第７図　遺溝実測図(3)





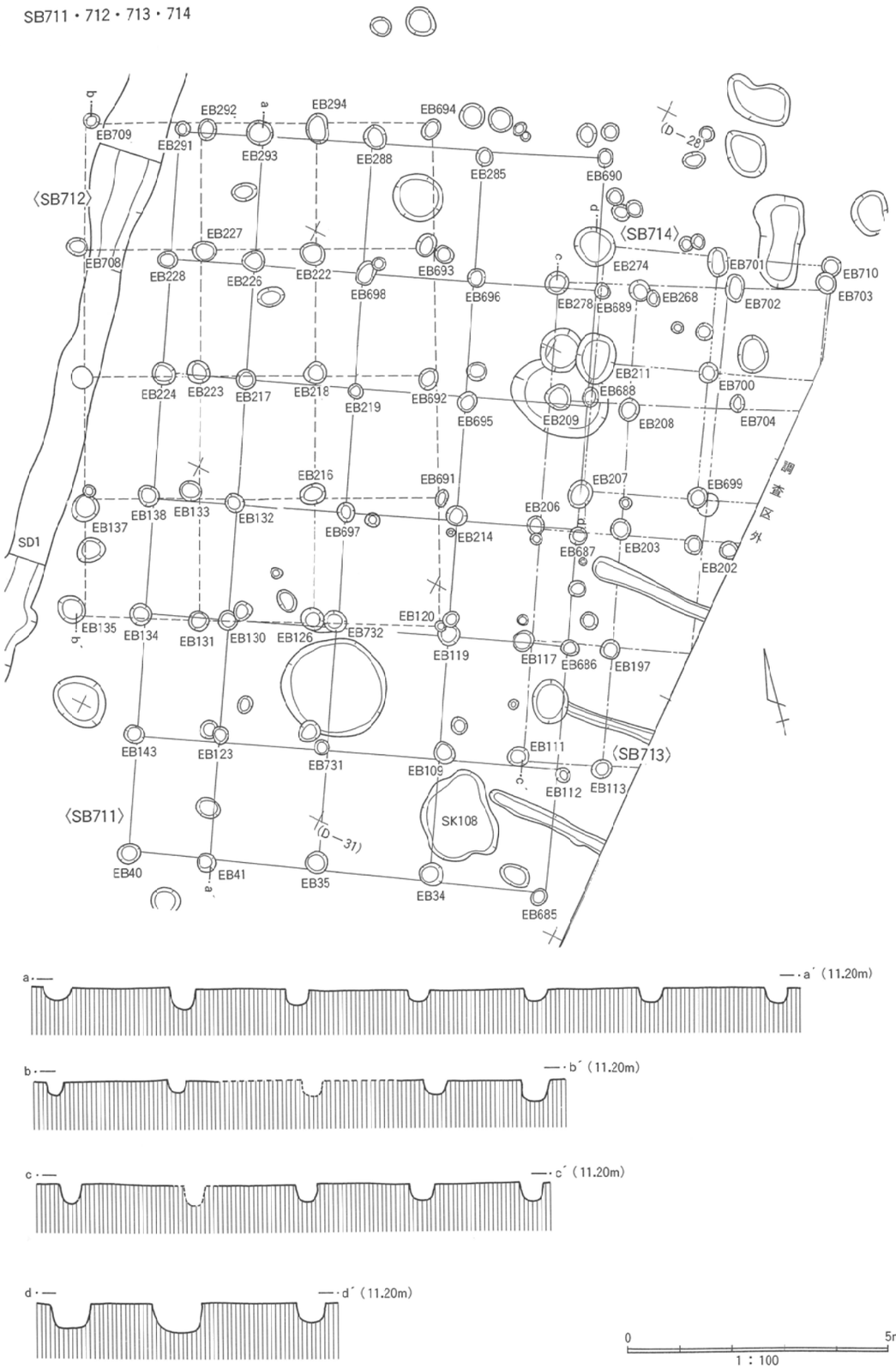
ST440・455




ST440・455
1．10YR5/6　黄褐色シルト
（粒状の炭化物含む）
2．10YR4/4　褐色細砂
3．10YR4/6　褐色シルト
（全体に同色のシルトを含む）

第８図　遺溝実測図(4)

SB711・712・713・714

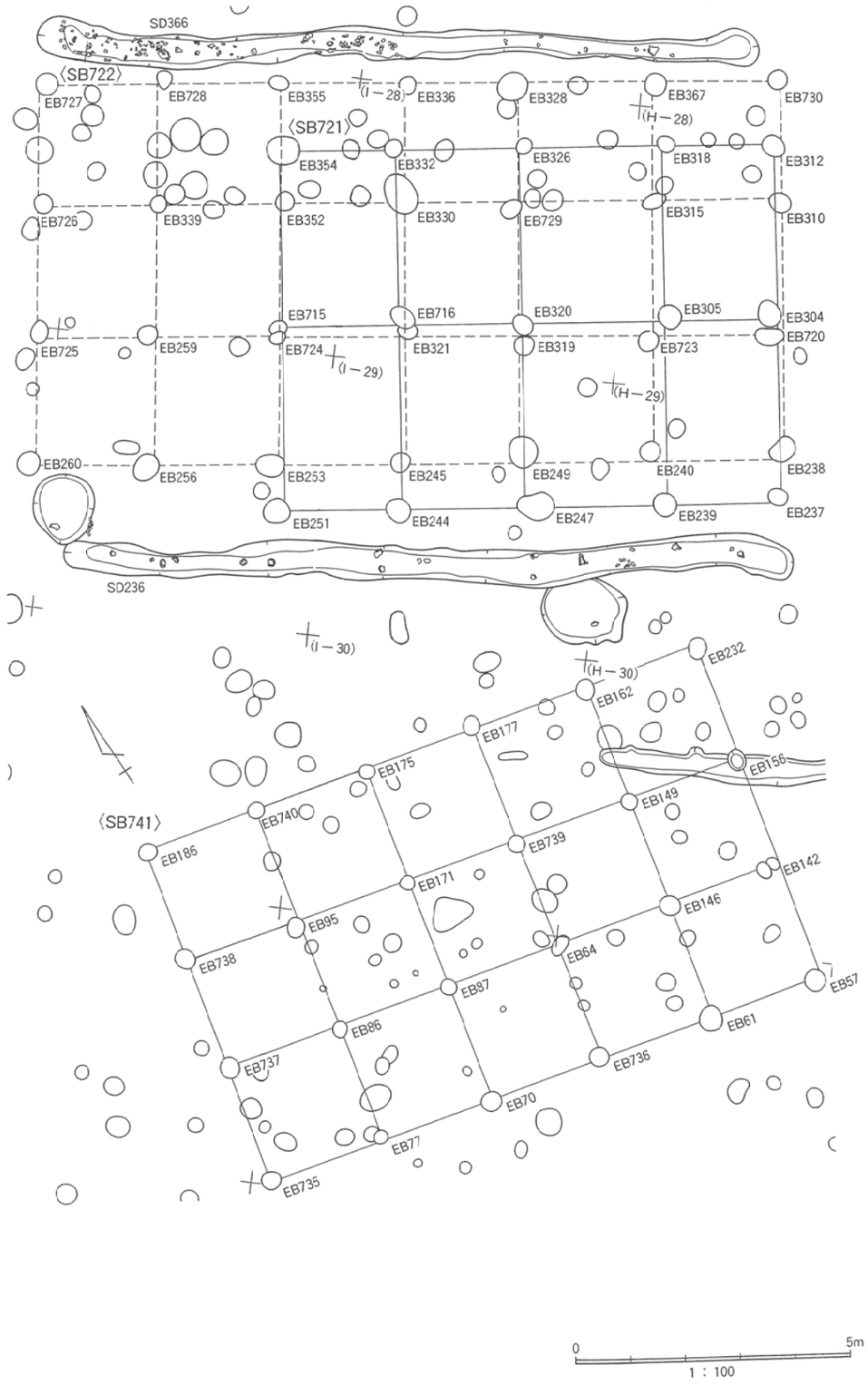



第９図　遺溝実測図(5)

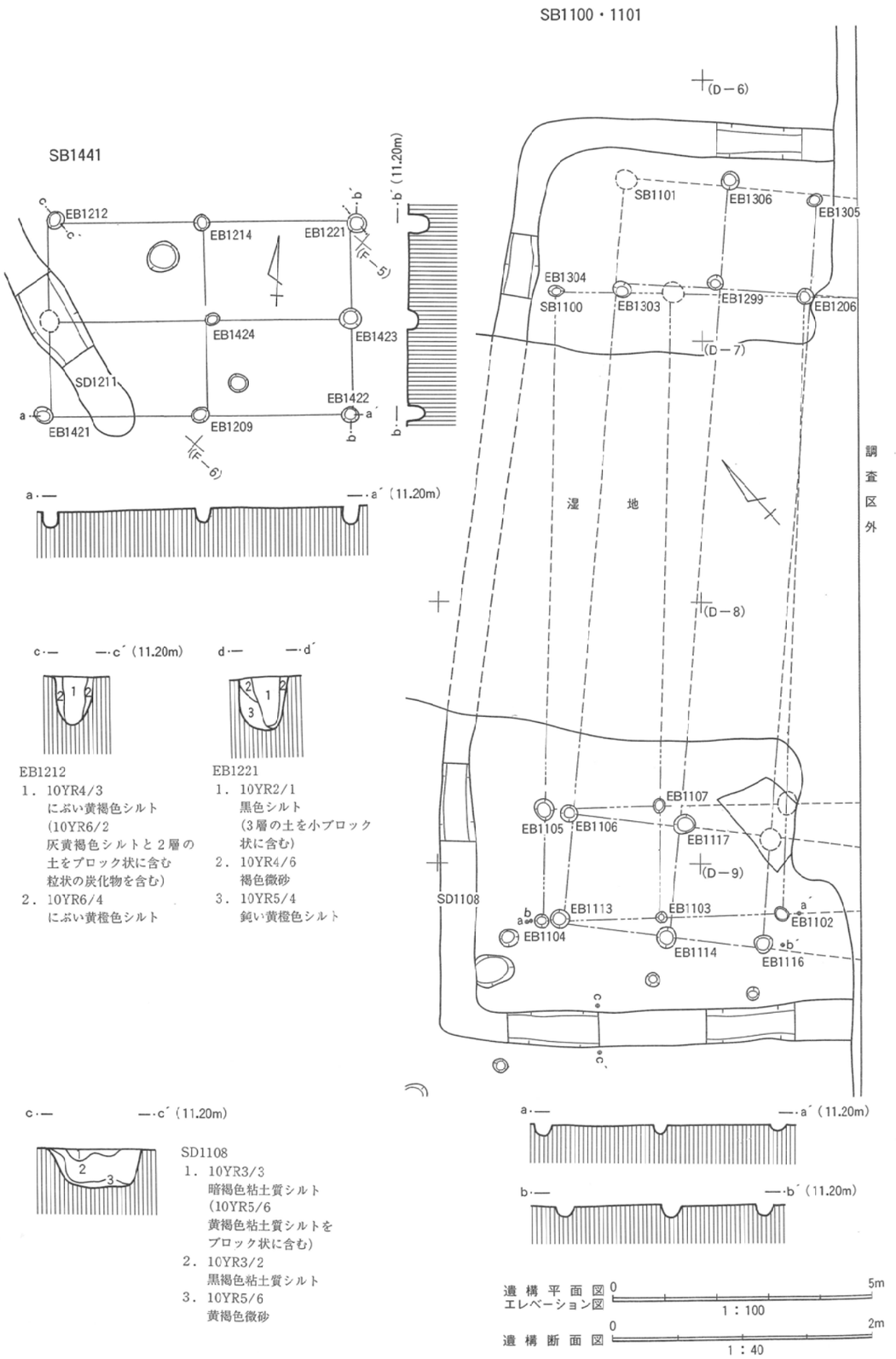




SB721・722・741



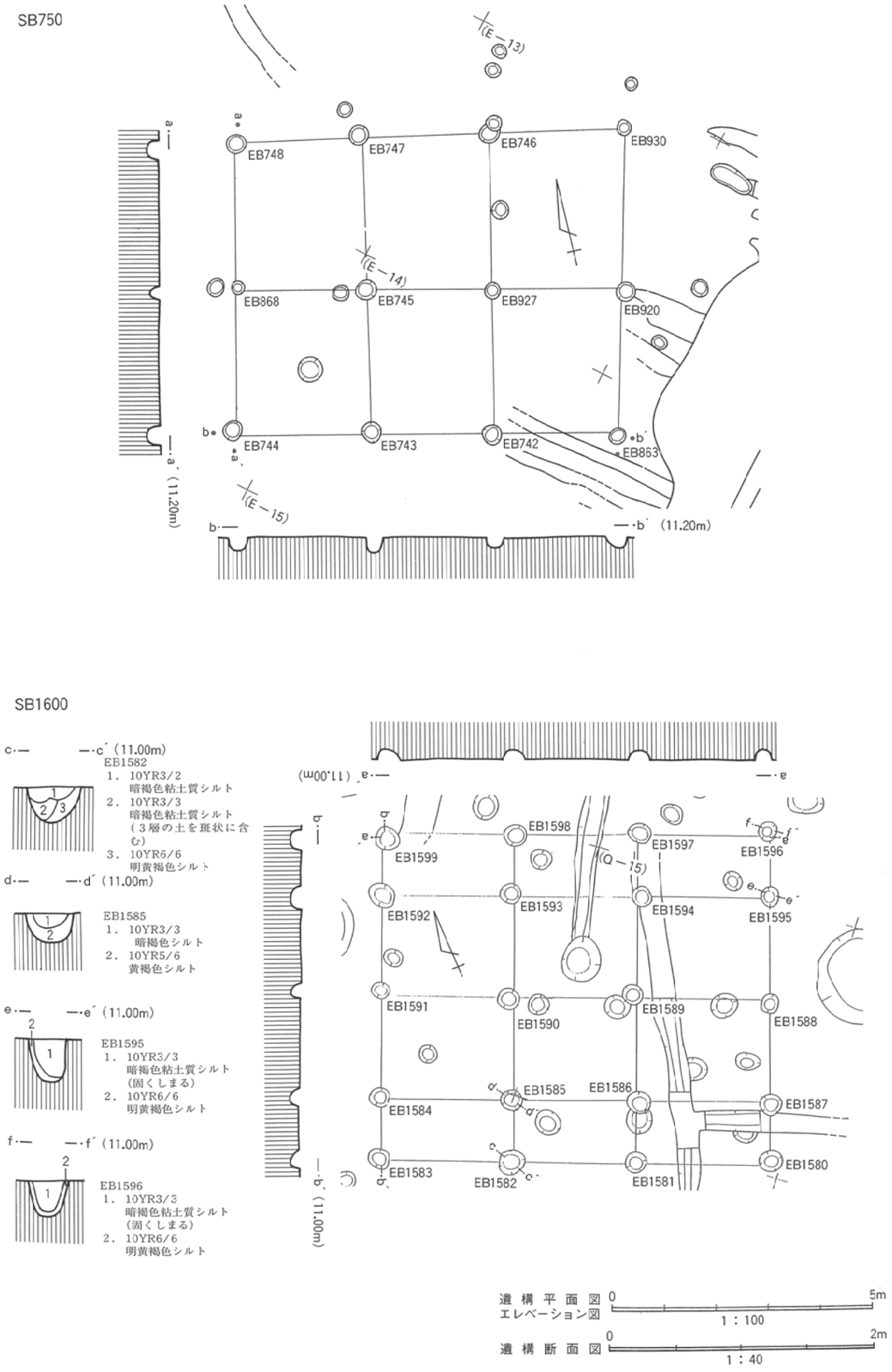

第10図　遺溝実測図(6)



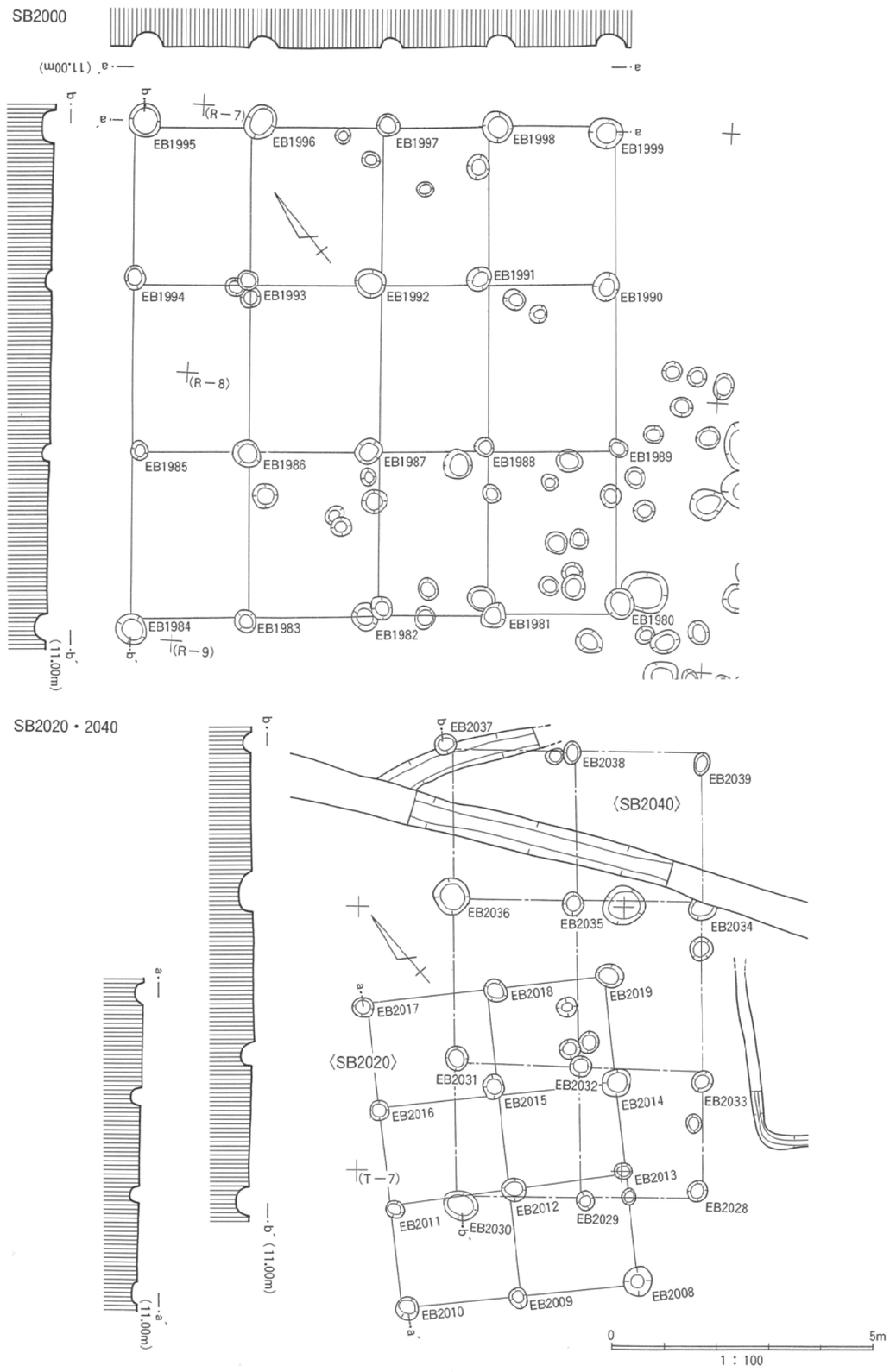

第11図　遺溝実測図(7)







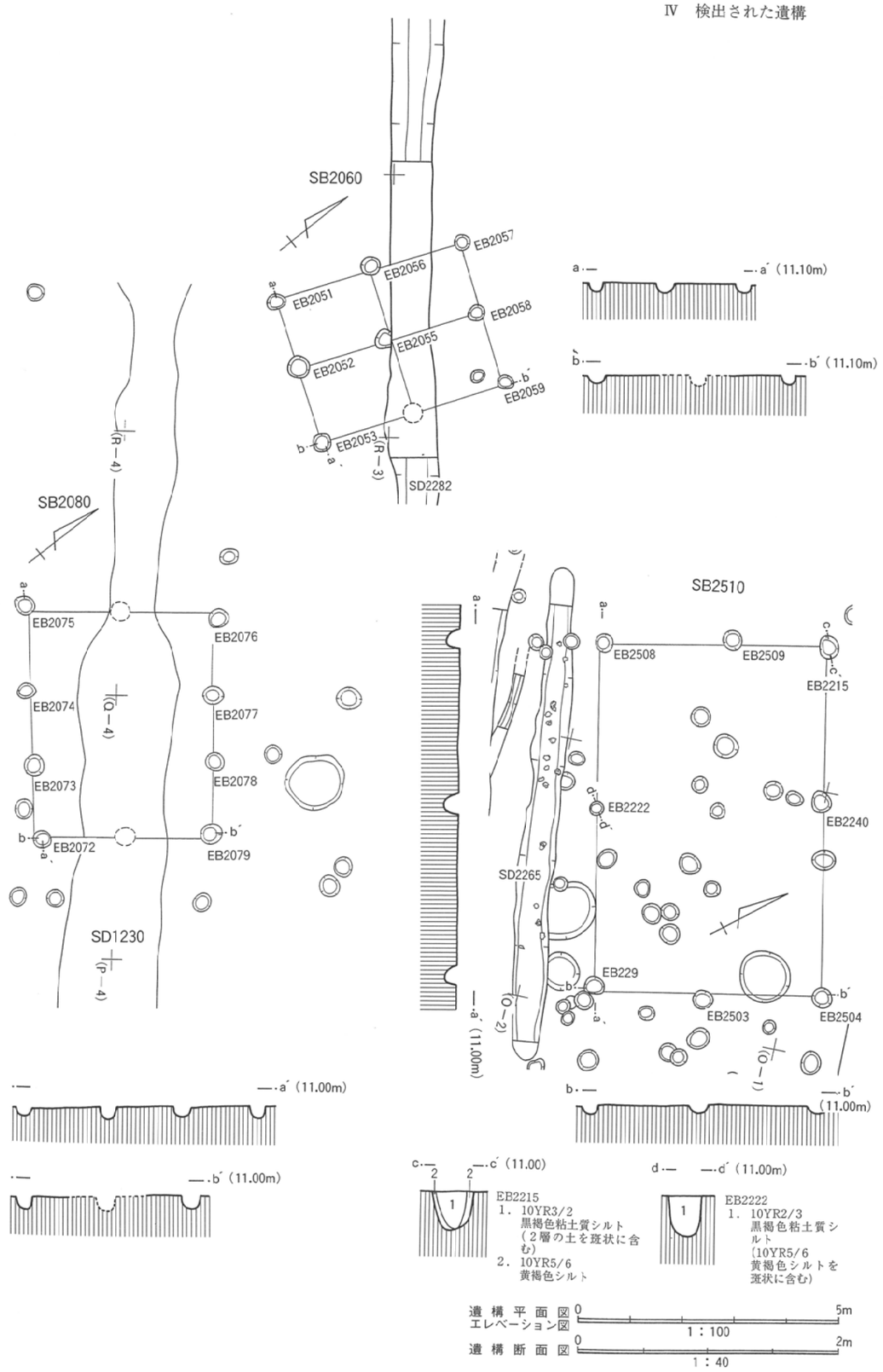

第12図　遺溝実測図(8)




第13図　遺溝実測図(9)

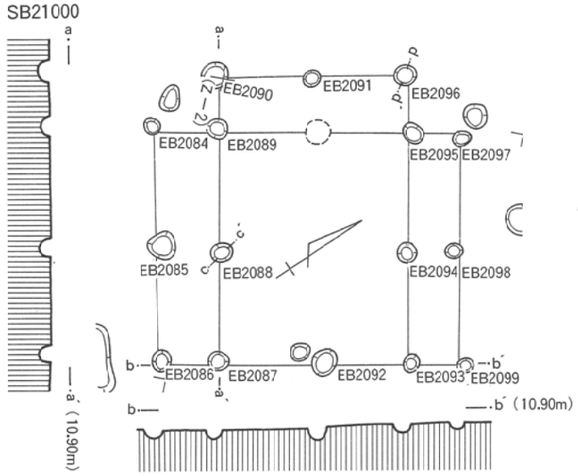


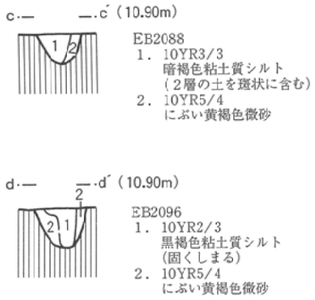




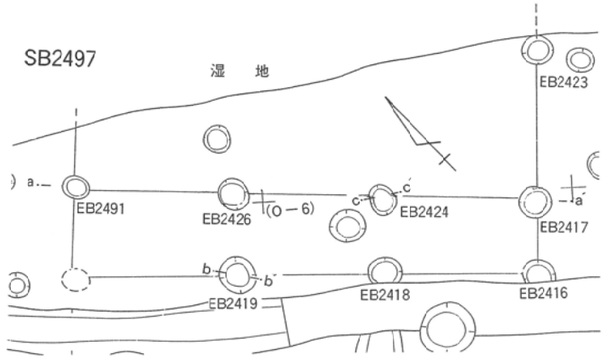

第14図　遺溝実測図(10)

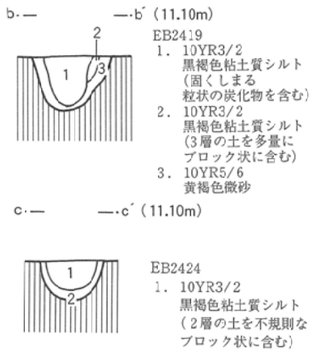
SB21000



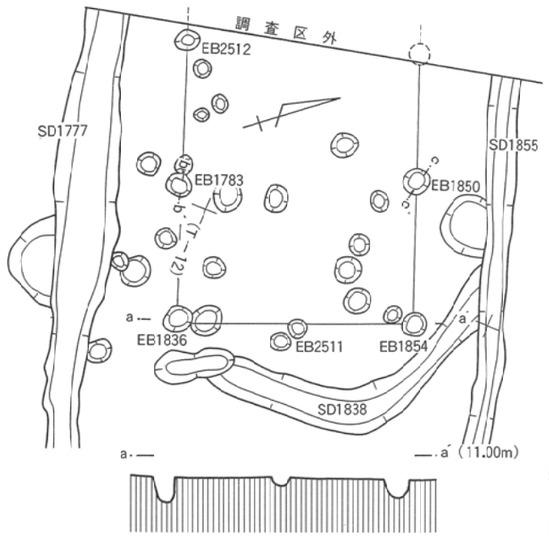



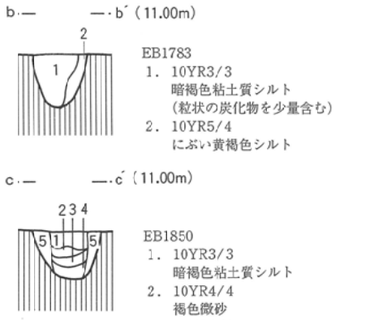

SB2497




SB2513



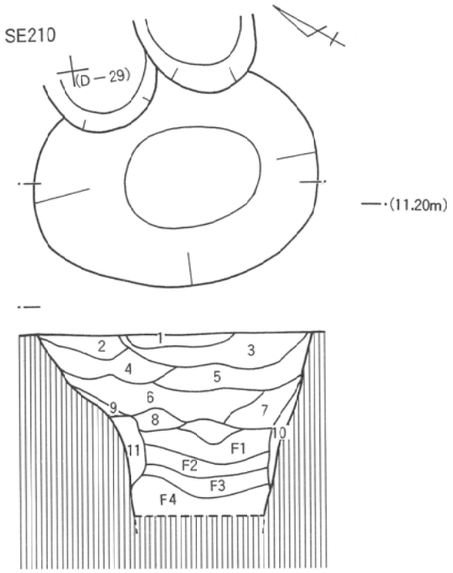

遺構平面図
エレベーション図　0　5m　1：100
遺構断面図　0　2m　1：40

第15図　遺溝実測図(11)

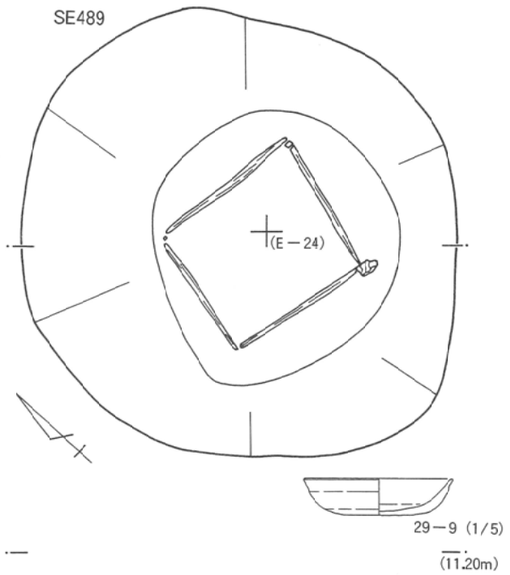




SE210



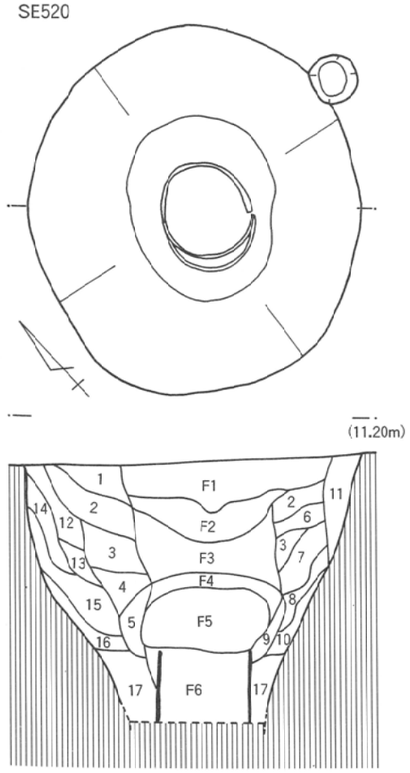

SE489

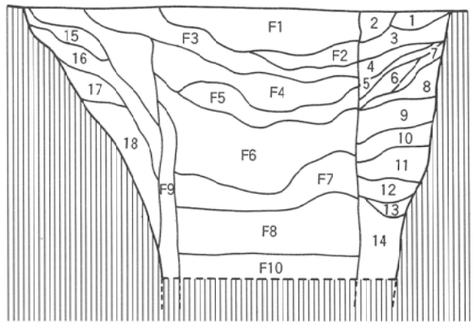



SE210
1．10YR2/1　黒色シルト
（2層の土を小ブロック状に含む）
2．10YR4/4　褐色シルト
3．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
4．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を少量含む）
5．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
6．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
（10YR5/4　にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む）
7．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
8．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
9．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
（11層の土を斑状に含む）
10．7.5YR4/4　褐色シルト
11．10YR5/3　にぶい黄褐色微砂

F 1．10YR2/2　黒褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
F 2．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
F 3．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土
F 4．10YR5/2　灰黄褐色細砂

SE520




SE520
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（10YR66/6　明黄褐色シルトを少量斑状に含む）
2．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（10YR6/6　明黄褐色シルトを多量に斑状に含む）
3．10YR4/3　にぶい黄褐色微砂
（10YR3/3　暗褐色粘土質シルトを少量斑状に含む）
4．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（10YR4/3　にぶい黄褐色微砂を斑状ににに含む）
5．10YR3/1　黒褐色粘土質シルト
（10YR4/1　褐灰色微砂を斑状に含む）
6．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（10YR3/1　黒褐色粘土を部分的にブロック状に含む）
7．10YR3/3　暗褐色微砂
（10YR3/1　黒褐色粘土を斑状に含む）
8．10YR4/6　褐色微砂
（10YR3/1　黒褐色粘土を斑状に含む）
9．10YR3/1　黒褐色シルト
10．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
（10YR4/6　褐色微砂を斑状に含む）
11．10YR5/6　黄褐色微砂
12．10YR4/4　褐色微砂
（10YR3/1　黒褐色粘土を小ブロック状に含む）
13．10YR4/4　褐色微砂
（10YR3/1　黒褐色粘土を斑状に含む）
14．10YR6/4　にぶい黄橙色シルト
（10YR3/1　黒褐色粘土を小ブロック状に含む）
15．10YR4/4　褐色微砂
（10YR3/1　黒褐色粘土を小ブロック状に含む）
16．10YR5/6　黄褐色細砂
17．10YR4/4　褐色細砂

F 1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（10YR6/6　明黄褐色シルトをブロック状に含む）
F 2．10YR2/2　黒褐色粘土質シルト
（10YR6/6　明黄褐色シルトを斑状に混入し粒状の炭化物を含む）
F 3．10YR2/2　黒褐色粘土質シルト
（10YR6/6　明黄褐色シルトを小ブロック状に含む）
F 4．10YR3/1　黒褐色粘土質シルト
F 5．5Y2/1　黒色粘土
（7.5Y3/2　オリーブ黒シルト・7.5YR 5/6明褐色微砂をブロック状に含む）
F 6．5Y3/1　オリーブ黒粘土

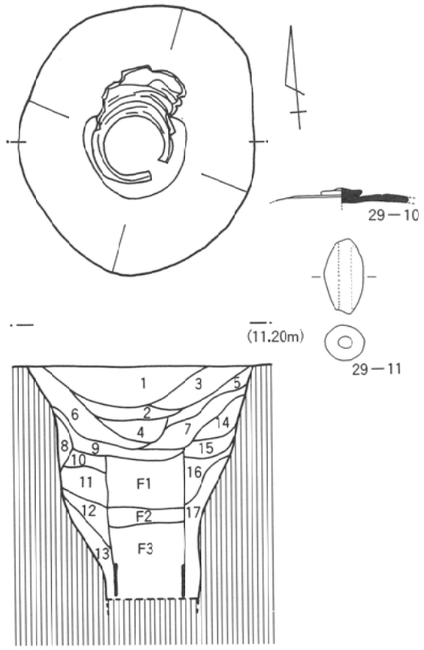
SE489
1．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
（10YR4/6　褐色シルトをブロック状に含む）
2．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
3．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
（10YR4/6　褐色シルトをブロック状に含む）
4．10YR4/6　褐色シルト
（10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含む）
5．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
6．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
（10YR2/1　黒色粘土をブロック状に含む）
7．10YR4/6　褐色砂質シルト
8．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
（10YR4/6　褐色シルトをブロック状に含む、粒状の炭化物を含む）
9．10YR4/6　褐色砂質シルト
（10YR2/3　黒褐色粘土質シルトを斑状に含む）
10．10YR2/2　黒褐色粘土質シルト
（10YR4/6　褐色シルトを小ブロック状に含む）
11．10YR4/6　褐色砂質シルト微砂
（10YR3/2　黒褐色粘土を斑状に含む）
12．10YR2/2　黒褐色粘土
（10YR4/6　褐色シルトをブロック状に含む）
13．10YR2/1　黒色粘土
（10YR4/6　褐色シルトをブロック状に含む）
14．10YR2/1　黒色粘土
15．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
（18層の土をブロック状に含む）
16．10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト
（10YR3/3　明黄褐色粘土質シルト・10YR6/6 明黄褐色シルトを斑状に含む）
17．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
18．10YR6/6　明黄褐色シルト

F 1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物・土器片を含む）
F 2．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物・土器片を含む）
F 3．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物・土器片を少量含む）
F 4．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
F 5．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（10YR4/6　褐色シルトをブロック状に含む）
F 6．2.5Y2/1　黒色土
（大量の有機物を含み弾力を持つ）
F 7．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
F 8．10YR2/1　黒色粘土
F 9．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
F10．10YR2/2　黒褐色粘土

0　2m　1：40

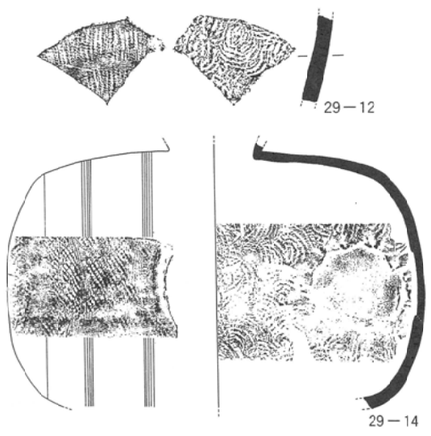
第16図　遺溝実測図(12)

SE590

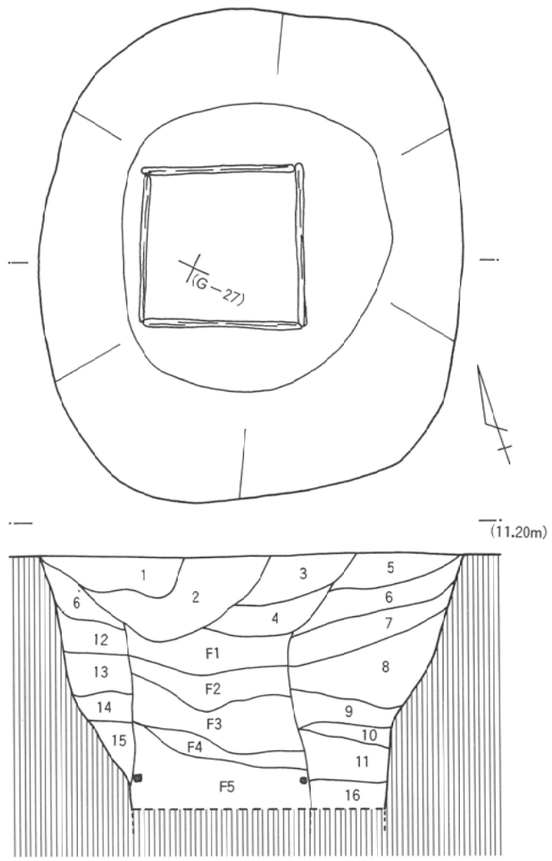



SE590
1．2.5Y4/4　オリーブ褐色シルト
2．2.5Y4/2　暗灰黄色シルト
3．2.5Y4/3　オリーブ褐色シルト
　(粒状の炭化物を含む)
4．2.5Y4/3　オリーブ褐色シルト
5．2.5Y5/3　黄褐色シルト
　(土器小片を含む)
6．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト
7．10YR3/4　暗褐色シルト
8．2.5Y5/6　黄褐色シルト
9．2.5Y4/3　オリーブ褐色シルト
　(8層の土を粒状に含む)
10．2.5Y5/4　黄褐色シルト
11．5Y5/4　オリーブ色シルト
12．10YR5/6　黄褐色シルト
13．10YR6/4　褐色細砂
14．2.5Y4/3　オリーブ褐色シルト
　(8層の土をブロック状に含む)
15．2.5Y4/2　暗灰黄色シルト
16．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト
17．10YR6/4　褐色細砂

F 1．10YR4/2　灰黄褐色シルト
　(粒状の炭化物を少量含む)
F 2．10YR3/2　黒褐色シルト
F 3．5Y3/1　オリーブ黒色シルト

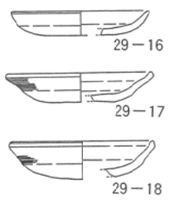


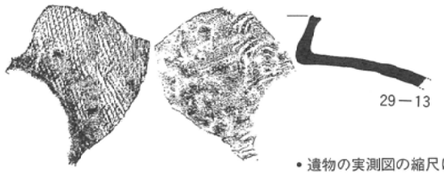

SE733




SE733
1．10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト
2．10YR3/3　暗褐色砂質シルト
3．2.5Y4/1　黄灰色微砂
4．2.5Y3/2　黒褐色微砂
　(土器小片を含む)
5．10YR3/4　暗褐色シルト
6．10YR3/3　暗褐色細砂
　(10YR3/1　黒褐色シルトを霜降り状に含む
　土器小片を含む)
7．10YR4/3　にぶい黄褐色細砂
　(10YR4/6　褐色粘土質シルトを横縞状に含む)
8．2.5Y3/2　黒褐色微砂
9．2.5Y5/4　黄褐色粗砂
10．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粗砂
11．2.5Y5/2　暗灰黄色細砂
12．10YR4/3　にぶい黄褐色細砂
13．2.5Y3/2　黒褐色細砂
　(土器小片環含む)
14．2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂
15．2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂
16．2.5Y5/2　暗灰黄褐色微砂

F 1．2.5Y3/3　暗オリーブ褐色シルト
　(粒状の炭化物・土器小片を含む)
F 2．10YR2/3　黒褐色砂質シルト
　(粒状の炭化物を含む)
F 3．7.5YR3/1　黒褐色砂質シルト
F 4．10YR4/1　褐灰色微砂
F 5．5G2/1　緑黒粘土質シルト




• 遺物の実測図の縮尺は1/5である。

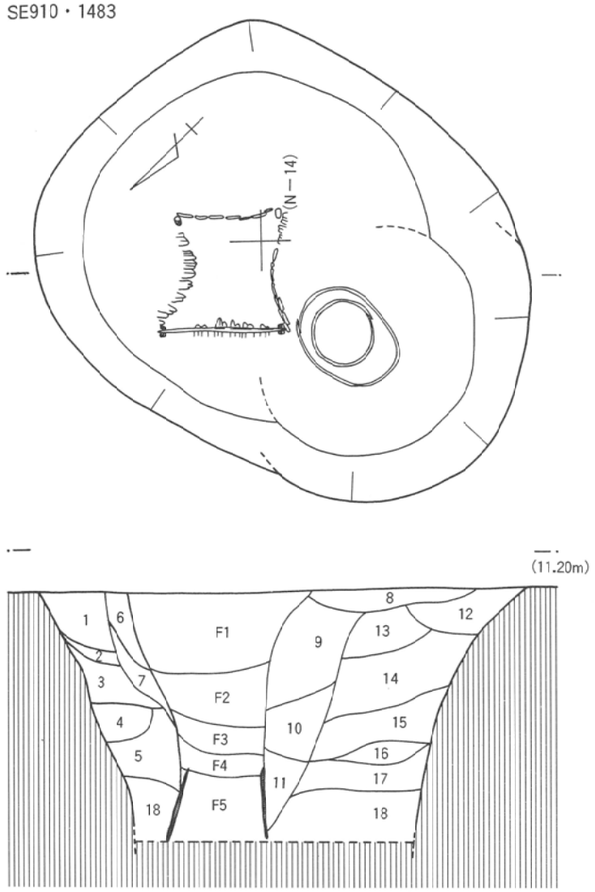
0　2m
1：40

第17図　遺溝実測図(13)



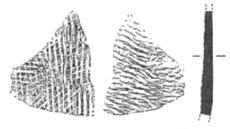


SE910・1483

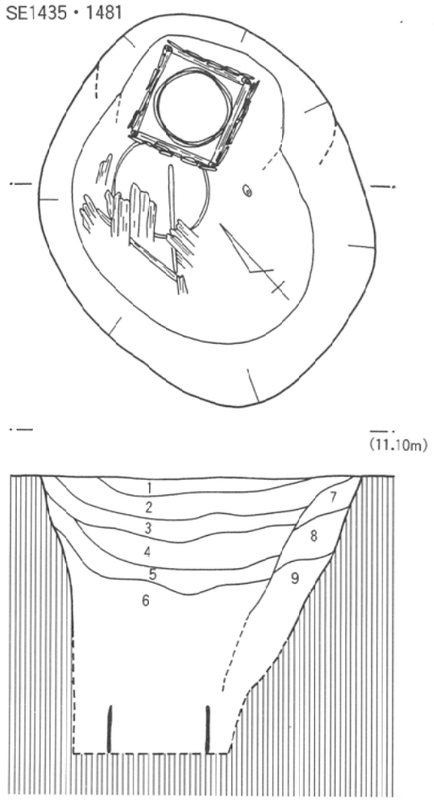



SE910・1483
1．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
　(10YR7/4　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む)
2．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
3．2.5YR4/2　暗灰黄色シルト
4．10YR6/6　明黄褐色粘土質シルト
5．10YR6/3　にぶい黄橙色シルト
6．10YR3/1　黒褐色シルト
7．10YR3/1　黒褐色シルト
　(10YR7/4　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む)
8．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
　(10YR7/4　にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む)
9．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
　(10YR7/4　にぶい黄橙色シルトを小量斑状に含む)
10．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
　(10YR7/4　にぶい黄橙色シルトを小ブロック状に含む)
11．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
12．10YR4/4　褐色シルト
13．10YR4/4　褐色シルト
　(10YR6/6　明黄褐色シルトを小ブロック状に含む)
14．10YR3/4　明褐色粘土質シルト
　(10YR5/6　明黄褐色シルトを斑状に含む)
15．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
16．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
17．10YR4/4　褐色シルト
18．10YR6/4　にぶい黄橙色シルト

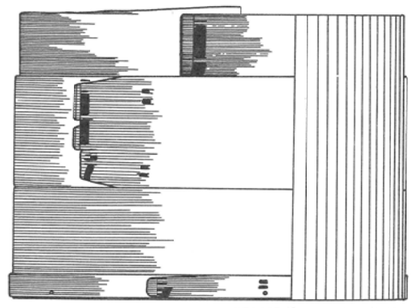
F 1．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
F 2．10YR2/2　黒褐色粘土質シルト
F 3．10YR2/1　黒色粘土
F 4．2.5Y2/1　黒色粘土
F 5．5Y2/1　黒色粘土




SE1435・1481




SE1435・1481
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
2．10YR2/3　黒褐色シルト
　(10YR6/4　にぶい黄橙色シルトを斑状に含み小ブロック状の炭化物を含む)
3．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
　(10YR6/4　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む)
4．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
　(10YR6/4　にぶい黄橙色シルトを径数cmのブロック状に含む)
5．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
　(10YR6/4　にぶい黄橙色シルト・10YR6/4　褐色微砂を小ブロック状に含む)
6．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
　(10YR6/4　にぶい黄橙色シルト・10YR6/4　褐色微砂を斑状に含む)
7．10YR2/3　黒褐色シルト
　(10YR4/6　褐色細砂・10YR2/2　黒褐色シルトを小ブロック状に含む)
8．10YR2/2　黒褐色シルト
9．10YR3/1　黒褐色シルト

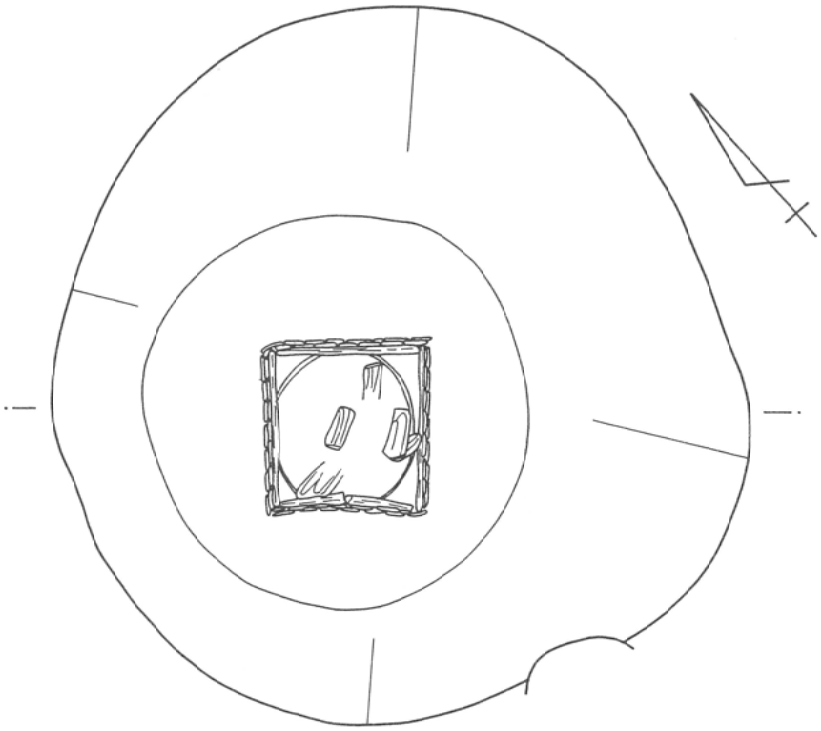


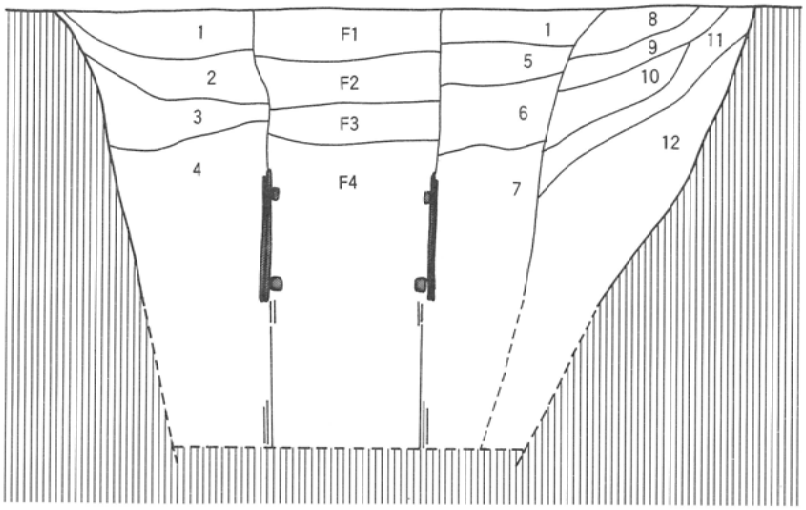
SE1435 井戸眼曲物 (1/8)

0　2m
1：40

第18図　遺溝実測図(14)

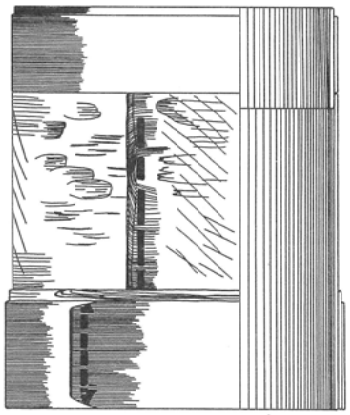
SE2370




SE2370
1．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
　(7.5Y6/2　灰黄褐色シルトを小ブロック状に含む)
2．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
　(2.5Y6/2　灰黄褐色シルトを斑状に多量に含む)
3．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
　(10YR6/8　明黄褐色シルトを斑状に含む
　粒状の炭化物を少量含む)
4．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
　(10YR6/6　明黄褐色微砂を粒状に含む)
5．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
　(2.5Y6/2　灰黄褐色シルトを粒状に少量含む)
6．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
　(2.5Y6/2　灰黄褐色シルトを斑状に含む)
7．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
　(2.5Y6/2　灰黄褐色シルトを粒状に少量含む)
8．10YR4/4　褐色粘土質シルト
9．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
　(2.5Y6/2　灰黄褐色シルトを斑状に含む)
10．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
11．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
　(12層の土を小ブロック状に含む)
12．10YR6/6　明黄褐色微砂

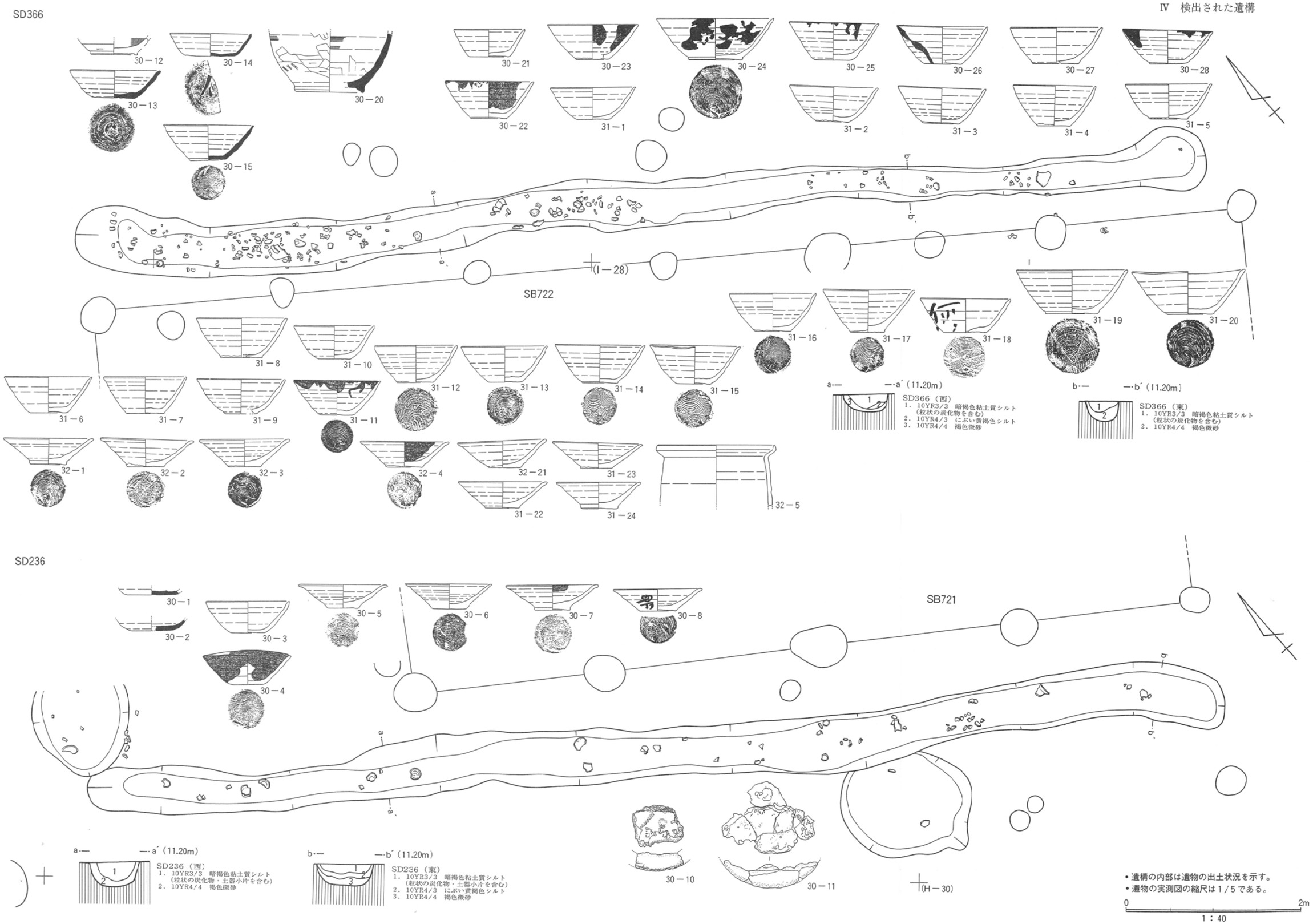
F 1．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
F 2．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
　(粒状の炭化物を少量含む)
F 3．10YR4/1　褐灰色粘土
F 4．10YR3/4　黒褐色粘土



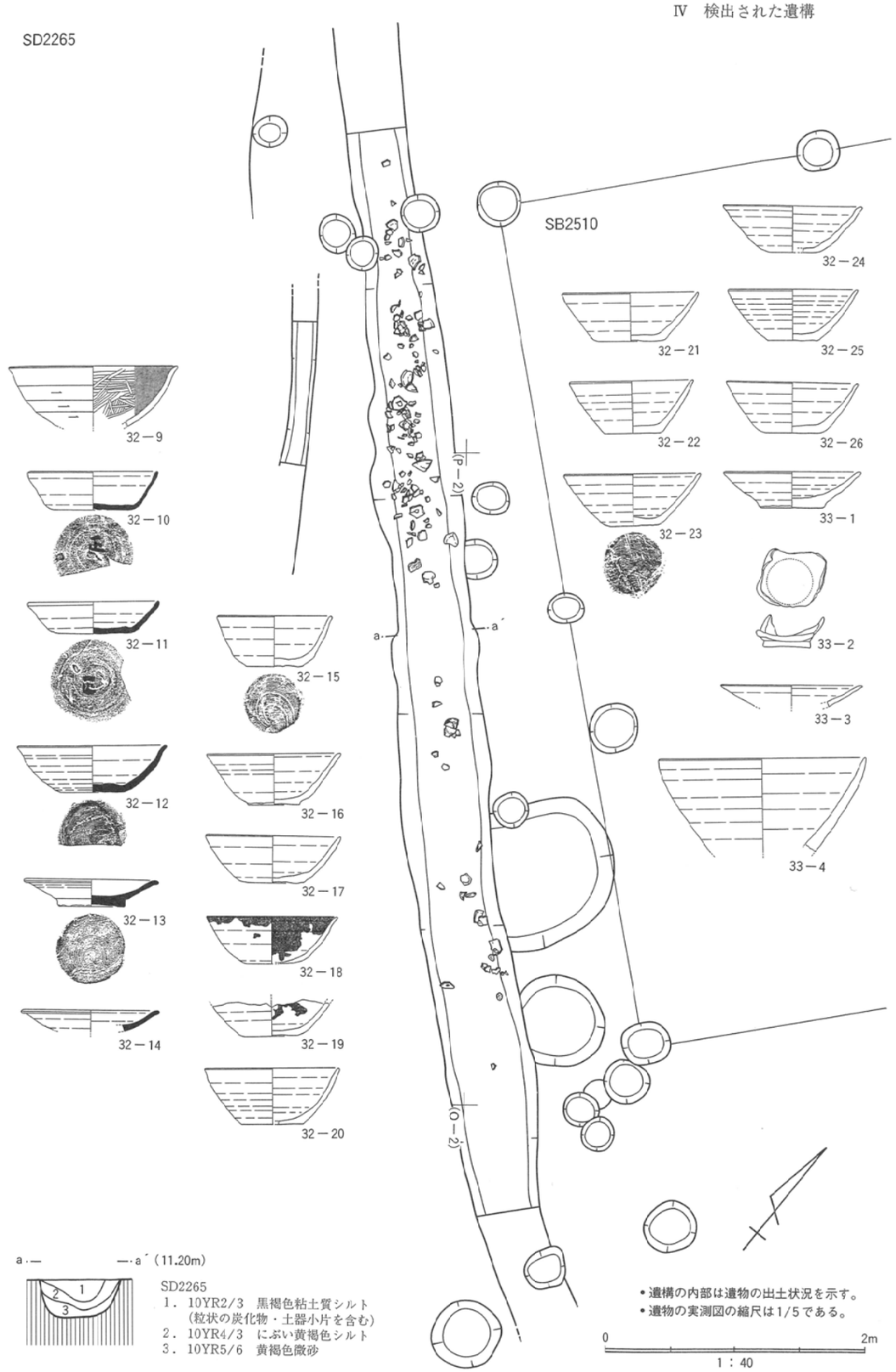
SE2370　井戸眼曲物（1/16）

0　2m
1：40

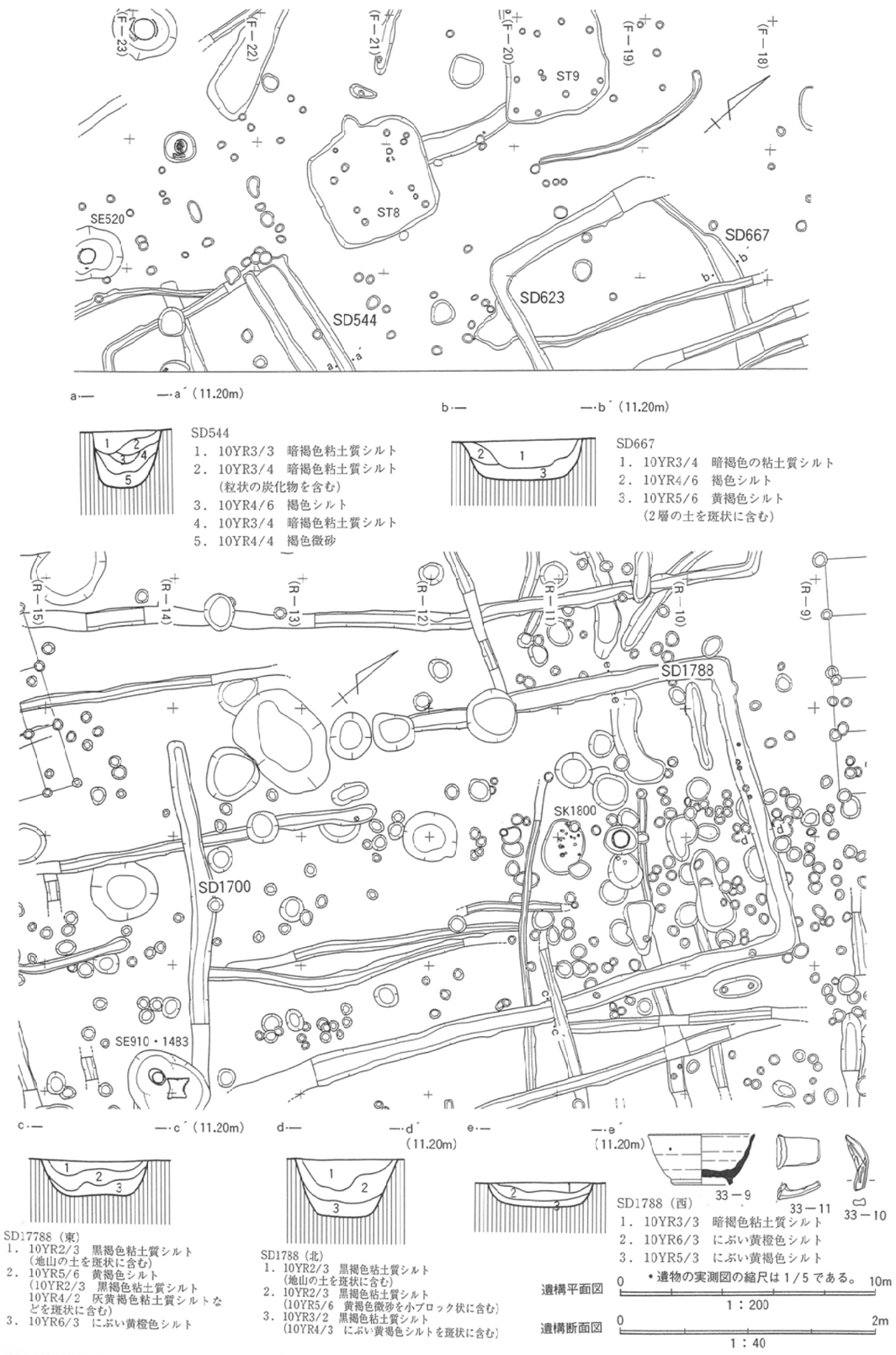
第19図　遺溝実測図(15)


SD366
30－12
30－14
30－20
30－21
30－23
30－24
30－25
30－26
30－27
30－28
30－13
30－22
31－1
31－2
31－3
31－4
31－5
30－15
(I－28)
SB722
31－8
31－10
31－16
31－17
31－18
31－19
31－20
31－6
31－7
31－9
31－11
31－12
31－13
31－14
31－15
a·—　—·a´（11.20m）
SD366（西）
1. 10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
3. 10YR4/4　褐色微砂
b·—　—·b´（11.20m）
SD366（東）
1. 10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
2. 10YR4/4　褐色微砂
32－1
32－2
32－3
32－4
32－21
31－23
32－5
31－22
31－24
SD236
30－1
30－2
30－3
30－5
30－6
30－7
30－8
SB721
30－4
a·—　—·a´（11.20m）
SD236（西）
1. 10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物・土器小片を含む）
2. 10YR4/4　褐色微砂
b·—　—·b´（11.20m）
SD236（東）
1. 10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物・土器小片を含む）
2. 10YR4/4　にぶい黄褐色シルト
3. 10YR4/4　褐色微砂
30－10
30－11
(H－30)
• 遺構の内部は遺物の出土状況を示す。
• 遺物の実測図の縮尺は1/5である。
0
2m
1：40

第20図　遺構実測図(6)



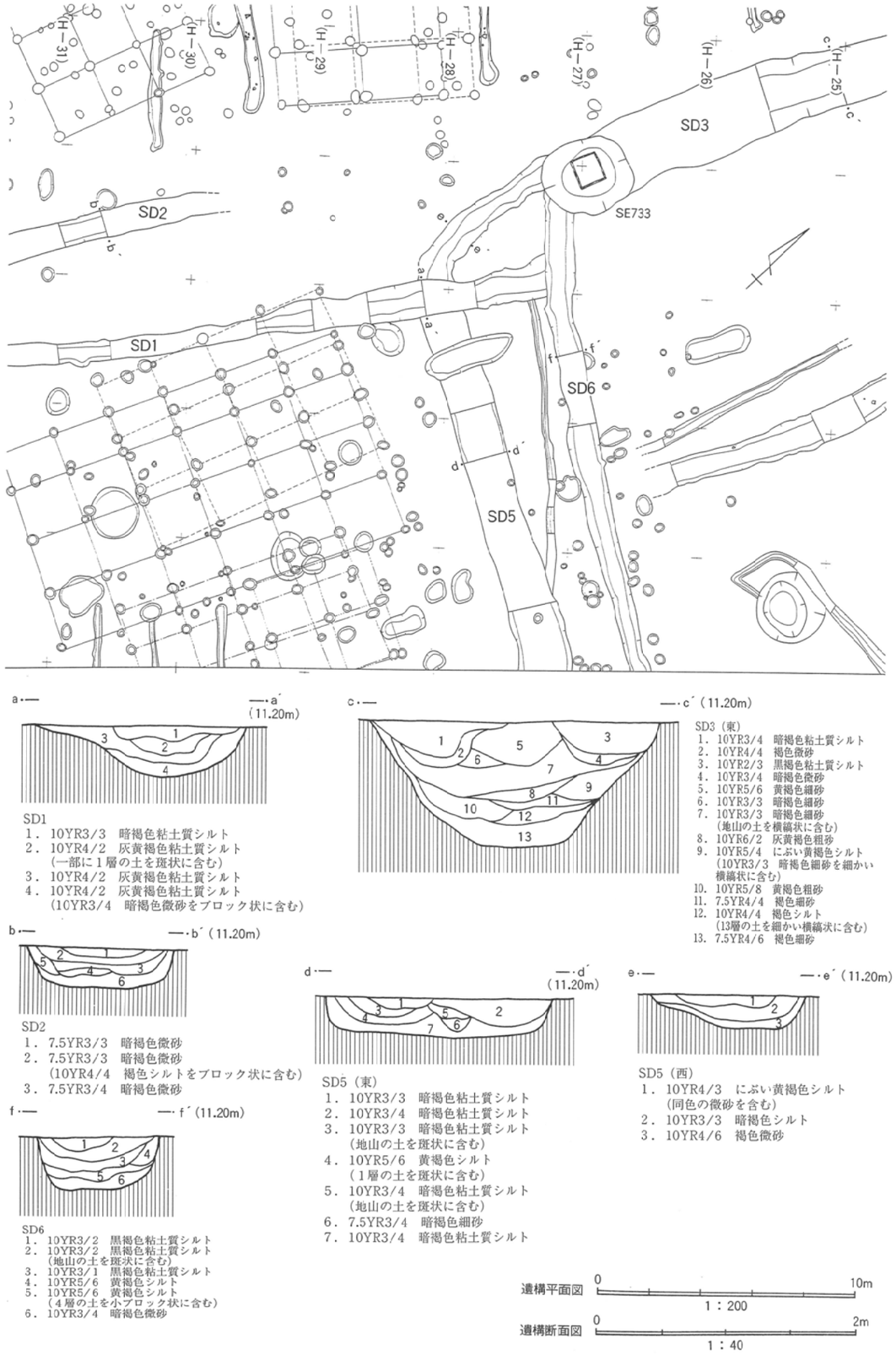

第21図　遺溝実測図(17)



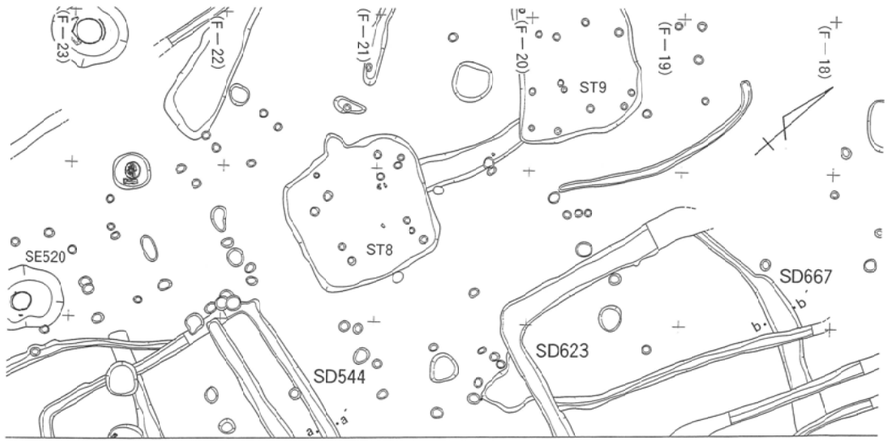

第22図　遺溝実測図(18)

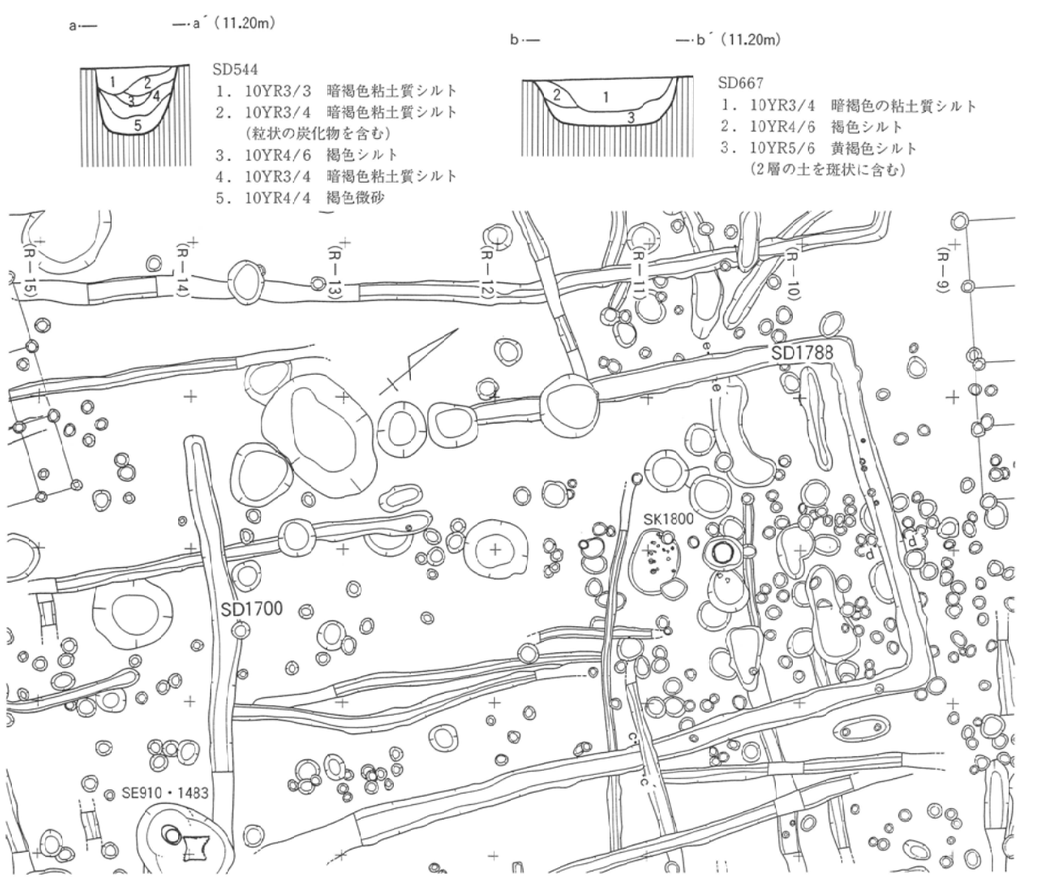







第23図　遺溝実測図(19)




a—　—a′（11.20m）



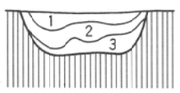
SD544
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
2．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
3．10YR4/6　褐色シルト
4．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
5．10YR4/4　褐色微砂

b—　—b′（11.20m）



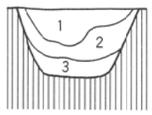
SD667
1．10YR3/4　暗褐色の粘土質シルト
2．10YR4/6　褐色シルト
3．10YR5/6　黄褐色シルト
（2層の土を斑状に含む）

c—　—c′（11.20m）



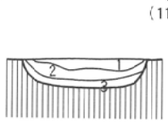
SD17788（東）
1．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
（地山の土を斑状に含む）
2．10YR5/6　黄褐色シルト
（10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルトなどを斑状に含む）
3．10YR6/3　にぶい黄橙色シルト

d—　—d′（11.20m）



SD1788（北）
1．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
（地山の土を斑状に含む）
2．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
（10YR5/6　黄褐色微砂を小ブロック状に含む）
3．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
（10YR4/3　にぶい黄褐色シルトを斑状に含む）

e—　—e′（11.20m）



SD1788（西）
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
2．10YR6/3　にぶい黄橙色シルト
3．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト

・遺物の実測図の縮尺は1/5である。

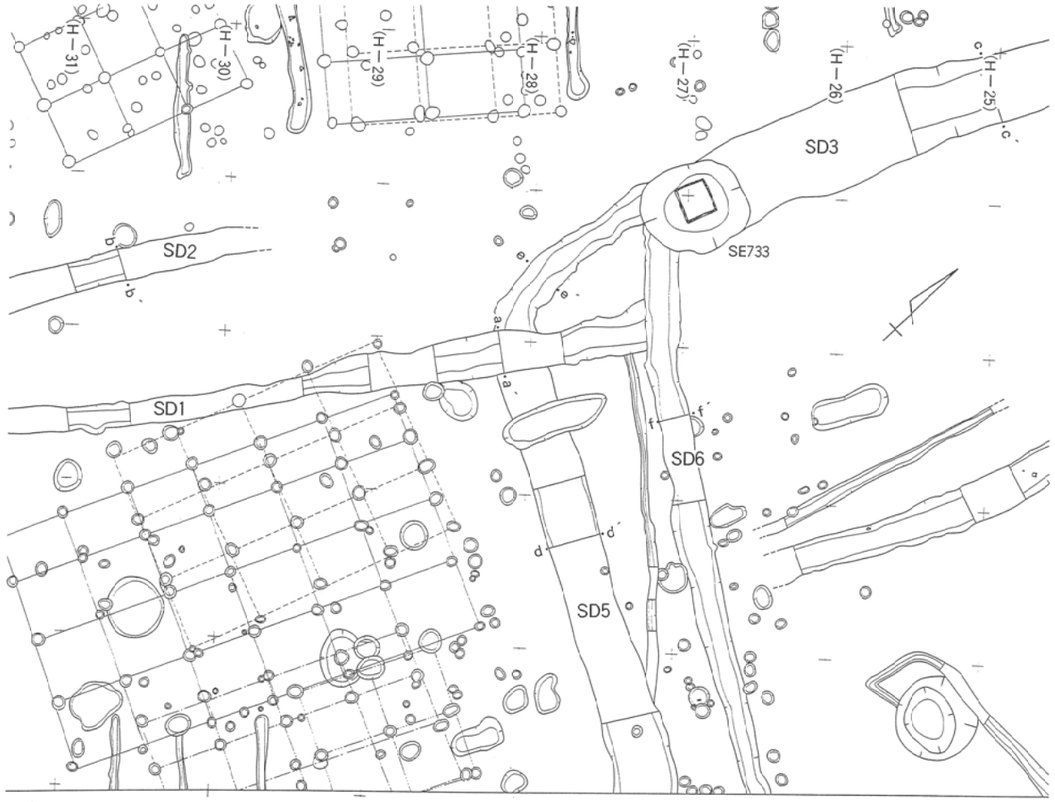
遺構平面図　0　10m　1：200

遺構断面図　0　2m　1：40

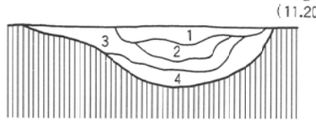
第22図　遺溝実測図(18)





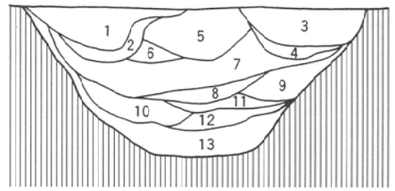



a—　—a′（11.20m）



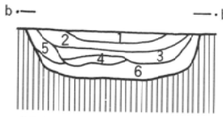
SD1
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
2．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（一部に1層の土を斑状に含む）
3．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
4．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（10YR3/4　暗褐色微砂をブロック状に含む）

c—　—c′（11.20m）



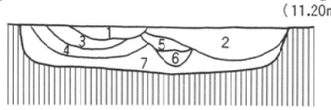
SD3（東）
1．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
2．10YR4/4　褐色微砂
3．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
4．10YR3/4　暗褐色微砂
5．10YR5/6　黄褐色細砂
6．10YR3/3　暗褐色細砂
7．10YR3/3　暗褐色細砂
（地山の土を横縞状に含む）
8．10YR6/2　灰黄褐色粗砂
9．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
（10YR3/3　暗褐色細砂を細かい横縞状に含む）
10．10YR5/8　黄褐色粗砂
11．7.5YR4/4　褐色細砂
12．10YR4/4　褐色シルト
（13層の土を細かい横縞状に含む）
13．7.5YR4/6　褐色細砂

b—　—b′（11.20m）



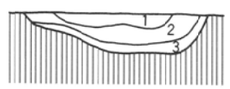
SD2
1．7.5YR3/3　暗褐色微砂
2．7.5YR3/3　暗褐色微砂
（10YR4/4　褐色シルトをブロック状に含む）
3．7.5YR3/4　暗褐色微砂

d—　—d′（11.20m）



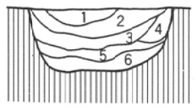
SD5（東）
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
2．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
3．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（地山の土を斑状に含む）
4．10YR5/6　黄褐色シルト
（1層の土を斑状に含む）
5．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
（地山の土を斑状に含む）
6．7.5YR3/4　暗褐色細砂
7．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト

e—　—e′（11.20m）



SD5（西）
1．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
（同色の微砂を含む）
2．10YR3/3　暗褐色シルト
3．10YR4/6　褐色微砂

f—　—f′（11.20m）

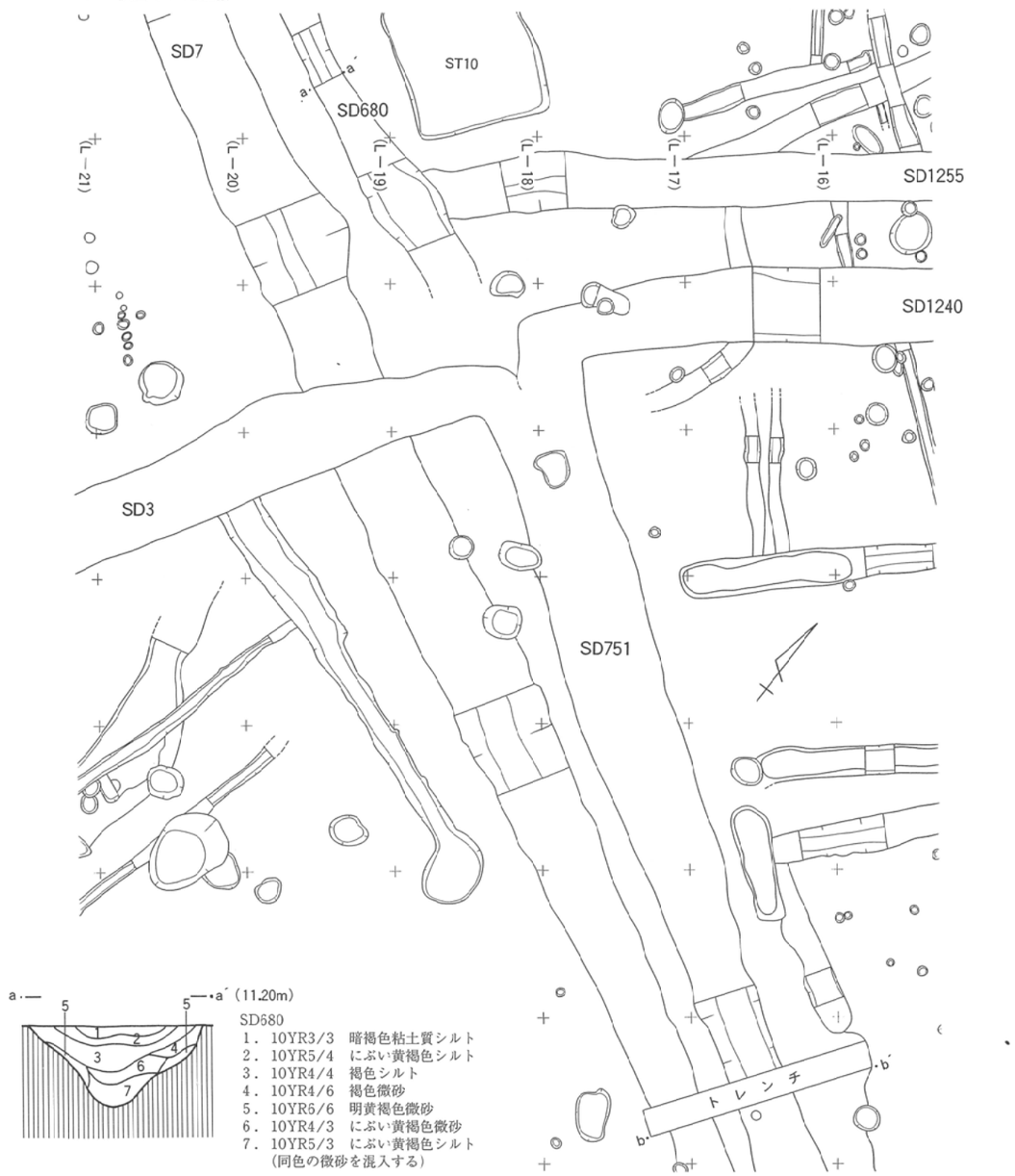


SD6
1．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
2．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
（地山の土を斑状に含む）
3．10YR3/1　黒褐色粘土質シルト
4．10YR5/6　黄褐色シルト
5．10YR5/6　黄褐色シルト
（4層の土を小ブロック状に含む）
6．10YR3/4　暗褐色微砂

遺構平面図　0　10m　1：200

遺構断面図　0　2m　1：40

第23図　遺溝実測図(19)



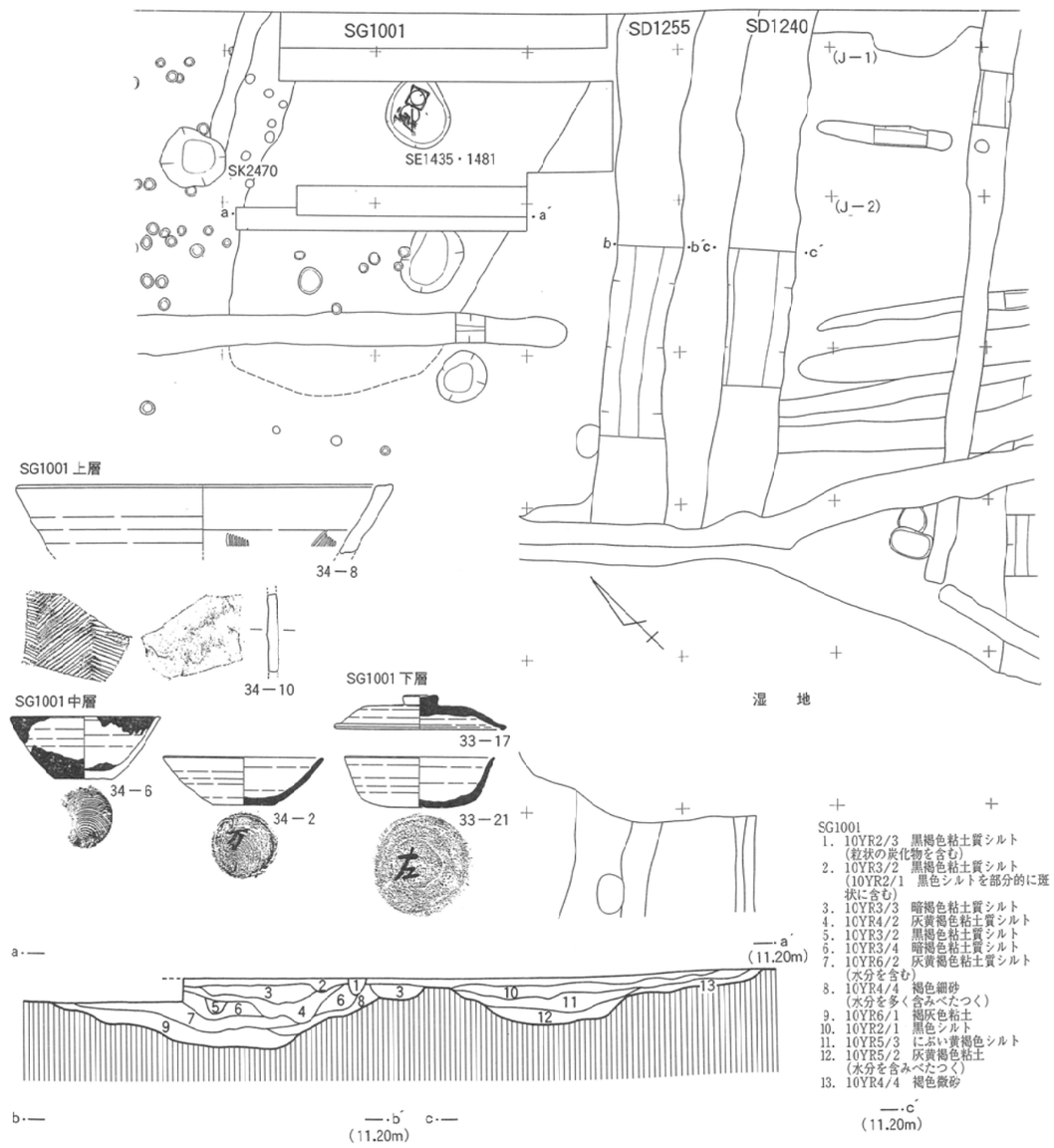

SD7・751・800・1330
1．10YR4/4　褐色粘土質シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
3．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
(10YR5/8　黄褐色微砂を斑状に含む)
4．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
5．10YR4/4　褐色粘土質シルト
(6層の土を斑状に含む　粒状の土器片を含む)
6．2.5YR4/2　暗灰黄褐色シルト
7．10Y3/4　暗褐色粘土質シルト
8．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
(9層の土を小ブロック状に含む　粒状の土器片を含む)
9．2.5YR6/2　灰黄褐色シルト
10．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
11．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
(10YR6/4　明黄褐色シルトをブロック状に含む)
12．10YR3/4　黒褐色シルト
13．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
14．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
15．10YR4/6　褐色シルト
16．10YR5/2　灰黄褐色粘土質シルト
(10YR6/3　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む)
17．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
(18層の土と炭化物を多量に含む)
18．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト
19．10YR4/2　灰黄褐色シルト
20．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
21．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
22．10YR5/6　黄褐色シルト
23．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
(24層の土をブロック状に含む)
24．10YR5/8　黄褐色シルト
25．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
(10YR6/3　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む)

遺構平面図　0　10m　1：200
遺構断面図　0　2m　1：40

第24図　遺溝実測図(20)








SG1001
1．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
(粒状の炭化物を含む)
2．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
(10YR2/1　黒色シルトを部分的に斑状に含む)
3．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
4．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
5．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
6．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
7．10YR6/2　灰黄褐色粘土質シルト
(水分を含む)
8．10YR4/4　褐色細砂
(水分を多く含みべたつく)
9．10YR6/1　褐灰色粘土
10．10YR2/1　黒色シルト
11．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト
12．10YR5/2　灰黄褐色粘土
(水分を含みべたつく)
13．10YR4/4　褐色微砂

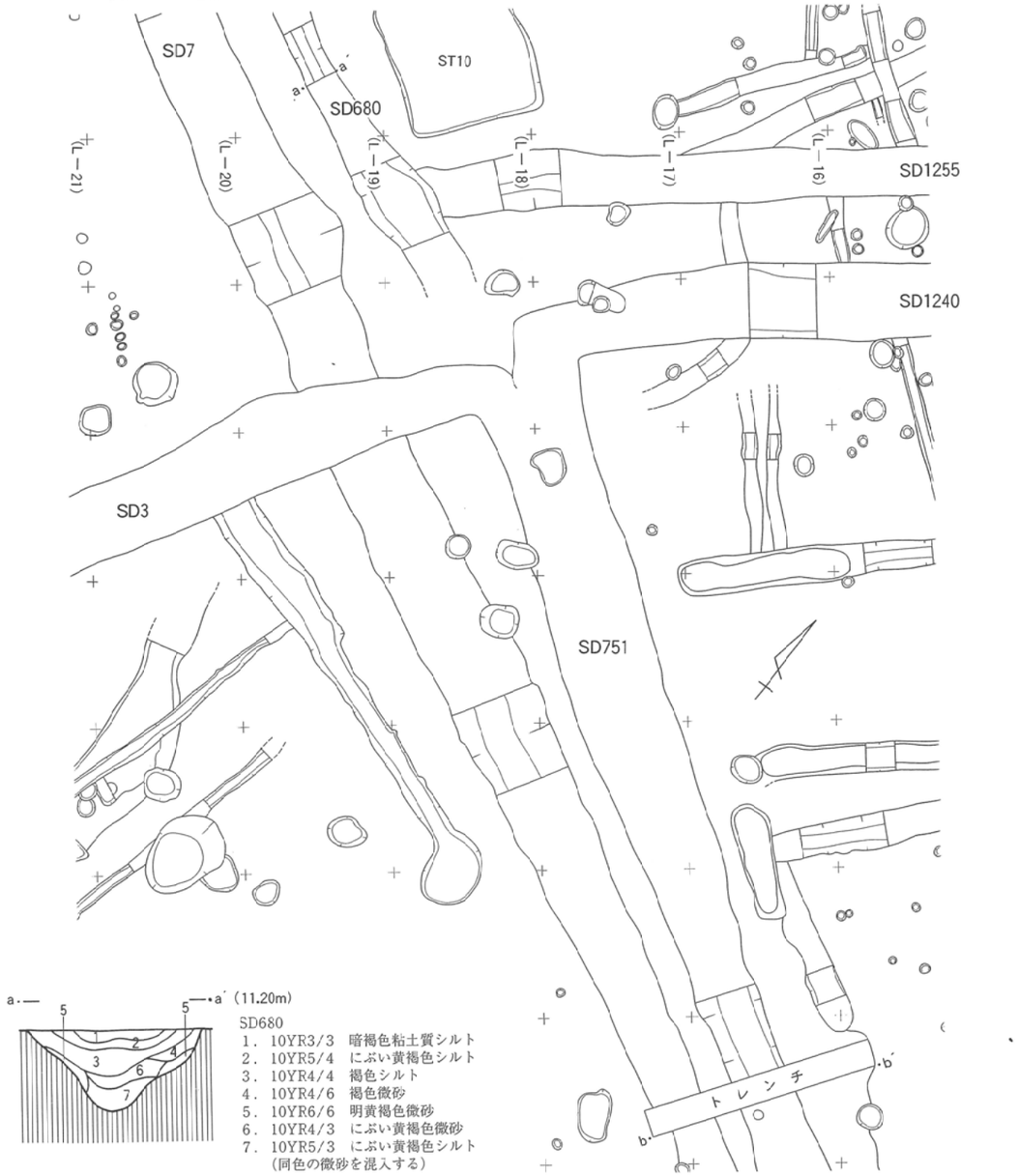
SD1255
1．10YR4/4　褐色粘土質シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
3．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
4．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
(10YR6/6　明黄褐色細砂をブロック状に含む)
5．10YR6/4　にぶい黄橙色シルト
6．10YR5/4　にぶい黄褐色微砂
7．10YR4/4　褐色粘土質シルト
(10YR6/6　明黄褐色細砂を斑状に含む)
8．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
(10YR6/6　明黄褐色細砂を斑状に含む)

SD1240
1．10YR4/4　褐色粘土質シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
3．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
4．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
5．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
(10YR5/2　灰黄褐色シルトを斑状に含む)
6．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
(7層の土を斑状に含む)
7．10YR5/4　にぶい黄褐色微砂
8．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
(7層の土を斑状に含む)

・遺物の実測図の縮尺は1/5である。

遺構平面図　0　10m　1：200
遺構断面図　0　2m　1：40

第25図　遺溝実測図(21)




SD680
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
2．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
3．10YR4/4　褐色シルト
4．10YR4/6　褐色微砂
5．10YR6/6　明黄褐色微砂
6．10YR4/3　にぶい黄褐色微砂
7．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト
（同色の微砂を混入する）

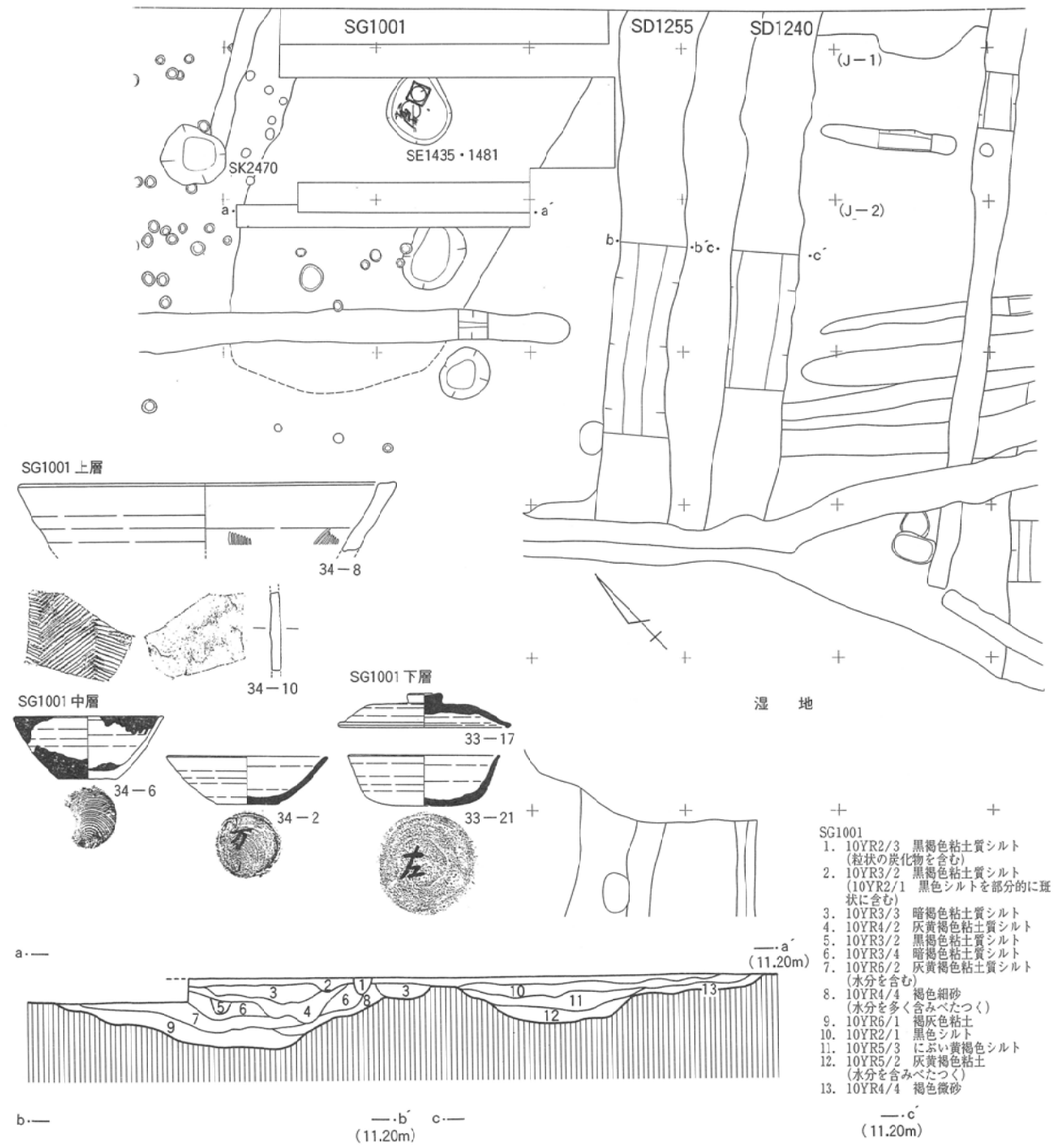
SD7・751・800・1330
1．10YR4/4　褐色粘土質シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
3．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
（10YR5/8　黄褐色微砂を斑状に含む）
4．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
5．10YR4/4　褐色粘土質シルト
（6層の土を斑状に含む　粒状の土器片を含む）
6．2.5YR4/2　暗灰黄褐色シルト
7．10Y3/4　暗褐色粘土質シルト
8．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（9層の土を小ブロック状に含む　粒状の土器片を含む）
9．2.5YR6/2　灰黄褐色シルト
10．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
11．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
（10YR6/4　明黄褐色シルトをブロック状に含む）
12．10YR3/4　黒褐色シルト
13．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
14．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
15．10YR4/6　褐色シルト
16．10YR5/2　灰黄褐色粘土質シルト
（10YR6/3　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む）
17．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（18層の土と炭化物を多量に含む）
18．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト
19．10YR4/2　灰黄褐色シルト
20．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
21．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
22．10YR5/6　黄褐色シルト
23．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
（24層の土をブロック状に含む）
24．10YR5/8　黄褐色シルト
25．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（10YR6/3　にぶい黄橙色シルトを斑状に含む）

遺構平面図　0　10m　1：200
遺構断面図　0　2m　1：40

第24図　遺溝実測図(20)








SG1001
1．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
2．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
（10YR2/1　黒色シルトを部分的に斑状に含む）
3．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
4．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
5．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
6．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
7．10YR5/2　灰黄褐色粘土質シルト
（水分を含む）
8．10YR4/4　褐色細砂
（水分を多く含みべたつく）
9．10YR5/1　褐灰色粘土
10．10YR2/1　黒色シルト
11．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト
12．10YR5/2　灰黄褐色粘土
（水分を含みべたつく）
13．10YR4/4　褐色微砂

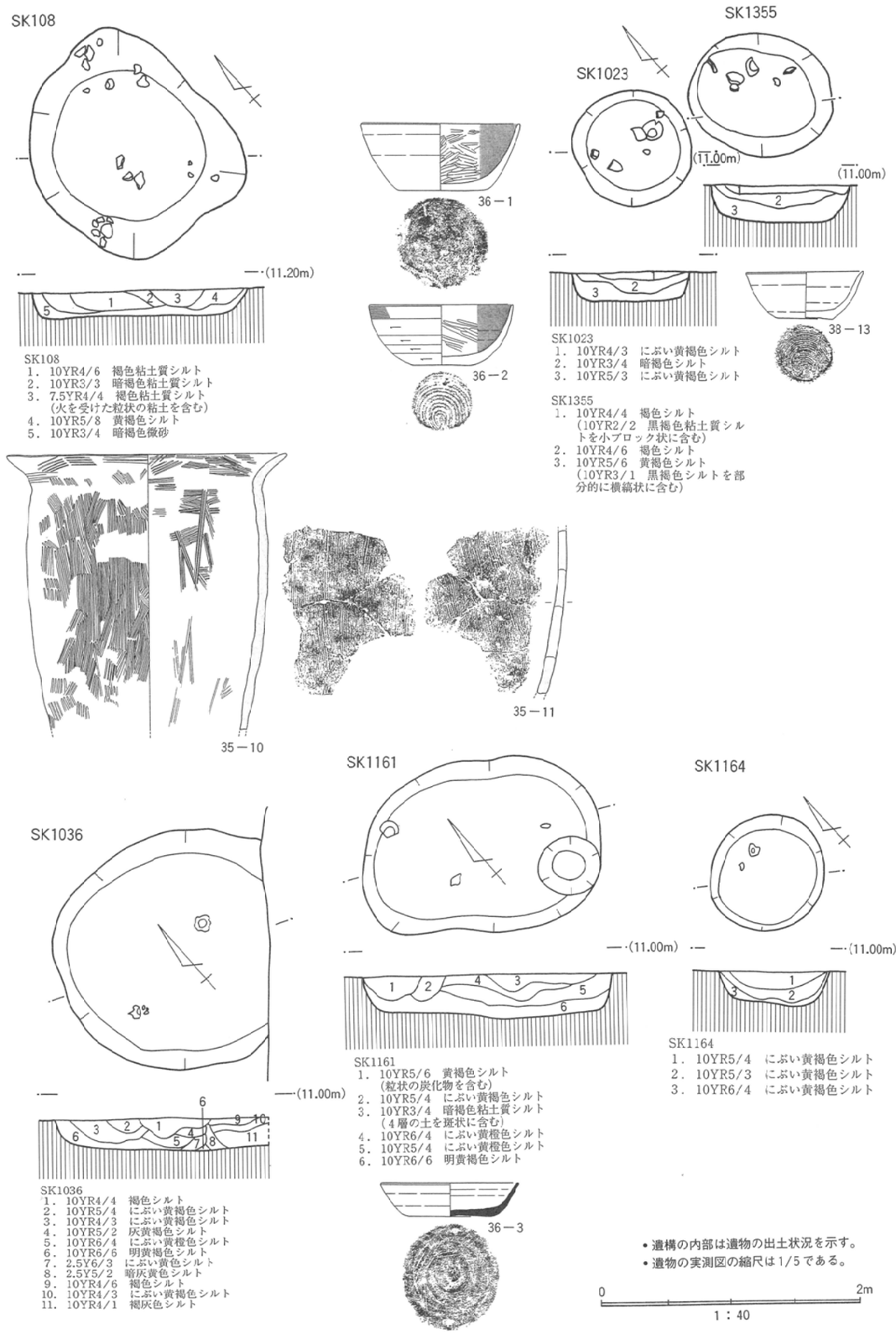
SD1255
1．10YR4/4　褐色粘土質シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
3．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
4．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
（10YR6/6　明黄褐色細砂をブロック状に含む）
5．10YR6/4　にぶい黄橙色シルト
6．10YR5/4　にぶい黄褐色微砂
7．10YR4/4　褐色粘土質シルト
（10YR6/6　明黄褐色細砂を斑状に含む）
8．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（10YR6/6　明黄褐色細砂を斑状に含む）

SD1240
1．10YR4/4　褐色粘土質シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
3．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
4．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
5．10YR4/1　褐灰色粘土質シルト
（10YR5/2　灰黄褐色シルトを斑状に含む）
6．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（7層の土を斑状に含む）
7．10YR5/4　にぶい黄褐色微砂
8．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
（7層の土を斑状に含む）

・遺物の実測図の縮尺は1/5である。

遺構平面図　0　10m　1：200
遺構断面図　0　2m　1：40

第25図　遺溝実測図(21)




SK108
1．10YR4/6　褐色粘土質シルト
2．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
3．7.5YR4/4　褐色粘土質シルト
（火を受けた粒状の粘土を含む）
4．10YR5/8　黄褐色シルト
5．10YR3/4　暗褐色微砂

SK1023
1．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
2．10YR3/4　暗褐色シルト
3．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト

SK1355
1．10YR4/4　褐色シルト
（10YR2/2　黒褐色粘土質シルトを小ブロック状に含む）
2．10YR4/6　褐色シルト
3．10YR5/6　黄褐色シルト
（10YR3/1　黒褐色シルトを部分的に横縞状に含む）

SK1161
1．10YR5/6　黄褐色シルト
（粒状の炭化物を含む）
2．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
3．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
（4層の土を斑状に含む）
4．10YR6/4　にぶい黄橙色シルト
5．10YR5/4　にぶい黄橙色シルト
6．10YR6/6　明黄褐色シルト

SK1164
1．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
2．10YR5/3　にぶい黄褐色シルト
3．10YR6/4　にぶい黄褐色シルト

SK1036
1．10YR4/4　褐色シルト
2．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
3．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
4．10YR5/2　灰黄褐色シルト
5．10YR6/4　にぶい黄橙色シルト
6．10YR6/6　明黄褐色シルト
7．2.5Y6/3　にぶい黄色シルト
8．2.5Y5/2　暗灰黄色シルト
9．10YR4/6　褐色シルト
10．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
11．10YR4/1　褐灰色シルト

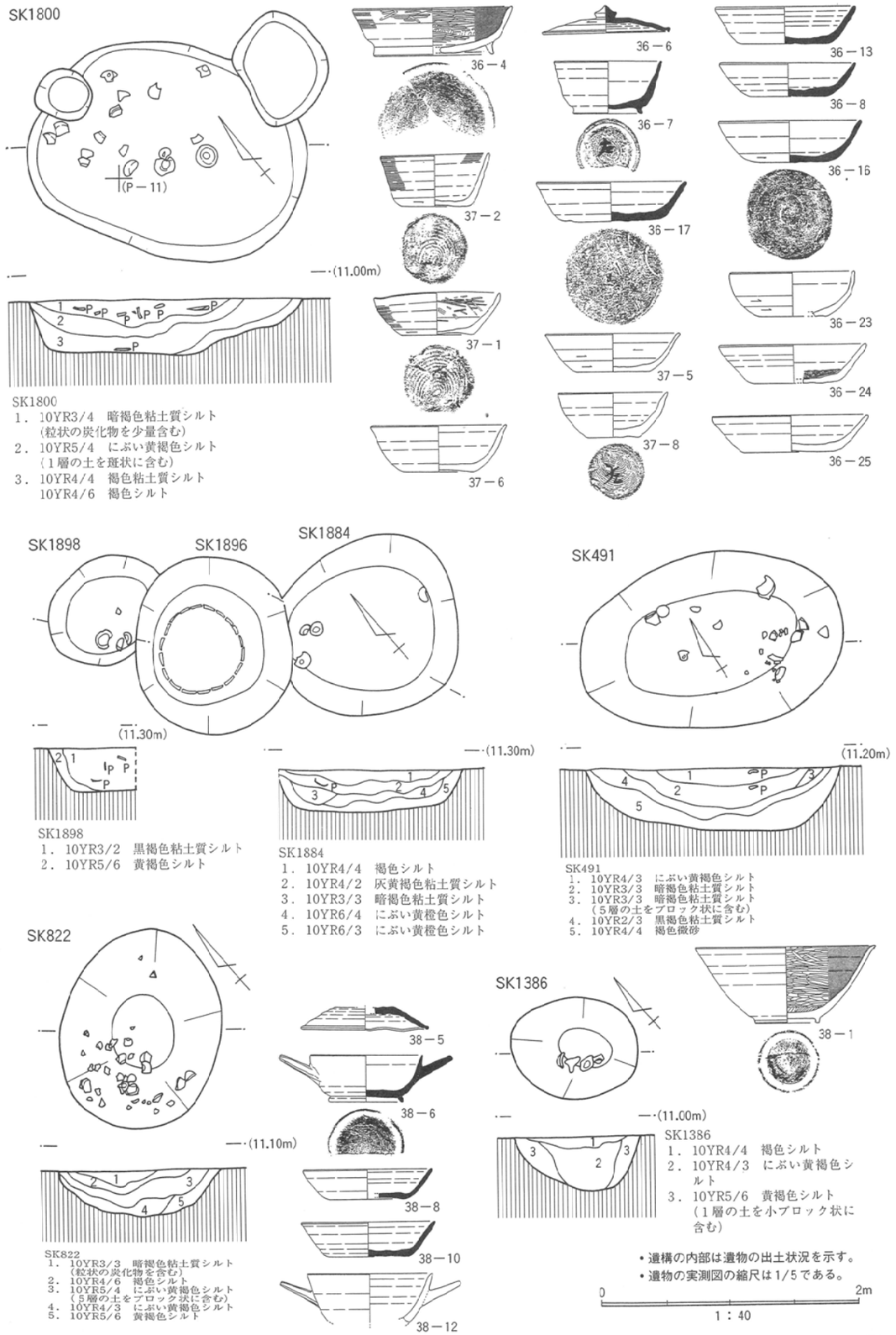
• 遺構の内部は遺物の出土状況を示す。
• 遺物の実測図の縮尺は1/5である。

0　2m
1：40

第26図　遺溝実測図(22)








SK1800
1．10YR3/4　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を少量含む）
2．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
（1層の土を斑状に含む）
3．10YR4/4　褐色粘土質シルト
10YR4/6　褐色シルト

SK1898
1．10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
2．10YR5/6　黄褐色シルト

SK1884
1．10YR4/4　褐色シルト
2．10YR4/2　灰黄褐色粘土質シルト
3．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
4．10YR6/4　にぶい黄橙色シルト
5．10YR6/3　にぶい黄橙色シルト

SK491
1．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
2．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
3．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（5層の土をブロック状に含む）
4．10YR2/3　黒褐色粘土質シルト
5．10YR4/4　褐色微砂

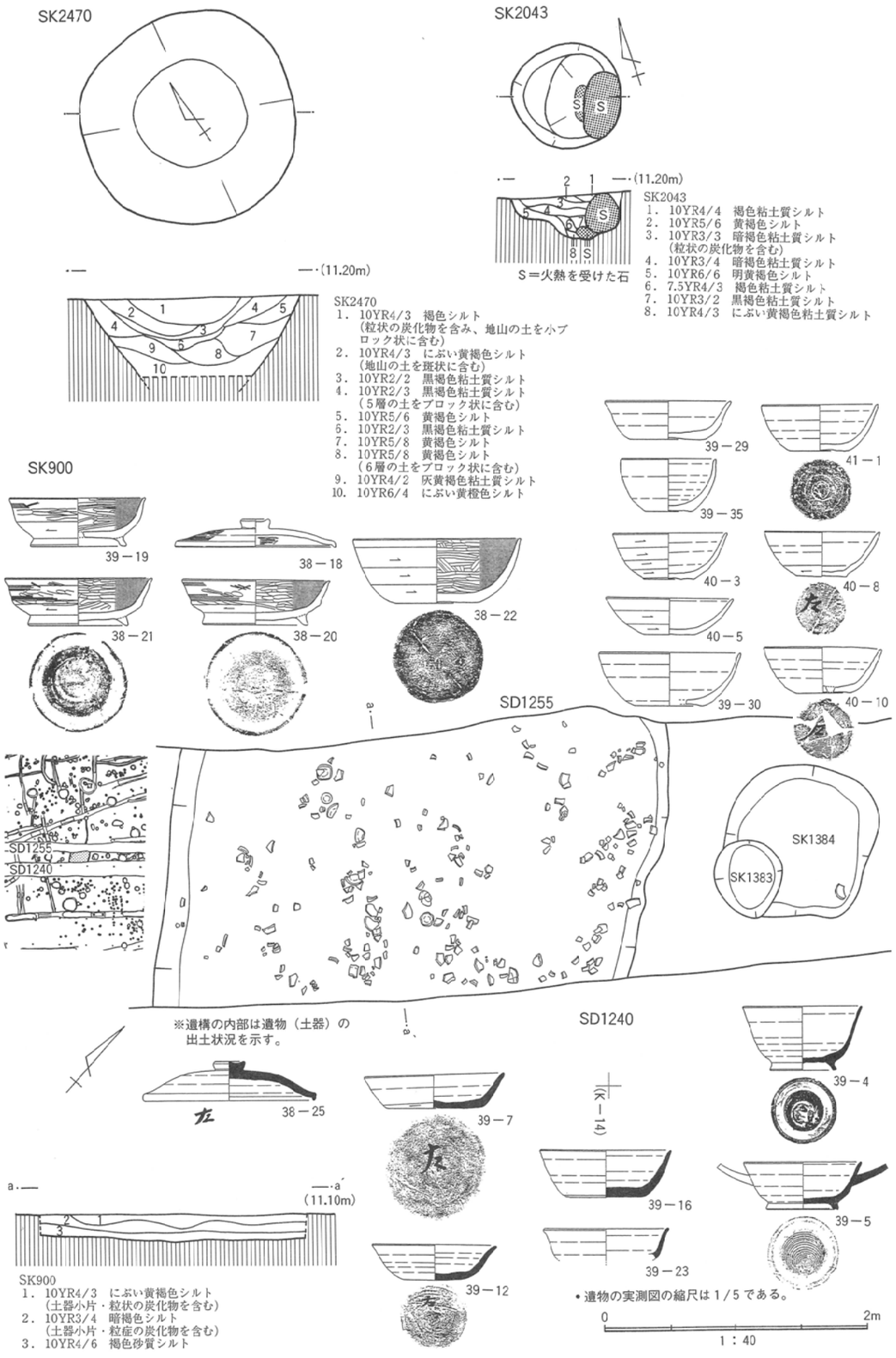
SK822
1．10YR3/3　暗褐色粘土質シルト
（粒状の炭化物を含む）
2．10YR4/6　褐色シルト
3．10YR5/4　にぶい黄褐色シルト
（5層の土をブロック状に含む）
4．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
5．10YR5/6　黄褐色シルト

SK1386
1．10YR4/4　褐色シルト
2．10YR4/3　にぶい黄褐色シルト
3．10YR5/6　黄褐色シルト
（1層の土を小ブロック状に含む）

• 遺構の内部は遺物の出土状況を示す。
• 遺物の実測図の縮尺は1/5である。

0　2m
1：40

第27図　遺溝実測図(23)




第28図　遺溝実測図(24)





# Ⅴ　出土した遺物

第３次調査により出土した遺物はコンテナ80箱、点数にして約40,000点余りを数える。そのうち525点図化した。出土遺物は土師器・須恵器・赤焼土器・中世陶器・かわらけ等土器類がもっとも多く、全体の99.5％以上を占め、供膳形態の坏・蓋類が主体となる。その他土製品・石製品・木製品・金属製品である。今回従来の赤焼土器の概念から離れる坏類の一群を見い出した。器形･調整技法など秋田城跡出土の赤褐色土器にきわめて類似する。本報告書ではそれを酸化焔土器と仮称し分類する。以下、種別毎に内容を概括する。

## (1)　土師器

土師器は、数量的には10％に満たないが全域で出土している。しかし、Ａ１区での出土が比較的多い。主体を成す貯蔵・煮沸形態である甕は、いずれも破片資料であり全形は不明である。内外面にハケ目調整のあるもの、内外面に撫で調整のあるもの、体部下半に削り調整が見られるものなどがある。高坏は２点（40－16･18）で、１点（40－16）は内面黒色処理されている。全体の器形は不明である。Ｂ区で出土したミニチュア土器（41－１～３）は手づくねで成形される。１点（41－１）の内面は黒色を呈している。また、蓋を１点（40－19）図化した。内外面とも箆ミガキが施されている。40－20は鉢である。

黒色処理を施したものには、内面のみ（内黒土器）と内外面（両黒土器）の２種が見られ高台付と無しに分かれる。全体量の２％に満たず少量の出土である。内黒土器坏無高台には、体部下端手持ち箆削りで底部に木葉痕を残すもの（41－９・10）、外面箆ミガキのもの（41－12）がある。また底部回転箆切り痕を明瞭に残すもの（40－28）がある。第２次調査時に３点、似るものが出土し８世紀前半に位置づけたい。大振りの坏には、底部および体部外面を箆削りし体部がやや直線的に立ち上がるもの（36－１）、回転糸切りで底部外縁部から体部上半にかけて回転箆削りを施し、体部が内湾して立ち上がるもの（36－２・38－22）がある。高台付には須恵器稜埦写しと考えられるものがある。ＳＫ1800出土の稜埦（36－４）は外面回転箆削りで内面及び外面上半に箆ミガキを施している。高台から底部が突出する形態であり秋田県竹原窯跡出土の須恵器に似る。また、第41図５は、静止糸切りで外面が回転箆削りである。千葉県砂田中台遺跡出土の074Ｅ－１に似、８世紀中葉に位置づけたい。ＳＫ900出土稜埦３点（38－19～21）が特筆される。底部を回転箆削りにより丸底風に仕上げ体部下半に明瞭な稜をつくり直線的に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。内面と体部上半は箆ミガキされ、強い撫でが１条あるいは２条施され沈線状を呈している。高台は底部端に外に開く形に貼り付けられ底部切り離しは回転箆切りで丁寧な作りである。これらと対になると思われる蓋もあり、１点（38－18）は、内面に漆ないしは柿渋が塗布されている。その他は内面黒色処理されたもので８世紀第２四半期に遡る可能性がある。３点の内黒稜埦に類似するものは、米沢市笹原遺跡ＳＴ１に台付盤があるが作りは粗雑である。須恵器は会津大戸窯跡、川西町壇山窯跡や米沢市荒川２遺跡、河北町不動木遺跡、寒河江市三条遺跡などで出土するが、内黒土器は西谷地遺跡が初出である。

８世紀第３四半期に位置づけたい。他に、体部外面回転篦削りで赤彩されるもの（38－１）や双耳坏がある。両黒土器は、２点（41－８・11）図化している。

⑵　須恵器

全出土量の36％を占め全域から出土するが、Ａ２区Ｊグリッドから Ｂ区にかけて多く、坏では底部回転篦切り技法が70％を占める。器種は坏・高台坏・蓋・皿・双耳坏・甕・壷・横瓶などがある。

主体を成す底部回転篦切りの坏には、①口径に比して底径が大きく体部が底部から緩やかに立ち上がり、丸底風になるもの、②底部全面や体部下端などが篦削りにより再調整されるもの、③底部回転篦切り無調整で体部の立ち上がりが急なもの、④口径に比して底部がやや小さく体部の外傾度が大きいもの、⑤底部と体部の境界部が明瞭で体部が直線的に立ち上がるものなどに類別でき、口縁部の外反度・法量・器高などで細分が可能である。底部回転糸切りの坏は30％存在するが主体とはならない。タイプとしては、①底径が大きく篦切り須恵器の器形に類似するもの、②体部と底部の境界が明瞭でやや器高が高くなり、直線的に外傾するもの、③底径が小さく器高があり外傾度が大きいものなどに類別できる。さらに口縁部の外反度・法量・器高などで細分が可能である。

高台坏は底部回転篦切りが80％以上で、①やや大振りで口径と底径の差が少なく器高が低いもの、②大型で器高が高く体部が直線的に伸びやや外傾するもの、③②の小型品、④口径がやや小さく器高が高く体部がやや内湾しながら立ち上がる椀型のものなどに類別される。④の型で器厚が極めて薄く乳白色のものがＳＫ900から２点（39－３・４）、周辺から３点（42－１・10・17）ある。底部回転糸切りはＳＫ900出土の「左」の墨書がある１点を図化した。それぞれ高台位置・高台端部の形状などから細分できる。破片であるが稜椀が３点（39－23、43－13・14）出土し、43－13は新潟県山三賀Ⅱ遺跡出土の稜椀に類似する。

蓋には大振りのものと小振りなものに大別され、それぞれに山笠型・平笠型がある。鈕部は宝珠型・釦型・円筒型などがある。高台坏の①②③と対になると考えられる。又、短頸壷の蓋（41－15）を図化している。

皿は６点図化し、不明の１点を除き底部回転糸切り高台付で灰釉陶器の器形に似る。ＳＢ2510を挟むＳＤ2265とＳＤ3010から出土した２点（32－13、33－５）は転用硯である。また内外面篦ミガキがある皿（40－14）は特異である。

双耳坏は、底部回転糸切り高台付で底径がやや大きいものと、小振りで底径が小さいものがある。出現率がやや高い傾向が窺われる。

貯蔵形態である甕・壷・横瓶類は少量で破片資料の出土のため類型化は不可能であった。その中では45－13の壷が特異な器形をしている。

⑶　赤焼土器

酸化焔焼成で底部回転糸切り無調整の土器をいう。Ａ１区からの出土が際だって多く、次いでＳＢ2510を挟む溝（ＳＤ2265・ＳＤ3010）からが多い。器種には坏・皿・甕・堝などがある。９世紀前半以降須恵器の坏類に代わり主体となる。西谷地遺跡出土の赤焼土器





は、他の庄内の遺跡で出土する赤焼土器に比して作りが丁寧で歪みがなく、胎土も精製されるのが特徴である。

坏が赤焼土器の75％を占め、①口径が160mmを超え器高が高く大振りで、底部を疑似高台風にするもの、②口径130mm内外で小振りなもの、③口径に比して底径が小さく器高が高くなり体部が急角度で立ち上がるもの、などに類型化される。皿の出土は極めて少なく１％に満たない。類型として、①器高が37mm内外とやや高いもの、②器高が31mm内外と低いもの、③②に高台が付くものなどがある。また、耳皿が１点出土している。

貯蔵・煮沸形態としての甕・堝は、破片資料の出土にとどまり、完形となるものは少ない。出土土器全体の20％強と少量である。甕ではＳＫ1800出土のもの（37－12）や、ＳＫ1534出土のもの（47－18）が古く、秋田城跡の８世紀第３四半期頃の赤褐色土器甕と似る。堝は、ＳＤ４出土の丸底で器高が高くボール型を呈するもの（48－１）が、新潟県山三賀Ⅱ遺跡ＳＩ５出土の堝と類似し、山三賀Ⅱ遺跡土器編年ではⅠ期としている。

⑷　酸化焔土器

前述したように、今次調査において底部から体部にかけて削り調整を施し、体部外面も削りや撫でにより滑らかで、小振りで大きく内湾し深い椀状を呈する坏類の一群を見い出した。一部に須恵器と似るものも含まれるが、いずれも轆轤を使用し酸化焔により焼成されたものである。秋田城跡において８世紀第４四半期以降から出土する赤褐色土器と器形及び調整技法において類似するものが多い。山形県内では遊佐町上高田遺跡・北目長田遺跡で僅かに出土するが、まとまって出土したのは西谷地遺跡が初めてである。図化したのは72点で実測土器の20％を占める。器種は蓋・坏がある。主にＳＫ1800・ＳＫ900・ＳＫ822およびＢ区の遺構や覆土中からの出土が多い。A1区は僅かな出土で区域的な差違が見られる。

蓋は、ＳＫ900から３点（39－25～27）、他に１点計４点図化している。鈕部が円筒形で山笠型と、宝珠形でやや平笠型になるものに類別できる。

坏は底部回転糸切りが主体となる。尚、後述するが内外面赤彩の坏が含まれる。主に器形と調整技法を中心にして類型化をしていく。①口径が150mm内外で、底径が口径に比して大きく器高が低く体部が直線的に立ち上がる、底部回転篦切りで須恵器に似るもの、②口径が130mm内外で、底部回転篦切りで器高がやや高く底部から体部が緩やかに立ち上がり口縁端部が僅かに外反するもの、③②で回転糸切りのもの、④口径120mm内外で、底部から体部外面のほぼ全面に回転篦削りを施し、体部が大きく内湾しながら立ち上がり口縁部が直立するもの、これには底部回転糸切り痕を残し高台が付くものも含む。⑤口径120mm内外で、底部と体部の交換部および体部下半に手持ちもしくは回転篦削りを施し緩やかに内湾しながら立ち上がるもの、⑥口径が95mm内外で口径に比して底径が大きく立ち上がりが急でやや内湾し体部下半が回転篦削りされるもの、⑦口径に比して底部がやや小さく体部が直線的に立ち上がり体部下端が回転篦削りされるもの、⑧双耳坏などがあり、口縁部の外反度などにより細分は可能である。

さらに坏の内外面が赤彩される１群がある。いずれも篦削りないしは篦ミガキの再調整

を施され、酸化焔焼成されている。それらは、⑨底部切り離しが回転篦切りで、底部外縁から体部下半にかけて回転篦削りを施し丸底風に仕上げたもの（40－１・46－10）、⑩底部切り離しが回転糸切りで、体部下端が回転篦削りにより面取り状に調整され体部が急に立ち上がり、内外面上半が篦撫でされるもの（37－２・46－14・15）、⑪底部切り離しが回転糸切りで、体部下端が回転篦削りにより面取り状に調整され、体部が直線的に立ち上がり口縁部が直立気味に立ち、内外面篦ミガキされるもの（37－１）の３種がある。理化学分析により、成形後に酸化鉄を多く含む粘土を回転させながら刷毛塗りの後900度程度で焼成し赤く発色させたものと判明した。おそらく、酸化鉄による赤変効果を意図して塗布されたものと理解できる。これら酸化焔土器と秋田城跡出土遺物を検討したところ、⑤が秋田城跡の８世紀第４四半期から９世紀初頭に並行し、⑦が９世紀第１四半期に並行すると理解された。削りなどの再調整が広く施されているものほど古い要素が強いという見解があり、それに従えば①～④・⑥・⑧及び赤彩された酸化焔土器は８世紀第３四半期を中心とし、８世紀中葉に遡る可能性も推定できよう。距離的な問題があるが、千葉県の山田水呑遺跡や砂田中台遺跡などにおける、８世紀代の削り調整されたロクロ土師器坏類との関連などについて検討が必要となる。

(5)　遺構と土器の関わり

ＳＫ108　土師器甕が破片で31個出土し、図化されたものは３個体である。完形はないが口縁部や体部の調整などの特徴から８世紀前半と推定できる。また、火熱を受けたと思われる粘土塊が共伴している。

ＳＫ1800　内黒土器稜椀、やや大振りな底部回転篦切り須恵器坏、酸化焔土器などが出土している。このうち内黒土器稜椀は、底部が高台より突出する形態をしており秋田県竹原窯跡出土須恵器に類似し、８世紀第１四半期の年代を当てている。須恵器や、酸化焔土器はおおむね８世紀中葉に収まると考えられる。これらにより、ＳＫ1800は８世紀中葉と推定できる。また、赤彩された酸化焔土器がまとまって出土していることから、何らかの祭祀的な遺構と考えられる。

ＳＫ900　内黒土器稜椀が破片を含め３点以上、内黒土器蓋が１点以上、底部回転篦切りの須恵器、酸化焔土器、「左」10点を含む12点の墨書土器などが出土している。内黒土器稜椀は須恵器稜椀写しであり、この器形の須恵器稜椀は会津大戸窯跡、川西町壇山窯跡、大明神窯跡などで出土している。須恵器ならびに酸化焔土器は、器形及び調整技法などからＳＫ1800より若干降ると考えられる。ＳＫ900は８世紀第３四半期と推定できる。出土したのが供膳形態ばかりであることも特徴である。ＳＫ1800同様祭祀的な遺構と考えられる。

ＳＤ236・ＳＤ366　ＳＢ722の雨落ち溝である。遺物は土器類の90％を赤焼土器が占め、須恵器は６％である。ほとんどが坏類でその器形などから９世紀中葉と推定される。灰釉陶器破片が若干共伴するが黒笹14号形式に類似する。また、フイゴの羽口・坩堝・鉄滓が出土している。焼土が床面から検出され坩堝が出土した、隣接するＳＴ440との関連も検討を要する。

ＳＧ1001・ＳＤ3006　ＳＧ1001と市道拡幅立会調査時検出のＳＤ3006は同一である。下





層からは土師器甕に混じりやや大振りな篦切りの須恵器が出土し、「馬」「正」などの墨書が20点含まれる。中層からは底部糸切りの須恵器や赤焼土器が出土し、上層からはかわらけ・擂鉢・珠洲系甕などが出土する。下層はおおむね８世紀中葉、中層は９世紀中葉、上層は13～14世紀と推定できる。

(6)　その他の遺物

中世陶器は、擂鉢・珠洲系甕・かわらけなどがある。擂鉢は５点図化したが14世紀を中心とする。珠洲系甕では、綾杉紋の甕（34－10）は13世紀とされる。かわらけは74点出土し22点図化した。手づくねがほとんどであるが、３点回転糸切りが見られる。胎土や口縁部の撫での変化及び器形などにより細分化が可能である。山形県内でかわらけがまとまって出土したのは、遊佐町大楯遺跡に次ぎ２例目である。時期は13世紀とすることができる。

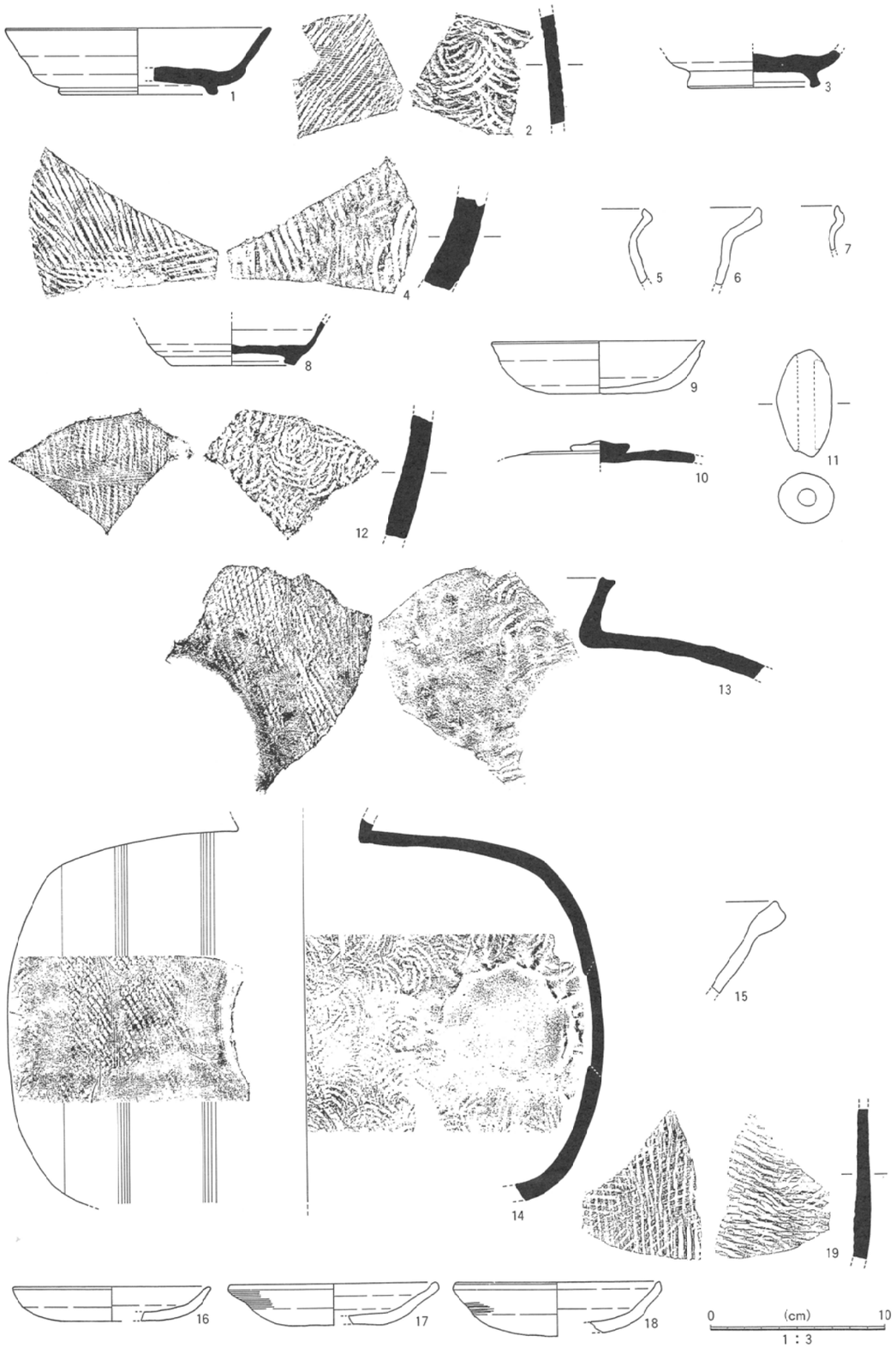
土製品には、土錘・紡錘車・リング状土製品・ボタン状土製品・坩堝・羽口などがある。坩堝と羽口が注目される。坩堝はスサ入土製品と赤焼土器内面に粘土を厚く塗るもの２種が見られた。鉄滓の出土と合わせ小鍛冶の存在が推定できる。

石製品には、大型石錘・石帯・硯・紡錘車・砥石・碁石・五輪塔などがある。大型石錘（50－10）は、円錐形を呈し紐を通すための溝が刻まれている。欠損しているが漁網の重りと推測される。同様のものは新潟市的場遺跡で出土し８世紀代の可能性を示唆している。石帯が２点出土した。淡青緑色蛇紋岩製（50－14）は残存値長さ25mm幅34mm厚さ６mmを測り、黒色粘版岩製（50－15）は残存値長さ29mm幅26mm厚さ６mmを測り丁寧に面取りしている。いずれも裏面に２個１組の穿孔が見られる。詳細については後述する。硯の内１点は風字硯の破片である。紡錘車は滑石製である。砥石は20点以上出土し坩堝・羽口と合わせ小鍛冶との関連性が推測される。五輪塔は２点の出土であるがいずれも欠損している。

鉄製品には鉄鏃が２点（33－８、50－16）ある。前者は赤焼土器主体のＳＤ2265出土により９世紀中葉と理解され、後者は形態からそれ以前の可能性がある。

木製品は箸６本と井戸眼として用いられた曲物２点（51－１・２）を図化した。曲物のうち前者は県内最大級である。

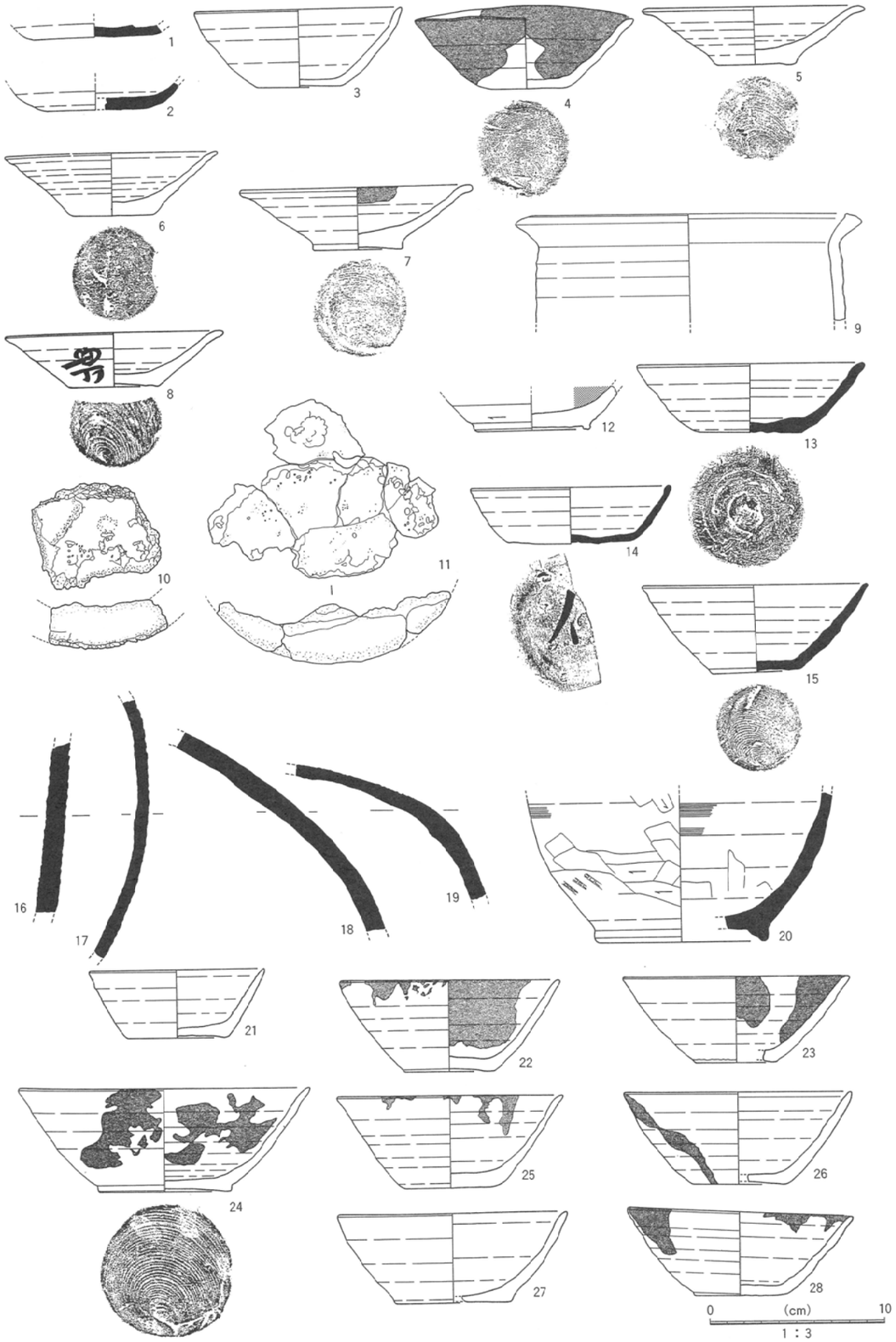
墨書土器が126点出土している。判読できたものは97点で「左」64点、「正」12点、「馬」３点、「安」「中」「万」「位」各２点、「何」「下」「子」「佰」「方」「挙」「山ヵ」「入ヵ」「川ヵ」「在ヵ」各１点である。「左」の出土量が突出している。「馬」は県内初出である。須恵器回転篦切り坏底部に墨書されているものが61％を占め、須恵器回転糸切り坏底部は14％、須恵器蓋は２％、赤焼土器坏類は10％で半数以上は体部に墨書され、酸化焔土器は８％で底部に墨書されている。区域的に見るとＡ１区では赤焼土器の墨書が優越し、文字もやや大振りで種類も多くなる傾向が窺われる。ＳＫ900、Ａ２区とＢ区の境界およそ50ｍ四方及びその周辺で「左」の須恵器回転篦切り坏の墨書土器が集中しており注目される。ＳＧ1001では「正」「馬」の須恵器回転篦切り坏が主体となっている。８世紀後半の古い時期から「左」が比較的長期間にわたり墨書され、「正」も同時期に墨書されたが長く続かず、９世紀中葉になるとＡ１区付近で赤焼土器に墨書されている傾向が推測される。



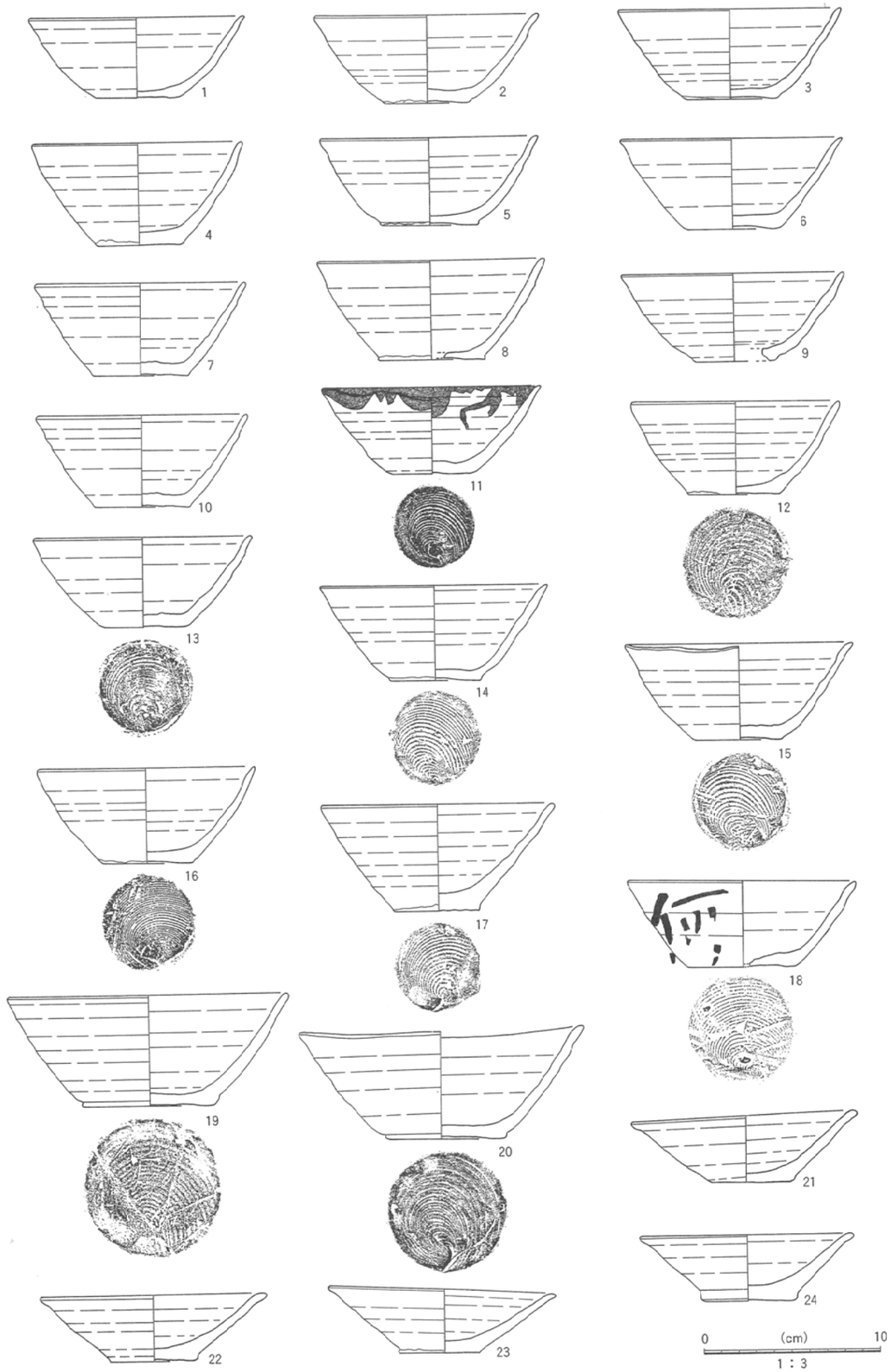

第29図　遺物実測図(1)







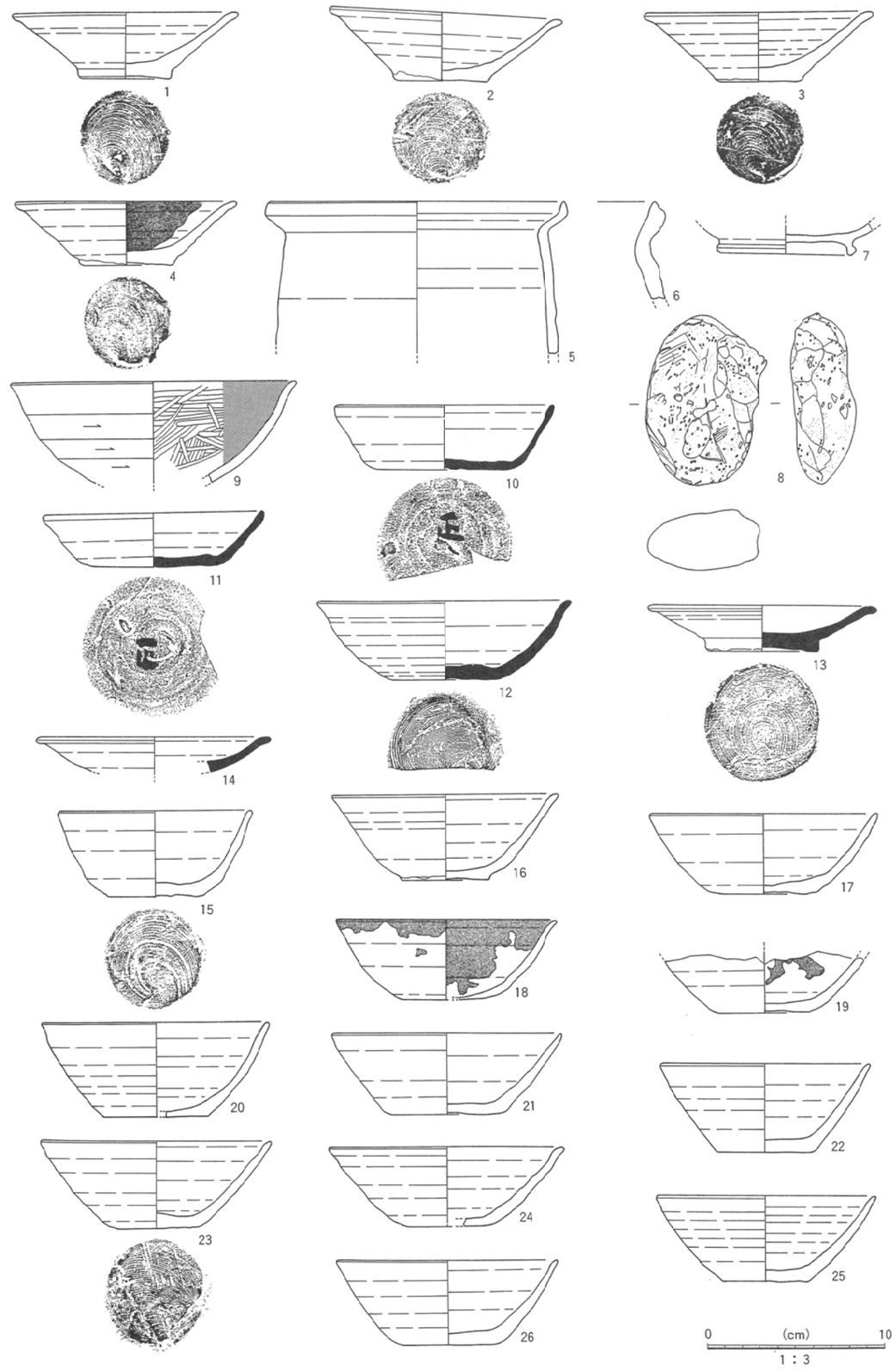

第30図　遺物実測図(2)



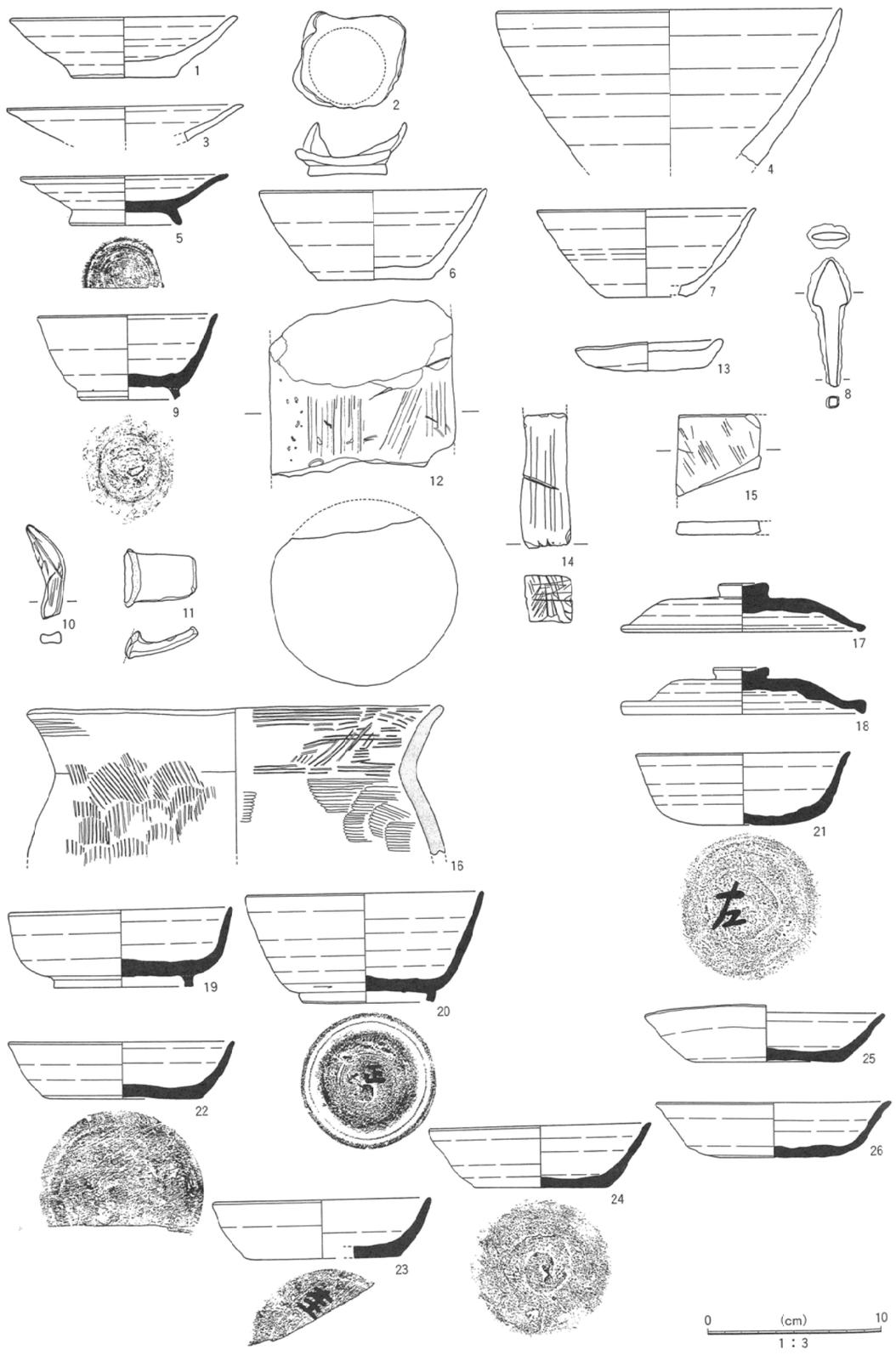

第31図　遺物実測図(3)







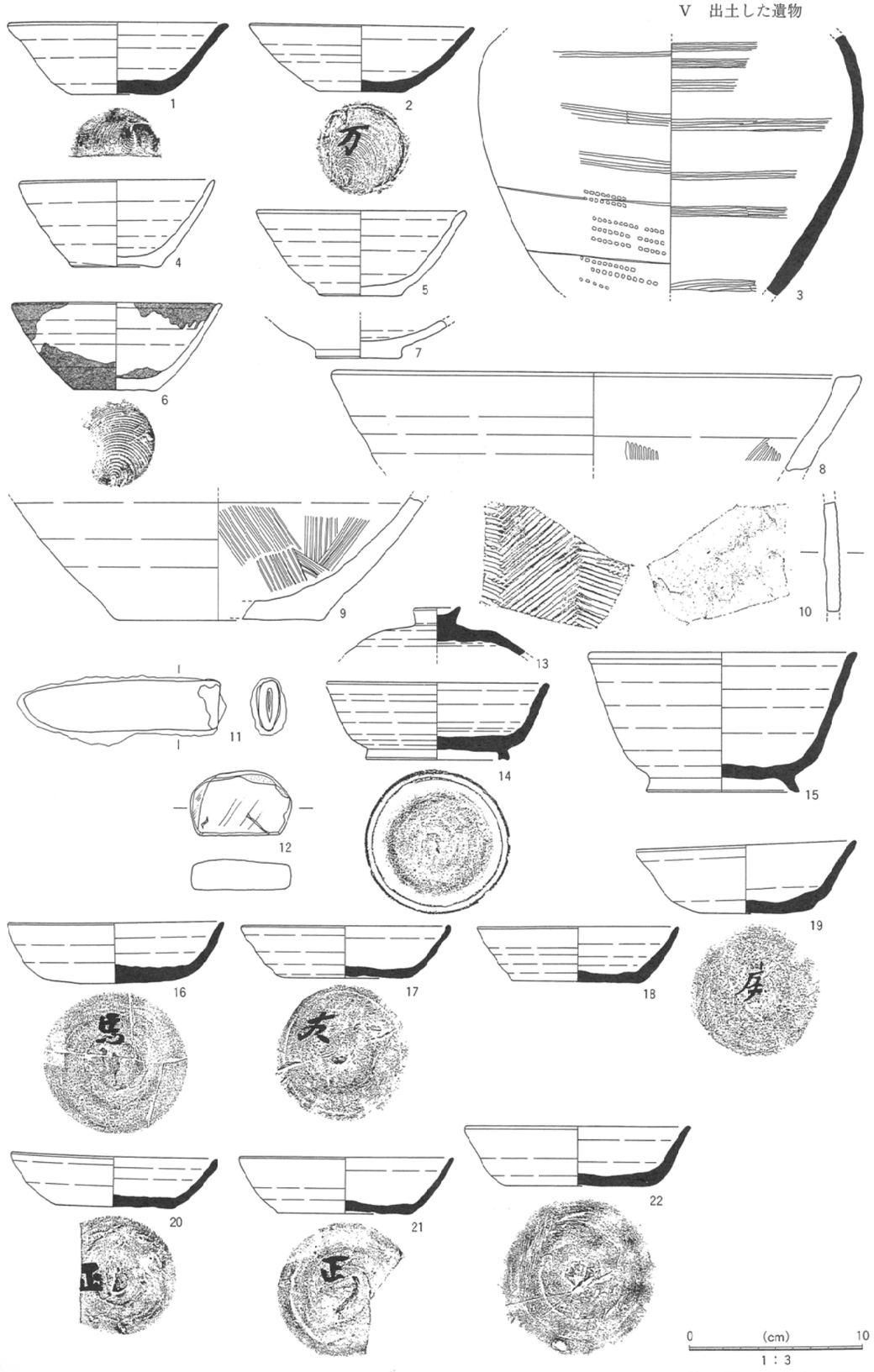

第32図　遺物実測図(4)



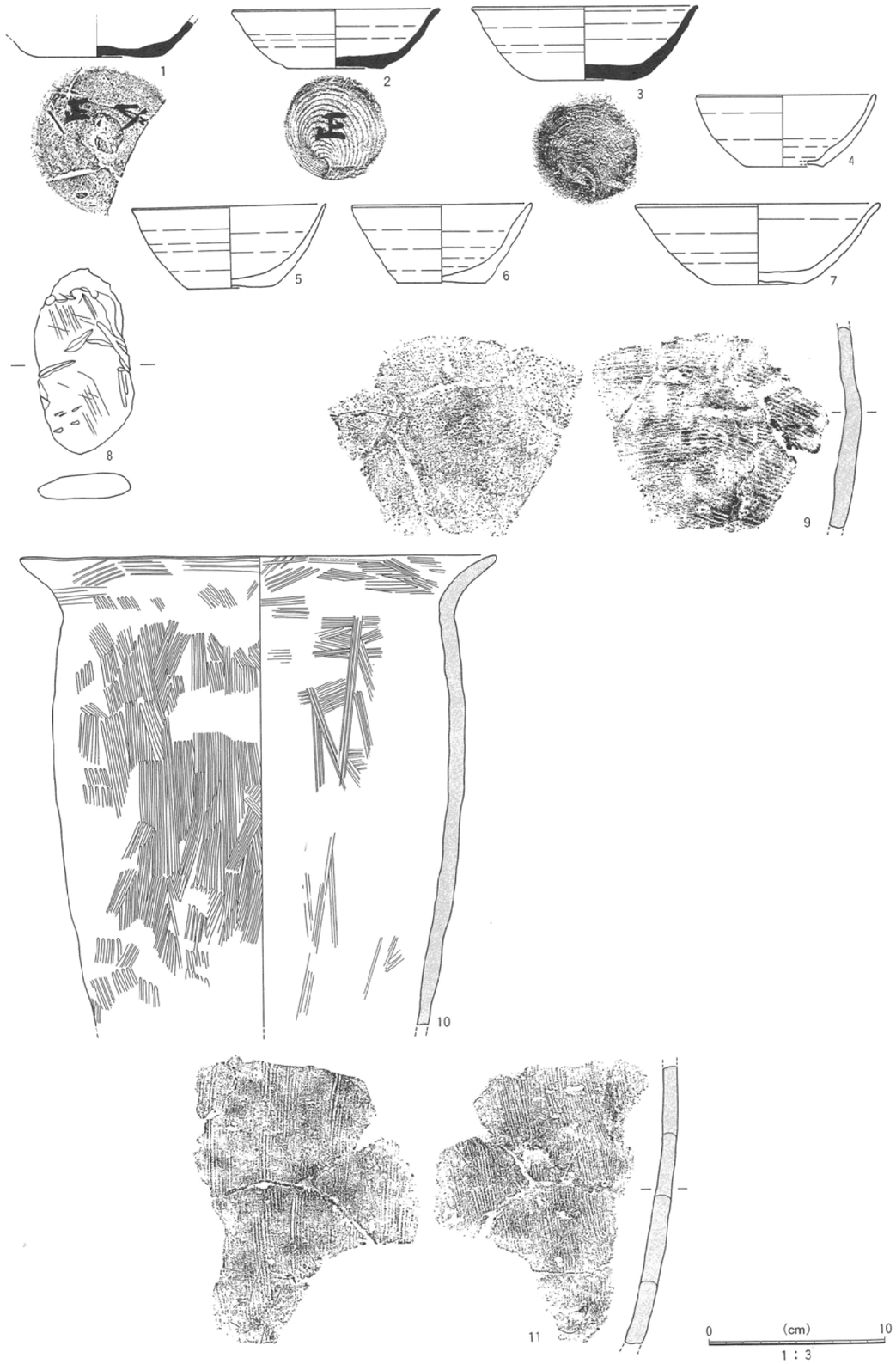

第33図　遺物実測図(5)







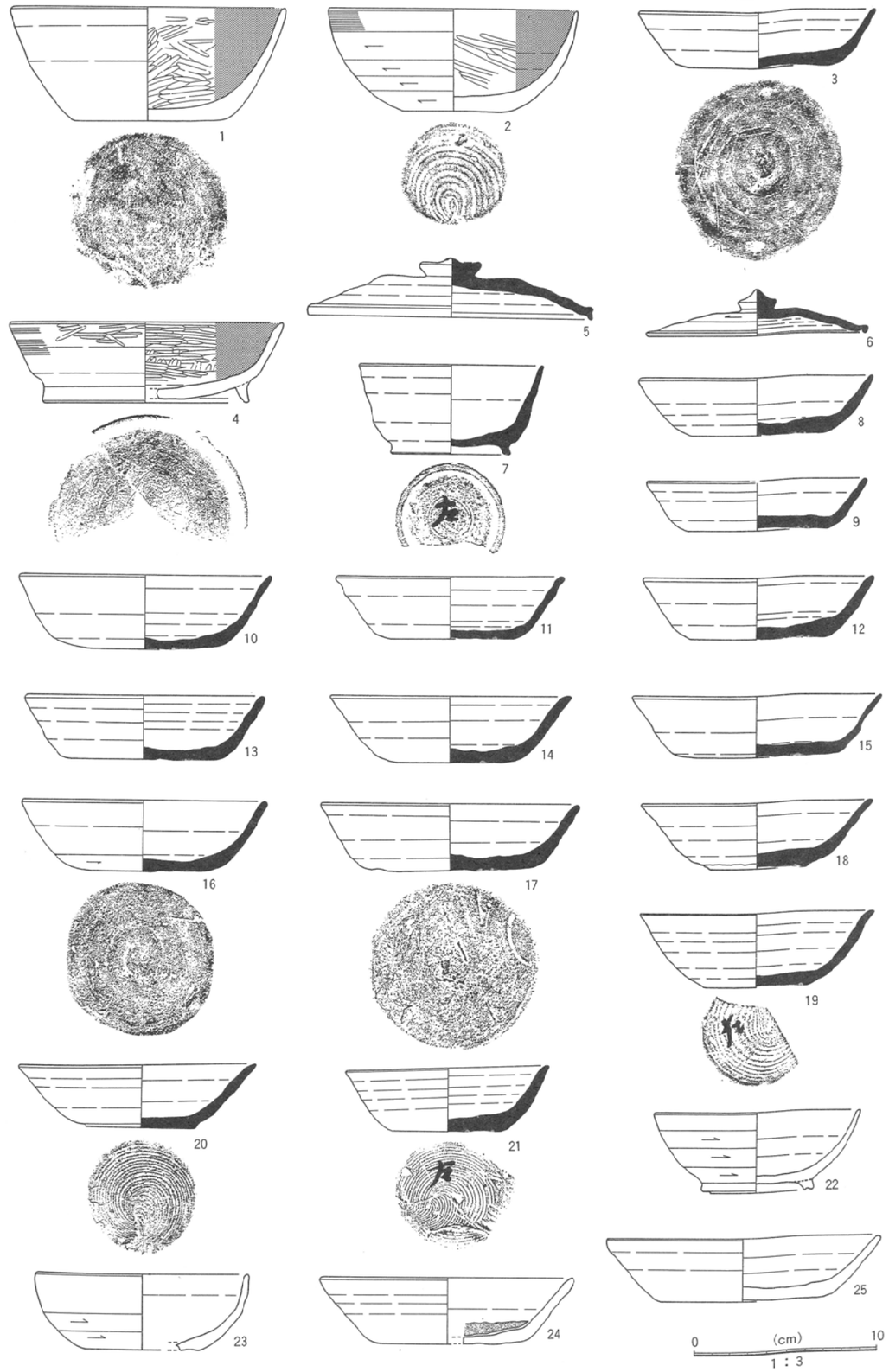

第34図　遺物実測図(6)



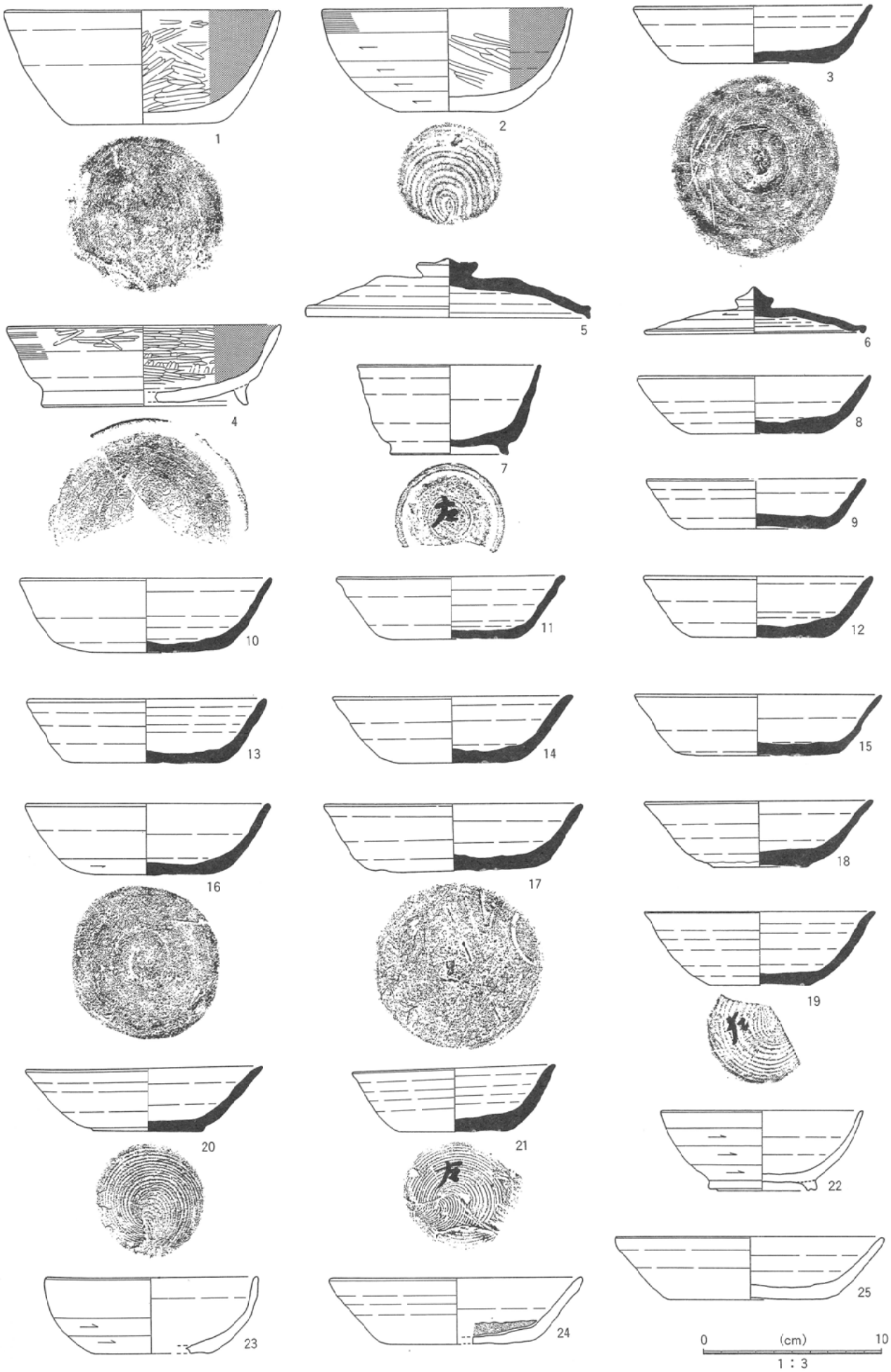

第35図　遺物実測図(7)



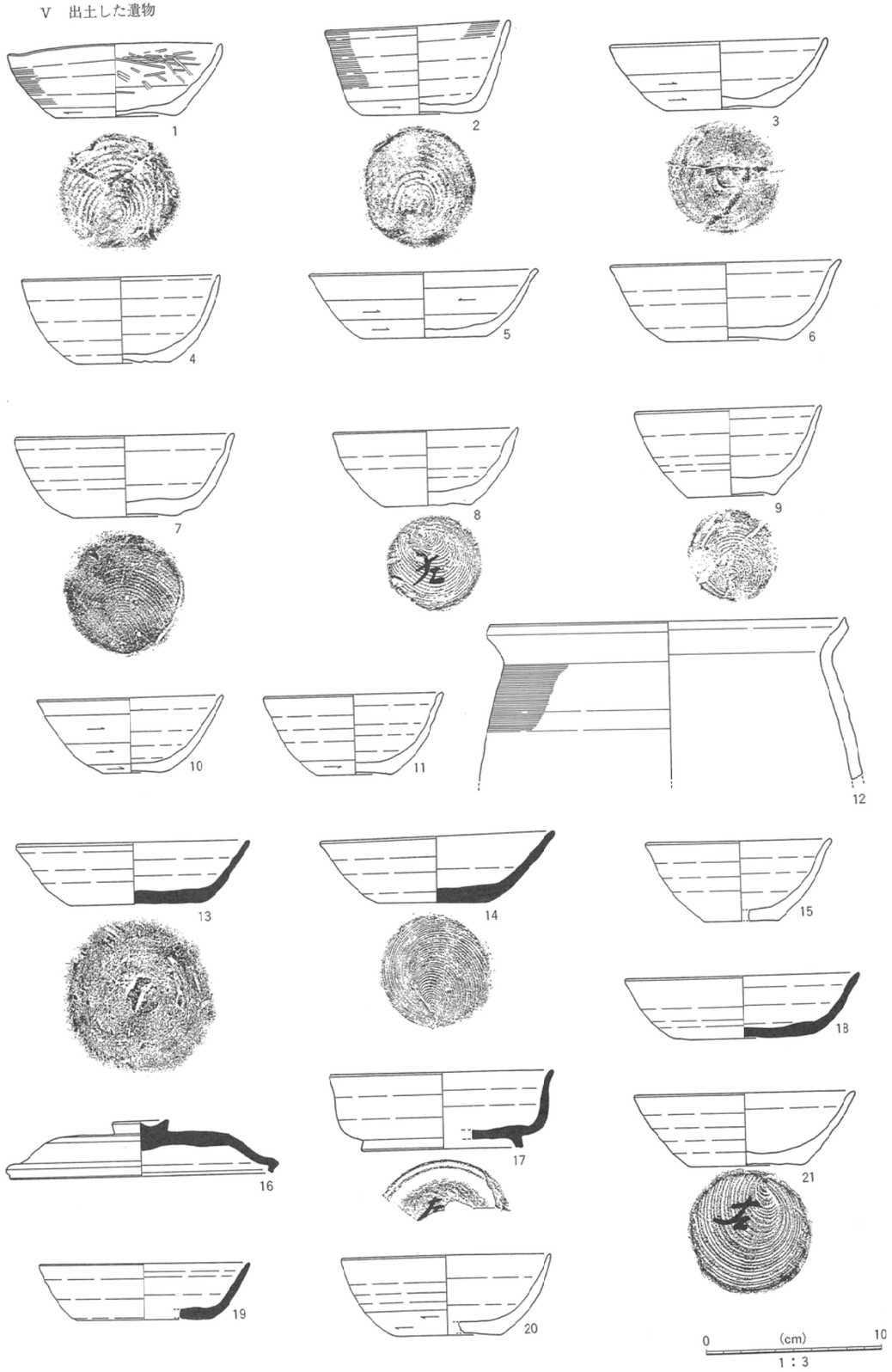





第36図　遺物実測図(8)



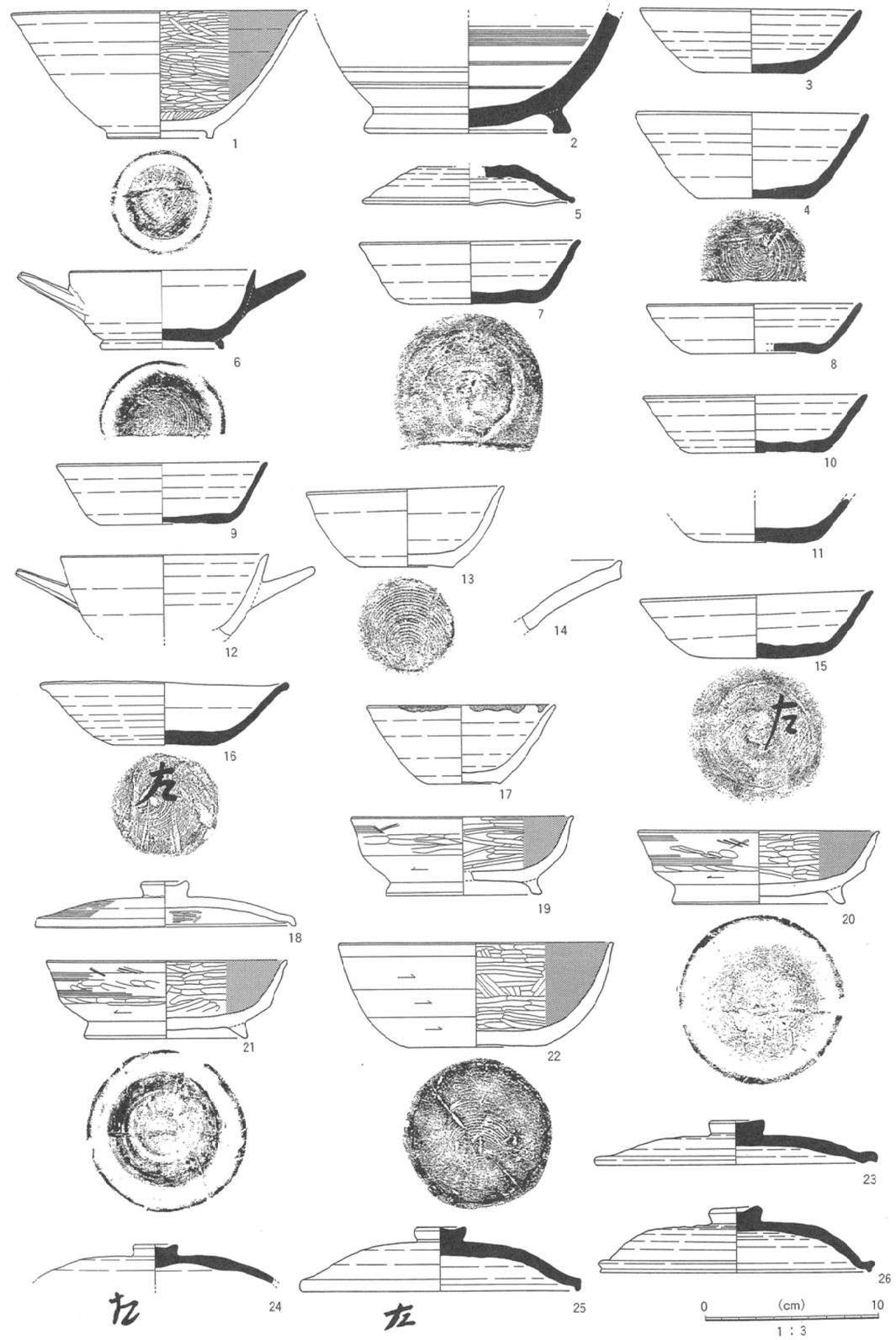

第36図　遺物実測図(8)



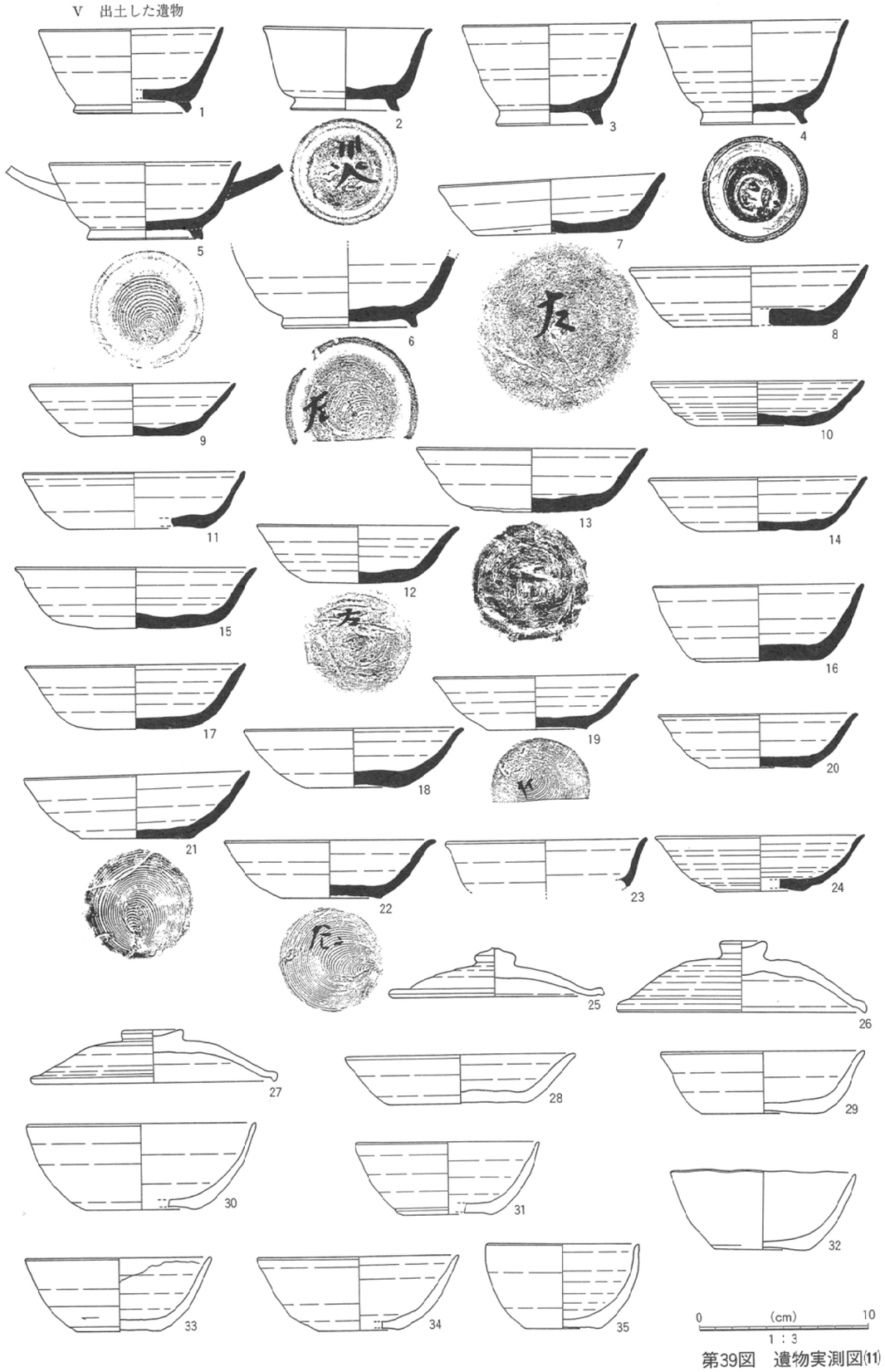

第37図　遺物実測図(9)







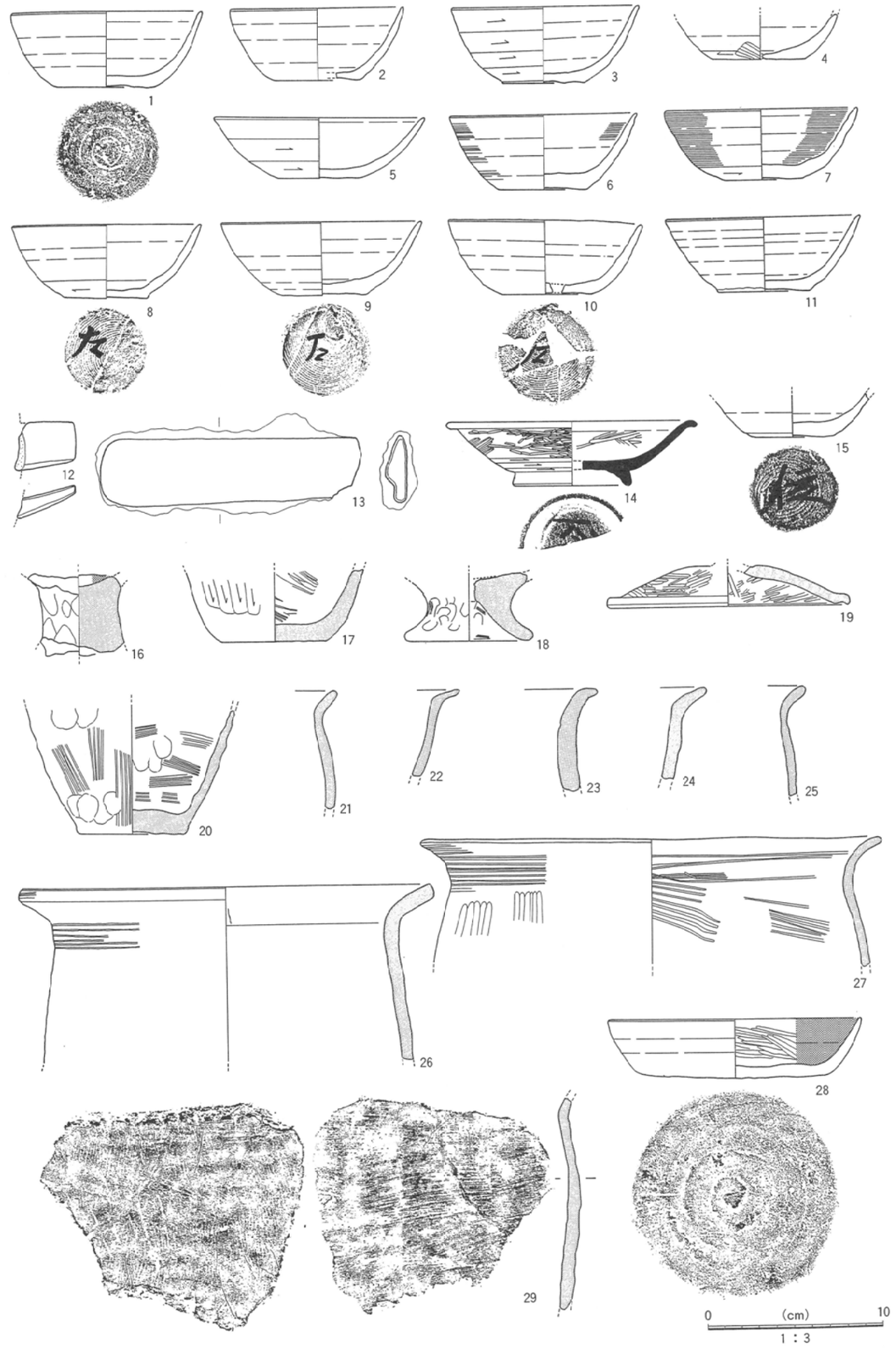

第38図　遺物実測図(10)



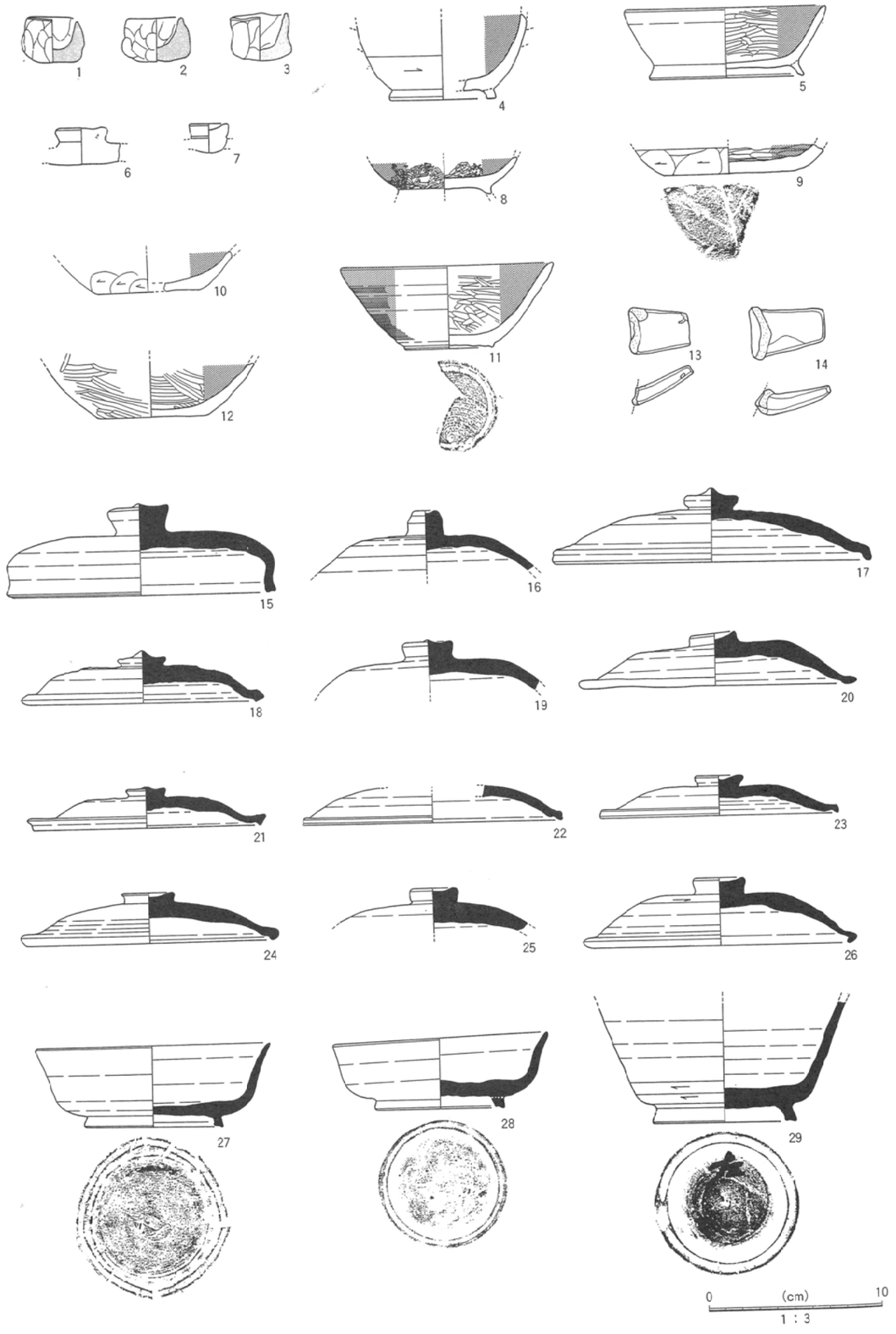

第39図　遺物実測図(11)







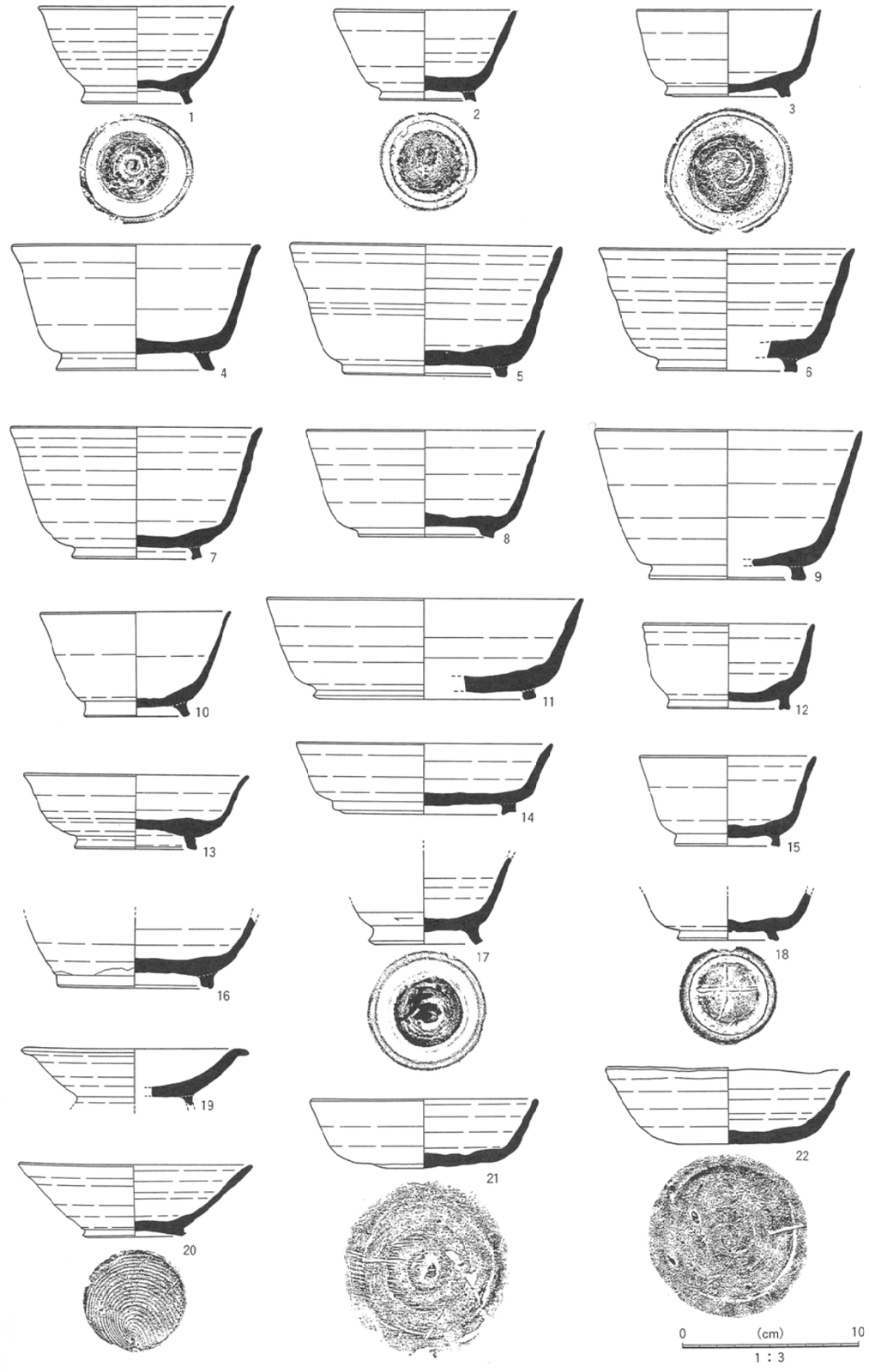

第40図　遺物実測図(12)



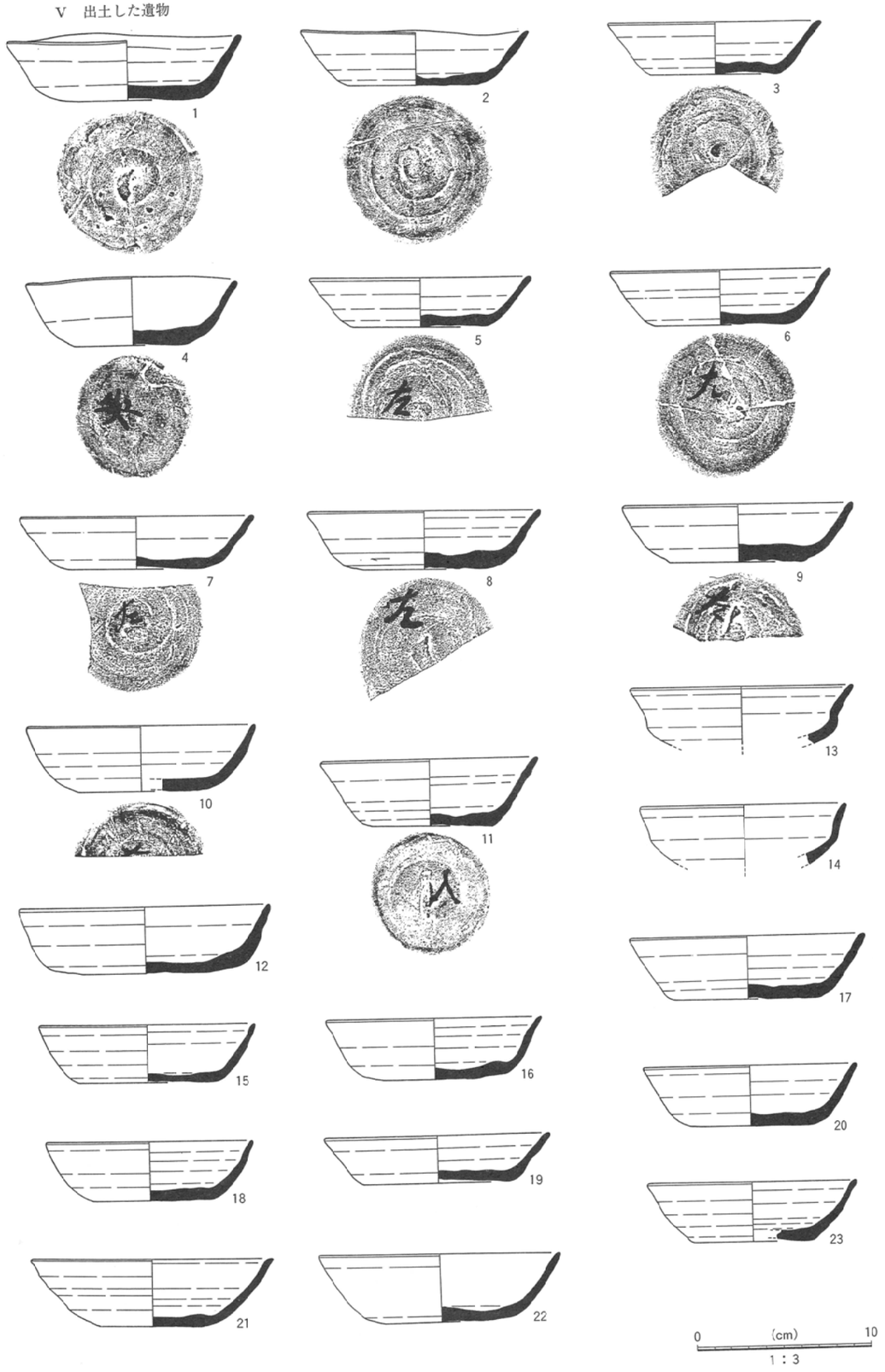

第41図　遺物実測図(13)







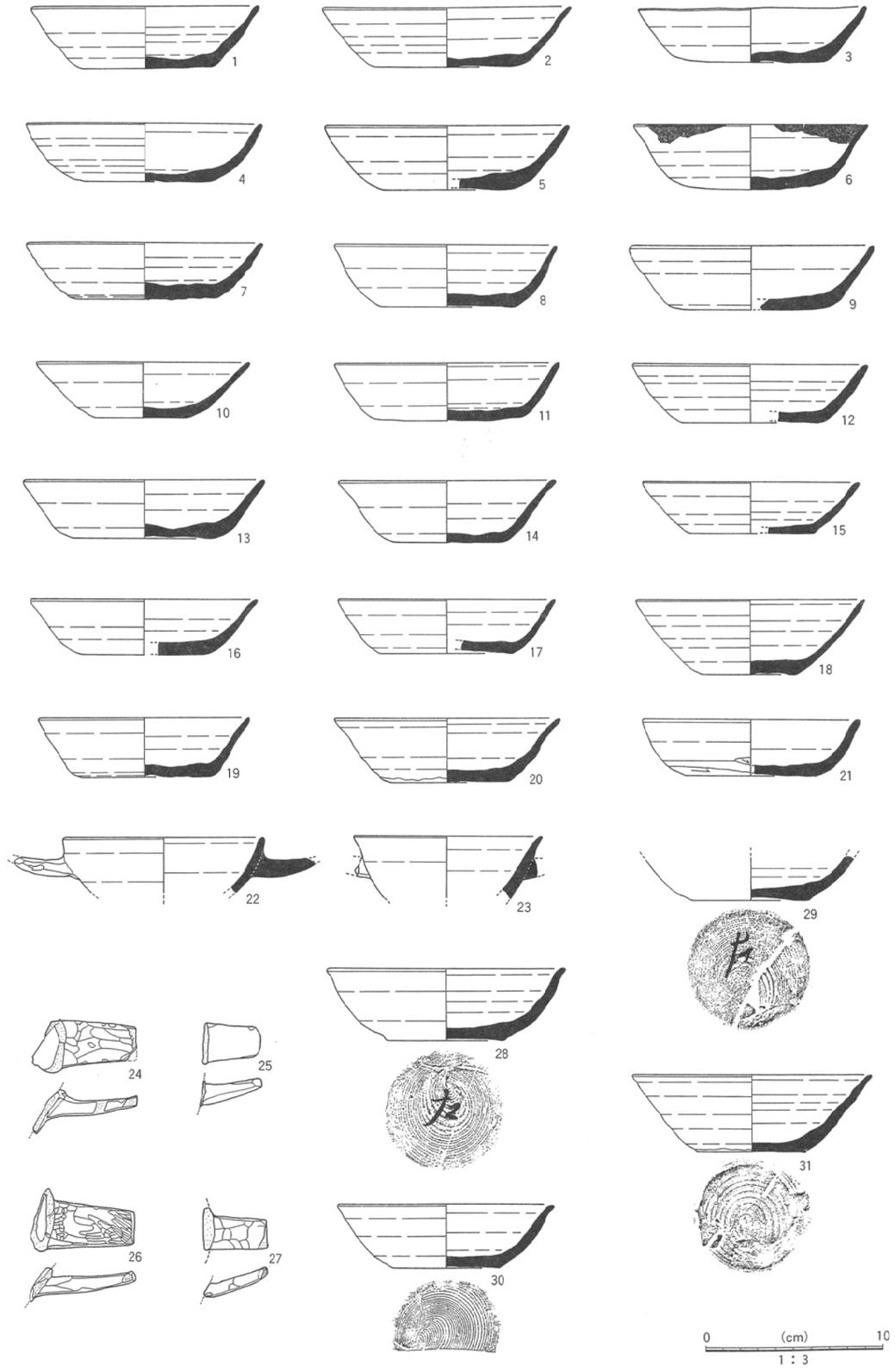

第42図　遺物実測図(14)



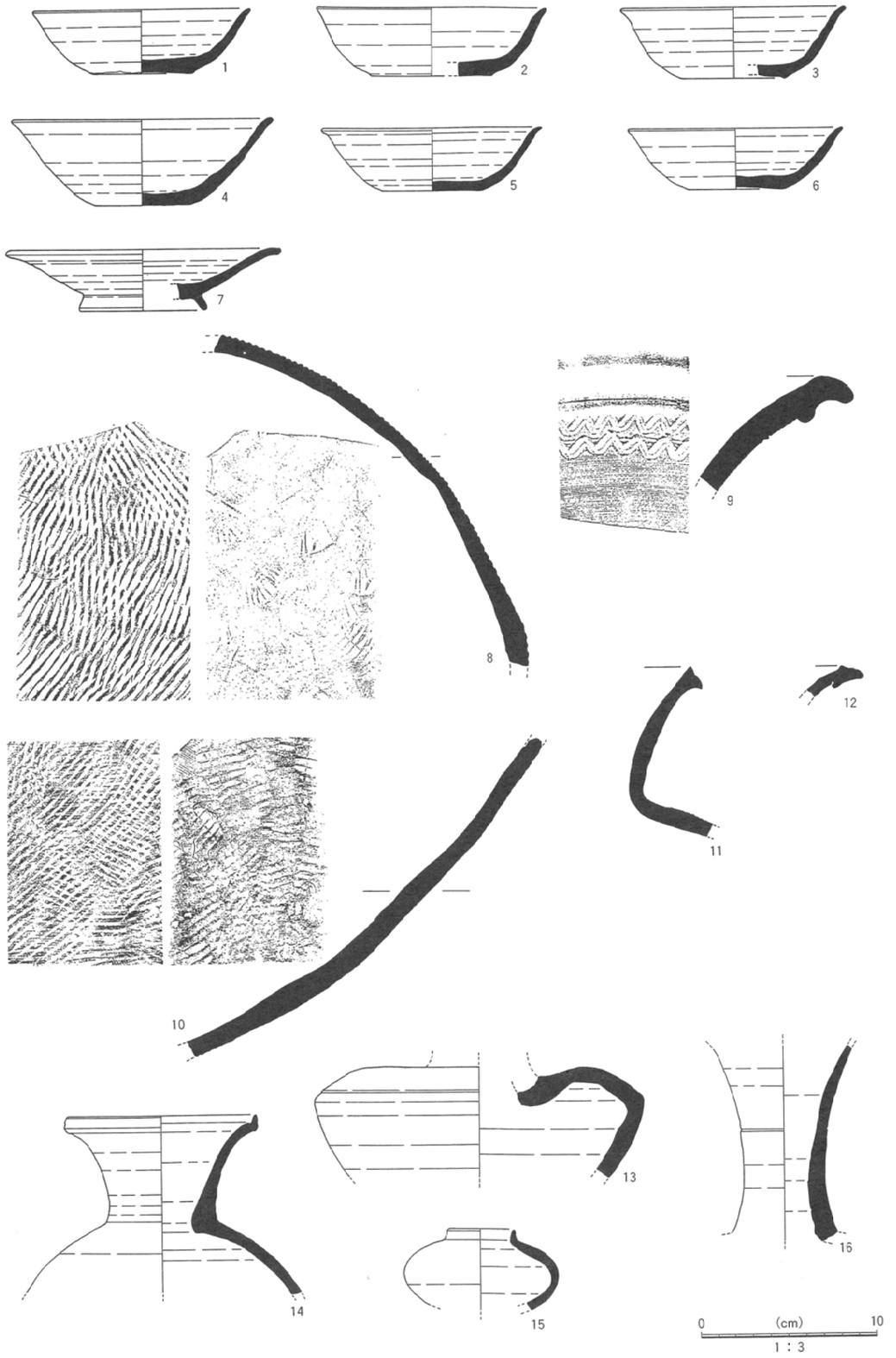

第43図　遺物実測図(15)







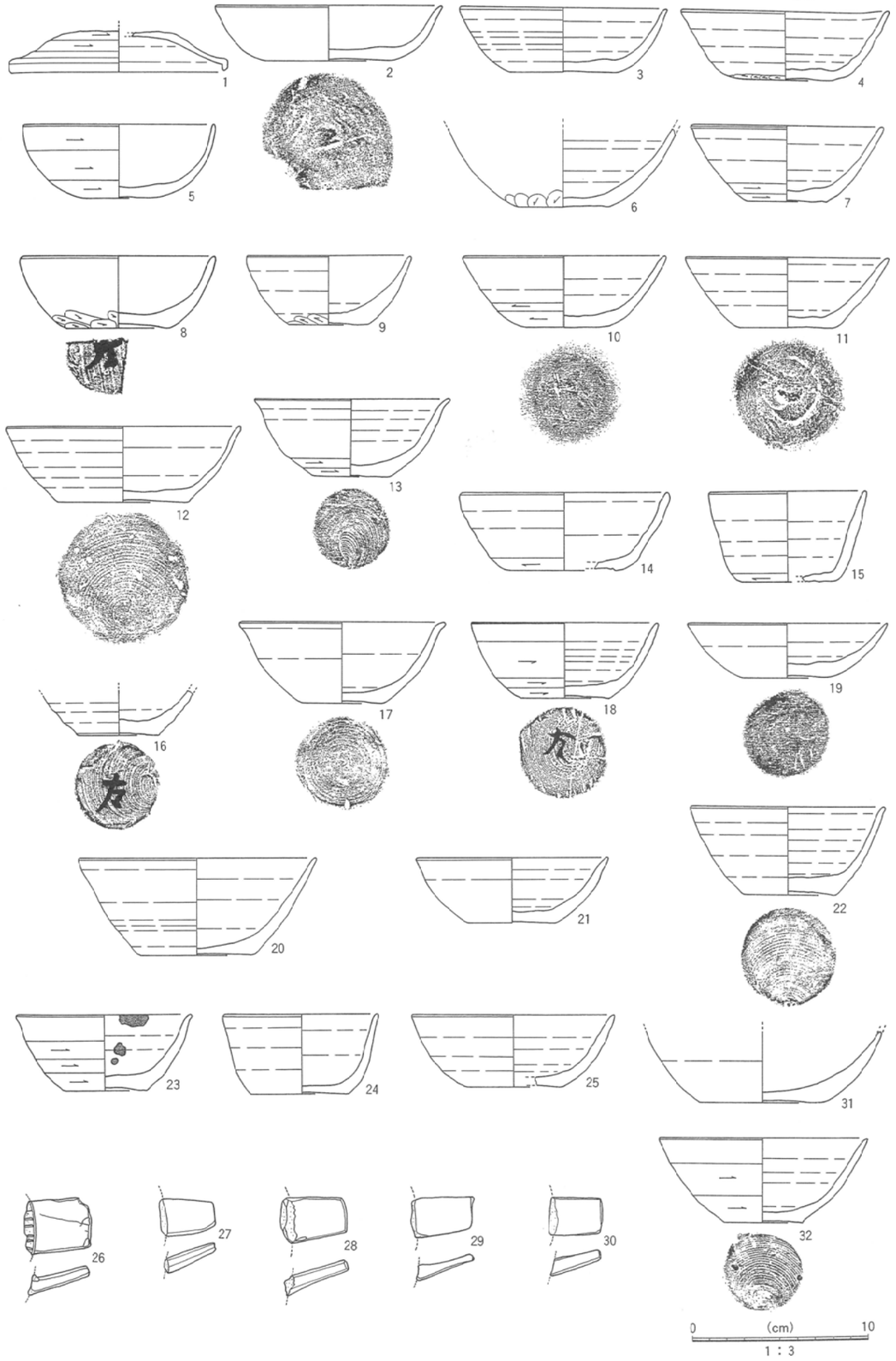

第44図　遺物実測図(16)



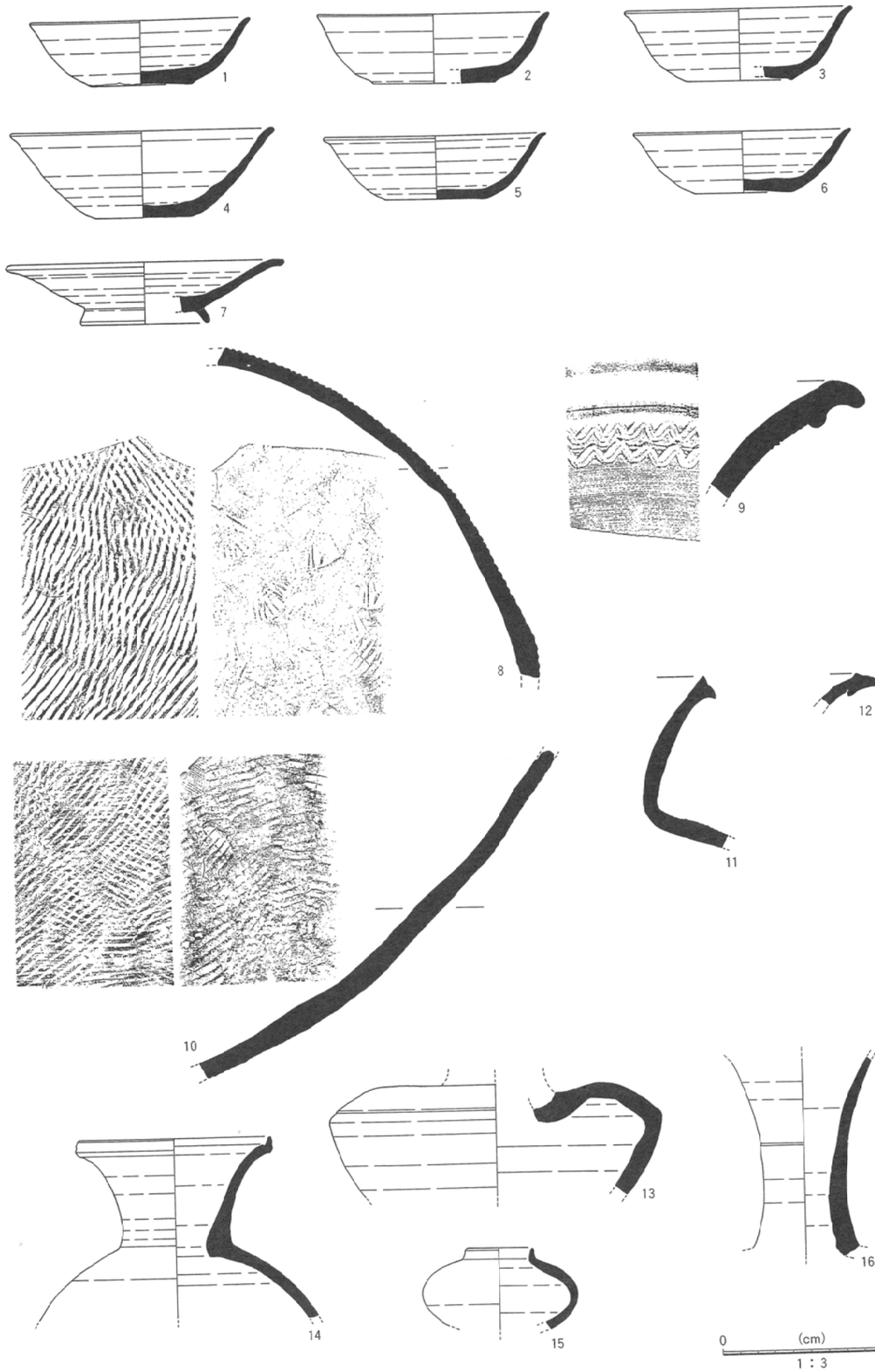

第45図　遺物実測図(17)







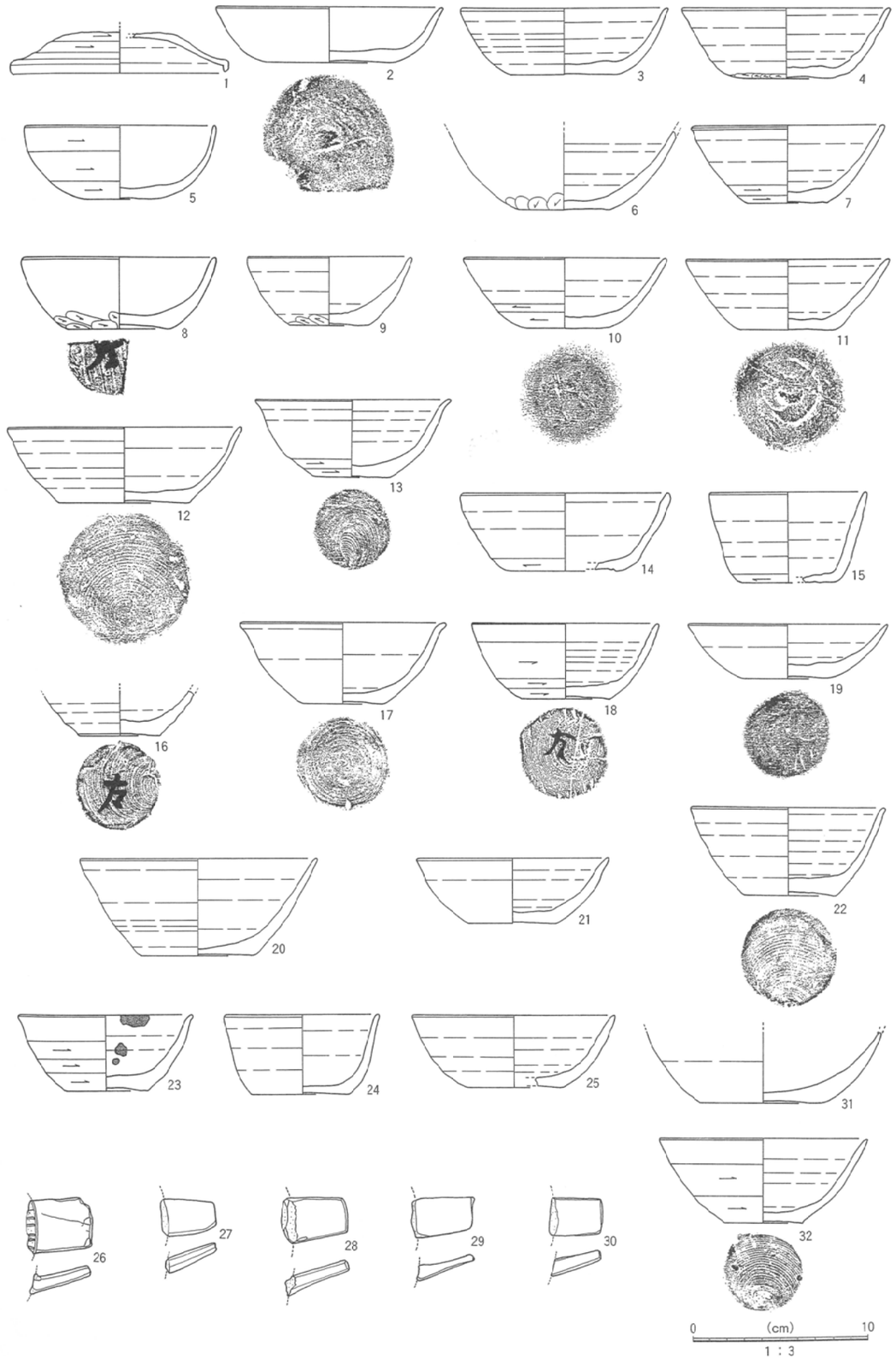

第46図　遺物実測図(18)



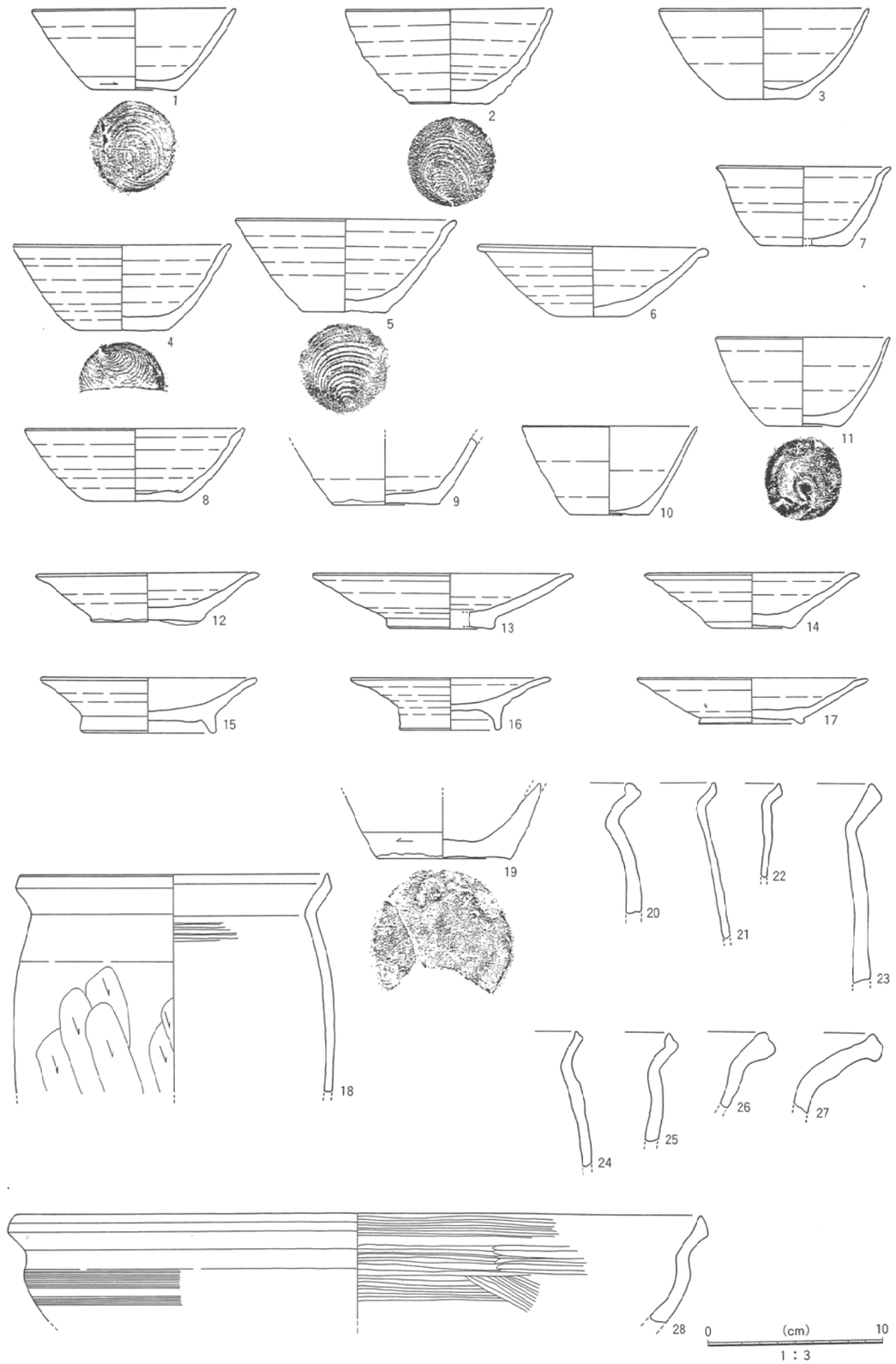

第45図　遺物実測図(17)







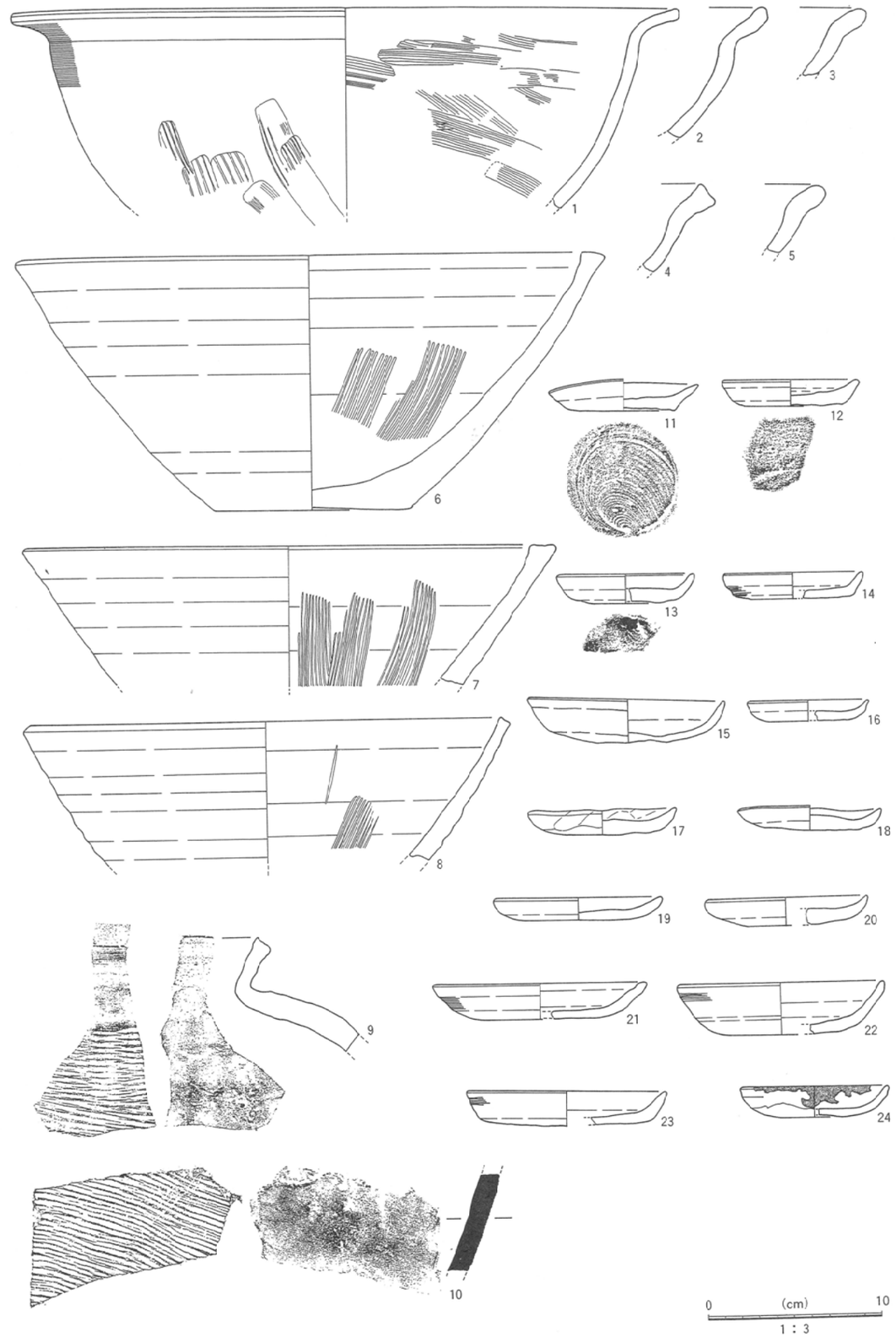

第46図　遺物実測図(18)



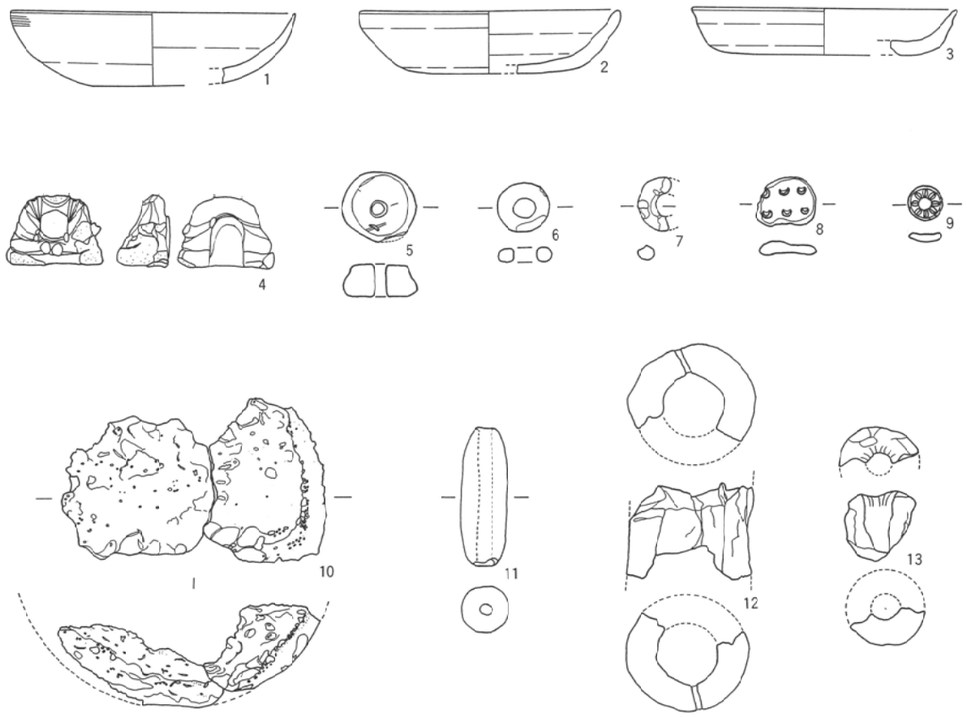

第47図　遺物実測図(19)

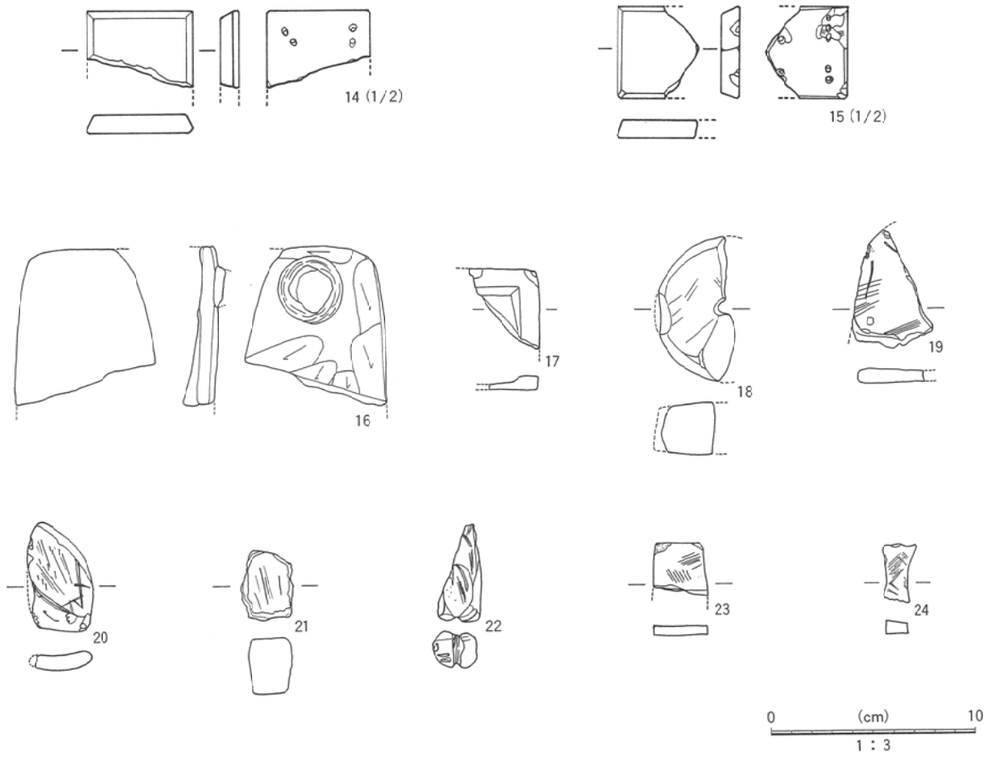







第48図　遺物実測図(20)

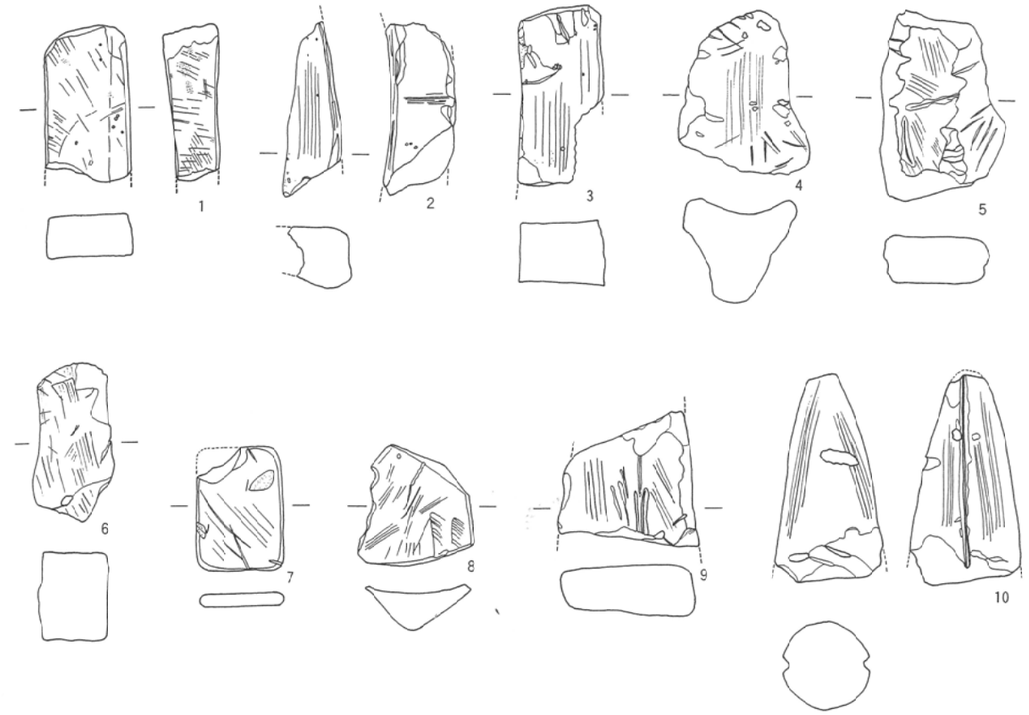


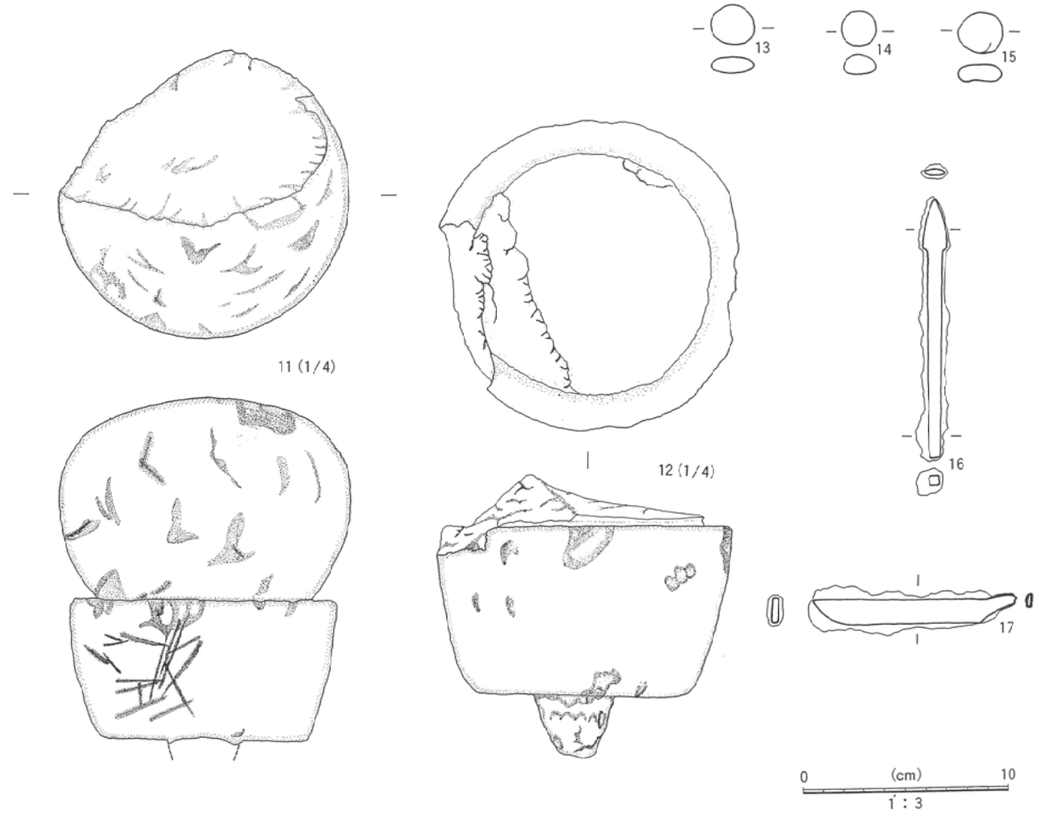




第49図　遺物実測図(21)

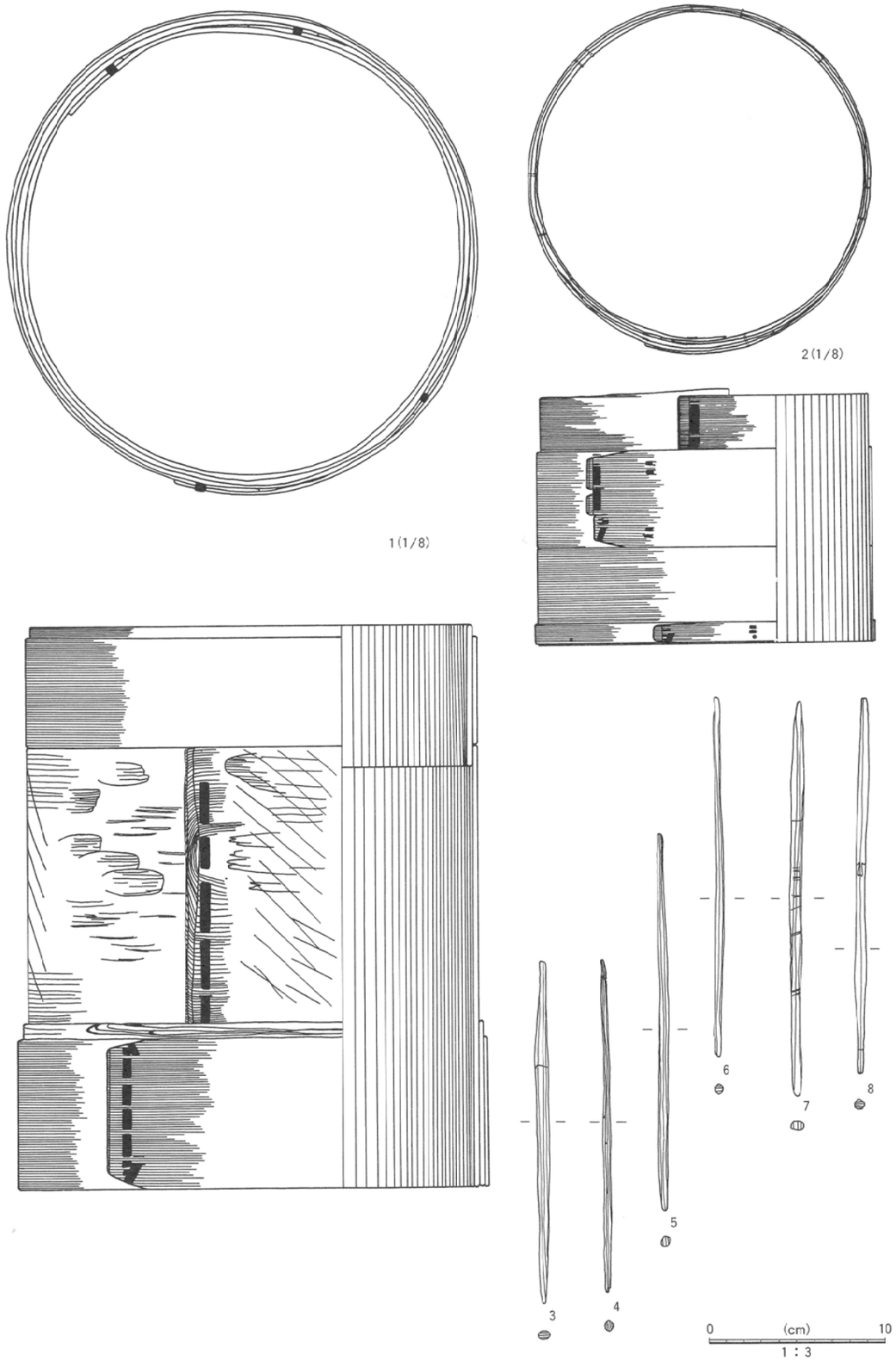







第50図　遺物実測図(22)




第51図　遺物実測図(23)







図中下段数字は挿図番号を表す

第52図　墨書集成(1)

第53図　墨書集成(2)



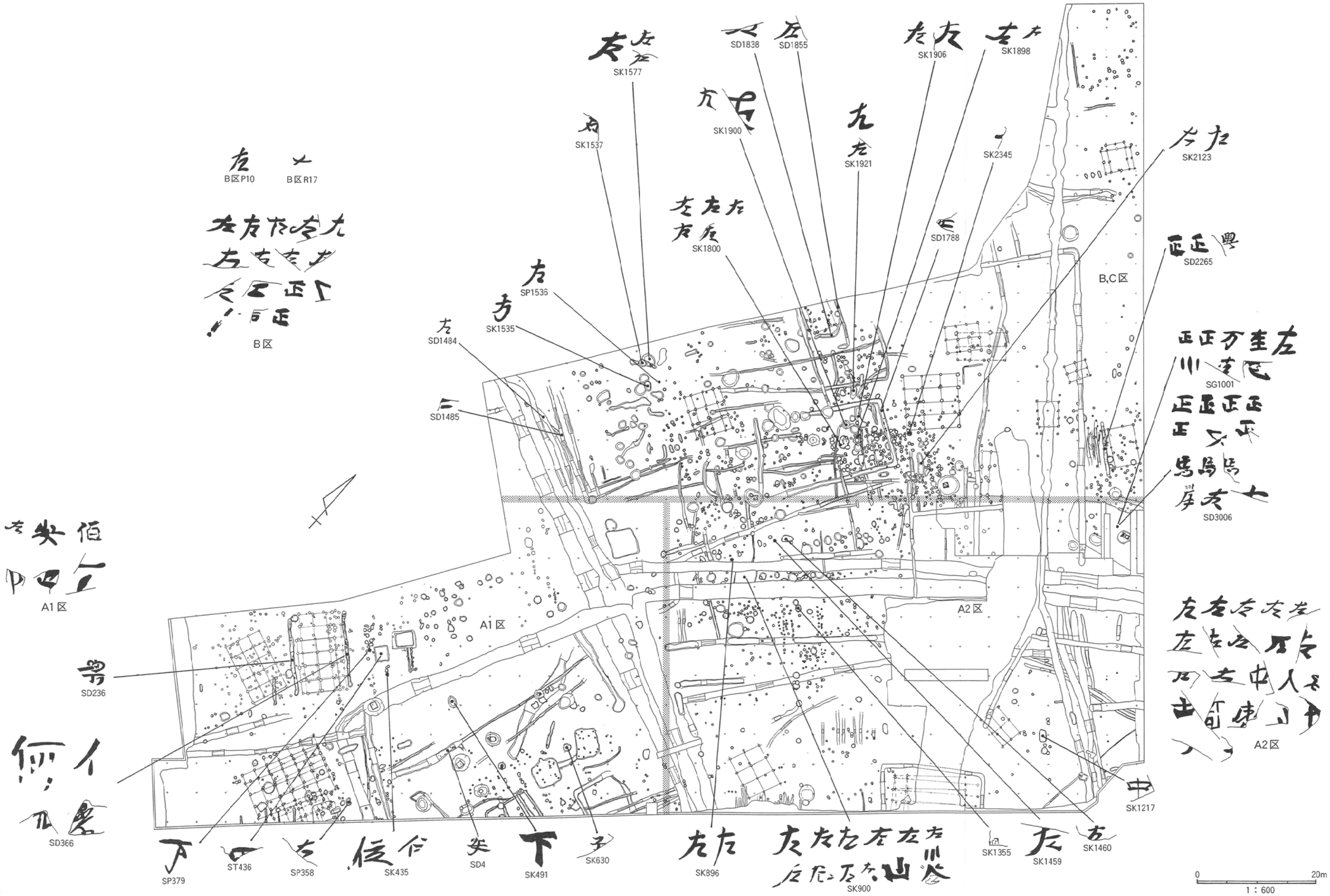


表－4　墨書土器集成(1)

| 墨書No. | 挿図No. | 出土地点 | 墨書 | 種別 | 器種 | 底部切離 | 高台 | 墨書位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | SD　4 | 安 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 2 | 30-8 | SD　236 | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 体部 | RP82 |
| 3 | 31-18 | SD　366 | 何 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 体部 | RP138 |
| 4 | | SD　366 | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 5 | | SD　366 | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 6 | 30-14 | SD　366 | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP251 |
| 7 | | SP　358 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 8 | | SP　379 | 万 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP60 |
| 9 | 40-15 | SK　435 | 位 | 内黒土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP10 |
| 10 | 40-14 | SK　435 | 位 | 須恵器 | 皿 | 回転糸 | 有り | 底部 | RP58 |
| 11 | | ST　436 | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 12 | | SK　491 | 下 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP67 |
| 13 | | SK　630 | 子 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 14 | | A1-XO | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 15 | | A1-XO | 佰 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 16 | | A1-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 17 | 43-4 | A1-XO | 安 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP16 |
| 18 | | A1-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | |
| 19 | | A1-XO | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 20 | 38-16 | SK　896 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP284 |
| 21 | 38-15 | SK　896 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP285 |
| 22 | 40-8 | SK　900 | 左 | 酸化焔土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP337　RP360と接合 |
| 23 | 40-10 | SK　900 | 左 | 酸化焔土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP364　RP332と接合 |
| 24 | 40-9 | SK　900 | 左 | 酸化焔土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP203　RP236と接合 |
| 25 | 38-25 | SK　900 | 左 | 須恵器 | 蓋 | | | 内部 | RP352 |
| 26 | 39-12 | SK　900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP357 |
| 27 | 39-6 | SK　900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 有り | 底部 | RP366 |
| 28 | 39-22 | SK　900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP356 |
| 29 | 38-24 | SK　900 | 左 | 須恵器 | 蓋 | | | 内部 | |
| 30 | 39-19 | SK　900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP328 |
| 31 | 39-7 | SK　900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP233 |
| 32 | | SK　900 | 山ヵ | 須恵器 | 蓋 | | | 鈕部上面 | |
| 33 | 39-2 | SK　900 | 川倉ヵ | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | RP327　二文字 |
| 34 | | SK 1217 | 中 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 35 | | SK 1355 | 不明 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 36 | | SK 1459 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP316 |
| 37 | | SK 1460 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 38 | 43-11 | A2-I16 | 入ヵ | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 39 | | A2-XO | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 40 | 46-8 | A2-XO | 不明 | 酸化焔土器 | 坏 | 不明 | 無し | 底部 | |
| 41 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 42 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 43 | 43-7 | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP191 |
| 44 | 42-17 | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | |
| 45 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | RP177 |
| 46 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 47 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 48 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 49 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 50 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 51 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 52 | | A2-XO | 中 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 53 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 54 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 55 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 56 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 57 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 58 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 59 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 60 | 34-2 | SG 1001 | 万 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 61 | 33-21 | SG 1001 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 62 | 33-20 | SG 1001 | 正 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | |
| 63 | | SG 1001 | 正 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |

## 表－4　墨書土器集成(1)

| 墨書No. | 挿図No. | 出土地点 | 墨書 | 種別 | 器種 | 底部切離 | 高台 | 墨書位置 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | SD 4 | 安 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 2 | 30-8 | SD 236 | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 体部 | RP82 |
| 3 | 31-18 | SD 366 | 何 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 体部 | RP138 |
| 4 | | SD 366 | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 5 | | SD 366 | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 6 | 30-14 | SD 366 | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP251 |
| 7 | | SP 358 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 8 | | SP 379 | 万 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP60 |
| 9 | 40-15 | SK 435 | 位 | 内黒土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP10 |
| 10 | 40-14 | SK 435 | 位 | 須恵器 | 皿 | 回転糸 | 有り | 底部 | RP58 |
| 11 | | ST 436 | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 12 | | SK 491 | 下 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP67 |
| 13 | | SK 630 | 子 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 14 | | A1-XO | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 15 | | A1-XO | 佰 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 16 | | A1-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 17 | 43-4 | A1-XO | 安 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP16 |
| 18 | | A1-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | |
| 19 | | A1-XO | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 20 | 38-16 | SK 896 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP284 |
| 21 | 38-15 | SK 896 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP285 |
| 22 | 40-8 | SK 900 | 左 | 酸化焔土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP337　RP360と接合 |
| 23 | 40-10 | SK 900 | 左 | 酸化焔土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP364　RP332と接合 |
| 24 | 40-9 | SK 900 | 左 | 酸化焔土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP203　RP236と接合 |
| 25 | 38-25 | SK 900 | 左 | 須恵器 | 蓋 | | | 内部 | RP352 |
| 26 | 39-12 | SK 900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP357 |
| 27 | 39-6 | SK 900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 有り | 底部 | RP366 |
| 28 | 39-22 | SK 900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP356 |
| 29 | 38-24 | SK 900 | 左 | 須恵器 | 蓋 | | | 内部 | |
| 30 | 39-19 | SK 900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP328 |
| 31 | 39-7 | SK 900 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP233 |
| 32 | | SK 900 | 山カ | 須恵器 | 蓋 | | | 鈕部上面 | |
| 33 | 39-2 | SK 900 | 川倉カ | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | RP327　二文字 |
| 34 | | SK 1217 | 中 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 35 | | SK 1355 | 不明 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 36 | | SK 1459 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | RP316 |
| 37 | | SK 1460 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 38 | 43-11 | A2-I16 | 入カ | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 39 | | A2-XO | 不明 | 赤焼土器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 40 | 46-8 | A2-XO | 不明 | 酸化焔土器 | 坏 | 不明 | 無し | 底部 | |
| 41 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 42 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 43 | 43-7 | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | RP191 |
| 44 | 42-17 | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | |
| 45 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | RP177 |
| 46 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 47 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 48 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 49 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 50 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 51 | | A2-XO | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 52 | | A2-XO | 中 | 須恵器 | 坏 | 不明 | 不明 | 体部 | |
| 53 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 54 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 55 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 56 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 57 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 58 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 59 | | A2-XO | 不明 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 60 | 34-2 | SG 1001 | 万 | 須恵器 | 坏 | 回転糸 | 無し | 底部 | |
| 61 | 33-21 | SG 1001 | 左 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |
| 62 | 33-20 | SG 1001 | 正 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 有り | 底部 | |
| 63 | | SG 1001 | 正 | 須恵器 | 坏 | 回転ヘラ | 無し | 底部 | |




第54図　墨書土器出土分布図

## 表－6　出土遺物観察表(1)

| 挿図No | | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図 | 1 | 須恵器 | 高台坏 | 150 | 88 | 39 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＴ　8 | |
| | 2 | | 甕 | | | | 7 | | | | ＳＴ　8 | |
| | 3 | | 高台付埦 | | 72 | 21 | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＴ　9 | |
| | 4 | | 甕 | | | | 18 | タタキ | アテ痕 | | ＳＴ　9 | |
| | 5 | 赤焼土器 | 甕 | | | | 4.5 | ロクロ・カキ目 | ロクロ・カキ目 | | ＳＴ　9 | |
| | 6 | | 甕 | | | | 6.5 | ロクロ・カキ目 | ロクロ・カキ目 | | ＳＴ　9 | |
| | 7 | | 甕 | | | | 4 | | | | ＳＴ　9 | |
| | 8 | 須恵器 | 高台付埦 | | 78 | | 2.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＴ 436 | ＲＰ63 |
| | 9 | かわらけ | 皿 | 120 | 80 | 30 | 7 | ナデ | ナデ | | ＳＥ 489 | |
| | 10 | 須恵器 | 蓋 | | | | 5.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | | ＳＥ 590 | |
| | 11 | 土製品 | 土錘 | 長60 | 幅32 | 厚28 | | | | | ＳＥ 590 | |
| | 12 | 須恵器 | 甕 | | | | 12.5 | ロクロ・タタキ | アテ痕 | | ＳＥ 733 | |
| | 13 | | 横瓶 | | | | 7.5 | ロクロ・タタキ | ロクロ・アテ痕 | | ＳＥ 733 | |
| | 14 | | 横瓶 | | | | 8 | タタキ・ケズリ | アテ痕 | | ＳＫ 308 | ＳＥ733の出土破片と接合、ＲＰ71 |
| | 15 | 赤焼土器 | 鍋 | 320 | | | 7 | | | | ＳＥ 733 | |
| | 16 | かわらけ | 皿 | 114 | 60 | 19 | 5 | ナデ・ロクロ | ナデ | | ＳＥ 733 | |
| | 17 | | 皿 | 120 | 56 | 24 | 5.5 | ナデ | ナデ | | ＳＥ 733 | |
| | 18 | | 皿 | 120 | | 30 | 6 | ナデ | ナデ | | ＳＥ 733 | |
| | 19 | | 甕 | | | | 8 | タタキ | アテ痕 | | ＳＥ1435 | ＳＥ1481の出土破片と接合、 |
| 第30図 | 1 | 須恵器 | 坏 | | 70 | | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＤ 236 | ＲＰ80 |
| | 2 | | 坏 | | 60 | | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 236 | ＲＰ76 |
| | 3 | 赤焼土器 | 坏 | 120 | 50 | 45 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 236 | ＲＰ85 |
| | 4 | | 坏 | 126 | 50 | 48 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 236 | ＲＰ86、内外面油煙 |
| | 5 | | 皿 | 128 | 46 | 34 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 236 | ＲＰ87 |
| | 6 | | 皿 | 124 | 52 | 36 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 236 | ＲＰ83 |
| | 7 | | 皿 | 134 | 50 | 35 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 236 | 内面油煙 |
| | 8 | | 皿 | 125 | 52 | 315 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 236 | ＲＰ82、墨書No.２、切離痕整形 |
| | 9 | | 甕 | 180 | | | 7 | ロクロ | ロクロ | | ＳＤ 236 | ＲＰ72 |
| | 10 | 土製品 | 坩堝 | | | | | | | | ＳＤ 236 | スサ入り痕跡 |
| | 11 | | 坩堝 | | | | | | | | ＳＤ 236 | |
| | 12 | 土師器 | 高台坏 | | 68 | | 7 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ127、体部外面下部回転ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、内面黒色処理 |
| | 13 | 須恵器 | 坏 | 131 | 60 | 40 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＤ 366 | ＲＰ162 |
| | 14 | | 坏 | 114 | 75 | 33 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＤ 366 | ＲＰ251、墨書No.６、底部回転ヘラケズリ、切離痕整形 |
| | 15 | | 坏 | 130 | 52 | 52 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ114 |
| | 16 | | 甕 | | | | 12 | タタキ・ケズリ | アテ痕 | | ＳＤ 366 | ＲＰ95 |
| | 17 | | 甕 | | | | 5.5 | タタキ | アテ痕 | | ＳＤ 366 | ＲＰ123 |
| | 18 | | 甕 | | | | 10.5 | タタキ | アテ痕 | | ＳＤ 366 | ＲＰ91 |
| | 19 | | 横瓶 | | | | 8 | タタキ | アテ痕 | | ＳＤ 366 | ＲＰ128 |
| | 20 | | 壺 | | 100 | 84 | 9.5 | ロクロ | ロクロ・ハケ目 | | ＳＤ 366 | ＲＰ250、外面ケズリ |
| | 21 | 赤焼土器 | 坏 | 100 | 60 | 39 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | |
| | 22 | | 坏 | 125 | 50 | 52.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | |
| | 23 | | 坏 | 130 | 47 | 49 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ126、内面油煙 |
| | 24 | | 坏 | 168 | 76 | 59 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ247・ＲＰ249と接合、内外面に油煙 |
| | 25 | | 坏 | 130 | 52 | 52 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ131、内外面油煙 |
| | 26 | | 坏 | 130 | 54 | 55 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ107、外面油煙 |
| | 27 | | 坏 | 132 | 66 | 51 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ92 |
| | 28 | | 坏 | 128 | 52 | 49 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ229、灯明皿、内外面に油煙 |
| 第31図 | 1 | | 坏 | 122 | 48 | 45 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ174 |
| | 2 | | 坏 | 126 | 46 | 51 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | |
| | 3 | | 坏 | 126 | 52 | 51.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ148 |
| | 4 | | 坏 | 120 | 48 | 57 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | |
| | 5 | | 坏 | 122 | 54 | 50 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ102 |
| | 6 | | 坏 | 126 | 51 | 51 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ164・ＲＰ174と接合 |
| | 7 | | 坏 | 120 | 54 | 52 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ110 |
| | 8 | | 坏 | 130 | 60 | 55 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ228 |
| | 9 | | 坏 | 125 | 45 | 50 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ98 |
| | 10 | | 坏 | 116 | 48 | 47 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | |
| | 11 | | 坏 | 125 | 45 | 49 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ246、内外面に油煙 |
| | 12 | | 坏 | 120 | 52 | 52 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | |
| | 13 | | 坏 | 124 | 48 | 51 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ166 |
| | 14 | | 坏 | 130 | 50 | 53 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ104 |
| | 15 | | 坏 | 130 | 50 | 54.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ97 |
| | 16 | | 坏 | 124 | 52 | 53 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ168 |
| | 17 | | 坏 | 132 | 48 | 60 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ102 |
| | 18 | | 坏 | 128 | 57.5 | 49.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ138、墨書No.３「何」 |
| | 19 | | 坏 | 162 | 78 | 62 | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ135・ＲＰ137と接合 |
| | 20 | | 坏 | 162 | 67 | 61.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ109・ＲＰ253・ＲＰ108と接合 |
| | 21 | | 皿 | 130 | 47 | 37 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ136 |
| | 22 | | 皿 | 127 | 50 | 37 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＤ 366 | ＲＰ130・ＲＰ168と結合 |

## 表－7　出土遺物観察表(2)

| 挿図 | No | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第31図 | 23 | 赤焼土器 | 坏 | 128 | 45 | 36 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 366 | RP124 |
| | 24 | | 皿 | 122 | 54 | 36 | 6.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 366 | RP253、疑似高台 |
| 第32図 | 1 | | 高台付皿 | 129 | 52 | 38 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 366 | RP144 |
| | 2 | | 皿 | 130 | 53 | 43 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 366 | RP105 |
| | 3 | | 皿 | 130 | 48 | 39 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 366 | RP111 |
| | 4 | | 皿 | 128 | 54 | 36 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 366 | RP142、内面油煙 |
| | 5 | | 甕 | 170 | | 80 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | | SD 366 | RP230 |
| | 6 | | 甕 | 204 | | 54 | 9 | ロクロ | ロクロ | | SD 366 | RP145 |
| | 7 | 灰釉陶器 | 高台付埦 | | 75 | 18 | 4 | ロクロ・ハケ目 | ロクロ・ハケ目 | 回転ヘラ | SD 366 | RP9、内外面釉、内面重ね焼痕跡 |
| | 8 | 石製品 | 砥石 | 長95 | 幅64 | 厚32 | | | | | SD 366 | 軽石 |
| | 9 | 土師器 | 坏 | 162 | | | 5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | | SD2265 | 内面黒色処理、体部外面下半回転ヘラケズリ |
| | 10 | 須恵器 | 坏 | 125 | 76 | 36.5 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD2265 | 墨書№108「正」、内外面重ね焼痕 |
| | 11 | | 坏 | 126 | 76 | 31 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD2265 | 墨書№107「正」 |
| | 12 | | 坏 | 144 | 62 | 44 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP432 |
| | 13 | | 高台付皿 | 130 | 65 | 26 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP439、転用硯 |
| | 14 | | 皿 | 134 | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | SD2265 | |
| | 15 | 赤焼土器 | 坏 | 111 | 54 | 48 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP428 |
| | 16 | | 坏 | 128 | 48 | 48.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | |
| | 17 | | 坏 | 128 | 61 | 45.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | |
| | 18 | | 坏 | 125 | 45 | 45 | 4 | ハケ目 | ハケ目 | 回転糸 | SD2265 | RP443、内外面油煙 |
| | 19 | | 坏 | | 50 | | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | 内面油煙 |
| | 20 | | 坏 | 135 | 60 | 53 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | 内外面底部煤 |
| | 21 | | 坏 | 130 | 65 | 45 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | |
| | 22 | | 坏 | 120 | 54 | 50 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP440 |
| | 23 | | 坏 | 130 | 56 | 49 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP436、外面底部煤 |
| | 24 | | 坏 | 134 | 56 | 44.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP431 |
| | 25 | | 坏 | 124 | 50 | 48 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP437 |
| | 26 | | 坏 | 126 | 56 | 48 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | RP434 |
| 第33図 | 1 | | 皿 | 132 | 60 | 34.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | |
| | 2 | | 耳皿 | | 46 | | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2265 | 擬似高台 |
| | 3 | | 皿 | 134 | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | SD2265 | |
| | 4 | | 鉢 | 200 | | | 9 | ロクロ | ロクロ | | SD2265 | RP436 |
| | 5 | 須恵器 | 高台付皿 | 121 | 61 | 29 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3010 | 転用硯 |
| | 6 | 赤焼土器 | 坏 | 132 | 68 | 51 | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3010 | |
| | 7 | | 坏 | 126 | 48 | 50 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3010 | |
| | 8 | 鉄製品 | 鉄鏃 | 長72 | 幅25 | 厚13 | | | | | SD3010 | |
| | 9 | 須恵器 | 高台坏 | 104 | 58 | 48.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD1788 | RP414 |
| | 10 | 石製品 | 砥石 | 長53 | 幅13 | 厚7 | | | | | SD1788 | |
| | 11 | 須恵器 | 双耳坏 | 長42 | 幅27 | 厚8 | | ケズリ | | | SD1788 | 耳のみ |
| | 12 | 石製品 | 石棒 | 長110 | 幅106 | 厚95 | | | | | SD 3 | |
| | 13 | かわらけ | 皿 | 86 | 40 | 15 | 10 | ナデ | ナデ | | SD 5 | RP256 |
| | 14 | 石製品 | 砥石 | 長79 | 幅26 | 厚27 | | | | | SD 7 | |
| | 15 | | 不明 | 長46 | 幅49 | 厚7.5 | | | | | SD 680 | |
| | 16 | 土師器 | 甕 | 240 | | | 10 | ハケ目 | ハケ目 | | SG1001 | |
| | 17 | 須恵器 | 蓋 | 140 | | 27 | 5 | ロクロ | ロクロ | | SG1001 | RP397 |
| | 18 | | 蓋 | 138 | | 29 | 7 | ロクロ | ロクロ | | SG1001 | |
| | 19 | | 高台坏 | 129 | 92 | 45 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | 付高台 |
| | 20 | | 高台坏 | 138 | 78 | 63 | 4.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | 墨書№62「正」、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 21 | | 坏 | 125 | 74 | 41 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | 墨書№61「左」 |
| | 22 | | 坏 | 130 | 90 | 34 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | 手持ちヘラケズリ（水平方向）、切離痕整形、外面重ね焼痕 |
| | 23 | | 坏 | 126 | 91 | 335 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | 墨書№66、底部手持ちヘラケズリ、切離痕跡整形、外面重ね焼痕跡 |
| | 24 | | 坏 | 128 | 75 | 35 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | |
| | 25 | | 坏 | 137 | 85 | 33 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | |
| | 26 | | 坏 | 136 | 62 | 31.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SG1001 | 内外面重ね焼痕跡 |
| 第34図 | 1 | | 坏 | 130 | 50 | 42 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SG1001 | |
| | 2 | | 坏 | 132 | 50 | 39 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SG1001 | 墨書№60「万」 |
| | 3 | | 甕 | | | | 6.5 | タタキ・ハケメ | ハケ目 | | SG1001 | 外面ケズリ |
| | 4 | 赤焼土器 | 坏 | 114 | 54 | 50 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SG1001 | |
| | 5 | | 坏 | 122 | 48 | 49 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SG1001 | |
| | 6 | | 坏 | 124 | 48 | 50 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SG1001 | 内外面油煙 |
| | 7 | | 高台付皿 | | 50 | | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SG1001 | |
| | 8 | 中世陶器 | 擂鉢 | 305 | | | 12.5 | ロクロ・ハケ目 | ロクロ・卸目 | | SG1001 | |
| | 9 | | 擂鉢 | | 120 | | 12.5 | | ロクロ | 静止糸 | SG1001 | |
| | 10 | | 甕 | | | | 8 | ロクロ・ | ロクロ | | SG1001 | |
| | 11 | 鉄製品 | 刀 | 長120 | 幅38 | 厚29 | | | | | SG1001 | |
| | 12 | 石製品 | 砥石 | 長58 | 幅47 | 厚16 | | | | | SG1001 | |
| | 13 | 須恵器 | 蓋 | | | | 6 | ロクロ | ロクロ | | SD3006 | |
| | 14 | | 高台坏 | 130 | 80 | 44 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 外面重ね焼痕跡 |
| | 15 | | 高台付埦 | 154 | 88 | 81 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 切離痕整形 |





## 表－8　出土遺物観察表(3)

| 挿図 | No | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第34図 | 16 | 須恵器 | 坏 | 128 | 80 | 35 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 墨書№76「馬」、内外面重ね焼痕跡 |
| | 17 | | 坏 | 122 | 75 | 30.5 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 墨書№68「左」 |
| | 18 | | 坏 | 118 | 75 | 32 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | |
| | 19 | | 坏 | 128 | 70 | 39.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 墨書№78、外面重ね焼痕跡 |
| | 20 | | 坏 | 123 | 70 | 29 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 墨書№72「正」 |
| | 21 | | 坏 | 125 | 78 | 32.5 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 墨書№70「正」 |
| | 22 | | 坏 | 130 | 65 | 35 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 切離痕整形 |
| 第35図 | 1 | | 坏 | | 76 | | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD3006 | 墨書№74「正,千ヵ」 |
| | 2 | | 坏 | 118 | 56 | 33 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3006 | 墨書№71「正」、内外面重ね焼痕跡 |
| | 3 | | 坏 | 130 | 60 | 41.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3006 | 内外面重ね焼痕跡 |
| | 4 | 酸化焔土器 | 坏 | 135 | 46 | 50 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3006 | 体部内外面回転ヘラケズリ |
| | 5 | 赤焼土器 | 坏 | 110 | 46 | 47 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3006 | |
| | 6 | | 坏 | 102 | 50 | 45 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸カ | SD3006 | SG1001出土破片と接合 |
| | 7 | | 坏 | 140 | 50 | 45 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD3006 | |
| | 8 | 石製品 | 砥石 | 長104 | 幅52 | 厚14 | | | | | SD3006 | |
| | 9 | 土師器 | 甕 | | | | 10 | ハケ目 | ハケ目 | | SK 108 | RP48 |
| | 10 | | 甕 | 270 | | | 9 | ハケ目 | ハケ目 | | SK 108 | RP50 |
| | 11 | | 甕 | | | | 10 | ハケ目 | ハケ目 | | SK 108 | RP51 |
| 第36図 | 1 | 黒色土器 | 坏 | 154 | 84 | 65 | 5.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 回転ヘラ | SK1023 | RP286体部外面底部共ヘラケズリ内面ヘラミガキ |
| | 2 | | 坏 | 140 | 60 | 60 | 5.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 回転糸 | SK1355 | RP286・SK1023の出土破片と接合、体部外面上部回転ヘラナデ下半回転ヘラケズリ内面ヘラミガキ |
| | 3 | 須恵器 | 坏 | 135 | 80 | 32 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1161 | RP322 |
| | 4 | 土師器 | 稜埦 | 156 | 114 | 45 | 4 | ロクロ・ミガキ | ロクロ・ミガキ | 回転糸 | SK1800 | RP418、内面黒色処理体部外面下半底部回転ヘラケズリ上半ヘラミガキ内面ヘラミガキ外面煤、高台付 |
| | 5 | 須恵器 | 蓋 | 159 | | 34 | 5.6 | ロクロ | ロクロ | | SK1800 | |
| | 6 | | 蓋 | 124 | | 26 | 4 | ロクロ | ロクロ | | SK1800 | RP458 |
| | 7 | | 高台坏 | 104 | 68 | 50 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP425、墨書№93「左」 |
| | 8 | | 坏 | 130 | 80 | 32 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP424 |
| | 9 | | 坏 | 133 | 80 | 28 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | |
| | 10 | | 坏 | 142 | 94 | 42 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP446 |
| | 11 | | 坏 | 130 | 72 | 35 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | |
| | 12 | | 坏 | 129 | 75 | 34 | 5.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP449、内外面煤、外面重ね焼痕 |
| | 13 | | 坏 | 136 | 87 | 36 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | |
| | 14 | | 坏 | 135 | 80 | 37 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP457、外面重ね焼痕跡 |
| | 15 | | 坏 | 140 | 90 | 34.5 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | |
| | 16 | | 坏 | 138 | 79 | 40 | 4 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP454 |
| | 17 | | 坏 | 146 | 95 | 38 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP453 |
| | 18 | | 坏 | 128 | 56 | 37.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | |
| | 19 | | 坏 | 130 | 58 | 41.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | 墨書№91「左」 |
| | 20 | | 坏 | 135 | 62 | 35 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | RP452 |
| | 21 | | 坏 | 114 | 60 | 37 | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | RP419、墨書№92「左」、内外面重ね焼痕跡 |
| | 22 | 酸化焔土器 | 高台坏 | 114 | 62 | 45 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | 体部外面上部ヘラナデ下部回転ヘラケズリ |
| | 23 | | 坏 | 120 | 65 | 43 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | 体部外面下半回転ヘラケズリ内面ヘラナデ |
| | 24 | | 坏 | 142 | 80 | 38 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | 内面うるし付着 |
| | 25 | | 坏 | 150 | 94 | 35 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | |
| 第37図 | 1 | | 坏 | 122 | 70 | 41.5 | 4 | ロクロ・ミガキ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | 体部外面上半ヘラナデ下半ヘラケズリ外面全面ヘラミガキ内面ヘラミガキ内外面に彩 |
| | 2 | | 坏 | 105 | 65 | 52 | 5 | ケズリ・ナデ | ナデ | 回転糸 | SK1800 | RP150、体部外面下部回転ヘラケズリ上部ヘラナデ内面上部ヘラナデ、内外面赤彩 |
| | 3 | | 坏 | 124 | 62 | 38 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP415・RP448と接合、体部下半から底部回転ヘラケズリ内面回転ヘラケズリ |
| | 4 | | 坏 | 114 | 52 | 47 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | RP415、体部外面下半手持ちヘラケズリ |
| | 5 | | 坏 | 130 | 70 | 37 | 4 | ケズリ | ケズリ | 回転ヘラ | SK1800 | 内外面回転ヘラケズリ |
| | 6 | | 坏 | 130 | 70 | 45 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | RP383 |
| | 7 | | 坏 | 128 | 63 | 46 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | RP420 |
| | 8 | | 坏 | 106 | 52 | 43 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | RP417、墨書№89「左」 |
| | 9 | | 坏 | 107 | 52 | 47 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | RP416、体部外面下半回転ヘラケズリ、外面煤 |
| | 10 | | 坏 | 106 | 50 | 42 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | 底部下部手持ちヘラケズリ |
| | 11 | | 坏 | 102 | 43 | 45 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1800 | RP421、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 12 | 赤焼土器 | 甕 | 200 | | | 7.5 | ロクロ・カキ目 | ロクロ | | SK1800 | RP447 |
| | 13 | 須恵器 | 坏 | 134 | 80 | 35 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1884 | RP399 |
| | 14 | | 坏 | 134 | 63 | 39.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1884 | RP400 |
| | 15 | 酸化焔土器 | 坏 | 105 | 43 | 45 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1884 | RP401 |
| | 16 | 須恵器 | 蓋 | 151 | | 31.5 | 6 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | | SK1898 | RP404 |
| | 17 | | 高台坏 | 128 | 92 | 43.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1898 | RP444、墨書№96「左」 |
| | 18 | | 坏 | 134 | 84 | 35 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1898 | |
| | 19 | | 坏 | 120 | 76 | 32 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1898 | RP402 |
| | 20 | 酸化焔土器 | 坏 | 120 | 60 | 45 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1898 | RP403、体部外面上半回転ヘラケズリ、下部手持ちヘラケズリ |
| | 21 | 赤焼土器 | 坏 | 126 | 67 | 41 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1898 | 墨書№97「左」 |
| 第38図 | 1 | 土師器 | 高台付埦 | 164 | 62 | 72 | 4 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 静止糸 | SK 491 | RP33、内面黒色処理ヘラミガキ外面赤彩回転ヘラケズリ |
| | 2 | 須恵器 | 壺 | | 120 | | 11 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK 491 | RP34 |
| | 3 | | 坏 | 130 | 65 | 38 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK 491 | RP69、外面重ね焼痕跡 |
| | 4 | | 坏 | 134 | 60 | 50 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK 491 | RP32、切離痕整形 |
| | 5 | | 蓋 | 126 | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | SK 822 | |

## 表－9　出土遺物観察表(4)

| 挿図No | | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第38図 | 6 | 須恵器 | 双耳杯 | 108 | 69 | 45 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 822 | 高台付 |
| | 7 | | 坏 | 130 | 70 | 36 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 822 | 内面重ね焼痕跡 |
| | 8 | | 坏 | 124 | 74 | 29 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 822 | ＲＰ266 |
| | 9 | | 坏 | 124 | 75 | 35 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 822 | ＲＰ268 |
| | 10 | | 坏 | 128 | 83 | 33 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 822 | ＲＰ353 |
| | 11 | | 坏 | | 60 | | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 822 | ＲＰ275切離痕整形 |
| | 12 | 酸化焔土器 | 双耳坏 | 120 | | | 6.5 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ 822 | ＲＰ269 |
| | 13 | | 坏 | 114 | 54 | 46 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 822 | ＲＰ263・ＲＰ271と接合 |
| | 14 | 赤焼土器 | 甕 | 220 | | | 8.5 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ 822 | |
| | 15 | 須恵器 | 坏 | 135 | 77 | 37 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＰ 896 | ＲＰ285・墨書№21「左」、外面重ね焼痕跡 |
| | 16 | | 坏 | 144 | 60 | 36.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＰ 896 | ＲＰ284・墨書№20「左」、底部手持ちヘラケズリ |
| | 17 | 赤焼土器 | 坏 | 110 | 44 | 45 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＰ 896 | ＲＰ325、内外面油煙 |
| | 18 | 土師器 | 蓋 | 152 | | 26.5 | 5 | ケズリ | ミガキ | | ＳＫ 900 | 内面ヘラミガキ、漆塗り又は柿渋塗り |
| | 19 | | 稜埦 | 130 | 90 | 45 | 5.5 | ロクロ・ミガキ | ミガキ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ362、体部外面、底部回転ヘラケズリ外面上半ヘラミガキ内面ヘラミガキ、高台付 |
| | 20 | | 稜埦 | 140 | 100 | 42 | 6 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ334、体部外面下部、底部回転ヘラケズリ上半ヘラミガキ内面ヘラミガキ、内面黒色処理、高台付 |
| | 21 | | 稜埦 | 140 | 96 | 45 | 65 | ロクロ・ミガキ | ロクロ・ミガキ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ362、内面黒色処理体部外面下半、底部回転ヘラケズリ上半ヘラミガキ内面ヘラミガキ、高台付 |
| | 22 | | 椀 | 160 | 78 | 60 | 7.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ336、内面黒色処理、体部下半、底部回転ヘラケズリ、切離痕整形 |
| | 23 | | 蓋 | 164 | | 25 | 7 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ 900 | ＲＰ329・ＲＰ354と接合 |
| | 24 | | 蓋 | | | | 7 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ 900 | 墨書№29「左」カ |
| | 25 | | 蓋 | 163 | | 37 | 7 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | | ＳＫ 900 | ＲＰ352、墨書№25「左」カ、体部上部回転ヘラケズリ |
| | 26 | | 蓋 | 160 | | 38.5 | 6 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ 900 | ＲＰ216、外面重ね焼痕跡 |
| 第39図 | 1 | | 高台坏 | 110 | 68 | 49 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ347 |
| | 2 | | 高台坏 | 109 | 64 | 48 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ327、墨書№33川倉ヵ、体部外面下部回転ヘラケズリ、内外面重ね焼痕跡 |
| | 3 | | 高台付埦 | 104 | 60 | 59 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ346、付高台 |
| | 4 | | 高台坏 | 114 | 62 | 60 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ198・ＲＰ302と接合 |
| | 5 | | 双耳杯 | 115 | 68 | 45 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | 内外面油煙、高台付 |
| | 6 | | 高台付埦 | | 81 | | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ366、墨書№27「左」 |
| | 7 | | 坏 | 134 | 91 | 34 | 6 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ233、墨書№31「左」、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 8 | | 坏 | 142 | 88 | 35 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ335 |
| | 9 | | 坏 | 120 | 64 | 31 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ234 |
| | 10 | | 坏 | 125 | 80 | 26.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ349、外面に火襷、内外重ね焼痕跡 |
| | 11 | | 坏 | 130 | 80 | 32 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ354、外面重ね焼痕跡、底部青灰 |
| | 12 | | 坏 | 121 | 60 | 34 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ357、墨書№26「左」、底部手持ちヘラケズリ、切離痕整形 |
| | 13 | | 坏 | 136 | 70 | 37 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ205 |
| | 14 | | 坏 | 130 | 76 | 31 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ350 |
| | 15 | | 坏 | 140 | 70 | 35 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ290 |
| | 16 | | 坏 | 125 | 66 | 44 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ202 |
| | 17 | | 坏 | 130 | 65 | 37 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ355、外面重ね焼痕跡 |
| | 18 | | 坏 | 130 | 60 | 34.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ351、内外面重ね焼痕跡、切離痕整形 |
| | 19 | | 坏 | 122 | 60 | 31 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ328、墨書№30「左」 |
| | 20 | | 坏 | 120 | 60 | 31 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ331 |
| | 21 | | 坏 | 133 | 65 | 37 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ359 |
| | 22 | | 坏 | 125 | 60 | 33 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ356、墨書№28「左」 |
| | 23 | | 高台付埦 | 120 | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ 900 | 稜埦 |
| | 24 | | 坏 | 126 | 54 | 33 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ235、内外面重ね焼痕跡 |
| | 25 | | 蓋 | 128 | | 28 | 6 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | | ＳＫ 900 | ＲＰ204 |
| | 26 | | 蓋 | 148 | | 41 | 6.5 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ 900 | |
| | 27 | | 蓋 | 145 | | 31 | 5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | | ＳＫ 900 | ＲＰ208・ＲＰ333と接合、外面上部ケズリ |
| | 28 | | 坏 | 140 | 91 | 29 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ237、切離痕整形 |
| | 29 | | 坏 | 120 | 70 | 36 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | |
| | 30 | | 坏 | 136 | 66 | 50 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ367、体部外面下半手持ちヘラケズリ |
| | 31 | | 坏 | 108 | 53 | 43 | 5.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | 不明 | ＳＫ 900 | ＲＰ237、内外面煤　底部ヘラケズリ |
| | 32 | | 坏 | 110 | 54 | 46 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ202 |
| | 33 | | 坏 | 110 | 50 | 43 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ345、体部外面下部回転ヘラケズリ旅さび状の付着物、内外面底部煤、内面油脂＋サビ |
| | 34 | | 坏 | 118 | 50 | 43 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ274、体部外面下部手持ちヘラケズリ |
| | 35 | | 坏 | 93 | 44 | 45 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | |
| 第40図 | 1 | 酸化焔土器 | 坏 | 112 | 55 | 43 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 900 | ＲＰ199、内外面に赤彩痕、切離痕整形 |
| | 2 | | 坏 | 100 | 53 | 42 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ351 |
| | 3 | | 坏 | 107 | 48 | 42.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | 体部外面全面回転ヘラケズリ |
| | 4 | | 坏 | | 52 | | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ200、体部下半手持ヘラケズリ |
| | 5 | | 坏 | 120 | 48 | 35 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ358、外面上半ヘラナデ下半回転ヘラケズリ外面重ね焼痕跡 |
| | 6 | | 坏 | 110 | 50 | 42 | 5 | ナデ | ナデ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ344、外面ヘラナデ内面上半ヘラナデ、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 7 | | 坏 | 110 | 48 | 40 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ365、内外面ヘラナデ、外面下半回転ヘラケズリ |
| | 8 | | 坏 | 110 | 48 | 42.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ337・ＲＰ360と接合、墨書№22「左」、体部外面下半回転ヘラケズリ |
| | 9 | | 坏 | 116 | 52 | 43 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ203・ＲＰ236と接合、墨書№24「左」、体部外面下半回転ヘラケズリ |
| | 10 | | 坏 | 112 | 52 | 43 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ332、墨書№23「左」、体部外面下半回転ヘラケズリ |
| | 11 | | 坏 | 114 | 52 | 42 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ 900 | ＲＰ192 |
| | 12 | | 双耳坏 | 長38 | 幅27 | 厚13 | | | | | ＳＫ 900 | 耳のみ |
| | 13 | 鉄製品 | 不明 | 長150 | 幅43 | 厚22 | | | | | ＳＫ2043 | |





## 表－10　出土遺物観察表(5)

| 挿図No | | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第40図 | 14 | 須恵器 | 高台付皿 | 144 | 68 | 37 | 4 | ロクロ・ミガキ | ロクロ・ミガキ | 回転糸 | ＳＫ 435 | ＲＰ58、墨書№10「位」体部外面下部回転ヘラケズリ内外面ヘラミガキ |
| | 15 | 赤焼土器 | 坏 | | 48 | | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | 面セイリ | ＲＰ10、墨書№9「位」、内面有機物付着 |
| | 16 | 土師器 | 高台坏 | | | | | ハケ目・ケズリ | ミガキ | | Ａ1面セイリ | 内面黒色処理 |
| | 17 | | 甕 | | 60 | | 9.5 | ケズリ | ハケ目 | | Ａ2面セイリ | |
| | 18 | | 甕 | | 75 | | | ケズリ・ナデ | ハケ目・ケズリ | | Ａ2面セイリ | 底部彩色 |
| | 19 | | 蓋 | 140 | | | 6.5 | ロクロ・ミガキ | ロクロ・ミガキ | | ＳＤ1777 | |
| | 20 | | 鉢 | | 60 | | 6 | ハケ目 | ハケ目 | | Ｂ面セイリ | 体部内外面に指圧痕有り |
| | 21 | | 甕 | | | | 6 | ハケ目 | ハケ目 | | Ａ1面セイリ | |
| | 22 | | 甕 | | | | 5.5 | ハケ目 | ハケ目 | | Ａ１粗掘 | |
| | 23 | | 甕 | | | | 10.5 | ハケ目 | | | Ａ2面セイリ | |
| | 24 | | 甕 | 120 | | | 8 | | | | Ａ1面セイリ | 内面黒色 |
| | 25 | | 甕 | | | | 4.5 | ハケ目 | ハケ目 | | ＳＫ 589 | |
| | 26 | | 甕 | 234 | | | 7.5 | ハケ目 | ハケ目 | | ＳＫ 583 | ＲＰ43・ＲＰ44と接合 |
| | 27 | | 甕 | 260 | | | 5 | ハケ目 | ハケ目 | | ＳＫ 583 | |
| | 28 | | 坏 | 146 | 114 | 34 | 5.5 | ロクロ | ロクロ・ミガキ | 回転ヘラ | Ａ1面セイリ | ＲＰ１、内面黒色処理 |
| | 29 | | 甕 | | | | 8 | ハケ目 | ハケ目 | | Ａ1面セイリ | ＲＰ２ |
| 第41図 | 1 | | ミニチュア | 29 | 24 | 26.5 | | 指圧痕 | 指圧痕 | | ＳＰ1730 | 内面黒色　手づくね |
| | 2 | | ミニチュア | 33 | 40 | 25 | | 指圧痕 | 指圧痕 | | Ｂ面セイリ | 手づくね |
| | 3 | | ミニチュア | 34 | 20 | 27 | | 指圧痕 | 指圧痕 | | Ｂ面セイリ | 手づくね |
| | 4 | | 双耳坏 | | 62 | | 6 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 回転ヘラ | ＳＫ1906 | 双耳欠落痕跡のみ、体部外面下部回転ヘラケズリ、高台付、内面黒色処理 |
| | 5 | | 高台坏 | 118 | 90 | 40 | 4 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ミガキ | 静止糸 | ＳＤ1030 | ＲＰ294、体部外面回転ヘラケズリ、内面黒色処理 |
| | 6 | | 蓋 | | | | | | | | Ｂ面セイリ | 内面黒色処理 |
| | 7 | | 蓋 | | | | | | | | Ｂ面セイリ | 内面黒色処理 |
| | 8 | | 高台坏 | | 54 | | 4.5 | ロクロ・ミガキ | ロクロ・ミガキ | | ＳＫ1883 | 内外面黒色処理 |
| | 9 | | 坏 | | 75 | | 8 | ケズリ | ミガキ | 木葉痕 | ＳＫ 827 | 内面黒色処理、体部外面手持ちヘラケズリ、切離痕整形 |
| | 10 | | 坏 | | 60 | | 5.5 | ケズリ | ミガキ | 木葉痕 | ＳＤ 831 | 内面黒色処理、体部外面下部手持ちヘラケズリ |
| | 11 | | 高台坏 | 122 | 50 | 48 | 5 | ロクロ・ミガキ | ロクロ・ミガキ | 回転糸 | Ａ１粗掘 | ＲＰ116、内外面黒色処理、体部外面回転ヘラケズリ・ヘラミガキ内面ヘラミガキ |
| | 12 | | 坏 | | 63 | | 5 | ミガキ | ミガキ | 不明 | Ａ2面セイリ | ＲＰ243、内面黒色処理 |
| | 13 | | 双耳坏 | 長35 | 幅29 | 厚10 | | | | | Ｂ面セイリ | 耳のみ　内面黒色処理 |
| | 14 | | 双耳坏 | 長42 | 幅31 | 厚15 | | | | | Ａ2面セイリ | 耳のみ　内面黒色処理 |
| | 15 | | 蓋 | 156 | | 53 | 10.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ａ2面セイリ | |
| | 16 | | 蓋 | | | | 6.5 | ロクロ | ロクロ | | Ａ1面セイリ | |
| | 17 | | 蓋 | 186 | | 42 | 8.5 | ロクロ | ロクロ | | Ａ2面セイリ | ＲＰ219 |
| | 18 | | 蓋 | 140 | | 30 | 6 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ1534 | |
| | 19 | | 蓋 | | | | 8 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ2001 | ＲＰ390 |
| | 20 | | 蓋 | 161 | | 32 | 8 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ｂ面セイリ | ＲＰ258 |
| | 21 | | 蓋 | 138 | | 23 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | | Ａ2面セイリ | |
| | 22 | | 蓋 | 150 | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ1577 | |
| | 23 | | 蓋 | 135 | | 23 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ1165 | ＲＰ326 |
| | 24 | | 蓋 | 148 | | 38 | 8 | ロクロ | ロクロ | | Ｂ　粗掘 | |
| | 25 | | 蓋 | | | 26 | 10.5 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ1025 | ＲＰ244 |
| | 26 | | 蓋 | 158 | | 38.5 | 6 | ロクロ | ロクロ | | ＳＫ1900 | 転用硯 |
| | 27 | | 高台坏 | 136 | 76 | 47.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ａ1面セイリ | ＲＰ21 |
| | 28 | | 高台坏 | 125 | 75 | 41 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ｂ面セイリ | |
| | 29 | | 高台坏 | | 81 | | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ｂ面セイリ | 墨書№119「左」 |
| 第42図 | 1 | 須恵器 | 高台坏 | 112 | 64 | 55 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 892 | ＲＰ311 |
| | 2 | | 高台坏 | 104 | 55 | 51 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ1026 | ＲＰ194 |
| | 3 | | 高台坏 | 104 | 70 | 49.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ａ1面セイリ | ＲＰ20 |
| | 4 | | 高台坏 | 140 | 90 | 72 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ｂ面セイリ | ＲＰ384 |
| | 5 | | 高台坏 | 155 | 93.5 | 73.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ｂ面セイリ | ＲＰ371、内外面火襷 |
| | 6 | | 高台坏 | 146 | 78 | 69.5 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ2001 | |
| | 7 | | 高台付埦 | 144 | 83 | 74 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ1355 | ＲＰ288 |
| | 8 | | 高台付埦 | 137 | 88 | 60 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ2123 | |
| | 9 | | 高台坏 | 152 | 94 | 85 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ1876 | ＲＰ427 |
| | 10 | | 高台坏 | 100 | 58 | 49 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ｂ面セイリ | |
| | 11 | | 高台坏 | 180 | 123 | 57 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ 583 | ＲＰ46 |
| | 12 | | 高台坏 | 98 | 66 | 48 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＤ 902 | ＲＰ232 |
| | 13 | | 高台坏 | 128 | 68 | 42 | 2.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ａ2面セイリ | ＲＰ213 |
| | 14 | | 高台坏 | 146 | 104 | 40 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＤ 116 | ＲＰ47 |
| | 15 | | 高台坏 | 100 | 59 | 51 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ａ2面セイリ | ＲＰ224 |
| | 16 | | 高台坏 | | 93 | 41 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ1905 | ＲＰ406 |
| | 17 | | 高台坏 | | 65 | | 4.5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | 回転ヘラ | Ａ2面セイリ | 墨書№44「左」、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 18 | | 高台坏 | | 54 | | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ａ2面セイリ | 底部に×印 |
| | 19 | | 高台坏 | 118 | 66 | 35 | 6.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | Ａ2面セイリ | |
| | 20 | | 高台坏 | 134 | 57 | 42 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | ＳＫ1921 | |
| | 21 | | 坏 | 130 | 90 | 39 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＰ1021 | ＲＰ292、内外面火襷、内外面重ね焼痕跡 |
| | 22 | | 坏 | 138 | 75 | 43.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | Ｂ　粗掘 | |
| 第43図 | 1 | | 坏 | 135 | 85 | 38 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＥ1817 | ＲＰ377、外面重ね焼痕跡 |
| | 2 | | 坏 | 132 | 72 | 32 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | ＳＫ1534 | ＲＰ257、外面重ね焼痕跡 |

## 表－11　出土遺物観察表(6)

| 挿図No | | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第43図 | 3 | 須恵器 | 坏 | 122 | 72 | 32 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | 立会面セイリ | |
| | 4 | | 坏 | 122 | 66 | 39 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | A1面セイリ | RP16、墨書№17「安」、底部手持ちヘラケズリ |
| | 5 | | 坏 | 128 | 78 | 28 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | P-10 | 墨書№110「左」、外面重ね焼痕跡 |
| | 6 | | 坏 | 127 | 78 | 31.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | B面セイリ | 墨書№117「左」 |
| | 7 | | 坏 | 134 | 76 | 30 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | A2面セイリ | RP191、墨書№43「左」、外部重ね焼痕跡 |
| | 8 | | 坏 | 134 | 72 | 33.5 | 5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1921 | RP410、墨書№103「左」、体部外面下部回転ヘラケズ |
| | 9 | | 坏 | 132 | 78 | 33 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1906 | RP407、墨書№101底部「左」、外面重ね焼痕跡 |
| | 10 | | 坏 | 121 | 53 | 48 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | R-17 | RP396、墨書№111「左」 |
| | 11 | | 坏 | 125 | 77 | 38 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | I-16 | RP231、墨書№38「入ヵ」、外面重ね焼痕跡 |
| | 12 | | 坏 | 144 | 74 | 38 | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD 684 | 内面煤 |
| | 13 | | 稜埦 | 125 | | | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | B粗掘 | 外面灰被り |
| | 14 | | 稜埦 | 120 | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | A2面セイリ | |
| | 15 | | 坏 | 124 | 80 | 32.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD1798 | RP385 |
| | 16 | | 坏 | 125 | 90 | 35 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | A1面セイリ | RP19、外面重ね焼痕跡 |
| | 17 | | 坏 | 136 | 84 | 36 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | B面セイリ | RP369、外面重ね焼痕跡、内面煤 |
| | 18 | | 坏 | 118 | 68 | 34 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1535 | RP372、切離痕整形 |
| | 19 | | 坏 | 130 | 82 | 27.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK2001 | |
| | 20 | | 坏 | 120 | 70 | 35 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1797 | RP426 |
| | 21 | | 坏 | 140 | 60 | 38.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | A1粗掘 | |
| | 22 | | 坏 | 138 | 84 | 40 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1921 | RP408・RP409と接合 |
| | 23 | | 坏 | 120 | 70 | 34 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SP1387 | |
| 第44図 | 1 | | 坏 | 130 | 80 | 36 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK 880 | RP239、外面重ね焼痕跡 |
| | 2 | | 坏 | 140 | 75 | 31 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD1191 | |
| | 3 | | 坏 | 130 | 84 | 31 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1026 | RP242 |
| | 4 | | 坏 | 134 | 80 | 33 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD 4 | |
| | 5 | | 坏 | 140 | 74 | 36 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK2123 | 切離痕整形 |
| | 6 | | 坏 | 132 | 75 | 37 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1905 | 内外面油煙 |
| | 7 | | 坏 | 135 | 90 | 32 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1876 | RP387、外面重ね焼痕跡 |
| | 8 | | 坏 | 125 | 76 | 36 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1876 | RP386、切離痕整形 |
| | 9 | | 坏 | 140 | 90 | 36 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1800 | |
| | 10 | | 坏 | 122 | 56 | 32 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK 435 | RP57 |
| | 11 | | 坏 | 126 | 86 | 33 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1905 | RP456 |
| | 12 | | 坏 | 134 | 80 | 32 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1577 | 外面重ね焼痕跡、内面灰被り |
| | 13 | | 坏 | 138 | 80 | 33 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK 880 | RP280 |
| | 14 | | 坏 | 125 | 70 | 34.5 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK2123 | |
| | 15 | | 坏 | 122 | 70 | 29 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1851 | |
| | 16 | | 坏 | 130 | 70 | 31 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1906 | RP405、外面重ね焼痕跡 |
| | 17 | | 坏 | 122 | 75 | 30.5 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD2155 | |
| | 18 | | 坏 | 130 | 54 | 41 | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD1690 | RP412 |
| | 19 | | 坏 | 120 | 80 | 34 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD1030 | RP295、外面重ね焼痕跡 |
| | 20 | | 坏 | 130 | 74 | 36 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK 541 | RP61 |
| | 21 | | 坏 | 122 | 74 | 32 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | B面セイリ | |
| | 22 | | 双耳坏 | 115 | | | 4.5 | ロクロ | ロクロ | | A2面セイリ | |
| | 23 | | 双耳坏 | 106 | | | 6 | ロクロ | ロクロ | | A2面セイリ | |
| | 24 | | 双耳坏 | 長56 | 幅25 | 厚8 | | ケズリ | | | A2面セイリ | 耳のみ |
| | 25 | | 双耳坏 | 長33 | 幅20 | 厚10 | | | | | A2面セイリ | 耳のみ |
| | 26 | | 双耳坏 | 長39 | 幅35 | 厚10 | | ミガキ | | | SP2345 | 耳のみ |
| | 27 | | 双耳坏 | 長36 | 幅19 | 厚6 | | ケズリ | | | A1面セイリ | 耳のみ |
| | 28 | | 坏 | 136 | 68 | 40.5 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK2123 | 墨書№104「左」、外面重ね焼痕跡 |
| | 29 | | 坏 | | 66 | | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK2123 | 墨書№105「左」 |
| | 30 | | 坏 | 124 | 60 | 36 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD1856 | |
| | 31 | | 坏 | 136 | 60 | 43 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A1粗掘 | |
| 第45図 | 1 | | 坏 | 124 | 58 | 36 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SP1981 | |
| | 2 | | 坏 | 130 | 69 | 38.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK2123 | |
| | 3 | | 坏 | 130 | 60 | 40 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1900 | |
| | 4 | | 坏 | 148 | 54 | 48 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A1粗掘 | |
| | 5 | | 坏 | 128 | 57 | 35 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A2面セイリ | RP235・SK900の出土破片と接合、内外面煤 |
| | 6 | | 坏 | 123 | 56 | 34 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A2面セイリ | RP40・SK900の出土破片と接合 |
| | 7 | | 高台付皿 | 155 | 67.5 | 34.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 151 | |
| | 8 | | 甕 | | | | 8 | タタキ | アテ痕 | | SD1690 | RP411－B、外面自然釉 |
| | 9 | | 甕 | | | | 15 | ロクロ | ロクロ | | B粗掘 | |
| | 10 | | 甕 | | | | 12 | タタキ | アテ痕 | | SD1690 | RP411－A、外面煤 |
| | 11 | | 甕 | | | | 8.5 | ロクロ・タタキ | ロクロ・ハケ目 | | B面セイリ | 外面釉 |
| | 12 | | 甕 | 31 | | 17 | 6 | | | | A2面セイリ | |
| | 13 | | 壺 | | | | 8 | ロクロ | ロクロ | | A1粗掘 | |
| | 14 | | 壺 | 110 | | | 6.5 | ロクロ | ロクロ | | SK 262 | RP55、外面自然釉 |
| | 15 | | 壺 | 38 | | 48 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | | A1面セイリ | RP30、灰被り |
| | 16 | | 壺 | | | | 8.5 | ロクロ | ロクロ | | SK 435 | RP15、頸部のみ |
| 第46図 | 1 | 酸化焔土器 | 蓋 | 124 | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | SP1406 | 外面上半回転ヘラケズリ |





## 表－12　出土遺物観察表(7)

| 挿図No | | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第46図 | 2 | 酸化焔土器 | 坏 | 130 | 72 | 31.5 | 5 | ロクロ・ケズリ | ロクロ・ケズリ | 回転ヘラ | SK1797 | RP442、切離痕整形 |
| | 3 | | 坏 | 120 | 70 | 37 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK2001 | RP391 |
| | 4 | | 坏 | 120 | 54 | 40 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK2001 | RP393、体部外面下部手持ちヘラケズリ底部手持ちヘラケズリ |
| | 5 | | 坏 | 110 | 50 | 42 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | A2面セイリ | RP183、外面回転ヘラケズリ内面回転ヘラナデ内外面赤彩 |
| | 6 | | 坏 | | 52 | | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SD 902 | RP260、体部外面上半回転ヘラケズリ下部手持ちヘ |
| | 7 | | 坏 | 110 | 46 | 43 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1676 | 体部外面下部回転ヘラケズリ底部手持ちヘラケズリ |
| | 8 | | 坏 | 112 | 58 | 41 | 6 | ロクロ | ロクロ | | A2面セイリ | 墨書№40、底部手持ちヘラケズリ、体部外面下部手持 |
| | 9 | | 坏 | 94 | 44 | 39 | 7 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1577 | 体部外面下部手持ちヘラケズリ |
| | 10 | | 坏 | 116 | 46 | 40 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1904 | RP379、内外面赤彩、体部外面上半回転ヘラナデ下 |
| | 11 | | 坏 | 117 | 55 | 40 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転ヘラ | SK1770 | 体部外面回転ヘラケズリ |
| | 12 | | 坏 | 135 | 72 | 43 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | P-10 | RP382、内外にナデ |
| | 13 | | 坏 | 111 | 46 | 44.5 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD 902 | RP261、体部上半回転ヘラナデ下半回転ヘラケズリ |
| | 14 | | 坏 | 120 | 65 | 44 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | B粗掘 | 内外面ヘラケズリ体部外面下部及び底部回転ヘラケズリ上部回転ヘラナデ内外面赤彩 |
| | 15 | | 坏 | 90 | 60 | 51 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | B面セイリ | 内外面赤彩、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 16 | | 坏 | | 48 | | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | B面セイリ | 墨書№113「左」 |
| | 17 | | 坏 | 118 | 48 | 46 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | B面セイリ | 体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 18 | | 坏 | 107 | 51 | 42.5 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1900 | RP441、墨書№98「左」、体部内外面回転ヘラケズリ |
| | 19 | | 坏 | 114 | 48 | 31 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | B粗掘 | 内外面赤彩ヵ、体部外面下半回転ヘラケズリ |
| | 20 | | 坏 | 136 | 64 | 55 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD1690 | 体部外面下部ヘラケズリ |
| | 21 | | 坏 | 108 | 50 | 37.5 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1904 | RP380、体部外面下半回転ヘラケズリ |
| | 22 | | 坏 | 110 | 54 | 50 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK 491 | RP68、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 23 | | 坏 | 100 | 48 | 43 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A2面セイリ | 体部外面下半手持ちヘラケズリ体部外面上半回転ヘラケズリ |
| | 24 | | 坏 | 92 | 58 | 45 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | B面セイリ | 体部外面下半回転ヘラケズリ |
| | 25 | | 坏 | 116 | 56 | 41 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A2面セイリ | RP367・SK900の出土破片と接合、体部外面下半回転ヘラケズリ、外面油煙、 |
| | 26 | | 双耳坏 | 長38 | 幅30 | 厚8 | | | | | A1面セイリ | 耳のみ |
| | 27 | | 双耳坏 | 長32 | 幅22 | 厚10 | | | | | A2面セイリ | 耳のみ |
| | 28 | | 双耳杯 | 長37 | 幅26 | 厚9 | | | | | B粗掘 | 耳のみ |
| | 29 | | 双耳杯 | 長37 | 幅22 | 厚8 | | | | | SP 949 | 耳のみ |
| | 30 | | 双耳杯 | 長31 | 幅21 | 厚9 | | | | | SK1818 | 耳のみ |
| | 31 | | 坏 | | 74 | | 8 | ロクロ | ロクロ | 静止糸カ | A2面セイリ | |
| | 32 | | 坏 | 118 | 45 | 47.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK 14 | 体部外面回転ヘラケズリ |
| 第47図 | 1 | | 坏 | 117 | 48 | 45.5 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A1面セイリ | RP27、体部外面下部回転ヘラケズリ |
| | 2 | | 坏 | 120 | 50 | 53 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK 235 | RP7、体部内外面共ラセン状ロクロ目顕著 |
| | 3 | | 坏 | 120 | 50 | 51 | 4.5 | ロクロ | ロクロ | | SK 614 | RP38、切離痕整形 |
| | 4 | | 坏 | 124 | 48 | 49 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SD2155 | RP445、外面煤 |
| | 5 | | 坏 | 127 | 48 | 53 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A1面セイリ | RP8・SD236の出土破片と接合 |
| | 6 | | 坏 | 130 | 44 | 43 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK 20 | RP254 |
| | 7 | | 坏 | 100 | 50 | 45 | 6 | ロクロ | ロクロ | 静止糸 | A1面セイリ | |
| | 8 | | 坏 | 126 | 55 | 41 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | C粗掘 | |
| | 9 | | 坏 | | 61 | | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SP 700 | RP56 |
| | 10 | | 坏 | 98 | 46 | 50 | 3.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸カ | T-14 | RP375 |
| | 11 | | 坏 | 100 | 44 | 52 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK 435 | RP11、切離痕整形、底部回転ヘラケズリ |
| | 12 | | 皿 | 128 | 64 | 37.5 | 6 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A2面セイリ | RP190 |
| | 13 | | 皿 | 138 | 52 | 31 | 5.5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SK1433 | |
| | 14 | | 皿 | 124 | 50 | 31 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SP 358 | |
| | 15 | | 高台付皿 | 124 | 76 | 31 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | A2面セイリ | RP217、削り出し高台ヵ |
| | 16 | 赤焼土器 | 高台付皿 | 114 | 58 | 30 | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転糸 | SP1220 | RP220 |
| | 17 | | 皿 | 134 | 60 | 25 | 4 | ロクロ | ロクロ | | A1面セイリ | |
| | 18 | | 甕 | 176 | | | 6 | ロクロ・ケズリ | ロクロ | | SK1534 | RP374 |
| | 19 | | 甕 | | 80 | | 11.5 | ロクロ | ロクロ | | SK1917 | RP413 |
| | 20 | | 甕 | | | | 7 | ロクロ | ロクロ | | SK1213 | |
| | 21 | | 甕 | | | | 4 | ロクロ | ロクロ | | SK1577 | |
| | 22 | | 甕 | | | | 5 | ハケ目 | | | A1粗掘 | 内外面煤 |
| | 23 | | 甕 | | | | 9 | ロクロ | ロクロ | | A1粗掘 | |
| | 24 | | 甕 | | | | 7 | ロクロ | | | SP1021 | RP293 |
| | 25 | | 甕 | | | 61 | 7 | ロクロ | ロクロ | | A2面セイリ | |
| | 26 | | 甕 | | | | 8 | ハケ目 | ハケ目 | | SP 186 | |
| | 27 | | 甕 | | | | 10 | ハケ目 | ハケ目 | | B粗掘 | |
| | 28 | | 堝 | 400 | | | 7 | ロクロ・ハケ目 | ロクロ・ハケ目 | | B面セイリ | |
| 第48図 | 1 | | 堝 | 390 | | | 8 | ハケ目 | ハケ目 | | SD 4 | RP64 |
| | 2 | | 堝 | | | | 10 | カキ目 | ロクロ | | A1粗掘 | 外面煤 |
| | 3 | | 堝 | 400 | | | 10 | ロクロ | ロクロ | | B粗掘 | |
| | 4 | | 堝 | | | | 9.5 | ロクロ | ロクロ | | B粗掘 | 外面煤 |
| | 5 | | 堝 | | | | 12 | ロクロ | ロクロ | | A2面セイリ | |
| | 6 | 中世陶器 | 擂鉢 | 344 | 114 | 146 | 16 | ロクロ | ロクロ・細目 | | SK 850 | |
| | 7 | | 擂鉢 | 310 | | | 13.5 | ロクロ | ロクロ | | SK 636 | |
| | 8 | | 擂鉢 | 282 | | | 10.5 | ロクロ | ロクロ | | SK 559 | |
| | 9 | | 壺 | | | | 14 | ロクロ・タタキ | ロクロ | | SK 559 | |
| | 10 | | 甕 | | | | 11 | タタキ | アテ痕 | | A2面セイリ | |

表－13　出土遺物観察表(8)

| 挿図No | | 種別 | 器種 | 計測値 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 成形 外面 | 内面 | 切り離し | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第48図 | 11 | かわらけ | 皿 | 88 | 30 | 14 | 7 | ナデ | ナデ | 回転糸 | ＳＤ 623 | ＲＰ39 |
| | 12 | | 皿 | 80 | 56 | 15 | 8 | ナデ | ナデ | 回転糸 | ＳＫ 549 | |
| | 13 | | 皿 | 80 | 50 | 15 | 6 | ナデ | ナデ | 回転糸 | Ｂ面セイリ | |
| | 14 | | 皿 | 80 | 67 | 15 | 5.5 | ナデ | ナデ | | ＳＫ1718 | |
| | 15 | | 皿 | 114 | 66 | 24 | 5 | ナデ | ナデ | | ＳＫ 682 | ＲＰ５ |
| | 16 | | 皿 | 70 | 48 | 12 | 5 | ナデ | ナデ | | ＳＫ 264 | |
| | 17 | | 皿 | 86 | 65 | 15 | 7 | ナデ | ナデ | | ＳＰ 214 | |
| | 18 | | 皿 | 84 | 60 | 13 | 6 | ナデ | ナデ | | Ｂ粗掘 | |
| | 19 | | 皿 | 98 | 60 | 13 | 6 | ナデ | ナデ | | ＳＰ 358 | ＲＰ226 |
| | 20 | | 皿 | 94 | 40 | 17 | 7 | ナデ | | | Ａ１粗掘 | |
| | 21 | | 皿 | 124 | 68 | 20.5 | 6 | ナデ | ナデ | | ＳＰ1525 | |
| | 22 | | 皿 | 120 | 66 | 30 | 6.5 | ナデ | ナデ | | ＳＫ 977 | |
| | 23 | | 皿 | 114 | 99 | 20 | 6.5 | ナデ | ナデ | | Ａ1面セイリ | |
| | 24 | | 皿 | 86 | 44 | 18 | 5 | ナデ | ナデ | | Ａ1面セイリ | 灯明皿、内外面油煙 |
| 第49図 | 1 | | 皿 | 140 | 60 | 37 | 6 | ナデ | ナデ | | ＳＫ 977 | |
| | 2 | | 皿 | 120 | 70 | 24 | 6 | ナデ | ナデ | | Ａ1面セイリ | |
| | 3 | | 皿 | 128 | 94 | 22 | 6 | ナデ | ナデ | | ＳＫ 271 | |
| | 4 | 土製品 | 人形 | | | | | | | | Ａ2面セイリ | 布袋像 |
| | 5 | | 紡錘車 | 長34 | 幅36 | 厚16 | | | | | Ａ1面セイリ | |
| | 6 | | リング状土製品 | 長23 | 幅26 | 厚８ | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 7 | | リング状土製品 | 長26 | | 厚7.5 | | | | | Ａ１粗掘 | |
| | 8 | | 版状土製品 | 長23 | 幅28 | 厚７ | | | | | ＳＤ 664 | |
| | 9 | | ボタン状土製品 | 長17 | 幅17 | 厚４ | | | | | Ｂ面セイリ | |
| | 10 | | 坩堝 | 150 | | | | | | | Ａ2面セイリ | 内面に鉄滓付着 |
| | 11 | | 土錘 | 長68 | 幅22 | 厚22 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 12 | | 羽口 | 長42 | 幅59 | 厚17 | | | | | Ａ1面セイリ | ＲＰ６ |
| | 13 | | 羽口 | 長23 | 幅34 | 厚14 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 14 | 石製品 | 石帯 | 長(25) | 幅34 | 厚６ | | | | | Ａ2面セイリ | 淡青緑色蛇紋岩 |
| | 15 | | 石帯 | 長29 | 幅(26) | 厚６ | | | | | Ｂ面セイリ | 再加工痕跡あり　黒色粘版岩 |
| | 16 | | 硯 | 長77 | 幅70 | 厚15 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 17 | | 硯 | 長39 | 幅35 | 厚７ | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 18 | | 紡錘車 | 長70 | 幅38 | 厚25 | | | | | Ａ1面セイリ | |
| | 19 | | 砥石 | 長56 | 幅38 | 厚7.5 | | | | | Ｂ粗掘 | |
| | 20 | | 砥石 | 長57 | 幅34 | 厚11 | | | | | Ｂ面セイリ | |
| | 21 | | 砥石 | 長25 | 幅24 | 厚30 | | | | | ＳＫ 264 | |
| | 22 | | 砥石 | 長48 | 幅20 | 厚15 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 23 | | 砥石 | 長26 | 幅25 | 厚６ | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 24 | | 砥石 | 長28 | 幅14 | 厚９ | | | | | Ａ2面セイリ | |
| 第50図 | 1 | | 砥石 | 長76 | 幅42 | 厚21 | | | | | Ｂ面セイリ | |
| | 2 | | 砥石 | 長85 | 幅26 | 厚32 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 3 | | 砥石 | 長85 | 幅40 | 厚27 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 4 | | 砥石 | 長78 | 幅49 | 厚59 | | | | | Ａ２粗掘 | 軽石 |
| | 5 | | 砥石 | 長91 | 幅60 | 厚23 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 6 | | 砥石 | 長64 | 幅38 | 厚48 | | | | | Ａ1面セイリ | |
| | 7 | | 砥石 | 長61 | 幅43 | 厚７ | | | | | Ｂ面セイリ | |
| | 8 | | 砥石 | 長59 | 幅56 | 厚18 | | | | | Ａ2面セイリ | |
| | 9 | | 砥石 | 長67 | 幅66 | 厚25 | | | | | ＳＤ2282 | |
| | 10 | | 不明 | 長(31.5) | 幅52 | 厚54 | | | | | ＳＤ 151 | |
| | 11 | 五輪塔 | 空風輪 | 長224 | 幅190 | 厚190 | | | | | Ａ１粗掘 | |
| | 12 | | 空風輪 | 長187 | 幅205 | 厚205 | | | | | Ａ１粗掘 | |
| | 13 | 石製品 | 碁石 | 長19 | 幅22 | 厚８ | | | | | ＳＫ2283 | |
| | 14 | | 碁石 | 長17 | 幅17 | 厚8.5 | | | | | ＳＫ2394 | |
| | 15 | | 碁石 | 長20 | 幅22 | 厚８ | | | | | ＳＫ1876 | |
| | 16 | 鉄製品 | 鉄鏃 | 長137 | 幅17 | 厚20 | | | | | ＳＰ 358 | |
| | 17 | | 刀子 | 長100 | 幅15 | 厚18 | | | | | ＳＫ 633 | |
| 第51図 | 1 | 木製品 | 曲物 | | | | | | | | ＳＥ1435 | 井戸眼 |
| | 2 | | 曲物 | | | | | | | | ＳＥ2370 | 井戸眼 |
| | 3 | | 箸 | 長193 | 幅７ | 厚４ | | | | | ＳＥ2370 | |
| | 4 | | 箸 | 長188 | 幅６ | 厚５ | | | | | ＳＥ2370 | |
| | 5 | | 箸 | 長213 | 幅5.5 | 厚５ | | | | | ＳＥ2370 | |
| | 6 | | 箸 | 長202 | 幅4.5 | 厚４ | | | | | ＳＥ2370 | |
| | 7 | | 箸 | 長221 | 幅７ | 厚4.8 | | | | | ＳＥ2370 | |
| | 8 | | 箸 | 長212 | 幅5.5 | 厚５ | | | | | ＳＥ2370 | |





# Ⅵ　まとめ

今回の調査は、県営ほ場整備事業（下川地区）の工事に先立つ記録保存のための発掘調査である。推定遺跡面積32,000㎡のうち、14,200㎡を調査対象とした。検出された遺構は、竪穴住居跡６棟、掘立柱建物跡21棟、井戸跡12基、溝跡・土坑など総計約2,500基である。

出土した遺物は、土師器・須恵器・赤焼土器など総計約40,000点、整理箱約80箱である。

## １　今回の調査で新たに明らかになった様相

(1)　奈良時代に属する遺物・遺構　ＳＫ108・491・822・900・1800などは、遺物の特色から８世紀代に属するものと考えられる。第１・２次の調査では、奈良時代に属する断片的な遺物は存在することが報告されているが、明確な遺構は確認されていない。周辺地域（庄内平野南西部）を見わたしても、明確に奈良時代に属すると考えられるまとまった資料は、平成元年に立会い調査が行われた月記遺跡（鶴岡市寺田　文献13）の河川跡８層出土の回転ヘラ切りの須恵器坏の一群のみである。

なお、ＳＫ900・ＳＫ1800をはじめ、奈良時代に属すると考えられる土器類は、

８世紀前半　　ＳＫ108（35－９～11）
８世紀中葉　　ＳＫ1800（36－４～37－12）
８世紀第３四半期　ＳＫ822（38－５～14）・ＳＫ900（38－18～40－12）
８世紀第４四半期　ＳＫ491（38－１～４・46－22）

という位置づけを想定できる。その後９世紀に入ると、今次の調査及び第１・２次の調査で主体を成した土器群に連続していくことになる。

こうした位置づけの根拠となった要素に、本報告書で「酸化焔土器」と仮称している一群の土器がある。まとまった類例は、秋田城跡の調査で８世紀第４四半期から出土する「赤褐色土器」に求めることができる。技法等の特色は本文で詳述したが、これまで報告されたいわゆる「赤焼土器」の中にも、「酸化焔土器」として分離できるものがある可能性もある。

(2)　特殊な遺物　土器類のうち特徴的な器形として「稜埦」があげられる。(Ａ)須恵器＝39－23　43－13・14、(Ｂ)土師器（内面黒色処理）＝36－４、38－19・20・21などがそれである。

（Ａ）近似する須恵器稜埦は庄内地方では吹浦遺跡３・４次調査で１点報告されている。本遺跡出土のものは体部上半のみの破片であるが、吹浦遺跡の資料とプロフィールは近似する。須恵器の稜埦はプロフィールに幅はあるものの、平城宮跡をはじめ全国に分布するが、距離的に近い類例は、秋田城跡、新潟県聖篭町山三賀Ⅱ遺跡などに見られる。

（Ｂ）土師器（内面黒色処理）の稜埦は、近似のものが米沢市笹原遺跡ＳＴ－１に１点あるのみで他に類例がない。器形的には須恵器の稜埦を模したものであろう。本遺跡の資料は、内外面にミガキをていねいに施し、体部下半を回転ヘラケズリすることによって稜を強調する技法に特色がある。体部下半を回転ヘラケズリすることによって稜を強調する技法を持つ須恵器稜埦は県内では置賜地方を中心に分布し（米沢市笹原遺跡・大浦Ｂ遺跡・大

明神窯跡・荒川２遺跡、川西町壇山窯跡・道伝遺跡、高畠町大在家遺跡など)、また村山地方の河北町不動木遺跡、寒河江市三条遺跡・高瀬山遺跡などでも出土している。この技法的特徴をもつ須恵器稜埦の南限は今のところ福島県会津若松市大戸窯跡にあるようである(手塚孝氏の御教示による)。また福島県内では相馬市善光寺遺跡、宮城県内では色麻町日の出山窯跡群などに類例が見られる。

さらに資料を蓄積しないと断定はできないが、(Ａ)類は越後国から、(Ｂ)類の器形・技法は、陸奥国から置賜・村山と北上する伝播ルートが考えられる。ただし、本遺跡出土の「土師器（内面黒色処理）の稜埦」が当地周辺で生産されたものか、搬入されたものであるか、についてはなお検討を要する。

また、赤彩される酸化焔焼成の坏類の一群が注目される（37－１・２、40－１、46－10など)。理化学分析の結果「成形後に酸化鉄をおおく含む粘土を回転させながら刷毛塗りの後、900度程度で焼成し赤く発色させたもの」と判明した。この技法が明らかになっている例は今のところ他にない。これまで、単に「赤彩」「丹塗り」「朱彩」などとされてきた土器についても、それを施すにあたっての技法という点から見直す必要がある。

(3)　特殊な遺構　ＳＫ900・ＳＫ1800では、上述した「土師器（内面黒色処理）の稜埦」と「赤彩される酸化焔焼成の坏類」が共伴する。この二者が共伴する遺構は、ＳＫ900・ＳＫ1800という２つの土坑に限定される。また、伴出する須恵器高台坏のうち（39－３・４）などは、灰白色の胎土で器壁をきわめて薄く優美な形態に仕上げている。稜埦という特殊な器形、稜埦の「黒」と赤彩される酸化焔焼成の坏類の「赤」、さらに優美な形態を持つ須恵器高台坏の「白」の組み合わせは、祭祀的なものを感じさせる。

(4)　竪穴建物跡　平安時代初頭に属し、掘立柱建物跡と併存したものと判断できるが、庄内平野南半部では鶴岡市岡山遺跡の１例があるのみである。

(5)　官衙的要素　墨書土器が多数出土している。その数は126点にのぼる。これは、庄内平野南西部の遺跡の中では群を抜いており、庄内平野全域の中でも屈指の数である。

字種としては「左」と読めるものが約半数を占めており、他に「正」「位」「馬」などがある。特に「馬」は県内初出であり、何らかの馬に関する施設との関連も想起される。 刀子・硯等も出土している。石帯についてはこの後の項で詳しく述べる。

掘立柱建物跡の規模・集中については先に述べた通りである。

こうした様相を、春日真実氏の古代集落の分類（文献35）にあてはめれば「官衙関連」とされるＢＩ類に入ると判断できる。

(6)　中世の痕跡　今次の調査では20点を超えるかわらけが出土した。成形技法の特色などから13世紀代に属するとみられる。大部分は明確な遺構との関連がとらえられていないが、一遺跡からの出土量としては、県内では大楯遺跡（飽海郡遊佐町）に次ぐものである。また、大規模な溝跡の中には明らかに珠洲系の陶器片を含み、古代の遺構を切るものが多い。本遺跡の大規模な溝跡のあり方に類似している例は、新潟県吉川町樋田遺跡（文献35）などにみられるようである。詳細な比較検討はこれからの課題としたい。





## 2　山形県内出土の腰帯具について

今次調査で、２点の石帯が出土した（49－14・15)。その意義を考察するために必要な腰帯具の基本的属性と県内の出土例について、以下にまとめる。

### (1)　腰帯具概説

律令時代に貴族・官人層が着用した帯に綺帯・銙帯・石帯がある。綺帯は組紐の帯、銙帯は革帯に銙とよばれる金属性の飾金具を着装したもの、石帯は革帯に石製の飾具を着装したものである。以下にその概要をまとめる。

（Ａ）律令の規定（養老衣服令）

朝服：親王――一位～五位　＝金銀装腰帯
　　諸臣―六位～初位　＝烏油腰帯
　　衛府督・佐・兵衛督＝金銀装腰帯
　　尉・志・兵衛・主帥＝烏油腰帯
　　衛士　＝白布帯
礼服：王・親王～五位　＝条帯
　　衛府督・佐・兵衛督＝金銀装腰帯
制服：無位　＝烏油腰帯

（Ｂ）年代的変遷

持統４（690）― 綺帯『日本書紀』
慶雲４（707）―
銙帯『続日本紀』
延暦15（796）―
石帯『日本後紀』
大同２（807）―
銙帯『日本後紀』
弘仁１（810）―
石帯『日本後紀』

形質、寸法、一連あたりの個数・配列、製造、流通などについては明確な規定の記載がないため、先学の研究成果をもとに概略を記す。

（Ｃ）構成　正倉院の伝世品に鉸具－丸鞆１－巡方２－丸鞆６－巡方２－丸鞆１－鉈尾という計14個で一連を構成するものが2例ある。個数・構成・配列についてはこれを一応の標準とするしかない。しかし、各地の出土例では３個から16個までの例がある。また初期の例では巡方と丸鞆が同数となる傾向がみられるとの指摘がある。(田中　文献54)

（Ｄ）寸法　出土品の法量分析から「８段階が確実に認められ、さらに銙の長さにより各段階が２別される可能性もある」として、六位から初位までに正従大小上下の区別を加えた16ランクと対応させ、「衣服令の規定と対応し、令に詳細が明示されていない銙帯の細かい内容を示すものと判断することができる」とする見解もある。(阿部　文献51)

（Ｅ）構造　銙帯の場合は、表裏一対で、鋲または針金状のもので革帯を貫通させて両側から固定されたものであろう。

石帯の場合は、ａ）四隅または三方に裏面まで貫通する孔があり、革帯に鋲で固定されたもの、ｂ）四隅または三方に二孔で一対となる潜り孔をあけ、革帯に針金状の金属または糸で固定されたもの、の２種類がある。

巡方・丸鞆には下部に垂孔を持つ例があり、装飾品が垂下されることもあった。

（Ｆ）流通　この点については、「銙帯の製作・管理については官の統括のもとにあったことがあきらかであり、官人の任用、授位を所掌した式部省がこれにあたったものと考えら

れる。また製作に関しても官の工房での一括生産が推測されるところである。」（佐藤　文献50）、「官人は位階を受けるとともに、衣服等を官位にみあって用意する裏付けを給付されていたといえるであろう。銙帯は有償あるいは無償で官工房あるいはそれに準ずるものが用意し提供したとみられ、官人をやめる時は、銙帯の返納というシステムがあったと考えておきたい。このようなシステムにのりえないものが、辺境や化外等における墳墓の副葬品となり、あるいは、一部の地方の工房の銅素材として回収されたものではなかろうか。」（阿部　文献51）という見解が支配的である。

ただし、上述した寸法の問題も含めて、「銙の大きさが厳密に官位を現したとは考え難い」「官給品でもなく、着用者も官人に限定されない」という見解もある。また、十世紀以降の官位制の動揺に伴って、「私鋳銙とも呼べるような、通常の製造→供給ルートからはずれた銙帯の存在を否定はできないのである。」とし、さらに「本来の機能以外の祭祀に再利用された」とする意見もある。（井上　文献53）

**表－14　山形県内出土腰帯具集成**

| No | 遺跡名 | 所在地 | 種類 | 材質 | 大きさ（mm） | | | 出土遺構 | 年代 | 遺跡の状況 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 縦 | 横 | 高 | | | | |
| 1 | 二色根２号墳 | 南陽市二色根 | 巡方(1) | 青銅 | | | | 玄室床上 | ８Ｃ前半 | 円墳、横穴式石室 | 55・57 |
| | | | 巡方(2) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 巡方(3) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 丸鞆 | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 鉈尾 | 青銅 | 23 | 46 | 15 | | | | |
| 2 | 神楽山古墳 | 南陽市梨郷 | 巡方(1) | 青銅 | 33 | 36 | 6 | | ８Ｃ | 円墳（？） | |
| | | | 巡方(2) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 丸鞆(1) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 丸鞆(2) | 青銅 | | | | | | | |
| 3 | 中島平某地 | 南陽市梨郷 | 丸鞆 | 銅 | | | | | ８Ｃ | 円墳（？） | |
| 4 | 牛森古墳 | 米沢市牛森 | 巡方(1) | 青銅 | 14 | 16 | | 玄室床上 | ８Ｃ | 円墳（？） | 56 |
| | | | 巡方(2) | 青銅 | 14 | 16 | | | | | |
| | | | 巡方(3) | 青銅 | 13.5 | 17 | 6 | | | | |
| | | | 丸鞆(1) | 青銅 | 11 | 18 | | | | | |
| | | | 丸鞆(2) | 青銅 | 11 | 18 | | | | | |
| | | | 丸鞆(3) | 青銅 | 11 | 18 | 6 | | | | |
| | | | 鉈尾 | 青銅 | 17 | 17 | 6 | | | | |
| 5 | 北目１号墳 | 東置賜郡高畠町北目 | 鉈尾 | 銅 | 28 | 30 | 7 | 玄室 | ８Ｃ初頭～前半 | 円墳、横穴式石室 | 61 |
| 6 | 木原 | 飽海郡遊佐町大字宮田 | 丸鞆 | 金銅黒漆塗 | 22 | 34 | 5 | ＳＢ12(ＥＢ56) | ９Ｃ中葉～10Ｃ中葉 | 集落跡 | 67 |
| | 銙帯 | 小計 | | 19点 | | | | | | | |
| 7 | 城輪柵跡 | 酒田市大字城輪 | 鉈尾 | 凝灰岩 | 31 | 24 | 2 | | 平安 | 出羽国府跡と推定 | |
| | | | 巡方 | | | | | | | | |
| | | | 丸鞆 | | | | | | | | |
| 8 | 堂の前 | 飽海郡八幡町大字法連寺 | 巡方(1) | 輝緑凝灰岩 | 37 | 41 | | | 平安 | 寺院または官衙跡 | 58 |
| | | | 巡方(2) | 輝緑凝灰岩 | 37 | 41 | | | | | |
| 9 | 関Ｂ | 酒田市大字関 | 丸鞆 | 黒色硬質変成岩 | 27 | 39 | 6 | ＳＥ30 | 10Ｃ中葉～11Ｃ | 城輪柵跡と関連をもつ律令村落 | 59 |
| 10 | 沼田 | 飽海郡八幡町大字大島田 | 巡方 | 緑泥変岩 | 37 | 37 | 6 | | ９Ｃ前半～11Ｃ | 城輪柵跡と関連をもつ律令村落 | 60 |
| 11 | 生石２ | 酒田市大字生石 | 巡方 | 緑泥変岩 | 33.8 | 33.8 | 5 | | ８Ｃ中葉～10Ｃ | 何らかの官衙跡的様相 | 62 |
| 12 | 熊野田 | 酒田市大字熊野田 | 丸鞆(1) | 黒色粘板岩 | (28) | (25) | 6 | | 10Ｃ中葉 | 何らかの官衙跡的様相 | 63・65 |
| | | | 丸鞆(2) | 輝緑凝灰岩 | (25) | (24) | 8 | ＥＰ73 | | | |
| | | | 巡方 | 黒色粘板岩 | (24) | 42 | 6 | ＥＰ67 | | | |
| 13 | 下長橋 | 飽海郡遊佐町大字小原田 | 巡方 | 黒色粘板岩 | 41.8 | 41.8 | 7.7 | | 10Ｃ～11Ｃ | 何らかの官衙跡的様相 | 64 |
| 14 | 石田 | 飽海郡遊佐町大字野沢 | 巡方 | 黒色粘板岩 | 26 | 30 | 5 | | 10Ｃ中葉 | 集落跡 | 66 |
| 15 | 東田 | 飽海郡遊佐町大字庄泉 | 丸鞆(1) | 蛇紋岩 | 34 | 23 | 5 | ＳＤ637 | ９Ｃ後半 | 集落跡 | |
| | | | 丸鞆(2) | 黒色粘板岩 | 41 | 27 | 6 | | | | |
| 16 | 宮ノ下 | 飽海郡遊佐町大字北目 | 巡方 | 輝緑凝灰岩 | 37 | 37 | 6 | | | 集落跡 | |
| 17 | 西谷地 | 鶴岡市大字下川 | 巡方(1) | 蛇紋岩 | (25) | 34 | 6 | | ８Ｃ中葉～10Ｃ | 集落跡 | |
| | | | 巡方(2) | 黒色粘板岩 | 29 | (26) | 6 | | | | |
| | 石帯 | 小計 | | 18点 | | | | | | | |
| | | 総計 | | 37点 | | | | | | | |

れる。また製作に関しても官の工房での一括生産が推測されるところである。」（佐藤　文献50）、「官人は位階を受けるとともに、衣服等を官位にみあって用意する裏付けを給付されていたといえるであろう。銙帯は有償あるいは無償で官工房あるいはそれに準ずるものが用意し提供したとみられ、官人をやめる時は、銙帯の返納というシステムがあったと考えておきたい。このようなシステムにのりえないものが、辺境や化外等における墳墓の副葬品となり、あるいは、一部の地方の工房の銅素材として回収されたものではなかろうか。」（阿部　文献51）という見解が支配的である。

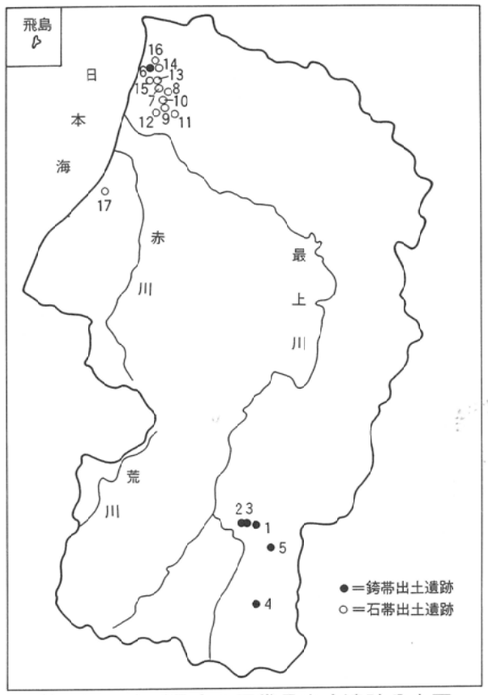
ただし、上述した寸法の問題も含めて、「銙の大きさが厳密に官位を現したとは考え難い」「官給品でもなく、着用者も官人に限定されない」という見解もある。また、十世紀以降の官位制の動揺に伴って、「私鋳銙とも呼べるような、通常の製造→供給ルートからはずれた銙帯の存在を否定はできないのである。」とし、さらに「本来の機能以外の祭祀に再利用された」とする意見もある。（井上　文献53）

**表―14　山形県内出土腰帯具集成**

| No | 遺跡名 | 所在地 | 種類 | 材質 | 大きさ（mm）縦 | 横 | 高 | 出土遺構 | 年代 | 遺跡の状況 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 二色根２号墳 | 南陽市二色根 | 巡方(1) | 青銅 | | | | 玄室床上 | ８Ｃ前半 | 円墳、横穴式石室 | 55 |
| | | | 巡方(2) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 巡方(3) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 丸鞆 | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 鉈尾 | 青銅 | 23 | 46 | 15 | | | | |
| 2 | 神楽山古墳 | 南陽市梨郷 | 巡方(1) | 青銅 | 33 | 36 | 6 | | ８Ｃ | 円墳（？） | 57 |
| | | | 巡方(2) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 丸鞆(1) | 青銅 | | | | | | | |
| | | | 丸鞆(2) | 青銅 | | | | | | | |
| 3 | 中島平某地 | 南陽市梨郷 | 丸鞆 | 銅 | | | | | ８Ｃ | 円墳（？） | |
| 4 | 牛森古墳 | 米沢市牛森 | 巡方(1) | 青銅 | 14 | 16 | | 玄室床上 | ８Ｃ | 円墳（？） | 56 |
| | | | 巡方(2) | 青銅 | 14 | 16 | | | | | |
| | | | 巡方(3) | 青銅 | 13.5 | 17 | 6 | | | | |
| | | | 丸鞆(1) | 青銅 | 11 | 18 | | | | | |
| | | | 丸鞆(2) | 青銅 | 11 | 18 | | | | | |
| | | | 丸鞆(3) | 青銅 | 11 | 18 | 6 | | | | |
| | | | 鉈尾 | 青銅 | 17 | 17 | 6 | | | | |
| 5 | 北目１号墳 | 東置賜郡高畠町北目 | 鉈尾 | 銅 | 28 | 30 | 7 | 玄室 | ８Ｃ初頭～前半 | 円墳、横穴式石室 | 61 |
| 6 | 木原 | 飽海郡遊佐町大字宮田 | 丸鞆 | 金銅黒漆塗 | 22 | 34 | 5 | ＳＢ12(ＥＢ56) | ９Ｃ中葉～10Ｃ中葉 | 集落跡 | 67 |
| | 銙帯 | 小計 | | 19点 | | | | | | | |
| 7 | 城輪柵跡 | 酒田市大字城輪 | 鉈尾<br>巡方<br>丸鞆 | 凝灰岩 | 31 | 24 | 2 | | 平安 | 出羽国府跡と推定 | |
| 8 | 堂の前 | 飽海郡八幡町大字法連寺 | 巡方(1) | 輝緑凝灰岩 | 37 | 41 | | | 平安 | 寺院または官衙跡 | 58 |
| | | | 巡方(2) | 輝緑凝灰岩 | 37 | 41 | | | | | |
| 9 | 関Ｂ | 酒田市大字関 | 丸鞆 | 黒色硬質変成岩 | 27 | 39 | 6 | ＳＥ30 | 10Ｃ中葉～11Ｃ | 城輪柵跡と関連をもつ律令村落 | 59 |
| 10 | 沼田 | 飽海郡八幡町大字大島田 | 巡方 | 緑泥変岩 | 37 | 37 | 6 | | ９Ｃ前半～11Ｃ | 城輪柵跡と関連をもつ律令村落 | 60 |
| 11 | 生石２ | 酒田市大字生石 | 巡方 | 緑泥変岩 | 33.8 | 33.8 | 5 | | ８Ｃ中葉～10Ｃ | 何らかの官衙跡的様相 | 62 |
| 12 | 熊野田 | 酒田市大字熊野田 | 丸鞆(1) | 黒色粘板岩 | (28) | (25) | 6 | | 10Ｃ中葉 | 何らかの官衙跡的様相 | 63・65 |
| | | | 丸鞆(2) | 輝緑凝灰岩 | (25) | (24) | 8 | ＥＰ73 | | | |
| | | | 巡方 | 黒色粘板岩 | (24) | 42 | 6 | ＥＰ67 | | | |
| 13 | 下長橋 | 飽海郡遊佐町大字小原田 | 巡方 | 黒色粘板岩 | 41.8 | 41.8 | 7.7 | | 10Ｃ～11Ｃ | 何らかの官衙跡的様相 | 64 |
| 14 | 石田 | 飽海郡遊佐町大字野沢 | 巡方 | 黒色粘板岩 | 26 | 30 | 5 | | 10Ｃ中葉 | 集落跡 | 66 |
| 15 | 東田 | 飽海郡遊佐町大字庄泉 | 丸鞆(1) | 蛇紋岩 | 34 | 23 | 5 | ＳＤ637 | ９Ｃ後半 | 集落跡 | |
| | | | 丸鞆(2) | 黒色粘板岩 | 41 | 27 | 6 | | | | |
| 16 | 宮ノ下 | 飽海郡遊佐町大字北目 | 巡方 | 輝緑凝灰岩 | 37 | 37 | 6 | | | 集落跡 | |
| 17 | 西谷地 | 鶴岡市大字下川 | 巡方(1) | 蛇紋岩 | (25) | 34 | 6 | | ８Ｃ中葉～10Ｃ | 集落跡 | |
| | | | 巡方(2) | 黒色粘板岩 | 29 | (26) | 6 | | | | |
| | 石帯 | 小計 | | 18点 | | | | | | | |
| | | 総計 | | 37点 | | | | | | | |








第55図　山形県内の腰帯具出土遺跡分布図

(2)　山形県内出土の腰帯具について

以上を踏まえて、山形県内出土の腰帯具について概観する。

県内では表14のように、銙帯19点、石帯18点、計37点の腰帯具が出土している。その分布については第55図に示した。

銙帯は、No.６を除いてすべて置賜地方のいわゆる終末期古墳からの出土である。年代的には８世紀代であり、上述した腰帯具の年代的変遷に合致する。

No.６の木原遺跡出土の銙帯は、金銅の地金に黒漆を塗った痕跡が明確であり、いわゆる烏油腰帯である。

対照的に石帯はほとんど飽海地方の遺跡からの出土である。年代的には９～10世紀を主体とする遺跡であり、上述した腰帯具の年代的変遷に矛盾しない。ただし、これらは今までに調査された遺跡であって、今後出土例が増えることは当然念頭に置かねばならない。

出土状況についてまず注目すべきは、No.４の牛森古墳である。玄室内で、「腰帯を巻いた状態で副葬し、その皮革部が長年月の間に腐朽し、金具のみが残存した状態であった。」と報告されている。帯に装着された状態を想定できる唯一の例である。標準とされるセットには欠けるものの、規格に統一性があり、田中氏の指摘に従えば、巡方と丸鞆が３：３の割合となり、これに鉸具と鉈尾を加えた８個で一連を構成していた可能性もある。

次に６番・12番などの柱穴から出土した例に注目したい。井上尚明氏によれば、「土器片すら出土する例の少ない掘立柱建物址から、通常の埋没状態で、稀少な遺物である銙や石銙が混入するものであろうか。ここでは、銙や石銙にたいして意識的・目的的な埋設行為があったと考えたい。この行為の目的は（中略）地鎮・鎮壇であった可能性が高い」とのことである（文献53）。No.６・12の例がこの指摘に直結するかは今後の検討を要する。No.９の井戸跡からの出土は、井戸を廃棄する際の祭祀と関わりのあるものであろうか。またNo.８の２点は、ほとんど同規格のものが重なった状態で出土している。明確な遺構とは関連していないようだが、こうした視点から見直してみる必要があると思われる。構造としては、すべて「四隅または三方に二孔で一対となる潜り孔をあけ、革帯に針金状の金属または糸で固定されたもの」であるが、No.11生石２遺跡の資料のみ垂孔を持つ。寸法の点では、No.13下長橋遺跡の巡方が最大であり、以下No.８堂の前遺跡の巡方２点、No.15東田遺跡の丸鞆(2)などが40mmを超える数値を示す。

材質の点では、粘板岩（黒色）類、凝灰岩（白黒混在）類、蛇紋岩（緑色）類の３つのグループに大別できる。

次に、石帯を出土した遺跡についてみてみる。平安期の出羽国府跡と推定される城輪柵跡、寺院または官衙跡と考えられる堂の前遺跡を筆頭に、地鎮祭祀が営まれた遺構が確認された下長橋遺跡をはじめ、城輪柵跡周辺で城輪柵跡と密接な関連を持つと考えられる官衙跡・集落跡がほとんどである（№８～13）。これらは、板材列で区画されたり、規則的な建物配置がみられるなどの共通性をもつ。また、遺物の点では、墨書土器・硯・木簡・斎串・緑釉陶器などが出土している場合が多い。№14～16の遺跡についても一般の農業集落のありかたとは異なる様相を示している。

以上を概括すれば、流通等に解決しなければならない課題を残してはいるものの、帯位者かあるいは位階に関与しうる何らかの階層が存在し、何らかの官衙的施設があった集落、または官衙的施設に準ずる施設があった集落であると推定できる。本遺跡についても同様と考えられるが、位置としては最上川以南では唯一であり、特異である。

## ３　西谷地遺跡全体のまとめ

今次の調査で、平成５年度から３次にわたる西谷地遺跡の発掘調査が一応の終了を迎えた。調査面積は、第１次調査＝3,400㎡、第２次調査＝9,080㎡、第３次調査＝14,200㎡、総計26,680㎡となり、遺跡推定面積32,000㎡のうち83％を調査したことになる。

遺跡全体について簡単にまとめれば下記の通りである。

遺構・遺物は、ほぼ調査区全域に分布する。調査区の端まで遺構・遺物が検出されることから、早い時期に削平され水田化された周辺地域まで、集落としての広がりがあったことは確実である。

時期的には、古墳時代－奈良時代－平安時代前半という流れがあり、９世紀中葉から10世紀前半頃に一つのピークがあるようである。その後平安時代後半は希薄となり、13～14世紀の中世の生活の痕跡がみられる。

最後に、残された課題をあげておく。

まず、明らかに奈良時代に属する遺構・遺物が確認されたことである。都岐沙羅柵・出羽郡・出羽柵・出羽国府など、律令制施行にともなって史料に登場する施設・区域に関しては、未だその所在に確証がない。しかし、越後国の「出端」として「出羽」の名称が与えられたとする説に従えば、越後方面から北進して最初の平坦地であり、庄内平野を南から見渡すこの地に、何らかの足掛かりを置いたと考えるのが自然であろう。

次に、平安時代前半を中心として一般の農業集落とは異なる、何らかの官衙的な様相を示すことである。庄内平野北半の飽海郡域においては、官衙的様相を示す遺跡の調査の成果が蓄積されつつあるが、本遺跡周辺では藤島町平形遺跡を除きほとんど例がない。

庄内平野南半地域の並行する時期の遺跡の調査成果を蓄積し、本遺跡の様相との比較によって、本遺跡の性格についてより明確にしていくとともに、律令制施行期から衰退期、そして中世に至る、この地域の歴史的位置づけを具体化していかなければならない。



**参考文献**


**県内**

1　柏倉亮吉　「時田壇山の古窯跡群」『中郡村史』1967
2　柏倉亮吉他　「山形県における古代古窯遺跡の研究」『平野山古窯跡』1970
3　川崎利夫他　『平形遺跡周辺遺跡発掘調査報告書』「山形県埋蔵文化財調査報告書第26集」1980（以下「山埋文報」と略す）
4　手塚　孝他　『笹原』「米沢市埋蔵文化財調査報告書第７集」1981
5　山形県史編さん委員会『山形県史第一巻』1982
6　佐藤庄一他　『地正面遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第51集」1982
7　佐藤庄一他　『俵田遺跡第１次発掘調査報告書』「山埋文報第64集」1983
8　藤田有宣他　『道伝遺跡発掘調査報告書』「川西町埋蔵文化財報告書第６集」1984
9　佐藤庄一他　『千河原遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第80集」1984
10　阿部明彦他　『手蔵田遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第87集」1985
11　長橋　至　『不動木遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第100集」1986
12　渋谷孝雄他　『吹浦遺跡３・４次発掘調査報告書』「山埋文報第120集」1988
13　野尻　侃他　『分布調査報告書(7)月記遺跡』「山埋文報第148集」1990
14　阿部明彦　「庄内平野の古墳時代史」『加藤稔先生還暦記念東北文化論のための先史学歴史学論集』1992
15　秋保　良　『荒沢窯跡玉林坊遺跡分布調査報告書』鶴岡市教育委員会1992
16　手塚　孝他　『大浦Ｂ遺跡発掘調査報告書』「米沢市埋蔵文化財調査報告書第36集」1993
17　佐藤庄一他　『五百刈遺跡発掘調査報告書』「山形県埋蔵文化財センター調査報告書第10集」1994（以下「山埋文センター報」と略す）
18　斎藤俊一他　『西谷地遺跡発掘調査報告書』「山埋文センター報第12集」1994
19　阿部明彦他　『北目長田遺跡・橋待遺跡・堂田遺跡調査発掘調査報告書』「山埋文センター報第24集」1995
20　尾形與典他　『西谷地遺跡第２次・西ノ川遺跡発掘調査報告書』「山埋文センター報第26集」1995

**県外**

21　岩見誠夫他　『払田柵跡Ⅰ―政庁跡―』「秋田県文化財調査報告書第122集」1985
22　船木義勝　「「秋田城跡」についての一考察」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第１号』1986
23　利部　修　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書―竹原窯跡―』「秋田県文化財調査報告書第209集1991
24　小松正夫他　『秋田城跡平成二年度秋田城跡発掘調査概報』秋田市教育委員会1991
25　利部　修　「竹原窯跡の須恵器編年」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第７号」1992
26　小松正夫他　『秋田城平成三年度秋田城跡調査概報』秋田市教育委員会1992
27　小松正夫他　『秋田城平成四年度秋田城跡調査概報』秋田市教育委員会1993
28　金曜会編　『史跡秋田城跡』秋田城を語る友の会1993
29　坂井秀弥　『栗原遺跡第６次発掘調査概報』新潟県教育委員会1983
30　坂井秀弥　『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』「新潟県埋蔵文化座調査報告書第35集」1984
31　北村亮他　『関越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書金屋遺跡』「新潟県埋蔵文化財調査報告書第37集」1985
32　鈴木俊成他　『北陸自動車道糸魚川地区発掘調査報告書Ⅴ小出越遺跡』「新潟県埋蔵文化財調査報告書第51集」1988
33　坂井秀弥他　『新新バイパス関係発掘調査報告書山三賀Ⅱ遺跡』「新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集」1989
34　藤塚　明他　『1989年度埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟県教育委員会1991
35　春日真実　「古代集落の展開」『(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』1995
36　木本元治他　『善光寺遺跡』「福島県文化財調査報告書第192集」1988
37　古川一明他　『日の出山窯跡群』「色麻町文化財調査報告書第１集」1993
38　西野秀和他　『大屋ヒヤマ窯跡寺家クロバタケ窯跡』「石川県埋蔵文化財センター調査報告書」1994
39　川畑　誠他　『正友ヤチヤマ窯跡』「石川県埋蔵文化財センター調査報告書」1994
40　西野秀和　『高松町若緑ヤキノ窯跡』「石川県埋蔵文化財センター調査報告書」1985
41　中殿章子他　『浅川扇状地遺跡群―牟礼バイパスＢ・Ｃ・Ｄ地点―』「長野市の埋蔵文化財第17集」1986
42　中殿章子他　『三輪遺跡(2)』「長野市の埋蔵文化財第20集」1987
43　『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書４―松本市内その１―総論編』「(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書４」1990
44　『山田水呑遺跡』山田遺跡調査会1977
45　町田　章他　『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告書』奈良文化財研究所学報第46冊1987
46　小坂正彦他　『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館1989
47　及川　司他　『静岡県の窯業遺跡本文編』「静岡県文化財調査報告書第42集」1989
48　渡辺泰伸　「須恵器の編年　東北」『古墳時代の研究６　土師器と須恵器』1991
49　平山誠一他　『砂田中台遺跡（奈良平安時代篇）』(財)山武郡市埋蔵文化財センター1994

**腰帯具関連**

50　佐藤興治　『平城宮発掘調査報告Ⅵ』「奈良国立文化財研究所学報Ⅵ」1975
51　阿部義平　「銙帯と官位制について」『東北考古学の諸問題』1976
52　小林敏夫　「群馬県出土の腰帯具について」『群馬の考古学』1988
53　井上尚明　「銙帯をめぐる二・三の問題」『埼玉の考古学』1987
54　田中広明　「腰帯の一考察」『(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要第10号』1993
55　柏倉亮吉　『山形の古墳』「山形県文化財調査報告書（第４輯）」1953
56　手塚　孝他　「第10章№40（牛森古墳）遺跡」『米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書第２集』1976
57　南陽市史編さん委員会『南陽市史上巻―地質・原始・古代・中世―』1990
58　尾形與典　『堂の前遺跡昭和53・54年度調査略』「山埋文報第30集」1980
59　佐藤庄一他　『関Ｂ遺跡第２次発掘調査報告書』「山埋文報第68集」1983
60　佐藤庄一他　『沼田遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第78集」1984
61　『安久津古墳群』「山埋文報第95集」1985
62　安部　実他　『生石２遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第117集」1987
63　野尻　侃他　『熊野田遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第123集」1988
64　渋谷孝雄他　『下長橋遺跡発掘調査報告書』「山埋文報第145集」1989
65　斎藤主税他　『熊野田遺跡第３次発掘調査報告書』「山埋文報第146集」1989
66　阿部明彦他　『分布調査報告書(10)石田遺跡』「山埋文報第171集」1992
67　阿部明彦　『木原遺跡第２次発掘調査報告書』「山埋文センター報第８集」1994

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | にしやちいせきだい3じはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 西谷地遺跡第3次発掘調査報告書 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 山形県埋蔵文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第33集 |
| 編著者名 | 浅黄喜悦　高橋　敏　飯塚　稔 |
| 編集機関 | 財団法人　山形県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒999－31　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 0236－72－5301 |
| 発行年月日 | 西暦　1996年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| にしやち<br>西谷地 | やまがたけん<br>山形県<br>つるおかし<br>鶴岡市<br>おおあざしもかわ<br>大字下川<br>あざにしやち<br>字西谷地 | 6203 | 平成3年度<br>登録 | 38度<br>46分<br>25秒 | 139度<br>46分<br>35秒 | 19950508<br>～19950914 | 14,200 | 県営ほ場<br>整備事業<br>(下川地区) |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 西谷地 | 集落跡 | 奈良時代<br>平安時代 | 竪穴建物跡　6<br>堀立柱建物跡　21<br>井戸跡　12<br>溝跡<br>土坑 | 土師器　蓋、高台杯、蓋、ミニチュア土器、稜埦、埦、双耳杯<br>須恵器　蓋、坏、高台杯、埦、皿、甕、蓋、双耳杯、横瓶<br>赤焼土器　蓋、坏、双耳杯、皿、耳皿、甕、堝<br>酸化焔土器　蓋、坏、双耳坏<br>土製品　るつぼ、土錘、羽口、リング状土製品<br>石製品　石帯、碁石、砥石<br>金属製品　鉄製刀子、鉄鏃、鉄滓<br>木製品　井戸枠、井戸眼、曲物、箸 | 平安時代前半の集落が中心であるが、奈良時代や中世の遺構が存在する。<br>石帯2点や多くの墨書土器の出土、規模の大きい建物跡が多いこと、などから、何らかの官衙に関連をもつ施設であった可能性もある。 |
| | | 鎌倉時代<br>南北朝・<br>室町時代 | 溝跡 | 中世陶器　蓋、甕、擂鉢<br>かわらけ　皿<br>石製品　五輪塔 | |



# 図　　版